

# 大学院履修案内・講義要綱

平成 21 年 度  
( 2 0 0 9 年 度 )

慶 應 義 塾 大 学 大 学 院  
経 済 学 研 究 科

この履修案内は、慶應義塾大学大学院経済学研究科における一般的な留意事項や履修、授業、修了等に関する案内をまとめたものです。本冊子をよく読み、学位取得までの学習計画に役立ててください。また、修了後も本冊子を必要とする場合がありますので、大切に保管してください。

# 目 次

|                    |    |                         |     |
|--------------------|----|-------------------------|-----|
| 経済学研究科の役職者         | 3  | 第7 学生総合センター             | 21  |
| 三田キャンパスガイド         | 6  | 1 窓口案内                  | 21  |
| 主な事務室と事務取扱時間       |    | 2 学生生活支援                | 21  |
| 振鈴表                |    | 3 遺失物の取扱い               | 22  |
| 掲示板                |    | 4 奨学金                   | 22  |
| 校舎と教室番号            |    | 5 就職・進路支援               | 22  |
| 三田キャンパスマップ         |    | 6 学生相談室                 | 22  |
| 第1 学事関連スケジュール(三田)  | 8  | 7 学生健康保険互助組合            | 22  |
| 第2 学 籍(休学・留学・退学)   | 12 | 8 学生教育研究災害傷害保険          | 23  |
| 1 休 学              | 12 | 9 任意加入の補償制度             | 23  |
| 2 留 学              | 12 | 定期健康診断                  | 24  |
| 3 退 学              | 12 | 第8 履修要項                 | 25  |
| 4 退学処分             | 12 | 1 履修申告                  | 25  |
| 5 注意事項             | 12 | 2 他大学大学院との相互科目履修        | 27  |
| 海外の教育機関に留学する場合の取扱い | 13 | 修士課程                    |     |
| 第3 学生証・諸届・証明書      | 14 | 1 開講科目と単位数              | 28  |
| 1 学生証              | 14 | 2 課程修了にいたるまでの要件         | 33  |
| 2 住所変更(本人・保証人)     | 14 | 3 ジョイントディグリー            | 34  |
| 3 保証人変更            | 14 | 4 副専門                   | 35  |
| 4 改姓・改名            | 14 | 5 修士課程在籍者の学則移行          | 35  |
| 5 国籍変更             | 14 | 6 指導教授                  | 35  |
| 6 通学区間の変更          | 14 | 7 学位請求論文の提出             | 35  |
| 7 証明書(成績証明書・学割証等)  | 15 | 博士課程                    |     |
| 第4 Webシステム         | 16 | 1 開講科目と単位数              | 37  |
| 1 Web システム概要       | 16 | 2 課程修了にいたるまでの要件         | 38  |
| 2 Web システム操作上の注意   | 17 | 3 指導教授                  | 38  |
| 3 パスワード再発行         | 17 | 4 学位請求論文の提出             | 38  |
| 第5 授業・成績           | 18 | 5 単位取得退学および在学期間延長       | 40  |
| 1 教員を訪ねる場合         | 18 | 修士課程設置科目講義要綱            | 41  |
| 2 教室使用申請(三田)       | 18 | 博士課程設置科目講義要綱            | 99  |
| 3 緊急時における授業の取扱い    | 18 | 国際センター在外研修プログラム         | 129 |
| 4 早慶野球戦時における授業の取扱い | 18 | 国際センター設置講座              | 131 |
| 5 成 績              | 19 | アート・センター設置講座            | 157 |
| 第6 試 験             | 20 | 他大学大学院との相互科目履修に関する協定・覚書 | 158 |
| 1 試 験              | 20 | 関係規程抜粋                  | 160 |
| 2 レポート             | 20 |                         |     |



# 経済学研究科の役職者

## 経済学研究科役職者

研 究 科 委 員 長 : 小 室 正 紀

学 習 指 導 担 当 :

| 領 域 | 分 野                              | 学 習 指 導 担 当 |
|-----|----------------------------------|-------------|
| I   | 1 : 経 済 理 論<br>2 : 計 量 ・ 統 計     | 教 授 瀬 古 美 喜 |
| II  | 3 : 学 史 ・ 思 想 史<br>4 : 経 済 史     | 教 授 古 田 和 子 |
| III | 5 : 産 業 ・ 労 働 策<br>6 : 制 度 ・ 政 策 | 教 授 前 多 康 男 |
| IV  | 7 : 現 代 経 済<br>8 : 国 際 経 済       | 教 授 櫻 川 昌 哉 |
| V   | 9 : 環 境 関 連<br>10 : 社 会 関 連      | 教 授 寺 出 道 雄 |

慶應義塾大学経済学研究科は、経済事象についての高度な学術能力を備えた研究者あるいは職業人を養成することを目指している。

このため、本研究科は、常に指導の体制と内容を最適なものにすることを勉めている。しかし、何よりも大切なことは、院生諸君自身が、自分の課題を発見し、そのための勉学に集中し、質量ともに濃密な研究時間を過ごすことである。とは言うものの、実は、自分を賭けられる課題を発見することは、そんなに簡単なことではない。ある時は、知的好奇心から、またある時は、自分を鞭打って、広く深く知識量を増やし続けることが必要である。そうした中から「問題」を発見し、それに取り組み、何かを解明し得た時の醍醐味は、研究者でなければ味わえないものである。大学院で学ぶということは、そのような経験を目指すべきであり、またそのことによって、借り物でない研究能力を身につけることである。

本研究科のカリキュラムは、院生各自の多様な関心と自主的な問題発見を妨げないように、あえて専攻に分けず、履修上の制約も多くはない。しかし、個々人の関心のみから無手勝流に勉学に取り組むだけでは、余りにも回り道になる可能性もある。そのような無駄を避け、迅速に研究内容を深めてゆくためには、指導教授との知的応答が極めて大切である。指導教授は、自分が選んだテーマの先達であり、助言者であると同時に、共に研究を深めてゆく仲間と言ってもよい。

修士課程の場合、6月に「指導教授希望届」を提出してもらうことになっている。それまでに十分に熟慮し、どの教員に指導を依頼するのが最も適切かを慎重に考えておいてもらいたい。また、博士課程の場合には、「学位論文予定題目および研究計画書」の提出後（2007年度以前入学者の場合）あるいは「博士論文予備審査」合格後（2008年度以降入学者の場合）に、指導教授以外にさらに1名の論文指導担当者が決定する。もし、指導教授の選択に関して決めかねる場合には、自分に近い領域の学習指導担当者に相談することを勧める。

なお、修士課程に関しては、本塾文学研究科、本塾法学研究科、東京工業大学大学院社会理工学研究科との間に、3つのジョイントディグリー制度が用意されている。この制度により、3年間で経済学と同時に文学か法学か理工学の研究を行い、2つの修士学位を取得できる（学部から準備を行えば、2年で取得することも可能）。意欲と関心のある、院生諸君は、本履修案内をよく読み、そのための勉学計画をたててもらいたい。

博士課程の目標は、専門研究者を養成することであり、その能力を培うためには博士学位の取得を目標として研鑽を重ねることが望ましい。2008年度以降に博士課程に入学した院生は、正規の在籍期間に「博士論文予備審査」を受け合格しなければ、在籍期間の延長も学位請求論文の提出もできない。また、博士論文を提出するためには、その一部（ないしは全部）が査読（レフリー）制度のある専門学術刊行物に掲載されている（あるいは掲載が決まっている）ことが必要条件とされている。この点を十分に留意し、できるだけ自分の研究を公的に発表するように努めてもらいたい。

本研究科の大学院生諸君が、自らの目標に合った高度な研究能力を習得し、終了後に各界で活躍することを期待している。

経済学研究科委員長  
小 室 正 紀

経済学研究科は、幅広い視野に支えられた高度な専門知識と研究能力の育成を目指している。これは、言うに易くして行うに難い課題である。「幅広い視野」ということは、往々にして「浅薄な雑学」になりやすく、また「高度な専門知識と研究能力」は、「専門馬鹿」のしるしと見られがちである。しかし、経済学は社会科学の一分野であり、意味のある社会科学は、この両者の幸せな結合なくしては成り立たない。

この点、現在の経済学は、それ自体が、数学的なものから歴史的なものまで大変に広い守備範囲を備えている。このような経済学の特質を生かし、本研究科で学ぶ諸君は、自分の専門分野を深く追求すると同時に、他の経済学の諸分野に対する十分な知識を備えてもらいたい。少なくとも、経済学内部で、異分野間の専攻者が意味のあるアカデミックな会話を交わせるようになることが、われわれの学問の土壌として望ましいのである。本研究科では、とりわけ修士課程においては、複数分野に亘る履修を求めているが、これは、このような必要性を考えての要求である。履修に当たっては、この点を考え、設置科目を利用して自らの能力を十分に拡大してもらいたい。

とはいうものの、大学院の最終目標が「高度な専門知識と研究能力の育成」にあることは言うまでもない。そして、その各段階での到達目標が修士論文、博士論文の作成である。このためには、学部段階とは異なった各人の積極的な研究姿勢が重要である。もちろん、本研究科の指導体制は、この論文作成に導くように組まれてはいるが、そのみでは不十分であり、教室を離れた場で個々人が最大限の努力を自らの研究に傾注することが求められている。

しかし、個々の専門的研究は、始めてみると、行き詰まりや自信喪失の連続である。そのような時に、自分の殻の中で萎縮してはならない。まず、第一に必要なことは、行き詰まりの前に立つ壁を越える道を捜して、休まずに試行錯誤を続けることである。第二には、指導教授や学習指導をはじめとする教授陣と、自発的に、緊密かつ率直に研究上の相談や議論をする必要がある。修士課程では一年次六月に「指導教授登録用紙」を提出することになっているが、それは、それまでに指導を希望する教授等に会い、自分の研究について自発的に相談していることを当然の前提としている。大学院では、それだけの積極性が求められているのである。第三には、同じ研究科の学生同士で、読書会など様々な機会を作り、相互に刺激しあうことも有効な手段であることを忘れてはいけない。つまり、大学院においては、自分の殻に閉じこもらずに教授陣や友人達との間の「多事争論」を自ら作り出して行く積極性も必要なのである。

最後に、円滑な大学院生活を送るためには、事務的な諸手続きにかんしてつねに責任ある対応を望みたい。大学院も社会の一制度であり、その制度を活用してゆくためには、甘えることなく、求められる諸手続を期限を守り適切に行ってゆかなければならない。言わずもがなのことだが、念のために付言しておく。

大学院経済学研究科学習指導

# 三田キャンパスガイド

## 主な事務室と事務取扱時間

| 事務室         | 主な業務          | 事務取扱時間                                       | 場 所                              |
|-------------|---------------|----------------------------------------------|----------------------------------|
| 学 事 セ ン タ ー | 履修・授業・成績      | 授業期間中 平日 8:45～16:45<br>※休業期間中の11:30～12:30は閉室 | 5月下旬以前 南校舎地下1階<br>5月下旬以後 大学院校舎1階 |
| 学生総合センター    | 学生生活・奨学金・就職   |                                              | 5月下旬以前 南校舎地下1階<br>5月下旬以後 仮設A棟    |
|             | 学生相談          | 平日 9:30～11:30/12:30～16:30                    | 西校舎地下2階                          |
| 国 際 セ ン タ ー | 留学            | 授業期間中 平日 8:45～16:45<br>※休業期間中の11:30～12:30は閉室 | 5月下旬以前 南校舎1階<br>5月下旬以後 仮設A棟      |
| 教職課程センター    | 教職課程          |                                              | 南館地下1階                           |
| 保健管理センター    | 健康診断・ヘルスケア    | 平日 8:45～11:30/13:00～16:15                    | 北館1階                             |
| 三 田 I T C   | keio.jp, PC関連 | 授業期間中 平日 8:45～18:15<br>※休業期間中は8:45～17:00     | 大学院校舎地下1階                        |

- ※ 南校舎の建て替え工事に伴い、学事センターと学生総合センター、国際センターの事務室はそれぞれ5月下旬までに移転する予定です。詳細は掲示とホームページで適時お知らせします。
- ※ 土曜、日曜、祝日、大学が定める休日および大学の事務一斉休業期間（三田）は閉室します。  
大学が定める休日 … 1月10日（福澤先生誕生記念日）、4月23日（開校記念日）  
大学の事務一斉休業期間（三田）… 8月中旬および年末年始
- ※ 変更等は適時ホームページ「塾生の皆様へ」でお知らせします。

## 振 鈴 表

| 時 限  | 授業期間        | 定期試験期間      |             |
|------|-------------|-------------|-------------|
|      | 三田・日吉       | 三 田         | 日 吉         |
| 第1時限 | 9:00～10:30  | 9:00～10:30  | 9:30～10:30  |
| 第2時限 | 10:45～12:15 | 10:45～12:15 | 10:50～11:50 |
| 第3時限 | 13:00～14:30 | 13:00～14:30 | 12:50～13:50 |
| 第4時限 | 14:45～16:15 | 14:45～16:15 | 14:10～15:10 |
| 第5時限 | 16:30～18:00 | 16:30～18:00 | 15:30～16:30 |
| 第6時限 | 18:10～19:40 | 18:15～19:45 | 16:50～17:50 |

## 掲 示 板

大学院の掲示板は大学院校舎1階に研究科ごとに設置されています。学部の掲示板は西校舎正面入口と西校舎地下1階、地下2階にあります。他研究科、学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科、学部の掲示板を確認してください。諸研究所・センターの設置科目・講座等については、各研究科掲示板の右側にある共通掲示板と、西校舎の学部共通掲示板を確認してください。他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。主な掲示内容は、授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更、緊急通達、各種試験の実施要項、学事日程、呼出等です。掲示内容の一部については学事Webシステム、塾生ページでも確認できます（「第4 Webシステム」の項を参照してください）。

学事センター（経済学研究科担当）からのお知らせ：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/keiken/index.html>

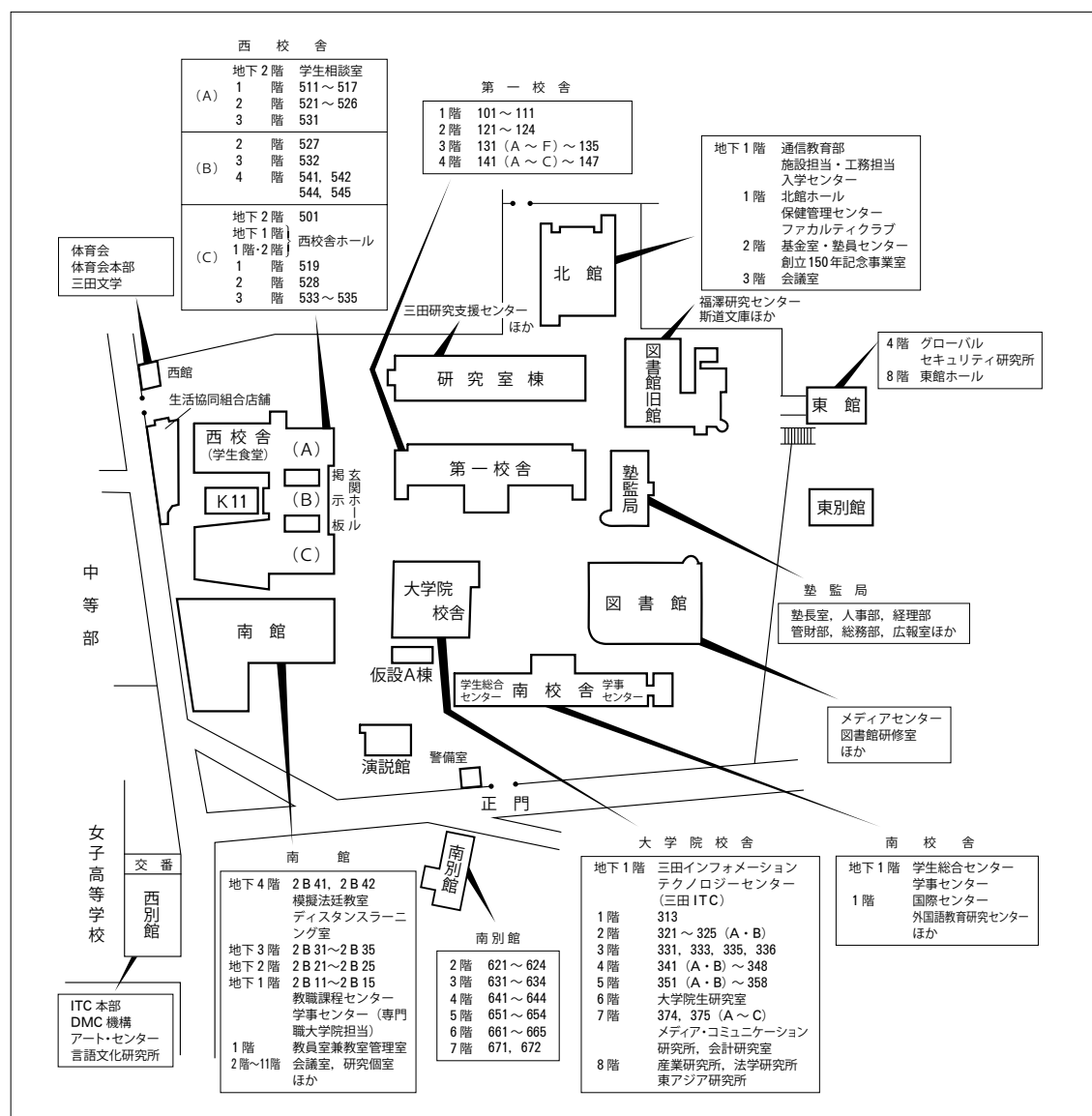
## 校舎と教室番号

| 第 一 校 舎 | 大学院校舎               | 西 校 舎             | 南 館       | ※南 別 館  | ※仮 設 教 室 |
|---------|---------------------|-------------------|-----------|---------|----------|
| 101～147 | 313,<br>321-A～375-C | 501～545<br>西校舎ホール | 2B11～2B42 | 621～672 | K11      |

- ※ 「仮設教室」は、「西校舎」地下2階の出口近辺に建設し、2009年4月に竣工する予定です。
- ※ 「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、時間には充分な余裕をもって移動してください。信号待ち、混雑状況等によっては、定刻に間に合わないことも考えられます。

## 三田キャンパスマップ（2009年4月現在）

- ※ 「南校舎」は、2009年の5月下旬以降に建て替え工事に入る予定です。建て替え工事期間中の代替え教室や各事務室の移転先等について、掲示やHPで確認をしてください。
- ※ 「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、信号待ちのある国道を横断しなくてはなりません。



## その他

### (1) PC アカウント・パスワード

三田キャンパス内のPCを利用するためには、三田ITCでアカウントとパスワードを作成する必要があります。他地区のアカウントとパスワードでログインすることはできません。

### (2) PC を利用できる場所

PCは第一校舎、大学院校舎、メディアセンター、南館図書室、東館等に設置されています。

### (3) 証明書自動発行機

証明書自動発行機は学事センター内に1台、南校舎中庭側に3台設置されています。ただし、南校舎建て替え工事の開始にあわせ、設置場所を移転します。詳細は、掲示やホームページで確認してください。

### (4) コピー

コピーは生協購買部、生協食堂、メディアセンター等で行うことができます。

### (5) 食堂

三田キャンパス内には、西校舎に、「山食（やましょく）」と「生協食堂」の2つの食堂があります。

# 第1

# 学事関連スケジュール (三田)

2009年  
4月

授業期間

休業期間

休日

日

月

火

水

木

金

土

|    |                                                                              |    |                           |                                     |                               |    |
|----|------------------------------------------------------------------------------|----|---------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|----|
|    |                                                                              |    | 1<br>成績証明書発行開始<br>(12:30) | 2                                   | 3                             | 4  |
|    |                                                                              |    | ガイダンス期間 (1日～7日)           |                                     |                               |    |
| 5  | 6<br>入学式<br>履修案内等資料配付・ガイダンス<br>(10:00～133番)<br>学事WebシステムPW変更<br>締切(学事センター提出) | 7  | 8<br>春学期授業開始              | 9                                   | 10                            | 11 |
|    |                                                                              |    |                           |                                     | Web履修申告期間(10日16:00～16日10:00)  |    |
| 12 | 13                                                                           | 14 | 15                        | 16<br>履修申告用紙による履修申告<br>(8:45～10:00) | 17                            | 18 |
| 19 | 20                                                                           | 21 | 22                        | 23<br>開校記念日                         | 24                            | 25 |
| 26 | 27                                                                           | 28 | 29<br>昭和の日                | 30<br>授業料等納入期限<br>(全納または春学期分納)      | ※諸研究所ガイダンスの詳細は後述<br>下旬 定期健康診断 |    |

5月

|            |                                  |            |           |                                                              |                         |                 |
|------------|----------------------------------|------------|-----------|--------------------------------------------------------------|-------------------------|-----------------|
|            |                                  |            |           |                                                              | 1                       | 2               |
| 3<br>憲法記念日 | 4<br>みどりの日                       | 5<br>こどもの日 | 6<br>振替休日 | 7<br>修士2年修了見込証明書、<br>博士3年単位取得見込証明書発行開始<br>履修申告修正期間(7日～11日予定) | 8                       | 9               |
| 10         | 11                               | 12         | 13        | 14                                                           | 15                      | 16              |
| 17         | 18                               | 19         | 20        | 21                                                           | 22                      | 23              |
| 24         | 25                               | 26         | 27        | 28                                                           | 29<br>休学願提出期限<br>(春学期分) | 30<br>早慶野球戦(予定) |
| 31         | 上旬 履修申告科目確認表送付(本人宛)<br>上旬 定期健康診断 |            |           |                                                              |                         |                 |

6月

|    |    |    |    |    |                                |    |
|----|----|----|----|----|--------------------------------|----|
|    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5<br>指導教員登録用紙提出期限<br>(修士課程1年生) | 6  |
| 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12                             | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19                             | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26                             | 27 |
| 28 | 29 | 30 |    |    |                                |    |

## 諸研究所ガイダンス日程

国際センター在外研修プログラムガイダンス 4月6日(月)10時45分～526番教室  
教育実習事前指導Ⅰ(今年度実習予定者) 4月6日(月)14時45分～519番教室  
アート・センターガイダンス 4月7日(火)12時30分～524番教室  
教職課程ガイダンス 4月7日(火)16時30分～515番教室

## 7月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

| 日  | 月         | 火                  | 水             | 木  | 金                                           | 土  |
|----|-----------|--------------------|---------------|----|---------------------------------------------|----|
|    |           |                    | 1             | 2  | 3                                           | 4  |
| 5  | 6         | 7                  | 8             | 9  | 10<br>補講日<br>修士論文予定題目並びに要旨提出期限(予定)(修士課程2年生) | 11 |
| 12 | 13        | 14                 | 15<br>春学期授業終了 | 16 | 17                                          | 18 |
| 19 | 20<br>海の日 | 21                 | 22            | 23 | 24                                          | 25 |
| 26 | 27        | 28<br>夏季休業(～9月23日) | 29            | 30 | 31                                          |    |

上 旬 春学期末定期試験時間割発表(修士課程基礎科目)

上 旬 春学期末追加試験申込受付(修士課程基礎科目)

## 8月

|    |    |                                 |                                 |    |    |    |
|----|----|---------------------------------|---------------------------------|----|----|----|
|    |    |                                 |                                 |    |    | 1  |
| 2  | 3  | 4<br>春学期末追加試験(予定)<br>(修士課程基礎科目) | 5<br>春学期末追加試験(予定)<br>(修士課程基礎科目) | 6  | 7  | 8  |
| 9  | 10 | 11                              | 12                              | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18                              | 19                              | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25                              | 26                              | 27 | 28 | 29 |
| 30 | 31 |                                 |                                 |    |    |    |

## 9月

|            |             |            |    |                            |               |    |
|------------|-------------|------------|----|----------------------------|---------------|----|
|            |             | 1          | 2  | 3                          | 4             | 5  |
| 6          | 7           | 8          | 9  | 10                         | 11            | 12 |
| 13         | 14          | 15         | 16 | 17                         | 18<br>9月学位授与式 | 19 |
| 20<br>敬老の日 | 21<br>国民の休日 | 22<br>秋分の日 | 23 | 24<br>9月入学式(学部・院)<br>ガイダンス | 25<br>秋学期授業開始 | 26 |
| 27         | 28          | 29         | 30 | 上 旬 春学期学業成績表送付(本人宛)        |               |    |

授業期間  休業期間  休日

10月

日 月 火 水 木 金 土

|    |            |    |    |    |                           |                 |
|----|------------|----|----|----|---------------------------|-----------------|
|    |            |    |    | 1  | 2                         | 3               |
| 4  | 5          | 6  | 7  | 8  | 9                         | 10              |
| 11 | 12<br>体育の日 | 13 | 14 | 15 | 16                        | 17              |
| 18 | 19         | 20 | 21 | 22 | 23                        | 24              |
| 25 | 26         | 27 | 28 | 29 | 30<br>授業料等納入期限<br>(秋学期分納) | 31<br>早慶野球戦(予定) |

上旬 秋学期履修申告期間  
10月～11月 修士論文予備審査(修士課程2年生)

11月

※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

|           |                         |                        |                                     |             |           |           |
|-----------|-------------------------|------------------------|-------------------------------------|-------------|-----------|-----------|
| 1         | 2                       | 3<br>文化の日              | 4                                   | 5           | 6         | 7         |
| 8         | 9                       | 10                     | 11                                  | 12          | 13        | 14        |
| 15        | 16                      | 17                     | 18<br>補講日(午前)<br>-----<br>三田祭準備(午後) | 19<br>三田祭準備 | 20<br>三田祭 | 21<br>三田祭 |
| 22<br>三田祭 | 23<br>勤労感謝の日<br>三田祭     | 24<br>三田祭片付け           | 25                                  | 26          | 27        | 28        |
| 29        | 30<br>休学願提出期限<br>(今年度分) | 11月～12月 博士論文予備審査(博士課程) |                                     |             |           |           |

12月

|                       |    |    |                            |    |                                              |    |
|-----------------------|----|----|----------------------------|----|----------------------------------------------|----|
|                       |    | 1  | 2                          | 3  | 4                                            | 5  |
| 6                     | 7  | 8  | 9                          | 10 | 11                                           | 12 |
| 13                    | 14 | 15 | 16                         | 17 | 18<br>修士学位申請・修士論文<br>題目提出締切(予定)<br>(修士課程2年生) | 19 |
| 20                    | 21 | 22 | 23<br>天皇誕生日<br>冬季休業(～1月5日) | 24 | 25                                           | 26 |
| 27                    | 28 | 29 | 30                         | 31 |                                              |    |
| 三田キャンパス一斉休業(29日～1月5日) |    |    |                            |    |                                              |    |

2010年  
1月

※「月曜代替講義日」には実際の曜日にかかわらず月曜日として授業が行われます。  
※「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

| 日                 | 月                                                                                     | 火  | 水                    | 木  | 金                                                       | 土  |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------|----|---------------------------------------------------------|----|
|                   |                                                                                       |    |                      |    | 元日 1                                                    | 2  |
| 3                 | 4                                                                                     | 5  | 授業開始                 | 6  | 7                                                       | 8  |
| 10<br>福澤先生<br>誕生日 | 11<br>成人の日                                                                            | 12 | 13                   | 14 | 15<br>月曜代替講義日                                           | 16 |
| 17                | 18                                                                                    | 19 | 20<br>補講日<br>秋学期授業終了 | 21 | 22                                                      | 23 |
| 24                | 25                                                                                    | 26 | 27                   | 28 | 29<br>博士課程3年生 在学期間延長許可願 / 単位取得退学届, 学位論文予定題目および研究計画書提出期限 | 30 |
| 31                | 秋学期末定期試験(修士課程基礎科目)(1月21日～2月3日予定)(この期間は授業は行われません)                                      |    |                      |    |                                                         |    |
|                   | 上 旬 秋学期末定期試験時間割発表(修士課程基礎科目)<br>上 旬 秋学期末追加試験申込受付(修士課程基礎科目)<br>中 旬 修士論文および要旨提出(修士課程2年生) |    |                      |    |                                                         |    |

2月

|    |                                        |    |             |              |    |    |
|----|----------------------------------------|----|-------------|--------------|----|----|
|    | 1                                      | 2  | 3<br>福澤先生生日 | 4            | 5  | 6  |
| 7  | 8                                      | 9  | 10          | 11<br>建国記念の日 | 12 | 13 |
| 14 | 15                                     | 16 | 17          | 18           | 19 | 20 |
| 21 | 22                                     | 23 | 24          | 25           | 26 | 27 |
| 28 | 下 旬 秋学期末追加試験(修士課程基礎科目)<br>上旬～3月下旬 春季休業 |    |             |              |    |    |

3月

|            |             |    |    |                                                     |    |    |
|------------|-------------|----|----|-----------------------------------------------------|----|----|
|            | 1           | 2  | 3  | 4                                                   | 5  | 6  |
| 7          | 8           | 9  | 10 | 11                                                  | 12 | 13 |
| 14         | 15          | 16 | 17 | 18                                                  | 19 | 20 |
| 21<br>春分の日 | 22<br>振替休日  | 23 | 24 | 25                                                  | 26 | 27 |
| 28         | 29<br>学位授与式 | 30 | 31 | 上 旬 修士学位面接審査許可者発表・面接審査(修士課程2年生)<br>中 旬 学業成績表送付(本人宛) |    |    |

**1 休学（学則第125条）**

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。

本年度休学希望者は、指導教授と相談のうえ、「休学願」に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、原則として履修申告日までに学事センターに提出してください。履修申告後の休学願提出期限は、春学期は**5月29日(金)**、秋学期は**11月30日(月)**です。必要に応じて学習指導担当との面接を指示することがあります。

休学は学期（春学期は4月1日から9月21日、秋学期は9月22日から3月31日）を単位として許可し、休学期間は修了に必要な在学年数に算入しません。

休学が次の学期におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。

休学期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。

なお、学費については休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合は減免されることがあります。学生総合センター学生生活支援窓口に相談してください。

**2 留学（学則第124条）**

研究科委員会が教育上有益と認めたときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがあります。

留学希望者は、指導教授と相談のうえ、あらかじめ学事センターで相談・確認し、遅くとも出発の1ヶ月前には「国外留学申請書」を提出してください。必要に応じて学習指導担当との面接を指示することがあります。

留学は1回の申請につき1年を限度とし、延長する場合は全留学期間3年まで許可されます。また、留学期間が3年を超えて更に継続する場合は休学とします。この場合は、許可された留学期間の残りの期間について休学願を提出しなければなりません。その際も早目に学事センターで手続き等の詳細を確認してください。

留学した期間は、1年を限度として修了に必要な在学年数に算入することができますので、希望する場合は学事センターに申し出てください。なお、申し出がない場合は在学年数に算入しません。

留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。

なお、学費については留学期間中も同額となります。ただし、私費による留学の場合、もしくは、奨学金を得ての留学、交換留学の場合で留学の延長が許可された場合、学費が減免されることがあります。詳細は学事センターまでお問い合わせください。

**3 退学（学則第126条）**

病気その他の事由により退学したい者は、指導教授に面談のうえ、速やかに「退学届」に学生証を添えて学事センターに提出してください。

「退学届」には、退学の具体的理由、保証人連署、本人および保証人の捺印が必要です（本人と保証人は異なる印を使用してください）。

単位取得退学（博士課程のみ）については「第8 履修要項」の項を参照してください。

**4 退学処分（学則第128条・第161条）**

(1) 修士課程において4年、後期博士課程において6年の在学最長年限を超える者は学則第128条により退学処分となります。ただし、休学期間は在学年数に算入しません。

(2) 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた場合、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない場合などには学則第161条により退学処分となります。

**5 注意事項**

経済学研究科では、学年毎の進級条件を設けていませんので、休学または留学していても学年は年度毎に最高学年（修士2年、博士3年）まで加算されます。

## 海外の教育機関に留学する場合の取扱い

在学中に留学を希望する場合、学籍は「留学」と「休学」に分けられます。

|                 |                     | 留 学                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 休 学                                                           |
|-----------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 種 類             |                     | 「交換留学」「奨学金による留学」「私費留学」の3種類。研究科委員会において適正と認められた海外の大学で、正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）のみ「留学」として認められる。                                                                                                                                                                                              | 語学研修やその他左記の留学として認定されない場合。                                     |
| 期 間             | 対 象 期 間             | 「留学」の開始日から最長1年間まで。<br>年度途中で開始し、年度途中で終了することが可能。<br>[例]<br>2009.9.22～2010.9.21                                                                                                                                                                                                                                               | 学期（春学期は4月1日から9月21日、秋学期は9月22日から3月31日）を単位として許可。                 |
|                 | 延 長                 | 2回まで可能。最長で留学開始日から3年間まで。4年目以降は「休学」。希望する場合は所定の「国外留学申請書」の再提出が必要。                                                                                                                                                                                                                                                              | 学期をまたいで休学する場合、新学期に「休学願」の再提出が必要。                               |
| 学 費 ・ 渡 航 費     | 学 費 減 免 措 置         | 【交換留学・奨学金による留学】<br>1年目：減免制度なし。<br>2年目以降：減免される場合あり。<br>留学開始日から1年ないし2年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除。（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します）<br>【私費留学】<br>（留学開始日が平成18年4月1日以降の者にのみ適用）<br>「私費留学」により在学しなかった期間（学期単位）に対し、その学期の属する年度の在学料および実験実習費について、年額の4分の1を学期毎に免除。免除される期間は最長6学期まで。ただし、留学期間中に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期まで。 | 減免制度なし。                                                       |
|                 | 渡 航 費 補 助           | 「交換留学」または「奨学金による留学」の場合は渡航費が補助される場合あり。窓口は国際センター。                                                                                                                                                                                                                                                                            | 渡航費補助制度なし。                                                    |
| 単 位 取 得 ・ 認 定   | 留 学 期 間 を は さ む 履 修 | 年度途中から留学する場合、留学前に履修申告した科目を留学後に継続履修し、単位取得することが可能。ただし、同一科目同一担当者であることが条件（留学前に科目担当者に留学後に継続履修する意志があることを伝えておく必要あり）。                                                                                                                                                                                                              | 休学開始日にかかわらず、当該学期はすべて休学扱いとなるため、学期途中から休学する場合、履修申告した科目はすべて削除となる。 |
|                 | 留 学 先 で 取 得 し た 単 位 | 10単位を超えない範囲で、慶應義塾大学大学院の単位として認定される場合あり。認定希望の場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出、「就学届」提出時に要申請。                                                                                                                                                                                                                                             | 単位認定なし。                                                       |
| 在 学 年 数 へ の 算 入 | 進 級 ・ 卒 業 （ 修 了 ）   | 1年間に限り留学期間を在学年数に算入する場合あり。希望する場合は学事センターまで。ただし、遡及卒業（修了）は不可能。                                                                                                                                                                                                                                                                 | 在学年数に算入されない。（ただし、実質的な在学年数にかかわらず、休学中も最高学年まで進級します。）             |

※注意 TOEFL, GRE, GMAT 等受験の際、身分証明書としてパスポートが必要になります。

**1 学 生 証**

学生証は本大学大学院生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

**(1) 再 交 付**

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに学事センターで再交付を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

証明書用写真（縦4cm 横3cm、カラー光沢仕上げ、脱帽、上半身正面、背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの）、  
2,000円（証紙※証紙は学事センター内の券売機で販売しています）、学生証再交付願＜所定用紙＞

**(2) 学生証の返却**

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業等で離籍した場合はただちに学事センターへ返却してください。

**(3) 国際学生証**

国際学生証については生協事務室に問い合わせてください。（TEL:03-3455-6651）

**2 住所変更（本人・保証人）**

住所（本人・保証人）を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。住居表示・地番変更の場合も届け出てください。本人の住所変更の場合、学生証裏面シールの記載事項変更も同時に行い、窓口で証明印を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、在学カード＜所定用紙＞

**3 保証人変更**

保証人を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。保証人は日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、保証人変更届＜所定用紙＞、在学カード＜所定用紙＞、誓約書（本人・新保証人押印）＜所定用紙＞、  
新保証人の住民票

**4 改姓・改名**

改姓・改名をした場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。届出後、履修中の科目担当者に必ずその旨申し出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類（＜所定用紙＞は学事センターにあります）

学生証、改姓（名）届＜所定用紙＞、在学カード＜所定用紙＞、誓約書（本人・保証人押印）＜所定用紙＞、学生証再交付願（写真貼付〔縦4cm 横3cmカラー光沢仕上げ、脱帽、上半身正面、背景なし、3ヶ月以内に撮影されたもの〕、手数料不要）＜所定用紙＞、新姓名の戸籍抄本

**5 国籍変更**

国籍を変更した場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

－必要書類

学生証、戸籍謄本（コピーでも可）、住民票

**6 通学区間の変更**

住所変更等に伴い学生証裏面に記入している通学区間を変更する場合は、速やかに学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

－必要書類

学生証

## 7 証明書（成績証明書・学割証等）

### (1) 証明書自動発行機

設置場所と利用時間（他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。）

－南校舎1階（中庭側） 月～土 9:00-20:00 ※授業・定期試験のない土曜日は利用できません。

－学事センター内 月～金 8:45-16:45 ※授業・定期試験のない日は8:45-11:30/12:30-16:45

5月下旬からの南校舎建て替え工事に伴う設置場所の移転先情報や、メンテナンス・故障等による利用停止情報は、適時 HP 等でお知らせします。 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/index.html>

### (2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は窓口で申し込んでください。発行済みの証明書を後から厳封することはできません。なお、厳封には手数料はかかりませんが、発行する証明書の枚数分の手料は必要です。

### (3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に行くことが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

#### －必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

※委任状に所定の書式はありません。例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

〔例〕委任状

私「（本人氏名）」は、「（代理人氏名）」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20××年○月△日・本人署名・捺印

※身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、免許証、パスポート、健康保険証、外国人登録証明書、住民基本台帳カード（写真付のもの）を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

### (4) 証明書一覧

| 証明書                              | 言語       | 手数料                                   | 発行場所  | 発行日数              | 発行開始日 | 備考                                     |
|----------------------------------|----------|---------------------------------------|-------|-------------------|-------|----------------------------------------|
| 在学証明書                            | 和文<br>英文 | 200円                                  | 自動発行機 | 即日                | 4月1日  |                                        |
| 成績証明書                            | 和文<br>英文 | 200円                                  | 自動発行機 | 即日                | 4月1日  |                                        |
| 修士課程修了見込証明書                      | 和文<br>英文 | 200円                                  | 自動発行機 | 即日                | 5月7日  | 修士課程2年生のみ発行されます。                       |
| 修士課程修了見込付成績証明書                   | 和文       | 400円                                  | 自動発行機 | 即日                | 5月7日  | 修士課程2年生のみ発行されます。                       |
| 教育課程終了見込証明書<br>(単位取得退学見込証明書)     | 和文<br>英文 | 200円                                  | 窓口    | 数日 <sup>(注)</sup> | —     |                                        |
| 履修科目証明書                          | 和文       | 200円                                  | 自動発行機 | 即日                | 6月1日  |                                        |
|                                  | 英文       | 200円                                  | 窓口    | 即日                |       |                                        |
| 健康診断証明書                          | 和文       | 200円                                  | 自動発行機 | 即日                | 6月中旬  | 受診した年度の年度末まで発行できます。                    |
|                                  | 英文       | 保健管理センターに問い合わせてください(TEL:03-5427-1607) |       |                   |       |                                        |
| 学割証                              | 和文       | 無料                                    | 自動発行機 | 即日                | 4月1日  | 定期健康診断を未受診の場合は発行できません。1人1日10枚まで発行できます。 |
| 通学証明書                            | 和文       | 無料                                    | 窓口    | 即日                | —     | 学生証で購入できない区間またはバスを利用する際に必要な証明書です       |
| 各種資格試験等受験用単位取得証明書                | 和文       | 200円                                  | 窓口    | 数日 <sup>(注)</sup> | —     |                                        |
| 提出先所定の用紙(リクエストフォーム)<br>に証明を要するもの | 和文       | 200円                                  | 窓口    | 数日 <sup>(注)</sup> | —     |                                        |
| 博士学位申請中証明書                       | 和文       | 200円                                  | 窓口    | 数日 <sup>(注)</sup> | —     |                                        |
|                                  | 英文       |                                       |       |                   |       |                                        |
| 前学籍(学部)成績証明書                     | 和文<br>英文 | 400円                                  | 自動発行機 | 即日                | —     | 1978年3月31日以降の学部卒業者のみ。                  |
| 前学籍(学部)卒業証明書                     | 和文<br>英文 | 400円                                  | 自動発行機 | 即日                | —     |                                        |
| 前学籍(修士)成績証明書                     | 和文<br>英文 | 400円                                  | 自動発行機 | 即日                | —     | 1991年3月31日以降の修士修了者のみ。                  |
| 前学籍(修士)修了証明書                     | 和文<br>英文 | 400円                                  | 自動発行機 | 即日                | —     |                                        |

(注)発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕を持って申請してください。

※証明書発行には学生証が必要です。

※2002年度以前の入学者が初めて英文の証明書を発行する場合は、窓口で申し出てください。

※学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です（有効期間内でも学籍を失った場合は無効）。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

※特別学割証と団体旅行申込書（団体割引）を発行する場合は、窓口で申し出てください。

※学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

## 1 Webシステム概要

インターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスを利用できます。

| 「塾生の皆様へ」ホームページ |                                                                                                                                                                                       |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| URL            | <a href="http://www.gakuji.keio.ac.jp/">http://www.gakuji.keio.ac.jp/</a>                                                                                                             |
| 概要             | 塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。最新のお知らせや各種ホームページのリンク等を提供しています。                                                                                                                            |
| 主な提供サービス       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 授業 / 履修 / 試験</li> <li>・ 履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開 / 修了発表 (学籍番号のみ公開) 等</li> <li>■ 学生生活 / 進路</li> <li>・ 窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等</li> </ul> |

| 学事 Web システム |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| URL         | <a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/</a>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ID/パスワード    | 学籍番号 / 学事 Web パスワード                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| マニュアル       | <a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/</a>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 概要          | 履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認等ができます。学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学事センターに問い合わせてください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 主な提供サービス    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 履修申告<br/>時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。</li> <li>■ 履修確認<br/>一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。ただし、表示される履修中科目は暫定的な内容となります。最終的な履修科目は、履修申告科目確認表で確認してください。</li> <li>■ 休講・補講<br/>休講・補講のある授業の一覧が表示されます。携帯端末からも利用できます。ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、直前にも掲示板を確認するようにしてください。</li> <li>■ 連絡・呼出<br/>事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡・呼出は、携帯端末からのログイン時にも表示されます。</li> </ul> |

| keio.jp (共通認証システム) |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| URL                | http://keio.jp/                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ID/パスワード           | 慶應 ID / パスワード                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| マニュアル              | http://keiojp.itc.keio.ac.jp/                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 概要                 | 共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。利用するには、慶應 ID の取得 (アクティベーション) が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 主な提供サービス           | <p>■ 学業成績表閲覧 ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用<br/>本人へ郵送した学業成績表の原本から、個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科、学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。</p> <p>■ 健診結果お知らせ ※学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用<br/>当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。</p> <p>■ 就職・進路支援システム<br/>進路希望、進路届、就職体験記、求人票等</p> <p>■ その他<br/>・ 慶應メール / 教育支援システム等 (詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)</p> |
| 慶應 ID 取得           | <p>慶應 ID を取得していない方は「アクティベーション」を行ってください。その際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードが必要です。詳細は、以下を参照してください。<br/> <a href="http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html">http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html</a><br/>           アクティベーションは 1 度しかできません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は、各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。</p>                                                                 |

## 2 Webシステム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザーを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は、ブラウザーの「戻る」および「進む」ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、「更新」ボタンを押してリロードしてください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザーを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザーを起動し直してください。
- (4) 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- (5) Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

## 3 パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

|                                                    | ログイン ID | ログインパスワード        | 再発行窓口  | 必要書類      |
|----------------------------------------------------|---------|------------------|--------|-----------|
| 学事 Web システム                                        | 学籍番号    | 学事 Web システムパスワード | 学事センター | 学生証       |
| Web エントリーシステム                                      | 学籍番号    | 学事 Web システムパスワード | 学事センター | 学生証       |
| keio.jp (共通認証システム)                                 | 慶應 ID   | keio.jp パスワード    | 三田 ITC | 学生証・慶應 ID |
| 塾生の皆様へ                                             | 不 要     | 不 要              | —      | —         |
| 三田キャンパス内の PC を利用するための ID およびパスワードは三田 ITC で再発行できます。 |         |                  |        |           |

**1 教員を訪ねる場合**

授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学事センターで仲介等はいりません。メールでアポイントをとる場合は、Web上の教員一覧等を参照してください。

- (1) 三田所属専任教員(教授・准教授・専任講師・助教) …… 研究室(研究室棟または南館)  
 (2) 日吉所属専任教員および塾外からの出講者(講師) …… 教員室(南館1階)

※専任教員か講師か不明な場合はシラバス等で確認してください。

**2 教室使用申請(三田)****(1) 研究会の教室使用申請**

所定の「学内集会届」を窓口に出し、「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。なお、休業期間中の利用申請には、「学内集会届」に研究会担当教員の捺印が必要です。

|         |                              |
|---------|------------------------------|
| 使用不可能期間 | …… 土曜・日曜・祝日、大学が定めた休日、定期試験期間中 |
| 受付窓口    | …… 三田学事センター教室担当              |
| 申込期日    | …… 使用希望日の2週間前から事務取扱日換算の前日まで  |

**(2) 外部団体の教室使用申請**

詳細は管財部管財担当に問い合わせてください。施設使用費等が必要となります。

※他地区の教室利用については、各地区で申請方法等を確認してください。

**3 緊急時における授業の取扱い**

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

**(1) 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合**

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。

**(2) 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合**

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

**<その他の注意事項>**

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

**4 早慶野球戦時における授業の取扱い**

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。雨天中止による延期や、同点終了による3回戦以降もこれに準じます。試合結果は、東京6大学野球連盟オフィシャルサイトで確認してください(<http://www.big6.gr.jp/>)。雨天等による当日試合中止の判断は、明治神宮野球場(神宮球場)の判断によります。神宮テレフォンサービス：TEL 03-3236-8000

## 5 成 績

### (1) 成績評語

所定の授業内で随時行われる試験を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語は A・B・C・D の 4 種で示すことを基本とし、A・B・C を合格、D を不合格とします。ただし、特定の科目は、評語を P・D もしくは P・F の 2 種とし、この場合、P を合格、D・F を不合格とします。

### (2) 学業成績表

学業成績表を春学期終了科目については 9 月中旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については 3 月中旬に本人宛に郵送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

### (3) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表を Web で閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」の ID・パスワードおよび「学事 Web システム」のパスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。なお、パスワードの再発行等、Web システムの利用案内については、「第 4 Web システム」の項を参照してください。

### (4) 学業成績証明書

学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降（4 月以降）です。ただし、修士修了決定者については事前申請により学位授与式の日以降に発行します。詳細は 1 月に掲示します。学位授与式の日程については、「第 1 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。

## 1 試 験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。なお、学部と併設する修士課程の科目については学部に基づき定期試験を行うことがあり、追加試験の対象ともなります。掲示を確認してください。日程は「第1 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。

※定期試験時間割、持ち込み指示、受験に関する注意事項等の詳細を掲示で必ず確認してください。

※定期試験・追加試験の URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

## 定期試験に関する注意

- ① 受験に際しては不正行為のないように、真摯な態度で臨んでください。
- ② 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され、処分の対象とされます。
- ③ 学生証を必ず携帯し、提示してください。
- ④ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日に限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料 500 円が必要となります。
- ⑤ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
- ⑥ 仮学生証発行手続により、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また、追加試験の対象とはなりません。
- ⑦ 答案用紙の担当者および科目名ならびに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合、成績はつきません。
- ⑧ 試験開始後 20 分までの遅刻の場合は、試験を受験することができます（試験時間の延長はありません）。ただし、遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合、当該試験をそのまま受験するのか、それとも追加試験の申請をするのかは、本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので、必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。
- ⑨ 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は、追加試験の対象とはなりません。

## 2 レポート

レポートを三田学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

- ① 指定された期間に指定された場所へ提出してください。それ以外は受け付けません。
- ② 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。
- ③ 学事センターへ提出を指示された場合は、所定のレポート提出用紙（2 枚複写式）に必要事項を記入し、レポートに添付して提出してください（2 枚とも）。レポート提出用紙は学事センターにあります。
- ④ 学事センターレポートボックス受付時間（時間厳守）

受付曜日： 火・水曜日、木・金曜日

受付時間： 8:45 ～ 16:45

※受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

※授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

## 第7 学生総合センター

### 1 窓口案内

#### (1) 学生生活支援

課外活動、課外教養、奨学金、学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。

#### (2) 就職・進路支援

就職・進路相談、OB・OG 情報、就職ガイダンス、求人情報等に関することを取り扱っています。

#### (3) 学生相談室

さまざまな悩みや相談を受け付けています。

### 2 学生生活支援

#### (1) 学生食堂の使用申請

対 象 …… 公認学生団体・研究会・教職員・塾員等のパーティー

使用可能期間 …… 日曜・祝日以外

手 続 …… 窓口に「学内集会届」を提出

予約後2週間以内に「学内集会届」にて正式申込をしてください。

備 考 …… 「学内集会届」が提出されなかった場合、予約が取り消されます。食事の内容等については「学内集会届」提出後に、当該食堂に直接相談をしてください。

#### (2) 学外行事の届出、団体割引の届出

対 象 …… 公認学生団体や研究会の学外行事 [例] 合宿、コンサート、懇親会

手 続 …… 窓口に「学外行事届」を提出

申込期日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

備 考 …… 受理されると傷害保険の対象となります(学生教育研究災害傷害保険の項参照)。また、団体割引やゴルフ場使用税免除に関する証明も受け付けます。

#### (3) 備品借用の申請

対 象 …… 備品借用 [例] ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等

手 続 …… 窓口に「借用書」を提出

申込期日 …… 借用希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

#### (4) 掲示・チラシ配布の申請

対 象 …… ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申込期日 …… 行事の4日前(土・日・祝日を除く)まで

#### (5) 伝言板および「DENGON」

対 象 …… 塾生間の連絡用

手 続 …… 窓口に申し出て「掲示物受付簿」を記入

備 考 …… A4用紙1枚のみ掲示可能

#### (6) 車輛入構の申請

塾生の車輛入構は認められていません。やむを得ず車輛入構の必要がある場合のみ下欄を参照してください。

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申込期日 …… 入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

#### (7) 大学生活懇談会

講演会や見学会をはじめ、スキー企画等さまざまな催物を随時開催しています。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページを参照してください。

#### (8) 配布物・閲覧物関係

財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券を置いています。また、ボランティア募集や公募関係の案内もファイル等で公開しています。

### 3 遺失物の取扱い

届出のあった遺失物は、学生総合センター学生生活支援窓口にて保管しています。

ただし、学生証のみの拾得については、学事センター（総合窓口）にて保管します（学生証が、財布や定期入れ等に入っている場合は、学生総合センターで保管されます）。

### 4 奨 学 金

#### (1) 「奨学金案内」

学生総合センターで「奨学金案内」を配布し、「奨学金案内」にて別途詳細を案内しています。「奨学金案内」は、概ね4月初旬に配布し、配布後に随時出願受付を行います。

#### (2) 主な奨学金の概略

募集日程は、その都度西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学大学院奨学金〔給付〕… 5月中旬に出願受付を行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕… 4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と、第二種（有利子）があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）もあります。

地方公共団体、社・財団法人等の… 募集は主に4・5月に行います。

各 種 奨 学 金〔給付・貸与〕

指 定 寄 付 奨 学 金〔給付〕… 募集は主に4月に行います。

#### (3) 奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、本人の申請に基づいて規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

### 5 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報等を、学生総合センター事務室、就職資料室にて、提供しています。また、keio.jp上から求人票や就職活動体験記を閲覧することもできます。

修士1年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッション等をキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、修士1年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったこと等があった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

### 6 学生相談室

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

### 7 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、学生健保から医療費給付が受けられます。給付手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込（ゆうちょ銀行は不可）となりますので、口座登録が必要です。

|                 |   |                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 慶應病院で<br>受診した場合 | … | 病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に給付金が振り込まれます。                                                                                                                                     |
| 一般病院で<br>受診した場合 | … | 学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4カ月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。 |

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。

その他、入学時に配布した『健保の手引き』でさまざまな案内をしていますので、詳細を確認してください。『健保の手引き』は学生総合センター窓口でも閲覧可能です。

## 8 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

### (1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

- ① 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。
- ② 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

### (2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

### (3) (1)(2)以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

### (4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングラライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

## 9 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の2種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

### (1) 「学生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社） TEL 03-3453-3846

### (2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045-563-8489

## 定期健康診断

定期健康診断は学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。大学院学則第159条（学部学則179条）にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので必ず受診してください。未受診の場合には「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳等を確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方、あるいはワクチンを1回接種し10年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。また、風疹・水痘（みずぼうそう）・流行性耳下腺炎（おたふく）等の感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。学内集団感染予防のため、ご協力ください。

## 1 履修申告

## (1) 履修申告方法

具体的な履修については、本書熟読のうえ、各自の指導教授又は、各領域の学習指導担当と必ず相談して決定してください。なお、不明な点がある場合は、各領域の学習指導担当または学事センター経済学研究科係に問い合わせてください。また、履修申告用紙もしくは Web 登録科目一覧は、指導教授の認印を受けたうえで期限までに提出してください。

博士課程の在学期間延長者で科目履修を望まない場合は、履修申告用紙の学籍欄を記入し、指導教授の認印を受けたうえで期日までに提出してください。それ以外の者は、修了に必要な単位を取得していても、修学の意志を示すため必ず 1 科目以上は申告してください。

期日までに申告せず、休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時は、退学処分となります。

(学則第 161 条)

学事 Web システムによる申告期間

春学期：4 月 10 日(金) 16:00 ～ 4 月 16 日(木) 10:00

秋学期：10 月上旬(予定、別途掲示参照)

学事 Web システム URL

<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

※ 操作方法・注意は学事 Web システムのオンラインマニュアルを参照してください。

## ① 履修申告期間前

- a 最新の学業成績表ですでに取得している科目・単位を確認し、本項や「履修要項」の項を正確に理解し、「講義要綱・シラバス」等本冊子の各部を参照のうえ、今年度の履修計画をたててください。
- b 履修に関する疑問点その他は学習指導、または学事センター経済学研究科係に問い合わせてください。
- c 住所等が変わっている場合は、「第 3 学生証・諸届・証明書」の項を参照し、「住所変更届」等を提出してください。履修・修了等にかかわる連絡は、大学に届け出のある住所に発送します。

## ② 履修申告期間中

- a 学事 Web システムにより履修申告をしてください。

期間最終日に初めて申告するのではなく、期間中の早い時期に申告してください。期間中は何度でも申告内容の修正ができます。なお、毎日午前 4 時から 1 時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。

- b 時間割が変更すること等がありますので、随時掲示版等で最新の情報を確認してください。

※登録していない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。

※期日までに履修申告をしない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になります。(学則第 161 条)

※やむを得ない理由がある場合は、Web によらずに履修申告をすることができます。本項の「履修申告用紙による履修申告」を参照してください。

- c 指導教授の認印について

指導教授印欄に指導教授の認印が必要です。(指導教授印のない申請は無効となります) 学事 Web システムにより申告を行った場合は、登録科目一覧画面を印刷し、その用紙の所定欄に認印を受け、期限までに提出してください。

なお、修士課程 1 年生の春学期申告時には、学習指導担当より認印を受けてください。

- d 経済学研究科設置の科目については、春学期の履修申告では春学期の科目を申告し、秋学期の履修申告では秋学期の科目を申告してください。

ただし、他研究科および学部設置の通年・秋学期開講科目についてはすべて春学期に申告してください。通年開講の科目を申告した場合、秋学期の申告では時間等の重複がないように注意してください。通年科目と秋学期開講科目が同一の曜日時限で申告された場合は、履修中の通年科目を優先し、秋学期科目の申告を無効とします。

- e 学則 124 条による留学が認められた者および予定の者の履修申告については、学事センター経済学研究科係まで問い合わせてください。(履修要項 12 ページ参照)

### ③ 履修申告期間後

- a 履修の変更・追加・取消は原則として認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録科目の一覧画面を印刷し、時間割とともに控えとして保管しておいてください。
- b 5月上旬(秋学期は10月中旬)に、「履修申告科目確認表」(申告した科目のリスト)を、大学に届けられている本人の住所宛に郵送します。登録エラーや科目間違い等の有無を確認のうえ、修正期間中に学事センター窓口に出して修正を行ってください。
- c 修正期間は掲示で案内します(送付後約一週間の予定)。この期間経過後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は確定されます。以上を怠ったために生じた問題(申告漏れ、科目間違い等により、結果として修了単位不足となる、住所変更届が未提出であったために確認表が届かない等)について大学は一切責任を持ちません。

## (2) 履修科目の登録方法

- ① 授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。
- ② 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。集中講義等、曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできません。また、経済学研究科設置科目のうち、他研究科・研究所と併設している科目については、必ず経済学研究科の設置科目を履修しなければなりません。経済学研究科の時間割で登録番号を確認してください。諸研究所設置科目の登録番号は経済学部時間割の巻末で確認してください。経済学部時間割は学事センターで閲覧できます。
- ③ 「分野」とは授業科目の種類を番号で表記したものです。履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合(履修申告用紙では「A欄」と、各自分野を選択しなければならない場合(履修申告用紙では「B欄」)があります。各自分野を選択して申告する際には、履修申告用の2桁のB欄分野を登録します。履修要項を確認してください。

### 〈登録番号のみ申告する科目(履修申告用紙では「A欄」)〉

#### 【修士課程在籍者】

- ・ 経済学研究科修士課程の時間割に記載されている科目

#### 【博士課程在籍者】

- ・ 経済学研究科博士課程の時間割に記載されている科目

### 〈B欄分野を申告する科目(履修申告用紙では「B欄」)〉

#### 【修士課程在籍者】

- ・ 他研究科、学部および研究所等設置科目

#### 【博士課程在籍者】

- ・ 他研究科、学部および研究所等設置科目
- ・ 経済学研究科修士課程の時間割に記載されている科目

### 〈他大学大学院設置科目を履修する場合〉

- ・ 大学院交流学生履修許可願(所定用紙)を使用してください。

## (3) やむを得ない場合の履修申告用紙による履修申告

やむを得ない理由で Web による履修申告が行えない場合には、用紙によって履修申告をしてください。学事 Web システムによる申告と併用はできません(すべての科目をどちらか一方の方法により申告してください)。履修申告用紙による申告日は、4月16日(木)8:45~10:00です。希望者は以下の注意事項をすべて把握したうえで学事センターに所定の申告用紙の入手を申し出てください。秋学期は10月上旬を予定しています。詳細は後日掲示にてお知らせします。

- ① HB か B の鉛筆を使用してください。
- ② 研究科、専攻、学年、氏名、学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに、該当する数字をマークしてください。

③ A 欄記入上の注意事項

- a 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
- b 科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は、時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。

④ B 欄記入上の注意事項

- a 形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み、曜日・時限を記入します。
- b 科目名・教員名を記入します。
- c 登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し、マークします。
- d 分野欄：2 桁の履修申告用 B 欄分野番号を記入し、マークします。

⑤ 「無効マーク」(A 欄・B 欄に共通)にマークすると、その枠内を無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが、跡が残ったり、黒くこすれたりした場合は、「無効マーク」を利用してください。

⑥ 履修申告用紙の再交付について

- a 履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は、なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。
- b 交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

## 2 他大学大学院との相互科目履修

修士課程、博士課程在学中のそれぞれの期間に 12 単位を限度として東京工業大学大学院社会理工学研究科および早稲田大学大学院経済学研究科の設置科目を履修することができます。それぞれの大学に設置された科目の履修は、修士課程においては関連科目として、博士課程においては自由科目として、それぞれ履修することができます。

ただし、修士課程在籍者は相手先大学大学院の修士課程設置科目のみ、博士課程在籍者は修士課程設置科目、博士課程設置科目の両方が履修できます。

詳細は、学事センター経済学研究科係まで問い合わせてください。

(1) 相手先大学大学院設置科目の履修に関する手続について

この制度に基づく履修を希望する者は、学事センター経済学研究科係で大学院交流学生履修許可願をまず受け取ってください。その際にそれぞれの大学の科目履修に関しての説明文をお渡ししますので、記載内容に従って手続きを取ってください。

(2) 履修申告について

履修登録は大学院交流学生履修許可願の提出により、学事センターで行います。大学院交流学生履修許可願は、4 月 10 日(金)～16 日(木)の履修申告期間内に提出してください。Web 履修申告画面で各自が行う必要はありません。

(3) 交流学生証について

履修が許可された場合、相手校の事務室にて、交流学生証を発行します。相手校の授業に出席する場合には必ず携帯してください。

(4) 他大学大学院で取得した単位の取扱について

修士課程在籍者の場合、課程修了に必要な単位に算入することができます。詳しくは関連科目についての記述を確認してください。(履修要項 32 ページ参照)

(5) 相手校の授業の履修を取り止める場合

万が一、履修を学期の途中で取り止める時は、速やかに相手校の講義担当者、相手方事務担当部署、および本塾学事センター経済学研究科係に連絡をしてください。

# 修士課程

## 1 開講科目と単位数

2009年度（平成21年度）経済学研究科修士課程に開講される科目と単位数および分野は次のとおりです。

講義は週1回の半期（春学期または秋学期）科目を原則とします。なお、科目により秋学期の履修は春学期の履修を前提にする科目もあります。詳細は講義要綱を参照してください。

なお、修士課程在籍者が博士課程設置科目を履修することはできません。

### 1. 修士課程設置の科目

#### (1) 基礎科目

| 科目名           | 単 位 | 科目種類<br>分 野 | 大 学 院<br>先取科目 | 備 考                  |
|---------------|-----|-------------|---------------|----------------------|
| ミ ク ロ 経 済 学   | 2   | 01-01-01    | ○             | ミクロ経済学中級Ⅰ a・b, Ⅱ a・b |
| マ ク ロ 経 済 学   | 2   | 01-01-02    | ○             | マクロ経済学中級Ⅰ a・b        |
| 計 量 経 済 学 中 級 | 2   | 01-01-03    | ○             | 計量経済学上級 a・b          |
| 数 理 統 計 学     | 2   | 01-01-04    | ○             |                      |
| 欧米経済史・日本経済史   | 2   | 01-01-05    | ○             | 欧米経済史 a・b, 日本経済史 a・b |
| 経済学説・経済思想     | 2   | 01-01-06    | ○             |                      |

(注) 備考欄に科目名が記載されている科目は、今年度併設されている経済学部設置科目です。

#### (2) 専攻科目

| 専攻<br>分野 | 科目名             | 単 位 | 科目種類<br>分 野 | 大 学 院<br>先取科目                    | 備 考                                                                      |
|----------|-----------------|-----|-------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1        | ミ ク ロ 経 済 学 上 級 | 2   | 01-02-01    | ○                                |                                                                          |
|          | マ ク ロ 経 済 学 上 級 | 2   |             | ○                                |                                                                          |
|          | 数 理 経 済 学       | 2   |             | 高橋明彦君<br>「数理経済学Ⅱ」は×              | 数理経済学Ⅰ a・b                                                               |
|          | 経 済 数 学         | 2   |             | 丸山 徹君<br>「経済数学(Ⅰ-A),<br>(Ⅰ-B)」は× | 解析学Ⅰ a・b, 解析学Ⅱ a・b, 代数学 a・b<br>数理経済学特論Ⅰ a・b〔微分方程式論〕<br>数理経済学特論Ⅱ a・b〔確率論〕 |
|          | ゲ ー ム の 理 論     | 2   |             | ○                                | ゲームの理論 a・b                                                               |
|          | ゲ ー ム の 理 論 上 級 | 2   |             | ○                                |                                                                          |
|          | 契 約 理 論         | 2   |             | ○                                | 契約理論 a・b                                                                 |
|          | 市場の質の基礎理論       | 2   |             | ○                                | 市場の質の基礎理論                                                                |
|          | 市場の質の経済動学       | 2   |             | ○                                |                                                                          |
| 2        | 計 量 経 済 学 上 級   | 2   | 01-02-02    | ×                                |                                                                          |
|          | ミ ク ロ 計 量 経 済 学 | 2   |             | ×                                |                                                                          |
|          | ベ イ ズ 統 計 学     | 2   |             | ○                                | ベイズ統計学 a・b                                                               |
|          | 時 系 列 分 析       | 2   |             | ○                                | 時系列分析 a・b                                                                |
| 3        | 経 済 学 史         | 2   | 01-02-03    | ×                                |                                                                          |
|          | 社 会 思 想         | 2   |             | 坂本達哉君<br>「社会思想」は×                |                                                                          |
|          | 経 済 思 想         | 2   |             | ○                                |                                                                          |
| 4        | 欧 米 経 済 史       | 2   | 01-02-04    | ○                                |                                                                          |
|          | 日 本 経 済 史       | 2   |             | 柳沢 遊君<br>「日本経済史」は×               |                                                                          |
|          | ア ジ ア 経 済 史     | 2   |             | ×                                |                                                                          |
|          | 文 明 の サ イ ヤ ン ス | 2   |             | ○                                |                                                                          |

| 専攻分野 | 科目名                                             | 単位         | 科目種類分野   | 大学院先取科目           | 備考                                                   |
|------|-------------------------------------------------|------------|----------|-------------------|------------------------------------------------------|
| 5    | 産業組織論                                           | 2          | 01-02-05 | ×                 |                                                      |
|      | 労働経済論                                           | 2          |          | ○                 |                                                      |
|      | 社会政策論                                           | 2          |          | ×                 |                                                      |
|      | 工業経済論                                           | 2          |          | ○                 |                                                      |
|      | 農業経済論                                           | 2          |          | —                 | 〈本年度休講〉                                              |
| 6    | 経済政策論                                           | 2          | 01-02-06 | ○                 |                                                      |
|      | 金融論                                             | 2          |          | 櫻川昌哉君<br>「金融論」は×  | JAPANESE FINANCIAL<br>MARKETS AND INSTITUTIONS (PCP) |
|      | 財政論                                             | 2          |          | ○                 | PUBLIC FINANCE (PCP)                                 |
|      | 公共経済学                                           | 2          |          | ○                 |                                                      |
|      | 市場インフラ設計論                                       | 2          |          | ○                 |                                                      |
|      | 財政特論                                            | 2          |          | ○                 |                                                      |
|      | INTRODUCTION TO<br>FINANCE (PCP)                | 2          |          | ○                 | INTRODUCTION TO<br>FINANCE (PCP)                     |
|      | FINANCE, POLICY AND THE<br>GLOBAL ECONOMY (PCP) | 2          |          | ○                 | FINANCE, POLICY AND THE<br>GLOBAL ECONOMY (PCP)      |
|      | MONEY AND<br>FISCAL POLICY (PCP)                | 2          |          | ○                 | MONEY AND<br>FISCAL POLICY (PCP)                     |
|      | INTRODUCTION TO LAW<br>AND ECONOMICS (PCP)      | 2          |          | ○                 | INTRODUCTION TO LAW<br>AND ECONOMICS (PCP)           |
|      | ADVANCED FINANCE (PCP)                          | 2          |          | ○                 | ADVANCED FINANCE (PCP)                               |
|      | APPLIED FINANCE (PCP)                           | 2          |          | ○                 | APPLIED FINANCE (PCP)                                |
| 7    | 現代日本経済論                                         | 2          | 01-02-07 | ×                 |                                                      |
|      | 現代資本主義論                                         | 2          |          | ×                 |                                                      |
| 8    | 世界経済論                                           | 2          | 01-02-08 | ×                 |                                                      |
|      | 国際貿易論                                           | 2          |          | ×                 |                                                      |
|      | 開発経済論                                           | 2          |          | ○                 |                                                      |
|      | 国際金融論                                           | 2          |          | ×                 |                                                      |
|      | OPEN ECONOMY<br>MACROECONOMICS (PCP)            | 4<br>(セット) |          | ○                 | OPEN ECONOMY<br>MACROECONOMICS a・b (PCP)             |
|      | DEVELOPMENT<br>ECONOMICS (PCP)                  | 2          |          | ○                 | DEVELOPMENT<br>ECONOMICS (PCP)                       |
|      | INTERNATIONAL<br>TRADE (PCP)                    | 2          |          | ○                 | INTERNATIONAL<br>TRADE (PCP)                         |
|      | INTERNATIONAL<br>LAW AND ECONOMY (PCP)          | 2          |          | ○                 | INTERNATIONAL<br>LAW AND ECONOMY (PCP)               |
|      | International Economy                           | 2          |          |                   |                                                      |
|      | Japanese Economy                                | 2          |          |                   |                                                      |
|      | 国際関係特論                                          | 2          |          |                   |                                                      |
|      | The Asian Economy                               | 2          |          | ○                 |                                                      |
| 9    | 経済地理学                                           | 2          | 01-02-09 | 杉浦章介君<br>「経済地理」は× |                                                      |
|      | 都市経済論                                           | 2          |          | 秋学期のみ○            |                                                      |

| 専攻分野 | 科目名                                       | 単位 | 科目種類分野   | 大学院先取科目 | 備考                                         |
|------|-------------------------------------------|----|----------|---------|--------------------------------------------|
| 10   | 環境経済論                                     | 2  | 01-02-10 | ○       |                                            |
|      | 社会史                                       | 2  |          | 秋学期のみ○  |                                            |
|      | 人口論                                       | 2  |          | ○       |                                            |
|      | INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS(PCP) | 2  |          | ○       | INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS (PCP) |
|      | ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY (PCP)       | 2  |          | ○       | ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY (PCP)        |
| —    | ACADEMIC WRITING (PCP)                    | 2  | 01-02-11 | ○       | ACADEMIC WRITING (PCP)                     |
|      | CRITICAL THINKING SKILLS (PCP)            | 2  |          | ○       | CRITICAL THINKING SKILLS (PCP)             |

(注) 備考欄に科目名が記載されている科目は、今年度併設されている経済学部設置科目です。

### ● 第Ⅰ領域コアコースについて

第Ⅰ領域に属する教員※を指導教授として希望する学生には下記コアコースの履修を強く推奨します。詳細はガイダンス実施時に第Ⅰ領域学習指導担当（瀬古）まで確認してください。

※第Ⅰ領域所属教員(50音順)：新井拓児・尾崎裕之・木村福成・グレーヴァ香子・塩澤修平・白井義昌・須田伸一・瀬古美喜・玉田康成・辻村和佑・津曲正俊・中妻照雄・中村慎助・中山幹夫・細田衛士・前多康男・マッケンジー, コリン・丸山 徹・山田太門・吉野直行

#### 第Ⅰ領域必修コアコース

|          |       |     |       |
|----------|-------|-----|-------|
| ミクロ経済学上級 | (春)   | 金 3 | 須田／穂刈 |
| ミクロ経済学上級 | (秋)   | 金 3 | 津曲／玉田 |
| マクロ経済学上級 | (春)   | 月 2 | 前多／杉本 |
| マクロ経済学上級 | (秋)   | 火 2 | 金子    |
| 数理統計学    | (春・秋) | 火 3 | 中妻    |

#### 第Ⅰ領域選択必修コアコース

|               |       |     |          |
|---------------|-------|-----|----------|
| 計量経済学中級（学部併設） | (春・秋) | 金 2 | 河井／宮内    |
| ゲームの理論上級      | (春)   | 水 3 | 中山／グレーヴァ |
| 計量経済学上級       | (春・秋) | 水 1 | マッケンジー   |

## (3) 演習科目

| 科 目 名             | 単 位 | 科目種類<br>分 野 | 備 考                     |
|-------------------|-----|-------------|-------------------------|
| ミ ク ロ 経 済 学 演 習   | 2   | 01-03-01    |                         |
| マ ク ロ 経 済 学 演 習   | 2   |             |                         |
| 数 理 経 済 学 演 習     | 2   |             |                         |
| 経 済 数 学 演 習       | 2   |             |                         |
| 計 量 経 済 学 演 習     | 2   |             |                         |
| 経 済 学 史 演 習       | 2   |             |                         |
| 社 会 思 想 演 習       | 2   |             |                         |
| 経 済 思 想 演 習       | 2   |             |                         |
| 経 済 史 演 習         | 2   |             |                         |
| 産 業 論 演 習         | 2   |             |                         |
| 産 業 組 織 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 労 働 経 済 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 社 会 政 策 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 経 済 政 策 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 金 融 論 演 習         | 2   |             |                         |
| 財 政 論 演 習         | 2   |             |                         |
| 公 共 経 済 学 演 習     | 2   |             |                         |
| 日 本 経 済 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 国 際 経 済 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 都 市 経 済 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 環 境 経 済 論 演 習     | 2   |             |                         |
| 社 会 史 演 習         | 2   |             |                         |
| 人 口 論 演 習         | 2   |             |                         |
| 産 業 社 会 論 演 習     | 2   |             |                         |
| INDEPENDENT STUDY | 2   |             | INDEPENDENT STUDY (PCP) |

(注) 備考欄に科目名が記載されている科目は、今年度併設されている経済学部設置科目です。

## (4) プロジェクト科目

| 科 目 名       | 単 位 | 科目種類<br>分 野 | 備 考     |
|-------------|-----|-------------|---------|
| プ ロ ジ ェ ク ト | 2   | 01-04-01    | 〈本年度休講〉 |

成績評語は「P」(合) または「D」(否) の2種類です。

## 2. 関連科目

他研究科設置科目または経済学研究科委員会の認める他大学大学院における授業科目で、指導教授が履修を必要と認める科目については関連科目として履修することができます。**関連科目は4単位まで修了の単位に含まれます。**

| 科 目                                   | 科目種類<br>分 野 | B 欄分野<br>番 号 | 申 告 方 法                                 |
|---------------------------------------|-------------|--------------|-----------------------------------------|
| 他 研 究 科 修 士 課 程 設 置 科 目               | 01-05-01    | 51           | B 欄でB 欄分野番号を指定した上で登録してください。             |
| 東 京 工 業 大 学 大 学 院<br>社会理工学研究科修士課程設置科目 | 01-05-02    | 52           | 大学院交流学生履修許可願(所定用紙)を使用して、所定の手続きをとってください。 |
| 早 稲 田 大 学 大 学 院<br>経済学研究科修士課程設置科目     | 01-05-03    | 53           | 大学院交流学生履修許可願(所定用紙)を使用して、所定の手続きをとってください。 |

## 3. 認定科目（修士課程1年生のみ）

修士課程基礎科目は、年度により経済学部設置の基本科目と併設されている場合があります。併設されていた年度に、学部設置科目（基本科目）としてすでに履修し成績が「A」の場合にのみ、基礎科目として認定されます。この場合の修士課程における成績評語は「P」、単位は2単位となります。

ただし、基礎科目として修了に必要な8単位（1科目4単位を限度）には含まれますが、必要最低総単位数30単位には含まれません。（認定科目2単位と同一名称の科目を4単位取得すると合計6単位となりますが、基礎科目として修了に必要な8単位は1科目4単位を限度としますので、超過分の2単位は基礎科目として修了に必要な8単位には含まれません。）

認定科目を申請する場合は、4月10日（金）までに「大学院認定科目申請用紙」（学事センター経済学研究科係にて交付）に記入し、成績表のコピーを持参して学習指導担当と面接して認定を受けたいうえで、申請用紙および面接に持参した成績表のコピーを学事センター経済学研究科係に提出してください。なお、認定された科目については履修申告の必要はありません。

| 認 定 科 目         | 認定<br>単位 | 科目種類<br>分 野 | 学部の基本科目(99学則)<br>(併設年度)                                    | 学部の基本科目(05学則)<br>(併設年度)                            |
|-----------------|----------|-------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| ミ ク ロ 経 済 学     | 2        | 01-01-51    | ミ ク ロ 経 済 学 I<br>(2001, 2002(須田伸一君のみ),<br>2003～2008)       | ミ ク ロ 経 済 学 中 級 I a・b<br>(2007, 2008)              |
|                 | 2        |             | ミ ク ロ 経 済 学 II<br>(2001～2008)                              | ミ ク ロ 経 済 学 中 級 II a・b<br>(2007, 2008)             |
| マ ク ロ 経 済 学     | 2        | 01-01-52    | マ ク ロ 経 済 学 I<br>(2001～2008)                               | マ ク ロ 経 済 学 中 級 I a・b<br>(2007, 2008)              |
|                 | 2        |             | マ ク ロ 経 済 学 II<br>(2002(前多康男君のみ))                          | —                                                  |
| 計 量 経 済 学 中 級   | 2        | 01-01-53    | 計 量 経 済 学 II<br>(2001～2008)                                | 計 量 経 済 学 上 級 a・b<br>(2007, 2008)                  |
| 数 理 統 計 学       | 2        | 01-01-54    | 確 率 ・ 統 計<br>(2001～2006, 2007(新井益洋君<br>のみ), 2008(稲葉由之君のみ)) | 確 率 ・ 統 計 a・b<br>(2007(新井益洋君のみ)・<br>2008(稲葉由之君のみ)) |
| 欧米経済史・日本経済史     | 2        | 01-01-55    | 欧 米 経 済 史<br>(2001～2008)                                   | 欧 米 経 済 史 a・b<br>(2007, 2008)                      |
|                 | 2        |             | 日 本 経 済 史<br>(2001～2008)                                   | 日 本 経 済 史 a・b<br>(2007, 2008)                      |
| 経 済 学 説・経 済 思 想 | 2        | 01-01-56    | 経 済 学 史 I<br>(2001)                                        | —                                                  |
|                 | 2        |             | 社 会 思 想 史<br>(2003)                                        | —                                                  |

#### 4. 自由科目

「1～3」以外の科目は自由科目としての履修が認められ、学業成績表にも記載されますが、課程修了に必要な単位には含まれません。

| 種 類                 | 科目種類<br>分 野 | B 欄分野<br>番 号 | 申 告 方 法                      |
|---------------------|-------------|--------------|------------------------------|
| 学 部・諸 研 究 所 設 置 科 目 | 09-01-01    | 91           | B 欄で B 欄分野番号を指定した上で登録してください。 |

#### 5. そ の 他

##### (1) 大学院入学前先行科目

経済学部第4学年在学時に「大学院入学前先行科目」として取得した単位について、以下の手続により課程修了に必要な基礎科目もしくは専攻科目の単位として認定を受けることができます。申請する場合は、4月10日（金）までに「大学院入学前先行科目認定用紙」（学事センター経済学研究科係にて交付）に記入し、成績表のコピーを持参して学習指導担当と面接して認定を受けたうえで、申請用紙および面接に持参した成績表のコピーを学事センター経済学研究科係に提出してください。なお、認定された科目について履修申告の必要はありません。

##### (2) ジョイントディグリーによる単位の認定

詳細は「3 ジョイントディグリー」の項を参照してください。

### 2 課程修了にいたるまでの要件

#### (1) 2年間（早期修了制度適用の場合は1年）以上経済学研究科修士課程に在籍し、経済学研究科が指定する下記①～③を充足したうえで、合計30単位以上を履修・合格すること。

修了に必要な科目

- ① 基礎科目 8単位以上（同一科目4単位を限度）
- ② 専攻科目 10単位以上
- ③ 演習科目 8単位以上

注・「関連科目」は合計4単位まで必要最低総単位数（30単位）に含みます。

・「プロジェクト科目」「自由科目」「認定科目」は必要最低総単位数（30単位）に含みません。

「認定科目」の単位は、基礎科目8単位に含めることができますが、修士課程修了に必要な最低総単位数（30単位）に算入することはできません。したがって、基礎科目単位に充当した「認定科目」の単位数は、その他の基礎科目、専攻科目、演習科目、または関連科目の単位で充足しなければなりません。

#### (2) 学位論文（修士論文）の提出および最終審査に合格すること。

#### ※ 修士課程の早期修了について

経済学部第4学年在学時に「大学院入学前先行科目」として取得した単位と、入学年度に履修する科目の単位修得により、入学年度の1年間で修士課程を修了し学位を取得することが認められています。希望する者は以下の要領により手続をとってください。

なお、入学年度に履修する科目の単位修得のみで修了要件を満たして早期修了を希望する場合も同様です。

- ① 「早期学位取得理由書」（学事センター経済学研究科係にて交付）に記入し、4月15日（水）までに学事センター経済学研究科係に提出してください。また、春学期履修申告期間に課程修了に必要な単位数の履修申告を行ってください。（秋学期分もまとめて申告）

- ② 学事センターで資格確認を行います。

「大学院入学前先行科目認定用紙」により認定された単位と、当該年度に履修する科目の単位取得をもって当該年度末に修了要件を満たすことが確認された場合には、学事センター確認印を押印の後、「指導教員登録用紙」と共に本人に戻します。

- ③ 指導を希望する教員に「早期学位取得理由書」および「指導教員登録用紙」を提出し、それぞれに許可印を入手してください。
- ④ 5月8日(金)までに学事センター経済学研究科係に③の用紙を提出してください。
- ※ 原則として、秋学期の履修申告期間に履修申告を行う必要はありません。また、秋学期の履修申告期間における申告済科目の変更は認めません。
- ※ 申請が認められた場合には、他の修士課程第2学年の者と同様の修士学位審査の手続に入ることになります。手続詳細は掲示を参照してください。

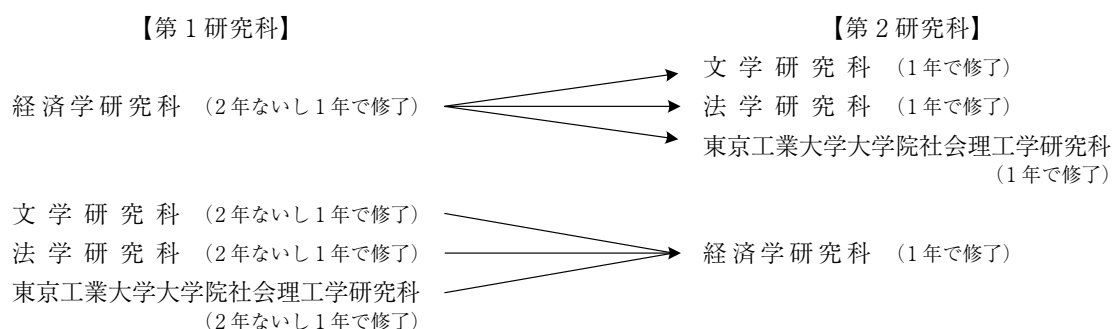
### 3 ジョイントディグリー

#### (1) 概 要

経済学研究科の他に他研究科の専門に関心をもつ修士課程学生を対象に、ジョイントディグリー（ある分野で学位を授与された後に別の分野で教育を受け学位を授与されるというように、一定期間において複数学位を取得できるという履修形態）を設けることになりました。これにより、修士（経済学）（慶應義塾大学）と併せて2つの修士学位を3年間ないし2年間で取得することができるようになります。

ジョイントディグリーを希望する者は、指導教員の承諾を得たうえで、履修申告期間に所定の申請書（学事センター経済学研究科係配布）を学事センター経済学研究科係に提出してください。

※ 以下、最初に修士学位を取得する研究科を第1研究科、2つ目の修士学位を取得する研究科を第2研究科と呼びます。



#### (2) ジョイントディグリーにおける単位認定

- ① 第1研究科在籍中に、自由科目として取得しておいた第2研究科設置科目の単位認定を最大12単位までうけることができます。ただし、東京工業大学大学院社会理工学研究科とのジョイントディグリーの場合は、自由科目ではなく科目等履修生として取得しておいた単位が12単位まで認定されます。
- ② 第1研究科において履修・合格した第1研究科設置科目の単位についても、最大10単位まで、第2研究科を修了するための単位として認定をうけることができます。

#### (3) 修了要件

- ① 第2研究科では、上記の単位認定を受けたうえで、その研究科の修了要件にのっとって単位を取得しなければなりません。
- ② 第2研究科に提出する修士論文は、第1研究科へ提出したものと関連はあってもよいですが、別論文でなければなりません。

#### (4) 第2研究科への入学

- ① 第1研究科修了年の年度末（2月ないし3月）に、ジョイントディグリー取得希望者向けの入学試験を受ける必要があります。
- ② ジョイントディグリー取得希望者向けの入学試験は、一般入試とは別で、第1研究科修士論文の提出と面接試験のみによって行われます。
- ③ 第1研究科を修了後、一定の期間を空けた後にこの入試に出願することはできません。

(5) 学 費

この制度にのっとった就学では、第2研究科への入学金は免除（東京工業大学大学院社会理工学研究科は除く）されます。

(6) 文学研究科に関する注意事項

文学研究科美学美術史専攻（アート・マネジメント専攻）および図書館・情報学専攻（情報資源管理分野）は一定の社会人経験者を対象としています。両専攻に関しては、その条件を満たしていない場合には、ジョイントディグリーによる学位取得の対象となりません。

#### 4 副 専 門

修士課程在学中に東京工業大学大学院社会理工学研究科設置科目を8単位以上履修・合格し必要な手続をとった場合には、東京工業大学大学院社会理工学研究科の副専門認定証が授与されます。具体的な要件は以下のとおりとなります。

- (1) 第8 履修要項「2 他大学大学院との相互科目履修」に基づき東京工業大学大学院社会理工学研究科設置科目の履修を行い、8単位以上を取得する。

- (2) 修士課程第2学年の12月25日（金）までに「副専門認定申請書」を学事センター経済学研究科係に提出する。

※第1学年時には早期修了申請者を除き申請はできません。提出時点で履修中の科目を含み8単位以上の科目を同用紙に記載の上申請してください。最終的に8単位以上の取得ができなかった場合もしくは修士課程が修了できなかった場合、この申請は無効となり副専門の認定は得られません。

- (3) 学位授与式当日に、学位記と共に「東京工業大学大学院社会理工学研究科副専門認定証」を授与します。

※ 副専門として修士号を与えるものではありません。

#### 5 修士課程在籍者の学則移行

2005年度以前入学者（97学則ならびに88学則適用者）の適用学則は、2006年度末において第1・2学年にとどまった者について、2007年3月末日をもって2006年度以降入学者適用学則（06学則）に移行しましたので注意してください。

#### 6 指導教授

- (1) 経済学研究科では、学生は特定の指導教授の指導を受けることを基本とし、その指導教授の指示により、複数の教員の指導を受けられるように指導します。

- (2) 修士課程1年生の指導教授は春学期末に指導教授が決定するまでは、学習指導担当教員が担当します。なお、6月5日（金）までに「指導教員登録用紙」を提出してください。これにもとづき春学期末に指導教授を決定します。詳細は別途掲示します。

#### 7 学位請求論文の提出

- (1) 修士学位申請と修士論文の提出

〈学位規程〉

修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。（第3条）

第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（第7条①）

修士学位申請および修士論文提出に関しての手順は次のとおりです。

- ① 「修士論文予定題目並びに要旨」の提出（7月10日（金）締切予定）

修士論文を提出しようとする者は、提出予定年度の所定の期日までに提出してください。所定用紙は学事センター経済学研究科係にて交付します。詳細は掲示します。なお、この届を提出した後に申請を取り下げる場合は、必ず「修士論文提出辞退届」を提出してください。

- ② 修士論文予備審査（論文報告会）（10～11月）

予備審査実施方法は掲示しますが、詳細は指導教授の指示にしたがってください。

なお、予備審査に合格した者は、経済学研究科博士課程入学試験出願資格が与えられます。

③ 「修士学位申請書」および「論文題目届」の提出（12月18日（金）締切予定）

所定用紙は学事センター経済学研究科係にて交付します。所定の期日までに提出してください。

詳細は掲示します。なお、論文題目届を提出した後は、題目（副題も含む）は一切変更できません。

④ 修士論文および要旨の提出（1月中旬予定）

修士論文（3部）および要旨（5部）を所定の期日までに提出してください。詳細は掲示します。

博士課程に進学を希望する者は、あわせて出願手続が必要です。出願手続については2010年度経済学研究科入学試験要項（6月販売開始予定）を参照してください。

⑤ 修士学位審査（3月上旬）

論文審査および面接審査が行われます。論文審査により面接許可者が決定します。面接許可者および修士学位審査合格者はそれぞれ掲示にて発表します。日程等詳細は掲示します。

⑥ 三田メディアセンターからの学位論文（修士論文）利用許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では学位論文を保存し、利用に供しています。メディアセンターが利用者に提供するサービスのうち以下の項目については、事前に著作権者からの許諾を必要としています。学位論文を学事センターに提出する際に、「学位論文利用許諾書」（所定用紙）に必要事項を記入のうえ、一緒に提出してください。なお、学位授与にいたらなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

許諾を必要とする項目：「館外への貸出」、「複写」、「電子媒体の公衆送信」※

（※は将来的に可能性がある利用方法です）

(2) 学位請求論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）に所蔵しますので、下記の体裁に整えてください。なお、資料等の都合で規定の大きさに入らない場合は、以下に従って表紙を付けて製本してください。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

製本について

- ① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則としてA4判縦で製本してください。（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとします。）
- ② 製本の表紙の表示は、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。
- ③ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとします。
- ④ 製本時のレイアウト、表示内容は、裏面の見本を参照してください。
- ⑤ 製本はハードカバーの黒表紙で、白文字、金文字、または銀文字とします。
- ⑥ 製本する業者の指定はありません。

# 博 士 課 程

## 1 開講科目と単位数

2009年度（平成21年度）経済学研究科博士課程に開講される科目と単位数および分野は次のとおりです。

講義は週1回の半期（春学期または秋学期）科目を原則とします。なお、科目により秋学期の履修は春学期の履修を前提にする科目もあります。詳細は講義要綱を参照してください。

### 1. 博士課程設置の科目

#### (1) 特論科目

| 科 目 名               | 単 位 | 科目種類<br>分 野 | 備 考 |
|---------------------|-----|-------------|-----|
| ミ ク ロ 経 済 学 特 論     | 2   | 01-01-01    |     |
| マ ク ロ 経 済 学 特 論     | 2   |             |     |
| 数 理 経 済 学 特 論       | 2   |             |     |
| 計 量 経 済 学 特 論       | 2   |             |     |
| 経 済 学 史 ・ 思 想 史 特 論 | 2   |             |     |
| 経 済 史 特 論           | 2   |             |     |
| 制 度 ・ 政 策 論 特 論     | 2   |             |     |
| 国 際 経 済 論 特 論       | 2   |             |     |
| 社 会 ・ 環 境 論 特 論     | 2   |             |     |

#### (2) 演習科目

| 科 目 名               | 単 位 | 科目種類<br>分 野 | 備 考 |
|---------------------|-----|-------------|-----|
| ミ ク ロ 経 済 学 演 習     | 2   | 01-02-01    |     |
| マ ク ロ 経 済 学 演 習     | 2   |             |     |
| 数 理 経 済 学 演 習       | 2   |             |     |
| 経 済 数 学 演 習         | 2   |             |     |
| 計 量 経 済 学 演 習       | 2   |             |     |
| 経 済 学 史 ・ 思 想 史 演 習 | 2   |             |     |
| 経 済 史 演 習           | 2   |             |     |
| 制 度 ・ 政 策 論 演 習     | 2   |             |     |
| 国 際 経 済 論 演 習       | 2   |             |     |
| 社 会 ・ 環 境 論 演 習     | 2   |             |     |

#### (3) プロジェクト科目

| 科 目 名       | 単 位 | 科目種類<br>分 野 | 備 考     |
|-------------|-----|-------------|---------|
| プ ロ ジ ェ ク ト | 2   | 01-03-01    | 〈本年度休講〉 |

成績評語は「P」（合）または「D」（否）の2種類です。

## 2. 自由科目

「1」以外の科目は自由科目としての履修が認められ、学業成績表にも記載されますが、課程修了に必要な単位には含まれません。

| 種 類                                                       | 科目種類<br>分 野 | B 欄分野<br>番 号 | 申 告 方 法                                 |
|-----------------------------------------------------------|-------------|--------------|-----------------------------------------|
| 経済学研究科博士課程設置以外の科目<br>・経済学研究科修士課程設置科目<br>・学部・他研究科・諸研究所設置科目 | 09-01-01    | 91           | B 欄で B 欄分野番号を指定した上で登録してください。            |
| 東京工業大学大学院<br>社会理工学研究科<br>(修士・博士後期課程)設置科目                  | 09-01-02    | 92           | 大学院交流学生履修許可願(所定用紙)を使用して、所定の手続きをとってください。 |
| 早稲田大学大学院<br>経済学研究科<br>(修士・博士後期課程)設置科目                     | 09-01-03    | 93           | 大学院交流学生履修許可願(所定用紙)を使用して、所定の手続きをとってください。 |

## 2 課程修了にいたるまでの要件

- (1) 3 年間以上経済学研究科後期博士課程に在籍し、合計12単位以上(自由科目除く)を履修・合格すること。
- (2) 学位論文(博士論文)の審査および最終試験に合格すること。

注 上記要件のうち、学位論文の審査および最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で終了する場合「単位取得退学者」として扱われます。(5：単位取得退学および在学期間延長(40 ページ参照))

## 3 指導教授

- (1) 経済学研究科では、学生は特定の指導教授の指導を受けることを基本とし、その指導教授の指示により、複数の教員の指導が受けられます。
- (2) 指導教授は、入学試験実施後に決定します。

## 4 学位請求論文の提出

### 1. 博士学位の申請

博士論文を提出する場合は、学事センターで提出書類、手続方法について確認してください。

[http://www.gakui.keio.ac.jp/mita/keiken/hakase\\_gakui.html](http://www.gakui.keio.ac.jp/mita/keiken/hakase_gakui.html) にも情報があります。

- (1) 課程による博士学位(「課程博士」)

〈学位規程〉

博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。(第4条)

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(第7条②)

### 【2007年度以前に入学した者】

課程による博士学位申請および博士論文提出についての条件は以下のとおりです。

- ① 課程博士(甲号)の学位を取得しうるのは、入学後6年以内に学位請求論文を提出したものとします。ただし、留学期間については、留学期間の2分の1(最大2年間)を猶予期間として認めます。
- ② 後期博士課程正規の在籍期間(入学後3年目の1月末日まで)に「学位論文予定題目および研究計画書」を提出しなければなりません。(提出の際に論文指導担当者2名が決定します。)
- ③ 学位論文提出の条件
  1. 後期博士課程所定の単位を取得済みであること。(大学院学則第35条)
  2. 論文提出までに、査読制度のある刊行物に1点以上の既刊あるいは審査を通過した刊行予定の論文があること。あるいは、それに相当する研究成果発表の機会をもったものであること。

3. 以上を勘案し、論文指導担当者2名が提出を許可したものであること。(論文提出時に、「提出許可書」を添付すること。)

### 【2008年度以降に入学した者】

- ① 課程博士(甲号)の学位を取得しうるのは、入学後6年以内に学位請求論文を提出したものとします。ただし、留学期間については、留学期間の2分の1(最大2年間)を猶予期間として認めます。
- ② 後期博士課程正規の在籍期間に「博士論文予備審査」<sup>(注1)</sup>を受け、合格していなければなりません。ただし、その時点で査読制度のある刊行物に1点以上の既刊あるいは審査を通過した刊行予定の単著論文<sup>(注2)</sup>がある者は、その旨を当該論文を添付して研究科委員長宛に申し出ることによって「博士論文予備審査」を省略して合格者とみなすものとします。(合格後に論文指導担当者2名が決定します。)なお、当該の時期に国外留学中であった者については、研究科委員会の判断によって「博士論文予備審査」を遅れて受験することを許可する場合があるものとします。

③ 学位論文提出の条件

1. 後期博士課程所定の単位を取得済みであること。(大学院学則第35条)
2. 論文提出までに、査読制度のある刊行物に1点以上の既刊あるいは審査を通過した刊行予定の論文があること。あるいは、それに相当する研究成果発表の機会をもったものであること。
3. 以上を勘案し、論文指導担当者2名(後期博士課程入学後3年目以内の場合には、指導教授)が提出を許可したものであること。(論文提出時に、「提出許可書」を添付すること。)

(注1) 予備審査実施方法は掲示しますが、詳細は指導教授の指示にしてください。

(注2) 共著論文の場合には、「博士論文予備審査」の合格者とみなせるかどうかについては研究科委員会で決定します。

博士論文予備審査は、修士論文予備審査と同様の論文報告会の形式とします。主査1名、副査2名(うち、1名は指導教授とする)の審査委員会を構成し、11~12月に実施します(修士論文予備審査は10~11月)。申請書の内容は、既存の「学位論文予定題目および研究計画書」の内容をカバーするものとします。また、査読論文を添付しての申出は、随時受け付けますが、審査のための論文報告会の開催は、後期博士課程入学後2年目または3年目(ただし、休学期間を除く)の11~12月に限ります。

## (2) 論文による博士学位(「論文博士」)

〈学位規程〉

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認(以下「学識の確認」という)された者に与えられる。(第5条)

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。(第8条)

論文による博士学位申請および博士論文提出についての条件は以下のとおりとします。

- ① 審査は、論文審査ならびに面接審査によって行われます。
- ② 経済学研究科の後期博士課程を単位取得退学したもので、博士課程入学後6年以上を経過したものについても、上記と同様の扱いとします。
- ③ 論文の提出については、経済学研究科委員の「推薦理由書」を必要とします。

論文博士を申請する場合の審査料については、学位規程第9条を参照してください。

## 2. 学位請求論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター(図書館)および国立国会図書館に所蔵しますので、下記の体裁に整えてください。なお、資料等の都合で規定の大きさに入らない場合は、以下に従って表紙を付けて製本してください。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

製本について

- ① 本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則としてA4判縦で製本してください。(縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとします。)
- ② 製本の表紙の表示は、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

- ③ 製本の背文字は、本文の縦書き、横書きにかかわらず縦書きとします。
- ④ 製本時のレイアウト、表示内容は、裏面の見本を参照してください。
- ⑤ 製本はハードカバーの黒表紙で、白文字、金文字、または銀文字とします。
- ⑥ 製本する業者の指定はありません。

### 3. 三田メディアセンターからの学位論文（博士論文）利用許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では学位論文を保存し、利用に供しています。メディアセンターが利用者に提供するサービスのうち以下の項目については、事前に著作権者からの許諾を必要としています。学位論文を学事センターに提出する際に、「学位論文利用許諾書」（所定用紙）に必要事項を記入のうえ、一緒に提出してください。なお、学位授与にいたらなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。

許諾を必要とする項目：「論文全体の2分の1以上の分量の複写」、「電子媒体の公衆送信」※

（※は将来的に可能性がある利用方法です）

## 5 単位取得退学および在学期間延長

以下の取扱いについては巻末諸規程抜粋を合わせて参照してください。

### (1) 単位取得退学

博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の教育課程期間（3年）を満たした場合、単位取得退学者として扱われます。**1月29日(金)**までに「単位取得退学届」（所定用紙）を学事センター経済学研究科係に提出してください。詳細は掲示します。

年度の途中で単位取得退学を希望する場合は、その旨申し出てください。

留学した期間は、1年を限度として修了に必要な在学年数に算入することができますので、希望する場合は学事センター経済学研究科係に申し出てください。なお、申し出がない場合は在学年数に算入しません。

課程博士は原則として博士課程在学中に論文を提出し合格した場合ですが、入学後6年以内に提出された博士学位請求論文についてのみ、課程博士（甲）としての申請を認めます。ただし、留学期間については、留学期間の2分の1（最大2年間）を猶予期間として認めます。なお、課程博士として学位申請するためには、博士課程の正規の在籍期間に所定の手続が必要となります。（4 学位請求論文の提出－1. 博士学位の申請参照）

### (2) 在学期間延長許可願

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、1年を単位として在学最長年限を超えない範囲（3回限度）で在学を許可することがあります。ただし、2008年度以降の入学者に関しては、博士論文予備審査に合格していない場合には、在学期間延長が認められません。希望者は**1月29日(金)**までに指導教授の承認を得たうえで「在学期間延長許可願」（所定用紙）を学事センター経済学研究科係に提出してください。詳細は掲示します。

なお、在学期間延長中の休学・留学は、在学期間延長の回数にカウントされますので注意してください。

|      |     |                                             |
|------|-----|---------------------------------------------|
| 関連規程 | 1－1 | 学位規程                                        |
|      | 1－2 | 学位の授与に関する内規                                 |
|      | 4－2 | 大学院在学期間延長者取扱い内規                             |
|      | 4－3 | 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規 |

### (3) 単位取得退学後のメディアセンターの利用

3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けることができる「塾員貸出券」(有料)を発行しています。詳細は三田メディアセンター1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

## 修士課程設置科目講義要綱

おおむね下記のように構成されています。

| 学則に示される科目名（具体的な科目名）*1                                                                                          | 担当者名                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| <div>1. 授業形態*2</div> <div>2. 当科目の目標・意義・方法</div> <div>3. 授業内容</div> <div>4. テキスト</div> <div>5. リーディング・リスト</div> | <div>}</div> <div>*1</div> |

\*1：（ ）内の記載がないもの、および項目の記載のないものはそれぞれ省略されています。

\*2：本書作成後に変更される場合がありますので、時間割および掲示を参照してください。

注：同一名称の科目については、担当者名五十音順で並べられています。

## 基礎科目

### ミクロ経済学

准教授 石橋孝次

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ゲーム理論が経済学に浸透して以来、ミクロ経済理論がカバーする範囲は大きく広がってきた。伝統的には、完全競争市場の一般均衡分析がミクロ経済学の骨格とされてきたが、ゲーム理論によって基盤を与えられた産業組織の理論や情報とインセンティブの理論は、現代ミクロ経済学の新たな骨格を形成している。この科目では、まず全体の理論的な基盤となるゲーム理論を解説した後、産業組織・情報とインセンティブを中心に、市場の失敗やオークションについての講義を行う。まず春学期は、ゲーム理論・部分均衡分析・産業組織の諸問題を主なテーマとする。この講義は経済学部設置「ミクロ経済学中級Ⅱa」に対応する。

授業内容：

I：ゲーム理論

1. 戦略型ゲーム
2. 展開型ゲーム
3. 不完備情報ゲーム

II：部分均衡分析

4. 一般均衡と部分均衡
5. 総余剰と厚生分析

III：産業組織

6. 寡占の静学モデル
7. 寡占の動学モデル
8. 製品差別化
9. 戦略的行動と参入阻止

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業内で行う。

リーディング・リスト：

- ・Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995 (Parts II, III and V)
- ・Jehle and Reny, *Advanced Microeconomic Theory*, Second Edition, Addison-Wesley, 2000
- ・Watson, *Strategy: An Introduction to Game Theory*, Norton, 2002
- ・ギボンズ（福岡・須田訳）『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995 年
- ・塩澤修平・石橋孝次・玉田康成（編著）『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣, 2006 年

### ミクロ経済学

准教授 石橋孝次

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

春学期設置の石橋担当「ミクロ経済学」に引き続き、市場の失敗・契約理論の諸問題・オークションを主なテーマとする。この講義は経済学部設置「ミクロ経済学中級Ⅱb」に対応する。

授業内容：

IV：市場の失敗

10. 外部性
11. 公共財

V：情報とインセンティブ

12. 期待効用理論
13. モラル・ハザード
14. アドバース・セレクション
15. シグナリング
16. スクリーニング

VI：オークションとメカニズム・デザイン

17. 私的価値オークションと収入等価定理
18. メカニズム・デザインと最適オークション

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業内で行う。

リーディング・リスト：

春学期「ミクロ経済学」を参照。

### ミクロ経済学

教授 須田伸一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学の理論構造に関して、理解を深めることが講義の目的である。春学期は消費者行動と生産者行動の理論分析が主要な講義内容となる。

授業内容：

1. 消費者行動の理論
2. 生産者行動の理論
3. 不確実性下の経済行動

テキスト：

特に用いない。

リーディング・リスト：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ,Ⅱ』岩波書店, 1985 年, 88 年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社, 1990 年

---

## ミクロ経済学

---

教 授 グレーヴァ香子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ミクロ経済学の中でも特に市場機構の分析手法を学ぶことが講義の主要な目的である。秋学期は市場均衡の分析が主要な内容となる。春学期の「ミクロ経済学」の履修を前提とする。

授業内容：

1. 完全競争市場
2. 厚生経済学の基本定理
3. 市場の失敗
4. 社会的選択理論

テキスト：

なし

リーディング・リスト：

- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990 年  
他は講義内で指示する。

---

## ミクロ経済学

---

准教授 津 曲 正 俊

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

「ミクロ経済学」のなかでも、特に市場機構の分析手法を学習することが講義の主要目的である。春学期は、消費者行動と生産者行動の理論分析が主要内容となる。

授業内容：

1. 消費者行動の理論
2. 生産者行動の理論
3. 不確実性下の経済行動

授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

テキスト：

特に用いない。

リーディング・リスト：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店、1985 年、88 年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990 年
- ・Hal R・Varian, *Microeconomic Analysis*' (3rd ed.), Norton, 1992

---

## ミクロ経済学

---

准教授 津 曲 正 俊

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

「ミクロ経済学」のなかでも、特に市場機構の分析手法を学習することが講義の主要な目的である。秋学期は、市場均衡の分析が基本的な内容となる。

授業内容：

1. 社会的選択理論
2. 完全競争市場
3. 厚生経済学の基本定理
4. 市場の失敗

授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

テキスト：

特に用いない。

リーディング・リスト：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学 I, II』岩波書店、1985 年、88 年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990 年
- ・Hal R・Varian, *Microeconomic Analysis*' (3rd ed.), Norton, 1992

---

## マクロ経済学

---

講 師 大 津 敬 介

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本講義では、経済成長と景気循環の分析を行う。扱う主なトピックは

マクロ経済データ  
経済成長モデル（マルサスとソロー）  
景気循環モデル（新古典派とケインジアン）  
開放経済モデル

である。本講義の特徴は、経済主体の最適化問題に基づいた分析を行う点である。

授業内容：

- I. マクロ経済データ  
成長と景気循環  
相関

- II. 経済成長モデル  
マルサスモデル  
ソローモデル  
内生的成長モデル

テキスト：

- ・Stephen Williamson, *Macroeconomics*, 3<sup>rd</sup> ed., Addison-Wesley 2008

リーディング・リスト：

特になし

---

## マクロ経済学

---

講 師 大 津 敬 介

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本講義では、経済成長と景気循環の分析を行う。扱う

主なトピックは

マクロ経済データ

経済成長モデル（マルサスとソロー）

景気循環モデル（新古典派とケインジアン）

開放経済モデル

である。本講義の特徴は、経済主体の最適化問題に基づいた分析を行う点である。

#### 授業内容：

##### III. 景気循環モデル

新古典派モデル（実物景気循環モデル）

ケインジアンモデル（粘着賃金，粘着価格）

##### IV. 開放経済モデル

経常収支と景気循環

貨幣と開放経済

#### テキスト：

- ・Stephen Williamson, *Macroeconomics*, 3<sup>rd</sup> ed., Addison-Wesley 2008

#### リーディング・リスト：

特になし

### 計量経済学中級

教授 河井 啓 希

准教授 宮内 環

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

計量経済学の基礎的な理論を講義する。この授業ではテキストで紹介されている様々な分析方法の手順を単に学ぶのではなく、(1) その理論的な背景や根拠について統計学的な知識を補足しながら納得できるようにする、(2) 経済分析にどのように応用することができるのかを知る、(3) PC を使った実習を通じて自分で分析ができるようにする。予備知識としては統計学、微分積分、行列の知識、さらには「計量経済学概論」または「計量経済学Ⅰ」の内容を前提とする。計量ソフトについては知識がなくとも、この時間で習得できるよう工夫する。

#### 授業内容：

1. Introduction：経済分析における統計的方法（1 回）
2. 古典的回帰モデル：実験室の仮定（5 回）  
最小 2 乗法とその統計的性質、最尤法とその統計的性質、仮説検定、モデルの評価
3. 一般化最小 2 乗法（5 回）  
分散不均一性の問題、自己相関の問題
4. 操作変数法（2 回）

#### テキスト：

最初の授業のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

- ・荻谷千鳳彦『計量経済学大全』東洋経済新報社，2006 年
- ・William H. Greene, *Econometric Analysis* 6th ed./ISE, Pearson

Ed, 2008

- ・Jeffrey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data* 2<sup>nd</sup> ed, MIT press, 2008
- ・Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP, 2000

### 計量経済学中級

教授 河井 啓 希

准教授 宮内 環

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

ミクロデータの計量経済学的分析に不可欠な離散的従属変数（discrete dependent variable）、制限された従属変数（limited dependent variable）の問題について講義と演習を行う。ミクロデータの整備によって、消費者や企業の行動に関して集計の度合いの低い観測が行われるようになり、合計や平均値などのように集計された変数についての分析方法とは異なる方法が要求されるようになってきている。問題の所在を 2 つの例によって示そう。第一の例として「就業率」と就業という状態について。「就業率」という変数は就労可能な労働力人口に属する多くの主体について観察し、そのうち就業している主体の割合を示したもので、「就業確率」の点推定値と考えられる。これに対しミクロデータでは、個々の主体が就業の状態にある（ $y=1$ ）のか無業の状態にある（ $y=0$ ）のかが観察されている。この場合、「就業率（確率）」という変数は就業状態にあるか否かを示す離散変数  $y$  とどのような関係にあり、 $y$  の値の発生をどのように叙述するのが適切なのだろうか。第二の例として賃金と限界生産力について。賃金によってある主体の限界生産力が測定できるとすれば、賃金の観察値が得られるのは、主体が就業している場合に限られる。他方、就業していない主体の限界生産力はゼロとは限らない。すなわちその就業していない主体がもし働いたら得られるであろう賃金はゼロであるとは限らない。仮にある水準以上の限界生産力を持つ主体のみが就業するとすれば、就業している主体の賃金のみによって得られる賃金の観測値の平均値は、潜在的なものも含めた限界生産力の平均値とは系統的に乖離することになってしまうであろう。以上に述べた問題については、観測資料の発生の仕組みを叙述する確率モデルと観測値との関係を詳細に吟味することが必要であり、これらの間の関係を中心にして講義と演習を進める。演習はパーソナルコンピュータを用いながら行う。用いるソフトウェアについては、講義や演習の中で述べるので、この点の予備知識は履修の前提としない。

#### 授業内容：

授業の進め方はおおよそ次のとおり。

1. 離散的確率変数の分布、回帰分析、最尤法の復習

2. 見えない変数と離散的従属変数のモデル：経済学における展開を主として
3. 二値選択モデル：Probit model, Logit model
4. 二値選択モデルの演習
5. 制限のある従属変数：truncated data, censored data, モーメント
6. Tobit model, Sample Selection model：主体均衡論からの考察
7. Tobit model, Sample Selection model の演習

#### テキスト：

- ・William H. Greene, *Econometric Analysis 6th ed./PIE*, Pearson Prentice Hall, 2008

#### リーディング・リスト：

- ・蓑谷千鳳彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社, 1996年
- ・Jeffrey M. Wooldridge, *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT press, 2001
- ・Paul A. Ruud, *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP, 2000

### 数理統計学

准教授 中 妻 照 雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

春学期の講義では確率論の基礎を学ぶ。確率論は数理統計学に理論的基礎を与えるのみならず、理論経済学においてもモデル構築のツールとして重要な役割を果たしている。特に本講義では、(1) 学部で習った確率に関する様々な諸概念(確率、確率変数、期待値など)を測度論の観点から見直し、(2) 統計学における大標本理論の基礎をなす大数の法則と中心極限定理を理解することを目指す。成績は出席、宿題および学期末の筆記試験によって決定される。

#### 授業内容：

1. 確率測度
2. 確率変数
3. 確率分布と分布関数
4. 量関数と密度関数
5. 期待値
6. 積率母関数と特性関数
7. 多変量確率分布
8. 条件付期待値
9. 様々な収束概念
10. 大数の法則
11. 中心極限定理
12. まとめ

#### テキスト：

- ・吉田朋広『数理統計学』朝倉書店, 2006 年

#### リーディング・リスト：

- ・Billingsley, P., *Probability and Measure*, 3rd ed., Wiley, 1995 (測度論に基づく確率論の代表的な教科書。)
- ・Chung, K.L. *A Course in Probability Theory*, 2000 (よくまとめられた確率論の古典的教科書。)
- ・Davidson, J., *Stochastic Limit Theory*, Oxford University Press, 1994 (計量経済学者向けの漸近理論の教科書。確率過程に関する記述が充実している。)
- ・Feller, W., *An Introduction to Probability Theory and Its Applications*, vol. 1 (3rd ed.) and vol. 2 (2nd ed.), Wiley, 1968 and 1971 (かなり包括的な確率論の教科書。基本的に辞書代わり。)

### 数理統計学

准教授 中 妻 照 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

秋学期の講義では、春学期の授業内容を踏まえて統計分析の理論を学ぶ。特に、(1) 統計的決定理論の枠組みでの推定法と(2) ネイマン-ピアソン流の仮説検定を中心に学習する。成績は出席、宿題および学期末の筆記試験によって決定される。

#### 授業内容：

1. 意思決定としての統計的推論
2. 損失関数, リスク関数, 許容性
3. ミニマックス原理とベイズ原理
4. 十分統計量
5. 極値推定量の漸近的性質
6. 最尤推定量の漸近的性質
7. 最尤推定量の漸近効率性
8. 仮説検定の基本
9. ネイマン-ピアソンの補題
10. 一様最強力検定
11. 最尤推定量に基づく尤度比検定, ワルド検定, ラグランジュ乗数検定
12. ベイズ推論
13. まとめ

#### テキスト：

- ・吉田朋広『数理統計学』朝倉書店, 2006 年

#### リーディング・リスト：

- ・Amemiya, T., *Advanced Econometrics*, Harvard University Press, 1985 (計量経済学の理論に関する古典的教科書。)
- ・Berger, J. O., *Statistical Decision Theory and Bayesian Analysis*, Springer, 1985 (ベイズ統計学と意思決定理論に関する古典的教科書。)
- ・Lehmann, E. L., and J. P. Romano, *Testing Statistical*

*Hypotheses, 3rd ed.*, Springer, 2005

(検定論の古典的教科書。)

・ Lehmann, E. L., and G. Casella, *Theory of Point Estimation, 2nd ed.*, Springer, 1998

(推定論の古典的教科書。)

・ Mood, A. M., F. A. Graybill, D. C. Boes, *Introduction to the Theory of Statistics, 3rd ed.*, McGraw-Hill, 1974

(一世代前の統計学の教科書だが、よくまとまっている。)

---

## 欧米経済史・日本経済史

---

教 授 杉 山 伸 也

授業形態：春学期 2 単位×2・講義

目標・意義・方法：

本講義では、17 世紀の徳川幕府成立前後の時期から 1970 年代まで約 400 年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。特に日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、自学自習を基本とする e-learning による授業であり、原則として教室での授業は行わない。履修者は、Web 上で配信される講義を、一定の期間内に曜日あるいは時間帯を問わずに自分のスケジュールにあわせて履修し、計 3 回の試験をすべて受験する必要がある。

この授業の基本的な考え方、Web 講義へのアクセスおよび履修方法などについては、4 月 14 日（火）1 限に説明会を開催するので、履修希望者は説明会にかならず出席し、別途登録申請をする必要がある。講義に関して詳しくは、<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/> の「日本経済史」を参照。

授業内容：

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、ホームページあるいは教育支援システム内で公開する。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18 世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19 世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870 年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880 年代の政治と経済：「松方財政」から「企業勃興」

期へ

- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920 年代の日本経済
- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と 1930 年代の日本経済
- (20) 1930 年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
- (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

リーディング・リスト：

- ・ 中村隆英『日本経済』（第 3 版）東京大学出版会
- ・ 新保博『近代日本経済史』創文社
- ・ 梅村又次他編『日本経済史』全 8 巻 岩波書店
- ・ 三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』東京大学出版会

---

## 欧米経済史・日本経済史

---

教 授 長谷川 淳 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

当初の 13 回で、産業革命期から第二次世界大戦までの、イギリスを中心とした都市史について検討する。

授業内容：

当初の 13 回の講義では、以下のようなトピックを取り上げる。

- 1 産業革命と都市化
- 2 都市史研究の概観
- 3 戦後復興と福祉国家
- 4 戦災復興研究の意義と課題
- 5 ランズベリーの戦災復興
- 6 コヴェントリーの戦災復興
- 7 ポーツマスの戦災復興

テキスト：

- ・ ティラッソー・松村高夫・メイソン・長谷川淳一『戦災復興の日英比較』知泉書館、2006 年

リーディング・リスト：

適宜、紹介する。

---

## 欧米経済史・日本経済史

---

教 授 長谷川 淳 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

後半の 13 回で、第二次世界大戦後のイギリスの都市史

や日本の戦災復興について検討する。

#### 授業内容：

後半の13回の講義では、以下のようなトピックを取り上げる。

- 8 コンセンサス・ポリティックスについて
- 9 豊かな時代の改革
- 10 寛容社会論
- 11 近年の都市再開発
- 12 東京・大阪の戦災復興
- 13 地方都市の戦災復興
- 14 都市計画法の制定

#### テキスト：

・ティラッソー・松村高夫・メイソン・長谷川淳一『戦災復興の日英比較』知泉書館，2006年

#### リーディング・リスト：

適宜，紹介する。

### 経済学説・経済思想

教授 池田幸弘

授業形態：春学期2単位・講義

#### 目標・意義・方法：

経済学史・経済思想史についての講義。とくに履修者の専門を限定せず，歴史的分野の研究者にも理論的分野の研究者にも興味を持てるような形で授業を運営していきたい。ただし，実際の講義スタイルは履修者の専門を多少加味して行うことになる。講義がなんらかの形で，履修者の専門領域での研究に寄与するよう念じている。

#### 授業内容：

オーストリア学派とくにカール・メンガーを中心とした講義。ほぼ，つぎのような形で行われる。

1. 経済思想史研究とはなにか
2. メンガーの『国民経済学原理』と限界革命
3. メンガーの『方法論』とドイツ歴史学派
4. メンガーに先立つドイツ経済学，チューネン
5. メンガーに先立つドイツ経済学，ゴッセン
6. メンガーに先立つドイツ経済学，マンゴルツ
7. メンガーの経済政策論，ルドルフ講義を中心に
8. メンガーの貨幣理論
9. メンガーと後年のオーストリア学派
10. ハイエクの自生的秩序論
11. フリーバンキングとは何か
12. 総括

#### テキスト：

テキストは使用しない。

#### リーディング・リスト：

授業時に指示するが，以下の二点は参照する機会が多い。

・尾近裕幸・橋本努編『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社，2003年

・田村信一・原田哲史編『ドイツ経済思想史』八千代出版，2007年

## 専攻科目

### ミクロ経済学上級

教授 須田伸一

准教授 穂刈 享

授業形態：春学期2単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

経済学部設置の「ミクロ経済学中級Ⅰ」および「ミクロ経済学中級Ⅱ」を履修した者を対象として，個別経済主体行動の基本的性質について講義する。

#### 授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動

#### テキスト：

・Mas-Colell, Whinston, and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

#### リーディング・リスト：

授業時に指示する。

### ミクロ経済学上級

准教授 玉田 康成

准教授 津 曲 正 俊

授業形態：秋学期2単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

春学期に開講される「ミクロ経済学上級」に引き続き，ミクロ経済学の理論について講義する。

#### 授業内容：

1. 厚生経済学の基本定理
2. 競争均衡とコア
3. 競争均衡の存在
4. 不確実性下の競争均衡
5. 社会的選択理論
6. メカニズムデザインの理論

#### テキスト：

・Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

### マクロ経済学上級

准教授 伊 藤 幹 夫

授業形態：秋学期2単位・講義

#### 目標・意義・方法：

この四半世紀に展開されたマクロ経済理論のうち，特に

重要で影響力が強かったものをいくつかを取り上げ、その理論が考えられた契機、理論の枠組み、使用される数理、実証的意義、実証結果、批判的評価、他の理論との関連を丁寧に解説する。基本的には講義主体で行う。

#### 授業内容：

- I. 動学理論の数理的基礎
  - (a) 最適制御理論の数理的基礎
  - (b) 確率過程の基礎
  - (c) 条件付期待値と合理的期待の数理的基礎
- II. マクロ経済理論の実証的枠組み
  - (a) 伝統的モデル（回帰分析他）
  - (b) 時系列モデル（GMM 他）
- III. マクロ経済理論
  - (a) 実景気循環理論
  - (b) DSGE モデル

#### テキスト：

特に指定しない。授業時に論文他文献を指定。

#### リーディング・リスト：

特に指定しない。

---

#### マクロ経済学上級

講 師 金 子 昭 彦

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

この講義では動学的最適化理論に基づいた個人の貯蓄・消費および資産選択、企業の生産投資行動についてふれる。さらに動学的最適化モデルの応用として内生成長理論・リアルビジネスサイクル理論、関連事項として金融政策と財政政策を取り上げる。

履修の条件：学部レベルのマクロ経済学、上級ミクロ経済学および微分方程式についての基礎的な知識を習得していること。

#### 授業内容：

講義計画

- ・ David Romer (2006) *Advanced Macroeconomics* (3<sup>rd</sup> edition) をテキストとして使用する。
- 1. ソロー成長モデル  
chapter 1
- 2. 無限期間モデルと世代重複モデル  
chapter 2
- 3. 新しい成長理論  
chapter 3
- 4. リアル・ビジネス・サイクル理論  
chapter 4
- 5. 消費  
chapter 7
- 6. 投資

chapter 8

7. インフレーションと金融政策

chapter10

8. 政府赤字と財政政策

chapter11

#### 【オフィスアワー】

メールで予約してください。

---

#### マクロ経済学上級

教 授 前 多 康 男

講 師 杉 本 佳 亮

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

マクロ経済の諸問題を扱う基本的なモデルとしてはいくつかの型がある。時間の取り扱い方で離散型と連続型に分かれ、対象とする期間の長さによって、有限期のモデルと無限期のモデル、また基本的な枠組みで世代重複モデル、無限期まで生きる経済主体のモデル等に分かれる。このマクロ経済学上級では、特に、モデルの基本的な構造に焦点を置く。講義の目的は、無限期まで生きる経済主体のモデル、および世代重複モデルの基本的な枠組みを理解し、実際のモデル構築に自在に理論を使用できるようにすることにある。また、そのための数学ツールをマスターすることも本講義の目的とするが、主にモデルの使い方が講義の主な内容であり、高度に数学的な講義にはならない。したがって、履修者の数学的なバックグラウンドとしては、基本的な微分・積分に関する知識を想定している。受講者には、積極的に学習する態度が望まれる。

#### 授業内容：

内容として以下を含む。(1) 経済環境の描写, (2) 競争均衡, (3) 政府の導入, (4) 新古典派成長モデル, (5) 貨幣モデル。

#### テキスト：

前半のテキストは授業の最初の時間に提示する。後半では、マッキヤンドレス・ウォレス著、川又・國府田・酒井・前多訳、「動学マクロ経済学」創文社、1994 年、(原書: *Introduction to Dynamic Macroeconomics*, Harvard) (注: 2 刷で 1 刷のタイプミスが訂正されている) を使用する。

#### リーディング・リスト：

- ・ Azariadis, C., *Intertemporal Macroeconomics*, Blackwell, 1993
- ・ Sargent, T.J., *Dynamic Macroeconomic Theory*, Harvard, 1987
- ・ Roger E.A. Farmer, *Macroeconomics of Self-fulfilling Prophecies* (Second Edition), MIT Press, 1999
- ・ Stokey, N.L. and R.E. Lucas, *Recursive Methods in Economic Dynamics*, Harvard, 1989

| 数理経済学（Ⅰ－A）                           |  |
|--------------------------------------|--|
| 教 授 丸 山 徹                            |  |
| 授業形態：春学期 2 単位・講義                     |  |
| 授業内容：                                |  |
| 一般均衡理論の数理的構造を研究するために必要な数学からの準備を行なう。  |  |
| 1. Euclid 空間の位相                      |  |
| 2. 凸集合                               |  |
| 3. 多価函数の連続性                          |  |
| 4. 不動点定理                             |  |
| その他                                  |  |
| 教科書：                                 |  |
| ・丸山 徹『経済数学』知泉書館，平成 14 年              |  |
| 参考書：                                 |  |
| ・G. ドブリュー（丸山訳）『価値の理論』東洋経済新報社，昭和 52 年 |  |
| ・丸山 徹『数理経済学の方法』創文社，平成 7 年            |  |

| 数理経済学（Ⅰ－B）              |  |
|-------------------------|--|
| 教 授 須 田 伸 一             |  |
| 授業形態：秋学期 2 単位・講義        |  |
| 目標・意義・方法：               |  |
| 一般均衡理論とその数理的構造について講義する。 |  |
| 授業内容：                   |  |
| 一般均衡理論                  |  |
| 1. 主体的均衡の理論             |  |
| 2. 競争均衡の存在              |  |
| 3. 厚生経済学の基本定理           |  |
| 4. 正則経済の理論              |  |
| テキスト：                   |  |
| 特に指定しない。                |  |
| リーディング・リスト：             |  |
| 授業時に指示する。               |  |

| 数理経済学（Ⅱ）                           |  |
|------------------------------------|--|
| 講 師 高 橋 明 彦                        |  |
| 授業形態：秋学期 2 単位・講義                   |  |
| 目標・意義・方法：                          |  |
| 数理ファイナンスの基礎事項を習得すること。              |  |
| 授業内容：                              |  |
| 条件付請求権や最適ポートフォリオに関する理論的・数値的話題を講義する |  |
| テキスト：                              |  |
| 特になし。                              |  |
| リーディング・リスト：                        |  |
| 授業中に指示する。                          |  |

| 経済数学（Ⅰ－A）                        |  |
|----------------------------------|--|
| 教 授 丸 山 徹                        |  |
| 授業形態：春学期 2 単位・講義                 |  |
| 目標・意義・方法：                        |  |
| 動学的最適化の理論，とくに古典的変分学とその応用について述べる。 |  |
| 参考書：                             |  |
| ・丸山 徹『数理経済学の方法』創文社，1995 年        |  |

| 経済数学（Ⅰ－B）                |  |
|--------------------------|--|
| 教 授 丸 山 徹                |  |
| 特別招聘教授 イオッフエ，アレクサンダー     |  |
| 特別招聘教授 ロッカフェラー，ティレル R.   |  |
| 授業形態：秋学期 2 単位・合同講義       |  |
| 授業内容：                    |  |
| 経済数学（Ⅰ－A）の続論および凸解析・変分解析。 |  |

| 経済数学（Ⅱ－A）                                                                                                                                                     |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 教 授 戸 瀬 信 之                                                                                                                                                   |  |
| 授業形態：春学期 2 単位・講義                                                                                                                                              |  |
| 目標・意義・方法：                                                                                                                                                     |  |
| 数理的な学問を学ぶときは，上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部生の前期課程で学んだ数学の内容，特に解析的な内容は，かなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば，数列の収束あるいは函数の連続性について，学んだ内容と表現方法を思い浮かべれば，その意味することが分かるであろう。 |  |
| この科目およびその続論「経済数学(Ⅱ-B)」の目的は，さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。                                                                                  |  |

|                                                                                                                                                                                             |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 授業内容：                                                                                                                                                                                       |  |
| 講義内容は大きく分けて，(1) 連続性を記述するための位相的な内容，(2) 微分積分を縦横に展開するための極限定理，(3) 様々な制約条件を記述する機構，すなわち陰函数定理および Lagrange の未定乗数法の周辺，(4) 積分論の深い展開となる。前期のこの科目では，上記の内容のうち基礎的な部分に重点を置く予定である。(後期には，その応用として最適値問題に重点を置く。) |  |
| ○講義の計画（前期の範囲）                                                                                                                                                                               |  |
| ・数列とベクトル列の収束，ユークリッド空間の位相，連続関数                                                                                                                                                               |  |
| ・Riemann 積分（1 変数，2 変数）                                                                                                                                                                      |  |
| ・陰関数定理，逆関数定理                                                                                                                                                                                |  |

|                                   |  |
|-----------------------------------|--|
| テキスト：                             |  |
| ・伊藤幹夫・戸瀬信之『経済とファイナンスのための基礎数学』共立出版 |  |
| リーディング・リスト：                       |  |

- ・戸瀬信之『経済数学』新世社
- ・この他に多数紹介する予定である。
- ・インターネット上に 2007 年度の講義内容を公開中である  
(URL : <http://www.math.hc.keio.ac.jp/index.php?anal2007>)。

## 経済数学 (Ⅱ-B)

教授 戸 瀬 信 之

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この科目およびその先行科目「経済数学(Ⅱ-A)」の目的は、さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。

授業内容：

講義内容は大きく分けて、(1)連続性を記述するための位相的な内容、(2)微分積分を縦横に展開するための極限定理、(3)様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理および Lagrange の未定乗数法の周辺、(4)積分論の深い展開となる。後期のこの科目では、この範囲の応用的な内容として「最適値問題」について解説し、時間が許せば不動点定理についても学ぶ。

○講義の計画 (後期の範囲)

- ・Lagrange の未定乗数法
- ・凸解析入門
- ・(時間がゆるせば) 不動点定理入門

テキスト：

春学期参照

リーディング・リスト：

春学期参照

## 経済数学 (Ⅲ-A)

准教授 新 井 拓 児

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

位相空間論の基礎を、代表的な位相空間である距離空間を題材に講義する。

開集合、関数の連続性、コンパクト、完備性などの言葉の意味を理解し、同時に数学の抽象的な議論にも慣れてもらいたい。

最後に、無限次元空間の代表例である  $L^2$  空間などにも触れたい。

経済数学Ⅲ-B とあわせて履修することが望ましい。

授業内容：

1. 集合論の復習 (3 回)
2. 数直線と平面 (3 回)
3. 連続関数
4. 距離空間とノルム空間
5. コンパクト性 (2 回)
6. 完備距離空間 (2 回)

## 7. 関数解析の基礎

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

## 経済数学 (Ⅲ-B)

商学部 教授 小 宮 英 敏

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

測度論に関する講義を行う。面積や長さといった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

集合論、集合位相、微分積分学の基礎知識を前提とする。経済数学Ⅲ-A と併せて履修することが望ましい。

授業内容：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して 2 コマ程度の時間を割り当てる。

- ・長さ・面積・体積
- ・測度の構成
- ・リーマン積分からルベーグ積分へ
- ・ルベーグ積分の定義と諸性質
- ・収束定理と積分記号の交換

もし時間があれば、ヒルベルト空間やフーリエ解析といった関数解析の話題についても触れたい。

テキスト：

なし。

リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

## 経済数学 (Ⅳ-A)

講師 稲 葉 寿

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

時間的に変化する自然現象や社会現象を数学的に分析するためのモデルは微分方程式を用いて定式化されることが多く、微分方程式は数理科学としての経済学を学ぶ上でも重要なツールである。本講義では、基礎的な微分積分の知識をもとにして、演習も交えて常微分方程式の基礎的な解法を学ぶ。

授業内容：

- (1) 1 階微分方程式の理論と演習
- (2) 2 階線形微分方程式の理論と演習
- (3) 上記の微分方程式を用いた数理モデルの紹介

リーディング・リスト：

- ・M・ブラウン『微分方程式』(上)(下), シュプリンガー東京, 2001 年
- ・佐藤總夫『自然の数理と社会の数理：微分方程式で解析する』Ⅰ, Ⅱ, 日本評論社

- ・柳田英二・栄伸一郎『常微分方程式論』朝倉書店, 2002 年
- ・稲葉三男『常微分方程式』共立出版, 1973 年
- ・D. バージェス / M. ボリー『微分方程式で数学モデルを作ろう』日本評論社, 1990 年

#### 経済数学 (IV-B)

講 師 稲 葉 寿

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

微分方程式論 A に続いて、線形常微分方程式の一般論と非線形微分方程式の基礎的な定性的理論を学ぶ。

授業内容：

- (4) 連立微分方程式
- (5) 微分方程式の定性的理論
- (6) 上記の微分方程式を用いた数理モデルの紹介

リーディング・リスト：

- ・M・ブラウン『微分方程式』(上) (下), シュプリンガー東京, 2001 年
- ・佐藤總夫『自然の数理と社会の数理：微分方程式で解析する』I, II, 日本評論社
- ・柳田英二・栄伸一郎『常微分方程式論』朝倉書店, 2002 年
- ・稲葉三男『常微分方程式』共立出版, 1973 年
- ・D. バージェス / M. ボリー『微分方程式で数学モデルを作ろう』日本評論社, 1990 年

#### 経済数学 (V-A)

講 師 黒 田 耕 嗣

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

確率分布、期待値、分散の計算法等の確率論の基礎から始める。Random walk, Poisson process 等の確率過程の性質を概観し、離散確率空間における information structure, conditional expectation, martingale について解説する。またこれらの生保数理、損保数理、ファイナンスへの応用について述べる。

授業内容：

- ① 離散確率分布 (二項分布, Poisson 分布, 幾何分布) について moment generating function, 期待値, 分散の計算法。
- ② 連続型確率分布 (正規分布, 指数分布, t-分布,  $\chi^2$ -分布, F-分布) について moment generating function, 期待値, 分散の計算法。
- ③ Random walk とその応用
- ④ Compound Poisson process と損保数理への応用
- ⑤ 生保数理概説
- ⑥ 多期間市場モデル
- ⑦ 平衡価格速度と裁定戦略について
- ⑧ Black Sholes 公式について

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

- ・Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford University Press

#### 経済数学 (V-B)

講 師 黒 田 耕 嗣

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

測度論的確率論の知識を下に、確率過程、特に Brown 運動の基本的性質を理解し、ファイナンスへの応用について考える。

授業内容：

- ① Riemann 積分より Lebesgue 積分へ
- ② Lebesgue 積分と Lebesgue の収束定理について
- ③ 測度論的確率論の概要 (確立空間, 確立測度, 確率変数列の収束, 大数の法則, 中心極限定理)
- ④ Random walk から Brown 運動へ
- ⑤ Brown 運動の基本的性質 (path の性質, scale property)
- ⑥ Brown 運動の Markov 性, 強 Markov 性
- ⑦ Martingale とは
- ⑧ 確率積分と Ito の公式について
- ⑨ ファイナンスへの応用 (数理ファイナンスへの序論)

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

- ・Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford University Press

#### 経済数学 (VI-A)

教 授 桂 田 昌 紀

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

学部 1 年生で履修した「線形代数」の内容 (ベクトル・行列の初歩的取り扱い) を予備知識として、この講義では、線形代数の理論的側面について解説することが主な課題で、以下の i) ~ iii) の流れに沿って授業を展開する：i) ベクトル空間とそれに付随する基礎的概念を導入しこれらの相互関係について理解する；ii) Jordan 標準形の理論を理解しその実際の計算が出来るようになる；iii) 産業連関分析など経済学への重要な応用を持つ Perron-Frobenius 理論を学ぶ。なお、日吉での「経済数学 I」の履修は必ずしも前提としないが、内容のより深い理解のためには極めて有益である。

春学期は、まず抽象ベクトル空間を導入し、部分空間、1 次独立・1 次従属、基底、線形写像などの基礎概念について解説した上で、Jordan 標準形への準備として、これまでまだあまり学ぶ機会の無かった多項式の性質につ

いて、必要となる事項に焦点を絞って述べる。さらに、その応用として、(定数係数)線形微分方程式・線形差分方程式についても解説する。Perron-Frobenius の定理を定式化し証明することまでを目標としたい。

#### 教科書：

初回の授業時に指示する。

#### 参考書：

- ・津野 義道『経済数学Ⅱ 線形代数と産業連関論』培風館
- ・二階堂 副包『経済のための線型数学』培風館

#### 授業の計画：

##### I. ベクトル空間と線形写像：

- i) ベクトル空間; ii) 部分空間; iii) 1 次結合; iv) 1 次従属・1 次独立; v) 基底; vi) 写像; vii) 線形写像; viii) 同型写像

##### II. 多項式の性質と応用：

- i) 多項式; ii) 直和分解; iii) 微分方程式の解空間; iv) 線形回帰数列

#### 履修者へのコメント：

一般論として、数学の理論を「理解」するためには：

- i) 理論の展開を論理的に step-by-step に follow して理解する
- ii) 理論を用いて実際に実例を計算する、という二つのプロセスが本質的である。この講義では、受講者がこの二点についてのトレーニングも行えるよう出来るだけ配慮したい。

#### 成績評価方法：

講義時間中に行う小テストと数回のレポートによって到達度・達成度を評価する。

#### 質問・相談：

日吉キャンパス来往舎 706 号室の桂田まで。

### 経済数学 (VI-B)

教 授 桂 田 昌 紀

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 授業内容：

春学期開講の「経済数学」の内容に立脚・接続する形で秋学期の授業を展開する。より詳しくは、線形写像の表現行列を導入したうえで、固有値問題に関連して、固有値、固有ベクトル、行列の対角化について解説し、さらにこれらの議論をより深める形で、Jordan の標準形を導入し、その実際計算について学ぶ。以上の基礎理論を背景として、分解不能行列を導入し、Perron-Frobenius の定理を定式化し証明することまでを目標としたい。

#### 教科書：

初回の授業時に指示する。

#### 参考書：

- ・津野 義道『経済数学Ⅱ 線形代数と産業連関論』培風館
- ・二階堂 副包『経済のための線型数学』培風館

#### 授業の計画：

#### III. 線形写像と行列 (秋学期)：

- i) 表現行列; ii) 固有値と固有ベクトル; iii) 行列の対角化; iv) 連立線形差分方程式; v) 連立線形微分方程式; vi) Hamilton-Cayley の定理

#### IV. Jordan 標準形：

- i) Jordan 細胞; ii) Jordan 標準形の求め方; iii) 行列の冪; iv) 連立線形差分方程式(再); v) 連立線形微分方程式(再)

#### V. Perron-Frobenius の定理：

- i) 非負固有値問題; ii) 分解不能行列; iii) Perron-Frobenius の定理

#### 履修者へのコメント：

春学期に同じ。

#### 成績評価方法：

春学期に同じ。

#### 質問・相談：

春学期に同じ。

### ゲームの理論

教 授 グレーヴァ 香子

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 授業内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論の基礎と応用を講義する。必要な数学は適宜補足説明するが、経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、C と D の境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にする。

#### テキスト：

特になし。

#### 参考書：

- ・小澤, 中村, グレーヴァ編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社, 2004 年 第 5 章
- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』頸草書房, 2005 年
- ・ギボンズ (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995 年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣, 1996 年

#### 授業の計画：

1. ゲームとは
2. 戦略形ゲームとその解
3. 展開形ゲームとその解
4. ルービンシュタイン型交渉ゲーム
5. 繰り返しゲーム
6. ベイジアンゲーム
7. シグナリングゲーム

#### 成績評価方法：

試験の結果による評価

#### 質問・相談：

授業の前後、あるいは学期の最初に指定するオフィスアワーに直接研究室に来るか、電子メールによる。

電子メールの場合、件名に受講者であることを明記すること。添付書類は不可。

## ゲームの理論

教授 中山 幹 夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論について、特に協力ゲームの応用を中心とした講義を行う。用いる数学は難しくはないが、ロジカルに考えることが必要である。経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、C と D の境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特になし。適宜、資料配布。<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/nakayama/gakubu.html> からダウンロードのこと。

参考書：

- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』頸草書房、2005 年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996 年
- ・小澤、中村、グレーヴァ編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2004 年 第 5 章
- ・ギボンズ(須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995 年

授業の計画：

1. 協力ゲームとは。提携値と配分。例：公共財の供給、湖の汚染、滑走路の費用、談合。
2. 協力ゲームの解：仁、コア、安定集合、シャープレイ値
3. 応用コア分析Ⅰ：ゴミ戦争、補償、排出量取引
4. コア存在と平衡ゲーム、市場ゲーム
5. 応用コア分析Ⅱ：公共財、共有地の悲劇、TU アルファコア
6. 応用コア分析Ⅲ：社会選択ゲーム、多数決ゲーム、賄賂と拒否権者
7. 破産問題と仁、情報の拡散防止取引

## ゲームの理論上級

教授 グレーヴァ 香子

教授 中山 幹 夫

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

この授業では講義と演習を通じて、経済分析に使われる中級ゲーム理論を学ぶ。学部レベルの初級ゲーム理論の知識を前提とする。成績は演習と学期末のレポートによって決まる。

授業内容：

1. 非協力ゲーム

- (a) 復習：ナッシュ均衡、部分ゲーム完全均衡、フォーク定理、契約
- (b) ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡
- (c) Trembling-hand perfect equilibrium, 完全ベイジアン均衡、逐次均衡とその応用
- (d) 進化ゲーム

2. 協力ゲーム

- (a) TU ゲーム：特性関数、優加法性、凸性、配分、支配、安定集合、コア
- (b) 3 人ゲーム、対称ゲームのコア、LP 双対定理と平衡ゲーム
- (c) 市場ゲーム、割り当てゲーム、グローブゲーム、単純ゲーム
- (d) 交渉集合、カーネル、仁、シャープレイ値とポテンシャル

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

1. Fudenberg and Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
2. Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994
3. 中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005 年
4. 岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996 年

## 契約理論

准教授 玉 田 康 成

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

現実の経済では情報の非対称性由来するインセンティブの問題が数多く見られる。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードやアドバースセクションなどの問題が発生し、個別企業に代表される経済の効率性を損うことになる。また、市場経済そのものの信頼を損う要因にもなり得る。本講義では、経済主体に対して適切なインセンティブを与えるための契約や組織、制度について、インセンティブ設計という観点から理論的に講義する。さらに、議論に必要なゲーム理論や期待効用理論などの分析道具についても説明を加える。

授業内容：

1. インセンティブ問題と契約理論
2. 期待効用理論
3. モラルハザード：基本理論
4. モラルハザード：複数エージェントやチーム問題への展開
5. モラルハザード：企業内のインセンティブシステムや金融契約への応用

## 6. アドバースセクションとシグナリング

### テキスト：

なし。

### リーディング・リスト：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論－交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣
- ・ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版
- ・神戸伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤秀史、小佐野広編『インセンティブ設計の経済学－契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press

## 契約理論

准教授 玉田 康成

授業形態：秋学期 2 単位・講義

### 目標・意義・方法：

現実の経済では情報の非対称性に由来するインセンティブの問題が数多く見られる。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードやアドバースセクションなどの問題が発生し、個別企業に代表される経済の効率性を損うことになる。また、市場経済そのものの信頼を損う要因にもなり得る。本講義では、経済主体に対して適切なインセンティブを与えるための契約や組織、制度について、インセンティブ設計という観点から理論的に講義する。さらに、議論に必要なゲーム理論や期待効用理論などの分析道具についても説明を加える。

### 授業内容：

1. アドバースセクションとスクリーニング
2. オークション理論
3. 企業組織の理論：不完備契約と企業統合
4. 企業組織の理論：企業内のインセンティブ

### テキスト：

なし

### リーディング・リスト：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論－交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣
- ・ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版
- ・ロバーツ『現代企業の組織デザイン 戦略経営の経済学』NTT 出版
- ・柳川範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社
- ・神戸伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤秀史、小佐野広編『インセンティブ設計の経済学－契

約理論の応用分析』勁草書房

- ・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press
- ・Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structures*, Oxford Univ Press

## 市場の質の基礎理論（グローバルCOE連携科目）

客員教授 矢野 誠

講師 小松原 崇史

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

### 目標・意義・方法：

本講義は、慶應義塾大学大学院経済学研究科および商学研究科が、京都大学経済研究所と連携して行っている、グローバル COE プログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」の連携科目として、市場の質に関して現在までになされた研究を紹介することを目的としている。

一口に市場と言っても、良い市場もあれば、悪い市場もある。「市場の質理論」は、より良い市場の形成によって現実の経済問題を解決しようという、新しい視点に立つ。市場の質の研究は慶應義塾大学で始められたものであり、各方面から高い評価を得ている。たとえば、神戸大学の出井文男教授からは、「良い市場とは何か？という問いかけは、経済学における基本的アイデアとして、おそらく最初の日本発のものと思われる。…（この）問いかけは普遍的で…例えば、BRICs と呼ばれるブラジル、ロシア、インド、中国の4か国の人々が（それから）得るものは大きい」（三田学会雑誌、2005 年 7 月号、書評欄）と高く評価された。

伝統的な経済学では「市場の失敗と成功」という二元論的な観点で市場が分析されてきた。それが直輸入されたせいか、特に我が国では今回のサブプライム危機のような問題は即「市場の失敗」の結果だという「市場性悪説」に話が落ち着くことが多い。それでは政府の規制を増やすだけで、市場の質は低いままに放置され続けることになる。

市場の質は、市場における競争の質、情報の質、商品の質などで決定される。市場は、環境さえ整えば、自らを高質化し、問題を解決する力を持つ。それが経済の健全な発展成長を支えてきた。我が国では「市場＝弱肉強食の場」という議論も多い。しかし、アメリカでは、「弱肉強食の行為」を禁止する反トラスト法がうまく機能しているせいか、そんな議論には出合った経験がない。この事実も、自らを取り巻く環境が整備されれば、市場が人々の暮らしに大きく貢献することを示唆するものである。

## 授業内容：

春学期の講義は学部と大学院修士課程の併設科目として開講され、主に市場の質についての基本的な知識が解説される。講義は、理論経済学を専攻しない大学院生の聴講も可能なように配慮した理論的内容にする。博士課程の大学院生で、秋学期の科目に出席を考えているものは、春学期の授業を履修することが望ましい。

講義前半の教科書は、矢野（2005）、講義後半の教科書は、矢野（2001a）とする。スケジュールは以下のとおりである。

1. 市場の質と現代経済『「質の時代」のシステム改革』序章
2. 伝統的な市場理論（1）『「質の時代」のシステム改革』第1章
3. 伝統的な市場理論（2）『「質の時代」のシステム改革』第1章
4. 競争の質と価格形成（1）『「質の時代」のシステム改革』第2章
5. 競争の質と価格形成（2）『「質の時代」のシステム改革』第3章
6. M&A 市場と価格の公正性『法と経済学』第7章
7. 中間試験
8. 財産権と商品の質『ミクロ経済学の応用』第3章
9. 知的財産権と商品の質『ミクロ経済学の応用』第5章
10. 証券市場と情報の質（1）『ミクロ経済学の応用』第3章
11. 証券市場と情報の質（2）『ミクロ経済学の応用』第12章
12. 競争法と競争の質（1）『ミクロ経済学の応用』第7章
13. 競争法と競争の質（2）『ミクロ経済学の応用』第11章

## テキスト：

- ・矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店、2001a
- ・矢野誠『「質の時代」のシステム改革』岩波書店、2005年

## リーディング・リスト：

- ・矢野誠『ミクロ経済学の基礎』岩波書店、2001b
- ・矢野誠編『法と経済学』東京大学出版会、2007年
- ・Yano, M., ed., *The Japanese Economy - A Market Quality Perspective*, Keio University Press, 2008

## 市場の質の経済動学（グローバルCOE連携科目）

客員教授 矢野 誠  
講 師 小松原 崇 史  
講 師 西 村 和 雄

授業形態：秋学期2単位・合同講義

## 目標・意義・方法：

慶應義塾大学では、「市場の質理論」にもとづいて、平成15年度から19年度にかけて、経済学研究科と商学研

究科が連携し、21世紀COEプログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」を推進してきた。さらに、今年度からは、経済学研究科および商学研究科が、京都大学経済研究所と連携し、グローバルCOEプログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」をスタートさせている。

本講義は、春学期の講義の後を受け、グローバルCOE連携科目として、プログラムの理論的成果を紹介することを目的としている。

市場の質は慶應義塾大学から始まった、経済学的に新しい考え方であり、研究成果の中にはすでに学問的に高く評価され、国際的な雑誌にも掲載されているものが数多い。こうした研究を系統立てて理解することは、修士論文や博士論文を作成する上で有益だと考えられる。

## 授業内容：

講義の前半では、価格競争の役割、M&A市場、価格の公正性、市場参入、市場の内生的形成についての研究が紹介される。後半では、経済動学に関連する研究が紹介される。

1. 価格競争の役割について
2. M&A市場について
3. 価格の公正性について
4. 市場参入について
5. 市場の内生的形成について
6. 動学的意思決定について
7. 動学的市場理論について

## テキスト：

- ・矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店、2001a
- ・矢野誠『ミクロ経済学の基礎』岩波書店、2001b
- ・矢野誠『「質の時代」のシステム改革』岩波書店、2005年
- ・矢野誠『法と経済学』東京大学出版会、2007年
- ・Yano, M., ed., *The Japanese Economy - A Market Quality Perspective*, Keio University Press, 2008

## リーディング・リスト：

### 1. 価格競争の役割について

- ・Dastidar, K. G., “On the Existence of Pure Strategy Bertrand Equilibrium,” *Economic Theory* 5, 19-32, 1995
- ・Grossman, S., “Nash Equilibrium and the Industrial Organization of Markets with Large Fixed Cost,” *Econometrica* 49, 1149-1172, 1981
- ・Novshek, W., “Cournot Equilibrium with Free Entry,” *Review of Economic Studies* 47, 473-486, 1980
- ・Novshek, W., and H. Sonnenschein, “Cournot and Walras Equilibrium,” *Journal of Economic Theory* 19, 223-266, 1978
- ・Yano, M., “Coexistence of Large Firms and Less Efficient Small Firms under Price Competition with Free Entry,” *International Journal of Economic Theory* 1, 167-188, 2005

- Yano, M., “A Price Competition Game under Free Entry,” *Economic Theory* 29, 395–414, 2006

## 2. M&A 市場について

- Akerof, G. A., “The Market for “Lemons” : Quality Uncertainty and the Market Mechanism,” *Quarterly Journal of Economics* 84, 488–500, 1970
- Yano, M., and T. Komatsubara, “Law and Economics of M&A Markets,” in Makoto Yano, ed., *The Japanese Economy – A Market Quality Perspective*, Keio University Press, 2008

## 3. 価格の公正性について

- Yano, M., “Competitive Fairness and the Concept of a Fair Price under Delaware Law on M&A,” *International Journal of Economic Theory* 4, 175–190, 2008a
- Yano, M., “The Foundation of Market Quality Economics,” *Japanese Economic Review*, forthcoming, 2008b

## 4. 市場参入について

- Baumol, W., J. Panzar, and R. Willig, *Contestable Markets and the Theory of Industrial Structure*, Harcourt Brace Jovanovich, 1982
- Yano, M., and F. Dei, “Network Externalities, Discrete Demand Shifts, and Sub-Marginal-Cost Pricing,” *Canadian Journal of Economics* 39, 455–476, 2006a
- Yano, M., and F. Dei, “Network Externalities, Lexicographic Demand Shifts, and Marginal Cost Dumping,” *Keio Economic Studies* 42, 115–130, 2006b

## 5. 市場の内生的形成について

- Coase, R. H., “The Problem of Social Cost,” *Journal of Law and Economics* 3, 1–44, 1960
- Demsetz, H., “Toward a Theory of Property Rights,” *American Economic Review* 57, 347–359, 1967
- Hamilton, J. H., and S. M. Slutsky, “Endogenous Timing in Duopoly Games: Stackelberg or Cournot Equilibria,” *Games and Economic Behavior* 2, 29–46, 1990
- North, D. C., *Structure and Change in Economic History*, W. W. Norton, 1981
- North, D. C., *Institutions, Institutional Change and Economic Performance*, Cambridge University Press, 1990
- North, D. C., and R. P. Thomas, *The Rise of the Western World: A New Economic History*, Cambridge University Press, 1973
- Yano, M., and T. Komatsubara, “Endogenous Price Leadership and Technological Differences,” *International Journal of Economic Theory* 2, 365–383, 2006

## 6. 動学的意思決定について

- 西村, 矢野 『マクロ経済動学』 岩波書店, 2007 年

## 7. 動学的市場理論について

- Benhabib, J., and K. Nishimura, “Competitive Equilibrium Cycles,” *Journal of Economic Theory* 35, 284–306, 1985

- Benhabib, J., K. Nishimura, and A. Venditti, “Indeterminacy and Cycles in Two-Sector Discrete-Time Models,” *Economic Theory* 20, 217–235, 2002
- Nishimura, K., and M. Yano, “Nonlinear Dynamics and Chaos in Optimal Growth: An Example,” *Econometrica* 63, 981–1001, 1995
- Yano, M., “On the Dual Stability of a von Neumann Facet and the Inefficacy of Temporary Fiscal Policy,” *Econometrica* 66, 427–451, 1998

## 計量経済学上級

教授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この授業の目的は計量経済学の理論的な知識を高めることとともに、高度なデータ分析ができることである。実証分析に関する指導のために、数回パソコンによる演習を行う。Wooldridge [2008] にある実例をできるだけ再現する。

授業内容：

授業の内容は下記の通りである。

1. 予備知識
  - a. 行列代数
  - b. 条件付き期待値
  - c. 漸近理論
2. モメント法による推定・仮説検定
  - a. 標準的回帰モデルと最小自乗法 (OLS)
  - b. 操作変数法 (IV)・2 段階最小自乗法 (2SLS)
  - c. 診断検定 (過剰識別テスト, 外生性のテストなど)
3. LIMDEP による計量分析
4. 他の推定方法
  - a. M – 推定
  - b. 最尤法 (ML 法)
  - c. GMM 法
5. 離散的従属変数モデルと制限従属変数モデルなど
  - a. 離散的従属変数モデル
  - b. 制限従属変数モデル
  - c. サンプル選択問題・脱落問題
  - d. カウントデータ

実証分析のために、LIMDEP 9.0 という計量ソフトを利用し、演習を行うが、LIMDEP に関する予備知識は全く必要としない。LIMDEP を利用するために、事前登録が必要。

テキスト：

- Wooldridge, J.M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA., 2008, 2nd edition

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

LIMDEP について

- Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Reference Guide*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 1*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 2*, Econometric Software, Inc., New York, 2007

#### 成績：

成績は期末試験と宿題（2-3 回）の点数による。

#### 質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

### 計量経済学上級

教 授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

この授業の目的は計量経済学の理論的な知識を高めることとともに、高度なデータ分析ができることである。実証分析に関する指導のために、数回パソコンによる演習を行う。Wooldridge [2008] にある実例をできるだけ再現する。

#### 授業内容：

授業の内容は下記の通りである。

1. 予備知識
  - a. 行列代数
  - b. 条件付き期待値
  - c. 漸近理論
2. モメント法による推定・仮説検定
  - a. 標準的回帰モデルと最小自乗法 (OLS)
  - b. 操作変数法 (IV)・2 段階最小自乗法 (2SLS)
  - c. 診断検定 (過剰識別テスト, 外生性のテストなど)
3. LIMDEP による計量分析
4. 他の推定方法
  - a. M-推定
  - b. 最尤法 (ML 法)
  - c. GMM 法
5. 離散的従属変数モデルと制限従属変数モデルなど
  - a. 離散的従属変数モデル
  - b. 制限従属変数モデル
  - c. サンプル選択問題・脱落問題
  - d. カウントデータ

実証分析のために、LIMDEP 9.0 という計量ソフトを利用し、演習を行うが、LIMDEP に関する予備知識は全く必要としない。LIMDEP を利用するために、事前登録が必要。

#### テキスト：

- Wooldridge, J.M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA., 2008, 2nd edition

#### リーディング・リスト：

開講時に配布する。

#### LIMDEP について

- Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Reference Guide*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 1*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 2*, Econometric Software, Inc., New York, 2007

#### 成績：

成績は期末試験と宿題（2-3 回）の点数による。

#### 質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

### ミクロ計量経済学(グローバルCOE連携科目)

名誉教授 清水 雅彦  
教授 河井 啓希  
准教授 宮内 環

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

近年、データの整備が進められてきたパネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの講義は、グローバル COE プログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」（担当は山本勲准教授）と合同で行う。

#### 授業内容：

- 1 パネルデータとは
- 2 One-way Error Component Model
- 3 Two-way Error Component Model
- 4 仮説検定
- 5 パネルデータと不均一分散・系列相関
- 6 同時方程式モデル

春学期と秋学期は強い関連性をもつため、両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学の関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

#### テキスト：

最初の授業のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

- Baltagi B.H., *Econometric Analysis of Panel Data*, 4<sup>th</sup> ed., Wiley, 2008
- Wooldridge J. M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, 2<sup>nd</sup> ed. MIT Press, 2008
- 北村行伸『パネルデータ分析』岩波書店, 2005 年
- 樋口美雄ほか『入門パネルデータによる経済分析』日本評論社, 2006 年

## ミクロ計量経済学(グローバルCOE連携科目)

名誉教授 清水雅彦  
教授 河井啓希  
准教授 宮内環

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

近年、データの整備が進められてきたパネルデータを用いた実証分析に必要な計量経済学の方法を講義する。

なおこの講義は、グローバル COE プログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」の連携科目として設置され、商学研究科の「計量経済学」(担当は山本勲准教授)と合同で行う。

授業内容：

- 1 Dynamic Panel Data Model
- 2 Unbalanced Panel Data と Sample Selection
- 3 Limited Dependent Variable のパネルデータ分析
- 4 Nonstationary Panels

春学期と秋学期は強い関連性をもつため、両方を履修することが望ましい。

成績評価方法は、各学期末に各自の研究と計量経済学の関連について述べたタームペーパーを提出してもらう。

テキスト：

最初の授業のときに指示する。

リーディング・リスト：

- ・ Baltagi B.H., *Econometric Analysis of Panel Data*, 4<sup>th</sup> ed., Wiley, 2008
- ・ Wooldridge J. M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, 2<sup>nd</sup> ed. MIT Press, 2008
- ・ 北村行伸『パネルデータ分析』岩波書店, 2005 年
- ・ 樋口美雄ほか『入門パネルデータによる経済分析』日本評論社, 2006 年

## ベイズ統計学

准教授 中妻照雄

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ベイズ統計学は推測の対象となる未知の変数(パラメータ)を確率変数として扱い、データが与えられた下での条件付確率分布(事後分布)を使って統計的推論を行う統計学である。「ベイズ統計学」では、ベイズ統計学の基本的流れを理解することを目指す。

授業内容：

1. ベイズ統計学の概要
2. ベイズの定理で見えないものを類推する
3. 尤度, 事前分布, 事後分布
4. 点推定と区間推定
5. 仮説の検証と予測
6. 正規分布のベイズ分析

7. ポートフォリオ選択への応用
8. ブラック・リターマン・アプローチ
9. 回帰モデルのベイズ分析
10. マルチ・ファクター・モデルのベイズ推定
11. ベイズ・ファクターとモデル選択
12. モデル平均
13. 状態空間モデルとカルマン・フィルター

テキスト：

中妻照雄『入門ベイズ統計学』朝倉書店, 2007 年

リーディング・リスト：

- ・ 繁樹算男『ベイズ統計入門』東京大学出版会, 1985 年
- ・ 松原望『入門ベイズ統計—意思決定の理論と発展』東京出版, 2008 年
- ・ 渡部洋『ベイズ統計学入門』福村出版, 1999 年

## ベイズ統計学

准教授 中妻照雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

ベイズ統計学ではコンピュータによる数値計算が極めて重要な役割を果たしている。近年ではマルコフ連鎖モンテカルロ (MCMC) 法と呼ばれる手法がベイズ統計学の標準的な計算ツールとなっている。秋学期は MCMC 法によってベイズ分析を行う方法を学ぶ。

授業内容：

1. ベイズ統計学とモンテカルロ法
2. 擬似乱数の生成法
3. マルコフ連鎖の定義と性質
4. マルコフ連鎖サンプリング法
5. ギブズ・サンプラー
6. 回帰モデルの MCMC 法によるベイズ推定
7. データ拡大法
8. 潜在変数を含む回帰モデルのベイズ推定
9. パネル・データ分析
10. 混合分布モデル
11. MCMC 法による状態空間モデルのベイズ分析
12. 隠れマルコフ・モデルのベイズ分析
13. M-H アルゴリズム

テキスト：

中妻照雄『入門ベイズ統計学』朝倉書店, 2007 年

リーディング・リスト：

- ・ 小西貞則他『計算統計学の方法—ブートストラップ・EM アルゴリズム・MCMC』朝倉書店, 2008 年
- ・ 豊田秀樹他『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店, 2008 年
- ・ 古谷知之『ベイズ統計データ分析—R & WinBUGS』朝倉書店, 2008 年
- ・ 和合肇他『ベイズ計量経済分析—マルコフ連鎖モンテカル

## 時系列分析

准教授 田 中 辰 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義（木 1）

目標・意義・方法：

学部 3, 4 年生と大学院生を対象に時系列分析の基礎を講義する。経済データは時系列として与えられることが多く、そこに着目したさまざまな分析手法がある。データとしては株価や利子率など金融データだけでなく、マネーサプライと物価などマクロ変数や、さらに最近では時系列とクロスセクションを組み合わせたパネルデータもよく用いられる。予測や因果性のテストなど応用例もひろく、話題は多岐にわたる。本講義ではよく使われる大事な手法に絞り込み、その上で、実際に使えるようになることを目的とする。

取り上げるテーマは (1) 差分方程式の安定性と確率過程の定常性, (2) ARMA モデルの同定, 推定, 予測 (3) ユニットルート過程とその ADF 検定, (4) Cointegration (共和分) と Error correction モデル, (5) VAR モデルと因果性のテスト, (6) パネル分析, などになる予定である。

実際に使えるようにするためには、データを使って推定プログラムを動かす作業が必要である。したがって、演習として何回か課題を出してもらう。課題では学生諸君自ら現実のデータを使って簡単な推定作業を行い、それを提出することになる。

出発点で前提とする知識として計量経済学概論レベルの知識を前提とする。すなわち古典的仮定のもとでの回帰分析の経験があることを前提とする。計量経済学中級の授業の知識があれば役立つが、本講義ではそれらを前提とはしない。必要な数学や計量分析の知識は講義のなかで適宜補充する。大学院生も含む講義ではあるが、できるだけ基礎から組み上げていく方法をとるので、意欲さえあれば誰でも理解できるだろう。こういう講義では途中でわからなくなると間違いなく落ちこぼれるので、課題演習により、理解を確認しながらすすみたい。

## 時系列分析

准教授 田 中 辰 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義（木 2）

授業内容：

時系列分析（木 1）と同じ。

## 経済学史

教 授 丸 山 徹

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

経済学前史。

今年度は重商主義期の経済理論を主題とする。

参考書：

- ・ H. W. Spiegel, *The Growth of Economic Thought*, 3rd ed., (Duke Univ. Press, Durham / London) 1991. とくに Chap. 4-7 を参考にする。

## 経済学史

教 授 丸 山 徹

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

経済学前史。

春学期の続論。

## 社会思想

教 授 坂 本 達 哉

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

最近の思想史学会の動向を踏まえ、近代共和主義 (modern republicanism) にかんする基本的な諸問題を検討する。共和主義思想はマキアヴェリ以来、自由主義、民主主義とならぶ主要な社会・政治思想の系譜であるばかりでなく、欧米先進諸国における政治的動向の背後にあるイデオロギーの源泉でもある。共和主義思想の多面性と現代的意義を念頭におきながら、幅広い角度から検討する。

授業内容：

テキストの輪読を軸に進める。履修者との活発な質疑応答、ディスカッションを重視する。他研究科生の履修も歓迎する。

テキスト：

- ・ 佐伯啓思・松原隆一郎編『共和主義ルネサンス』(NTT 出版, 2007 年) を用いるので各自用意しておくこと。

リーディング・リスト：

講義中に随時紹介する。

## 社会思想

教 授 高 草 木 光 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

19 世紀フランスにおける「アソシアシオン」概念について考察する。

授業内容：

トクヴィル『アメリカのデモクラシー』をはじめとする原典、および研究文献を題材に用いる。

テキスト：

とくになし。

リーディング・リスト：

- ・ トクヴィル (松本礼二訳)『アメリカのデモクラシー』岩

波文庫

- ・的場昭弘・高草木光一編『一八四八年革命の射程』御茶の水書房
- ・大田一廣編『社会主義と経済学』日本経済評論社

## 経済思想

教 授 小 室 正 紀

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

日本経済思想史における、いわゆる「近代主義」の射程について、文献を読みながら再考する。春学期は、題材としては丸山真男『忠誠と反逆』を主に取り上げる。受講者は、毎回、あらかじめ指定された章・節を読み内容の理解につとめておくことが求められる。

テキスト：

- ・丸山真男『忠誠と反逆』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、1998 年

リーディング・リスト：

- ・日高六郎編『近代主義』（現代日本思想大系 34）筑摩書房、1964 年

## 経済思想

教 授 小 室 正 紀

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

日本経済思想史における、いわゆる「近代主義」の射程について、文献を読みながら再考する。秋学期は、題材としては丸山真男『日本政治思想史研究』を主に取り上げる。受講者は、毎回、あらかじめ指定された章・節を読み内容の理解につとめておくことが求められる。

テキスト：

- ・丸山真男『日本政治思想史研究』東京大学出版会、1952 年

参考文献：

- ・日高六郎編『近代主義』（現代日本思想大系 34）筑摩書房、1964 年

## 欧米経済史

教 授 長谷川 淳 一

准教授 崔 在 東

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

本科目では、社会経済史の視点から、欧米を中心とする各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる個別の具体的な歴史事象を、社会経済全体の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ、活発に討論したい。

授業内容：

本科目で取り上げるテーマ（担当教員の守備範囲）は、およそ次の通りである。

1. 生活環境と生活水準
2. 労働と消費生活
3. 都市と文化
4. 家族・親族・共同体と個人主義
5. 人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば、問題はない。また、考察対象地域についても、欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には、本科目の趣旨を踏まえた上で、各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し、その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し、それについて議論したい。このことを通じて、何よりも参加者各自の研究が刺激され、またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

## 欧米経済史

教 授 長谷川 淳 一

准教授 崔 在 東

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

## 日本経済史

教 授 杉 山 伸 也

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済にかんする資料・研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行う。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係について、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

## 日本経済史

教 授 杉 山 伸 也

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済にかんする資料・研究書・論文をとりあげ、院生による報告とディスカッションを中心に行う。特定のテキストは使用せず、受講者の関心にあわせた論文を適宜選択する。

成績評価は、授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては、日本経済史の基本的事実関係につい

て、すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は、日本経済史の基本的用語をふくめ、十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

---

## 日本経済史

---

教 授 柳 沢 遊

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

1930 ～ 60 年代の日本経済（産業・労働・財政・金融・対外関係）植民地経済に関する研究書・論文をとりあげ、教員・院生による報告とディスカッションを中心に行う。テキストはさしあたり武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』（有斐閣、2007 年）を用いる。

成績評価は、授業での報告や討論への参加、院生が自らすすめている実証研究への理論的貢献などを考慮して総合的に判断する。授業では、「あたりまえ」と思っていたことがらもふくめて、率直に質問し、教員の理解が不十分なときには、それを自ら正す意気込みで、どんなテーマ・論点でも掘りさげて、かつ広い視野から討論してほしい。

授業内容：

春学期は、武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』（有斐閣、2007 年）各章を輪読して、時々、院生ないし教員の個人研究報告と討論を必要に応じて行う。

テキスト：

- ・武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』有斐閣、2007 年

リーディング・リスト：

- ・武田晴人編『戦後復興期の企業行動—立ちはだかった障害とその克服—』有斐閣、2008 年
- ・原朗・山崎志郎編『戦時日本の経済再編成』日本経済評論社、2006 年

---

## 日本経済史

---

教 授 柳 沢 遊

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

1930 ～ 60 年代の日本経済（経済政策・産業・労働・中小企業・対外関係）に関する研究書、論文をとりあげ、教員・院生による報告とディスカッションを中心に行う。テキストはさしあたり、武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』（有斐閣、2007 年）、石井寛治他編『日本経済史 ④ 戦時・戦後期』（東京大学出版会、2007 年 9 月）の中から、いくつかを抽出して輪読していく。

成績評価は、授業での報告や討論への参加、院生が自らすすめる実証研究の中間報告などを考慮して総合的に判断する。授業では、「あたりまえ」と思っていたことがらや概念も含めて、率直かつ根源的に「問い」を發し、

教員の学問的理解をのりこえるような意気込みで、多面的な興味・関心を拓く場にしてほしい。

授業内容：

秋学期は、上記 2 つの研究書のいずれかないしすべてのなかから、受講者の関心のある章を選び出し、その章を輪読しながらすすめる。また院生ないし、教員の個人研究報告と討論を必要に応じて行う。

テキスト：

- ・武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』有斐閣、2007 年
- ・石井寛治他編『日本経済史 ④ 戦時・戦後期』東京大学出版会、2007 年 9 月

リーディング・リスト：

- ・原朗・山崎志郎編『戦時日本の経済再編成』日本経済評論社、2006 年
- ・原朗編『復興期の日本経済』東京大学出版、2002 年

---

## アジア経済史

---

教 授 古 田 和 子

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

18 世紀から 20 世紀前半における東アジア・東南アジアを中心とした社会経済史の把握を目的とする。アジア経済史は経済史研究のなかでは後発の研究分野であったが、近年、その研究上の進展には目覚しいものがある。本科目では、それらの研究成果のなかで主要なものを選び、成果と残された課題について考察を深めたい。

授業内容：

今年度は、対象を 19 世紀から 20 世紀前半の近代中国に絞って、市場と制度の特徴を考察し、経済や環境における変容の過程をアジア経済史のなかに位置づける作業を行う。また随時、参加者の個別研究報告を行う予定である。

---

## 文明のサイヤンス

---

—人文・社会科学と古典的教養の新たな継承—

（未来先導チェアシップ講座（大和証券寄附講座））

コーディネーター 教 授 小 室 正 紀

教 授 杉 浦 章 介

文学部教授 中 川 純 男

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

近代社会は、人間と世界のあるべき姿を文明という名に託して追求しつづけてきた。近代社会を支えた古典的教養は、この文明をサイエンスすることを根元的課題としていたともいえる。しかし現代において、世界観の混乱にもかかわらず、学問は、細分化と技術化により、時としてその課題を忘れがちである。

そのような現状の中で、人文・社会科学に蓄積された高度な古典的教養の力は、今、あらためて見直さなければならない。さまざまな国や地域で蓄積されてきた伝統は、文化の多様性の源泉であるとともに、人類協調のよりどころとなるべき共通の財産である。人文・社会科学はそのような人類の蓄積を研究領野としてきたのである。

福澤諭吉は『文明論之概略』において、文明を「外あらわるる事物」と「内に存する精神」の二面から見た。「外にあらわるる事物」は、鉄道、通信、医学、工業技術のような、主に自然科学が生み出す成果である。しかし、求めるのがより難しいものは「内に存する精神」であり、その分析と追求こそが科学すなわち福澤の発音で言う「サイヤンス」の喫緊の課題であると考えた。現代の人文・社会科学は、福澤の提起したこの課題にどこまで答えられているのだろうか。

以上のような観点から本講義においては、文明を「サイヤンス」するに当たっての古典的教養の意味を、人文・社会科学の多様な分野における最先端の知見を通して問い直したい。

講義は、比較的分野の近い、海外から招聘した講師と国際的に評価されている日本人研究者とが関連して講義を担当することで、義塾における人文・社会科学の研究が学問の国際的ネットワークに連なるものであることをあらためて見直す機会を提供するとともに、若い学徒が学問を志すことの歴史的社会的な意味を自覚する機会となることを期待している。

#### 講座の構成と履修形態

講座は、オムニバス形式の2単位科目。各講師は2コマないし3コマを担当し、合計で18～20コマを開講する。履修者はそのうちから12コマ以上を履修することによって、単位を申請することができる。

講義は、土曜日4時限に設定されているが、特に海外から講師を招聘する日程上の都合により、必ずしもその時間に開講されとは限らず、金曜日・土曜日と連続して開講される場合などがある。

#### 主な講義担当者

Alain Corbin (ソルボンヌ大学教授)

主領域：人文科学・社会科学にまたがる総合的な視点からの感性の歴史学など

小倉孝誠 (慶應義塾大学文学部教授)

主領域：19世紀フランスにおける文学と社会、アラン・コルバンの訳もある。

鷺見洋一 (慶應義塾大学名誉教授)

主領域：百科全書派など、フランスやイタリアにおける18世紀啓蒙時代における知

Alan Mcfarlane (ケンブリッジ大学教授 Fellow of King's College)

主領域：民俗学的手法を援用したイギリス史、文明史。

福沢諭吉についても考察。

斎藤修 (一橋大学経済研究所教授)

主領域：比較経済史、歴史人口学

Bertram Schefold (ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学教授)

主領域：ヨーロッパ経済学史。日本や中国を含む世界の前近代の経済思想。

池田幸弘 (慶應義塾大学経済学部教授)

主領域：オーストリア経済学史

Neil McLynn (オックスフォード大学教授、元慶應義塾大学法学部教授)

主領域：西洋古典学。古代教会史、とくに東西教会におけるキリスト教と政治。

西村太良 (慶應義塾大学教授・常任理事)

主領域：西洋古典学、ギリシア文学

大芝芳弘 (首都大学東京・教授)

主領域：西洋古典学、ラテン文学

#### 産業組織論

名誉教授 中 澤 敏 明

教 授 飯 塚 敏 晃

教 授 河 井 啓 希

授業形態：春学期2単位・合同講義

目標・意義・方法：

本講義では、産業組織論の実証研究 (Empirical Industrial Organization) に関する主要な論文の紹介ならびに最近の研究のサーベイを行う。

産業組織論の実証研究は、クロスセクションデータ主体の方法から、計量経済学とミクロ理論を統合し、パネルデータやミクロデータを主に利用する New Empirical IO の方法が確立しようとしている (この変化は "Empirical Renaissance" と呼ばれている)。

この New Empirical IO の方法を、代表的な論文や最近の論文を紹介しながら研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを紹介する。

産業組織論の応用範囲は広く、市場支配力、製品差別、参入・退出、垂直統合、広告などの産業組織論の代表的なトピックはもちろん、医療経済学や法と経済の研究についても取り上げる。経済理論モデルだけでなく実証研究に興味をもった政策志向の学生が自らの論文のテーマを考えるうえで有益であると思われるが、理論専攻で実証研究にも興味を持つ学生の履修も歓迎する。

授業内容：

1. New Empirical IO について
2. 生産関数、費用関数、生産性の分析

3. 差別化市場の分析
4. 市場競争度の測定
5. 独占市場
6. カルテル

**テキスト：**

最初の講義のときに指示する。

**リーディング・リスト：**

リーディングリストは授業のときに配布するが、以下にはよく利用される書籍を紹介する。

- ・ Cabral L.M.B., *Readings in Industrial Organization (Blackwell Readings for Contemporary Economics)*, Blackwell, 2000
- ・ Schmalensee R. & Willig R.D., *Handbook of Industrial Organization vol. 1 & 2*, North-Holland, 1989
- ・ Armstrong M. & Porter R., *Handbook of Industrial Organization vol. 3*, North-Holland, 2004
- ・ Polinsky A. M. & Shavell S., *Handbook of Law and Economics vol. 1 & 2*, North-Holland, 2007
- ・ Culyer A. J. & Newhouse J. P., *Handbook of Health Economics vol. 1A & 1B*, North-Holland, 2000

---

**産業組織論**

---

名誉教授 中 澤 敏 明  
教授 飯 塚 敏 晃  
教授 河 井 啓 希

**授業形態：**秋学期 2 単位・合同講義

**目標・意義・方法：**

春学期に開講される「産業組織論」に引き続き、産業組織論の実証研究 (Empirical Industrial Organization) に関する主要な論文の紹介ならびに最近の研究のサーベイを行う。

**授業内容：**

1. 市場構造と参入退出
2. 垂直統合、垂直的取引制限
3. 情報の非対称性の検証
4. 広告
5. 価格差別
6. 価格差とサーチモデル
7. ネットワーク外部性

**テキスト：**

最初の講義のときに指示する。

**リーディング・リスト：**

- ・ Cabral L.M.B., *Readings in Industrial Organization (Blackwell Readings for Contemporary Economics)*, Blackwell, 2000
- ・ Schmalensee R. & Willig R. D., *Handbook of Industrial Organization vol.1 & 2*, North-Holland, 1989
- ・ Armstrong M. & Porter R., *Handbook of Industrial Organization vol.3*, North-Holland, 2004
- ・ Polinsky A. M. & Shavell S., *Handbook of Law and Economics*

*vol.1 & 2*, North-Holland, 2007

- ・ Culyer A. J. & Newhouse J. P., *Handbook of Health Economics vol.1A & 1B*, North-Holland, 2000

---

**労働経済論**

---

教 授 赤 林 英 夫

**授業形態：**秋学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

労働経済論（春，太田担当）と同じ。

**授業内容：**

秋学期においては、労働供給、教育の経済学、家族の経済学からトピックを選んで詳細に議論しつつ、今日の労働経済学が抱える計量経済学上の諸問題についても言及する。

- ・ 労働供給：静学モデル，動学モデル，Selection bias
- ・ 家族の理論：バーゲニングモデル，パレートモデル
- ・ 賃金決定：ミンサー賃金関数，Ability bias
- ・ 教育生産関数：教育の質の効果，教育バウチャーの効果
- ・ 政策評価と労働計量経済学：構造推計，操作変数法，自然実験

**テキスト：**

特に指定しない。

**リーディング・リスト：**

講義中に指示する。

---

**労働経済論**

---

教 授 太 田 聰 一

**授業形態：**春学期 2 単位・講義

**目標・意義・方法：**

当科目では、中級レベルの労働経済学を講義する。言うまでもなく、労働市場は労働サービスが取引される場であるが、需要者や供給者の主体的な行動によってサービスの質や取引状況が変化しうるきわめて複雑な市場である。それだけ労働市場の研究は challenging であり、魅力的であるといえる。この講義の目的は、将来労働市場の研究を志したり、他の関連分野の研究を目指したりする人々にとって必須の知識を提供することにある。

修士レベルの受講者が比較的スムーズに講義内容を理解できるように、わかりやすい解説を目指す。受講者が学部レベルのミクロ・マクロ経済学と統計学を習得していることを前提とする。この点について心もとない人には学部 3・4 年生対象の「労働経済論」の受講をお勧めする。

**授業内容：**

春学期においては、企業の主体的行動、内部組織、失業に注目する。

- ・ 労働需要：静学モデル
- ・ 労働需要：動学モデル（雇用調整速度）

- ・最低賃金、解雇規制などの応用トピック
- ・買手独占下の労働市場問題
- ・内部労働市場の機能
- ・雇用契約、インセンティブ、昇進
- ・賃金交渉と効率賃金
- ・失業と企業および労働者のサーチ活動

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

講義中に指示する。

## 社会政策論

教授 駒村 康平  
准教授 山田 篤裕

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

社会政策（特に社会保障）の基礎理論および近年における実証研究の展開を把握することを目的とします。他研究科からの参加も歓迎します。

授業内容：

下記のテキストを中心に輪読していきます。履修者の関心に応じ、テキストの参考文献（Further Reading）についても講読します。

テキスト：

- ・Barr, N, *Economics of the Welfare State* (4th ed.), Oxford University Press, 2004

### PART 1. CONCEPTS

1.Introduction, 2.The historical background, 3.Political theory : Social justice and the state, 4.Economic theory 1:State intervention, 5.Economic theory 2:Insurance, 6.Problems of definition and measurement

### PART 2. CASH BENEFITS

7.Financing the welfare state, 8.Contributory benefits 1:Unemployment, sickness, and disability, 9.Contributory benefits 2:Retirement pensions, 10.Non-contributory benefits, 11.Strategies for reform

### PART 3. BENEFITS IN KIND

12.Health and health care, 13.Education, 14.Housing

### PART 4. EPILOGUE

15.Conclusion

リーディング・リスト：

授業の進行に合わせて紹介します。

## 社会政策論

教授 駒村 康平  
准教授 山田 篤裕

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

社会政策（特に社会保障）の基礎理論および近年における実証研究の展開を把握することを目的とします。他研究科からの参加も歓迎します。

授業内容：

下記のテキストを中心に輪読していきます。履修者の関心に応じ、テキストの参考文献（Further Reading）についても講読します。

テキスト：

- ・Barr, N, *Economics of the Welfare State* (4th ed.), Oxford University Press, 2004

### PART 1. CONCEPTS

1.Introduction, 2.The historical background, 3.Political theory : Social justice and the state, 4.Economic theory 1:State intervention, 5.Economic theory 2:Insurance, 6.Problems of definition and measurement

### PART 2. CASH BENEFITS

7.Financing the welfare state, 8.Contributory benefits 1:Unemployment, sickness, and disability, 9.Contributory benefits 2:Retirement pensions, 10.Non-contributory benefits, 11.Strategies for reform

### PART 3. BENEFITS IN KIND

12.Health and health care, 13.Education, 14.Housing

### PART 4. EPILOGUE

15.Conclusion

リーディング・リスト：

授業の進行に合わせて紹介します。

## 工業経済論

教授 植田 浩史  
教授 渡邊 幸男  
准教授 駒形 哲哉

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

急速に発展する中国工業を題材にとりあげ、それを地域産業・産業集積の視点から検討する。具体的には、担当者等の中国工業発展について研究成果を利用して講義を行うとともに、中国研究者による中国地域産業発展についての研究も取り上げる。

中国研究者による中国語での研究成果も輪読することになるが、その場合は駒形等による日本語でのレジュメを利用して検討することになる。それゆえ中国語での輪読が困難なものにも履修可能である。

## 工業経済論

教 授 植 田 浩 史  
教 授 渡 邊 幸 男  
准教授 駒 形 哲 哉

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

## 経済政策論

教 授 大 村 達 弥

授業形態：春学期，秋学期とも 2 単位・講義

目標・意義・方法：

変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ、政府（法律・政治）システムとの境界領域に注目しつつ、経済政策学的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては、公共部門の効率化のための理論的基礎（オークション理論、契約理論等）、また、経済政策過程の実例として情報通信・ネットワーク産業に関する政策を扱う予定である。

テキスト：

・伊藤・小佐野『インセンティブ設計の経済学』勁草書房，2003 年

リーディング・リスト：

・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press, 2005  
・坂井・藤中・若山『メカニズムデザイン』ミネルヴァ書房，2008 年  
その他必要な文献は授業開始の時点で指定する

## 金融論

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

情報の非対称性やゲーム理論を使った「新しい金融論」の基本を習得する。サブプライムローン問題に端を発した金融危機について理解を深める。

授業内容：

まず、基本的な金融理論を、いくつかの論文や下記テキストに頼りながら習得する。その後、現在、世界を震撼させている金融危機をトピックスに取り上げ、どのようなアプローチでこの問題を分析していくべきか、最新の論文を読みながら理解を深める。

テキスト：

・Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press  
・櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版社

リーディング・リスト：

1. D.W.Diamond, "Financial intermediation and delegated verification", *Review of Economic Studies* 51, 393-414, 1984  
2. D.W.Diamond, P.H.Dybvig, "Bank runs, deposit insurance

and liquidity", *Journal of Political Economy* 91, 401-419, 1983

3. Goldstein, A. Pauzner, "Demand-deposit contracts and the probability of bank runs", *Journal of Finance* LX, 1293-1327, 2005
4. S.Morris, H-S Shin, "Unique equilibrium in a model of self-fulfilling currency attacks", *American Economic Review*, 1998  
その他、追って指示する。

## 金融論

教 授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・講義

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train students to apply economic theory, econometric techniques and economic intuition to the analysis of real world economic problems. We put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

References:

- 1.Heijdra, Ben and Fredric Van Der Pleag, *Foundations of Modern Macroeconomics*, Oxford University Press.
  - 2.Yoshino, Naoyuki and Seiritsu Ogura, *The Tax System and the Fiscal Investment and Loan Programme*, Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. *Industrial Policy of Japan*, Academic Press, 1988
  - 3.Yoshino, Naoyuki et. al. *Eigo de Yomu Nihon no Kinyu (Economic Issues of Contemporary Japan)*, Yuhikaku publishing, 2000
  - 4.Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara, *The Current State of the Japanese Economy and Remedies*, Asian Economic Papers, vol.1, No.2, pp.110-26, 2002
  - 5.Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill, *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press, 2003
  - 6.Takatashi Ito, *The Japanese Economy*, MIT press, 1992
  - 7.Yoshino, Naoyuki and Mark Scher, *Small Savings Mobilization and Asian Economic Development*, M.E. Sharpe, 2005
- More references will be given during the lecture.

Topics to be covered:

- 1.Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuations
- 2.Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
- 3.Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
- 4.Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt

5. Japanese industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis: causes and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan
14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

#### 成績評価方法：

試験の結果による評価

平常点（出席状況および毎回の小テスト）による評価

#### 財政論

特別招聘教授 鞠 重 鎬

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

#### Course Description：

The course of Public Finance mainly aims to understand the fiscal activities of local governments. For example, we deal with the optimal size of local authorities, the gains from fiscal decision-making at a local level, and the topic of intergovernmental fiscal relations. The course introduces both public finance theory and public choice approach.

#### Textbook：

- Cullis, John and Philip Jones, *Public Finance and Public Choice*, 2nd edition 1998, Oxford Press; in particular, Local Government (Ch.12), 1998

#### References：

- 1) Anderson, John E. *Public Finance*, Houghton Mifflin, 2003; in particular, Ch.16 Property Taxes; Ch.17 Government Budgets, Borrowing, Deficit Finance; Ch.18 Multilevel Government Finance; Ch.19 The Economics of Local Governments, 2003
- 2) Rubinfeld "The Economics of the Local Public Sector," *Handbook of Public Economics*, vol.II, edited by A.J. Auerbach and M. Feldstein, Elsevier Science Publishers B. V. (North Holland), pp.571-645, 1987
- 3) Other references will be distributed at the class.

#### Course Outlines：

- Week 1-2 : Introduction and Decentralization Theorem  
Week 3-4 : Optimal Size of Local Government

Week 5-6 : Tiebout Hypothesis (How Individuals Choose Local Authorities)

Week 7-8 : Local Government Revenue (focus on property tax)

Week 9-10 : Non-Tax Revenue (User Charges) and Expenditure

Week 11-12 : Intergovernmental Fiscal Relations

Week 13-14 : Public Choice Approach/ Economic Policy and Decentralization

Week 15 : Final Test (Exam and/or Presentation)

#### Comments：

If you do not understand basic concepts about economics related to public finance, in particular, local public finance please let me know.

#### Course Requirements and Grading：

1) Assignments such as essay or report (include case studies).  
(For example, write an Essay that investigates public finance on (a) your own region, or (b) a certain country in which you are interested, or (c) a comparative study among countries or regions.

2) Assignments or Exams

are required in order to receive a grade for the course.

The grade will be given on the basis of both assignments and exam, etc.

#### Office hour：

When I am in class please take an appointment. Or send an e-mail to me.

#### 公共経済学

教授 土居 丈 朗

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

公共経済学の中でも、地方財政を取り上げ、その分野の学術論文の展開を追えるに足る理論的基礎を学習することを目的とする。注目に値する論文を講読するとともに、論文を執筆する履修者に対しては、論文の作成途上段階での発表や必要な助言を行うなど臨機応変に対応する。

履修者は、学部レベルの公共経済学（例えば、リーディング・リストに挙げた拙著レベル）を理解していることが望ましい。

#### 授業内容：

まずは、地方公共財の理論に関する基本的枠組みを学ぶ。次いで、地方税に関する文献について学ぶ。

#### テキスト：

土居丈朗『地方財政の政治経済学』東洋経済新報社

#### リーディング・リスト：

土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社

その他、授業の進行に合わせて紹介する。

## 市場インフラ設計論（グローバル COE 連携科目）

教授 吉 野 直 行  
特別研究講師 溝 口 哲 郎

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

授業科目の内容：

さまざまな市場の不備が指摘されている。最近のサブプライムローン問題では、住宅ローンに貸出を行う金融機関の四新行動、住宅ブローカーのインセンティブメカニズム問題、格付け機関の問題、証券化による情報の非対称性の問題など、証券化商品市場を取り巻く“市場”の問題が顕著となっている。

本演習では、グローバル COE の研究の中心である“市場の質”に関して、金融市場と公共投資などをとりあげ、市場インフラ設計に関する基礎的な演習を行う。

内容としては、

### 1, 金融市場

(1) 市場の構成主体の行動分析（金融市場の場合には、

①資金供給者、②資金需要者）、

(2) 取引される金融商品市場の質

事例としては、(i) 住宅債券市場、(ii) 消費者金融市場、(iii) 国債市場などを取り上げる。

### 2, 公共投資の市場

公共投資は、市場が見えにくい構造である。公共投資の財源は、国の税収、地方の税収、国から地方への補助金、国債、地方債といったように、さまざまな財源によって賄われている。公共投資の実施主体は、国・地方公共団体であるが、その決定は、政治（政策）に基づくものであり、市場の効率性などが見えにくい構造となっている。公共投資の市場の透明性を確保する方策の一つが、民間資金の導入による公共投資事業の実施であると考えられる。そのフレームワーク、事例を使いながら、公共政策の市場について議論する。

### 3, 官僚機構の質

公共投資の問題に関連して、政策立案者である官僚行動を分析する。公共投資の市場と同様、官僚機構の政策決定プロセスは不透明であり、効率性を損ない、最悪の場合には汚職に至った。硬直的で複雑な官僚の人事制度や慣習などがもたらす弊害をどのように解決するのか、制度設計や応用ミクロ経済学を利用して「官僚の質」を高めるためのメカニズム設計について議論する。

### 4, 公共調達市場の高質化

寡占市場である日本の官公庁の公共調達の問題を応用ゲーム理論の手法を用いて分析する。入札が競争的ではない場合には、官僚の裁量が働くため、官僚が汚職をする可能性が生じる。このような状況をモデル化し、政府調達のオークションによる汚職を排除するために、海外も含めた調達を入れた場合と、国内市場のみからの調達のケースを比較し、海外からの調達の可能性も含めて公

共調達市場を開放することによって、事後的な効率性を達成できることを示す。

テキスト：

・ Jean Hindriks and Gareth D Myles, *Intermediate Public Economics*, MIT Press

参考書：

参考文献については、講義の中で適宜説明する。

講義の計画：

- 1, 金融市場の質の問題
- 2, 国債市場の現状とその発展
- 3, 住宅金融市場とその質的な変化
- 4, 金融の証券化市場の高質化
- 5, 消費者金融市場
- 6, 日本の公共政策の歴史的な変遷
- 7, 生産関数を用いた公共投資市場の生産性
- 8, インフラボンドの導入による公共投資の高質化
- 9, 為替市場の変動要因
- 10, 中小企業金融における情報の非対称性と市場の失敗
- 11, 日本の官僚機構の行動分析
- 12, 日本の予算配分モデルと官僚機構
- 13, 政府調達の市場と海外も含めた公共入札制度による市場の高質化

成績評価方法：

講義における参加度と、発表内容によって評価する。

質問・相談：

講義終了後の時間を質問時間とする。

## 財政特論（グローバル COE 連携科目）

Advanced Study of Public Finance

商学研究科 特別研究教授 北 村 行 伸

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業科目の内容：

**Objective:** To provide a basic framework of public finance at macroeconomic level, starting from fiscal and monetary policy in a standard macroeconomics, public debt in a growing economy, cost-benefit analysis, public goods, international debt and international tax issues.

**Teaching Method:** Lecture is given and then discuss on the topic.

**Covered Topic:**

Monetary and Fiscal Policy  
Budget  
Revenue Forecasting  
Public Debt  
Cost-Benefit Analysis  
Public Goods and Bads  
Local Public Finance  
Finance and Development

テキスト :

Lecture note is provided on website.

(<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kitamura>)

- Jean Hindriks and Gareth D. Myles, *Intermediate Public Economics*, The MIT Press
- Joseph E. Stiglitz, *Economics of the Public Sector*, W. W. Norton.
- A.L.Hillman, *Public Finance and Public Policy*, Cambridge University Press.

成績評価方法 :

Term paper

質問・相談 :

Questions and consultations are accepted before and after class.

---

財政特論（グローバル COE 連携科目）

Advanced Study of Public Finance

商学研究科 特別研究教授 北 村 行 伸

授業形態 : 秋学期 2 単位・講義

授業科目の内容 :

**Objective:** To provide a basic framework of public finance, at microeconomic level, starting from a general theory of taxation on commodity, income and corporate profits and then extending issues of tax evasion, and compliance, and tax reform.

**Teaching Method:** Lecture is given and then discuss on the topic. Sometimes, exercise is given for clarifying your understanding.

**Covered Topic:**

- A Framework of Taxation
- Consumption Taxation
- Individual Income Taxation
- Corporate Taxation
- Capital Income Taxation
- Inheritance and Gift Taxation
- Tax Compliance and Evasion
- Tax Reform

テキスト :

Lecture note is provided on website.

(<http://www.ier.hit-u.ac.jp/~kitamura>)

- Jean Hindriks and Gareth D. Myles, *Intermediate Public Economics*, The MIT Press.
- Joseph E. Stiglitz, *Economics of The Public Sector*, W. W. Norton.
- A. B. Atkinson and J. E. Stiglitz, *Lectures on Public Economics*, McGraw-Hill.
- B. Salanié, *The Economics of Taxation*, The MIT Press

成績評価方法 :

Term paper

質問・相談 :

Questions and consultations are accepted before and after class.

---

ADVANCED FINANCE (PCP)

講 師 塚 原 英 敦

授業形態 : 春学期 2 単位・講義

授業科目の内容 (Course Outline) :

The course, which is the sequel to Introduction to Finance, deals mainly with the asset pricing theory in multiperiod setting. The single period binomial model is first reviewed and then we look at the multiperiod binomial model. The mathematical setup for analyzing the binomial model is the coin toss space (finite probability space). After reviewing the basic concepts such as random variables, distributions, and expectations on this space, we define and examine the key concept of conditional expectation. Then we study two important stochastic processes, namely martingales and Markov processes. A little specialized topic of American-type derivative securities is considered in the binomial model. Finally, the renowned Black-Scholes formula is derived, perhaps a bit informally, by passing to the limit from binomial random walk.

テキスト :

- Steven E. Shreve, *Stochastic Calculus for Finance I: The Binomial Asset Pricing Model*, Springer, 2004

参考書 (References) :

- Reading materials will be suggested in the lectures.

授業の計画 (Topics to be covered) :

1. The Binomial No-Arbitrage Pricing Model: Single Period Case
2. The Binomial No-Arbitrage Pricing Model: Multiperiod Case
3. Probability Theory on Coin Toss Space: Basic Setup, Conditional Expectation
4. Probability Theory on Coin Toss Space: Martingales
5. Probability Theory on Coin Toss Space: Markov Processes
6. Midterm Exam
7. State Prices: Change of Measure, Radon-Nikodym density
8. State Prices: Optimal Investment Problem
9. American Derivative Securities: Simple Case
10. American Derivative Securities: General Case
11. Random Walk: First Passage Time, Reflection Principle
12. From Random Walk to Brownian Motion
13. Passage to the Limit: Black-Scholes Option Pricing formula

履修者へのコメント :

Students are assumed to have taken the PCP course

"Introduction to Finance" and have knowledge on the basic calculus and calculus-based probability theory. No late homework will be accepted!

**成績評価方法 (Grade) :**

• Midterm Exam 40%, Final Exam 40%, Homework 20%

**質問・相談 :**

If you have questions, ask just after the class, or email me at tsukahar@seijo.ac.jp

---

**APPLIED FINANCE (PCP)**

教授 前 多 康 男  
講師 酒 井 良 清

授業形態 : 春学期 2 単位・合同講義

**授業内容 :**

The first section of the course covers macro-aspect of finance, i.e., decisions of the government about how much money to supply to the economy, the channels of monetary policy transmission, the role of central banking, and the role of deposit insurance system.

The second section covers micro-aspect of finance. By using the computer software such as Excel or Mathematica, we study how apply finance theory to the actual financial data. Topics covered in this section include valuation and capital budgeting, binomial option models.

To register this class, basic knowledge about microeconomics and finance is required.

**テキスト :**

To be announced in class.

**参考書 :**

To be announced in class.

**授業の計画 :**

Topics to be covered:

1. The channels of the monetary policy.
2. The role of central banking.
3. The role of deposit insurance system.
4. Financial system: the interaction between market and regulation.
5. Introduction to Mathematica (Review).
6. Implementing one-period and multi-period binomial option models.
7. Valuation and capital budgeting.

**成績評価方法**

• Midterm Exam 50%, Final Exam 50%

**質問・相談 :**

By E-mail.

---

**INTRODUCTION TO FINANCE (PCP)**

教授 前 多 康 男  
准教授 新 井 拓 児

授業形態 : 秋学期 2 単位・合同講義

**授業内容 :**

The course provides a modern portfolio theory and a basic option pricing theory. First, we prepare mathematical preliminaries. In particular, we deal with a basic concept of a probability theory. Second, we study a modern portfolio theory. Topics covered in this section include the mean-variance portfolio analysis, the CAPM. Finally, a basic theory of option pricing models is discussed by dealing with one-period binomial option pricing models. Especially, we study meanings of important terms, for example "arbitrage", "hedging", "martingale probability" and so on. The course also covers the presentation of Mathematica implementation of the model used in Finance. To register this class, basic knowledge about microeconomics is required.

**テキスト :**

To be announced in class.

**参考書 :**

To be announced in class.

**授業の計画 :**

The following topics are covered:

1. Randomness and random variable
2. Expectation and variance
3. Return and risk
4. Mean-variance portfolio analysis
5. CAPM
6. Introduction to option pricing
7. Hedging and arbitrage (one-period binomial model)
8. Martingale probability
9. Introduction to Mathematica
10. Implementing mean-variance model by Mathematica
11. Implementing numerical option pricing models by Mathematica

**成績評価方法**

• Midterm Exam 25%, Final Exam 50%, Homework 25%

**質問・相談 :**

By E-mail.

---

**INTRODUCTION TO LAW AND ECONOMICS (PCP)**

— From the perspective of Comparative Institutional Analysis —

特別招聘教授 鶴 光太郎

授業形態 : 秋学期 2 単位・講義

**授業内容 :**

This course provides an introduction to law and economics but

more emphasizes the perspective of comparative institutional analysis, compared with the standard textbook of this area (e.g. Cooter and Ulen). The first six sessions of the course deal with the role of legal institutions in the economic system of a nation. Then, we move to the role of law in each subsystem, like corporate governance, labor and innovation system. We also discuss the relationship between law and globalization or economic growth. Finally, we consider judicial reform from an economist's view..

Course pre-requisites: introductory microeconomics (e.g. Chapter 2 of Cooter, R and T. Ulen, *Law and Economics*, Fourth Edition, 2004)

### Preliminary Readings

La Porta, R., F. Lopez-de-Silanes and A. Shleifer, "The Economics Consequences of Legal Origins", *Journal of Economic Literature* 46(2), pp285-332, 2008

Week 1 : Guidance

Week 2 : Economics with and without Law: What are institutions?

Week 3 : Legal institutions and economics: LLSV approach

Week 4 : Private ordering

Week 5 : Does legal origin matter?

Week 6 : Legal origin and evolution: A historical perspective

Week 7 : Legal transplantation

Week 8 : Law and corporate governance

Week 9 : Law and labor

Week 10: Law and innovation

Week 11: Law and globalization

Week 12: Law and economic growth

Week 13: Judicial reform

---

### MONETARY AND FISCAL POLICY (PCP)

---

教授 吉 野 直 行

教授 土 居 丈 朗

授業形態 : 春学期 2 単位・合同講義

授業内容 :

Offered to PCP students in the 4th year, undergraduate students in the Faculty of Economics, students in the Graduate School of Economics and exchange students affiliated with the International Centre

This class is financially supported by the Union Bank of Switzerland (UBS). A scholarship for studying outside Japan, also funded by UBS, will be awarded to the student(s) who enrol in this class and show extraordinary effort and competence in writing an academic paper.

Speakers are invited from outside the faculty of economics at Keio University, to lecture in English. Their lectures will be

given from 10:45-12:00AM and students write their summary of the lectures between 12:00-12:15. Evaluation is based on the summary which students must submit after each lecture and the final examination.

The lecture topics and the affiliated institutions of planned speakers are as follows:

- (i) Japanese monetary policy, historical perspectives (Bank of Japan)
- (ii) Japanese financial regulatory policy (Bank of Japan)
- (iii) Monetary policy and the behaviour of private banks (Private sector bank)
- (iv) The role of capital markets in Japan (Investment bank)
- (v) Activities of foreign financial institutions in Japan (Foreign financial institution)
- (vi) The role of FSA (Financial Services Agency)
- (vii) International Finance of Japan (Ministry of Finance)
- (viii) The Asian Financial Market and the role of Japan (Ministry of Finance)
- (ix) The Japanese Government Bond Market (Securities House)
- (x) Fiscal Policy of Japan (Ministry of Finance or Ministry of Land, Infrastructure and Transport)
- (xi) Tax Policy of Japan (Ministry of Finance)
- (xii) Central and local government relations in Japan (Ministry of Internal Affairs and Communications)
- (xiii) Postal privatisation and the Fiscal Investment and Loan Program (Ministry of Finance)

参考書 :

吉野直行編『英語で学ぶ日本経済』有斐閣

---

### FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY (PCP)

---

教授 嘉 治 佐保子

教授 木 村 福 成

授業形態 : 秋学期 2 単位・合同講義

授業内容 :

This class is financially supported by UBS. It is offered to PCP students in the 3rd year, Master's level graduate students and exchange students affiliated with the International Centre.

Students who enrol in this class have a choice of writing a paper independently or jointly.

During the first half of the term, speakers are invited from outside the faculty of economics at Keio University, to lecture in English. Their lectures will be on recent developments in the speakers' respective field of specialisation among the five PCP courses; Environmental Economics, Finance, International Economics, Law and Economics and Japanese

Economy. The speakers will be invited from around the world (including Japan). They will be employees of institutions public and private, as well as in between. The lectures are given from 14:45-16:00 and students write their summary of the lectures between 16:00-16:15. Some speakers may help create opportunities for students to visit trading-floors and factories, to conduct interviews, and to participate in internship programmes.

During the second half of the term, students write their final paper and take turns presenting their progress. Students can freely choose their topic, as long as it is related to the lectures given earlier in the term. They thus train themselves to apply the knowledge and English skills acquired in the classroom to the analysis of real-world economic issues. Those who choose to write a joint paper form groups according to their own interest and engage in joint research.

Students who wish to do so can plan a fieldwork trip, and write their papers on the findings. The professors will help students arrange for this trip by way of introductions and suggestions. Those who plan to take the fieldwork trip in summer should seek advice early in the Spring Term, even though this class is scheduled for the Autumn Term.

As a conclusion to the term, there will be a convocation in which students present their final papers in English.

Evaluation is by class participation and weekly lecture reports (30%), presentations (30%) and final paper (40%).

---

## 現代日本経済論

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

今年度は現代日本経済にとって重要な存在である中小企業を対象に授業を行う。授業で取り上げるテーマは下記の通り。

- ①理論的検討 ②研究史 ③歴史 ④国際比較 ⑤政策  
⑥金融 ⑦サプライヤ・システム ⑧産業集積

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

後日紹介する。

リーディング・リスト：

- ・植田浩史『現代日本の中小企業』岩波書店, 2004 年
- ・植田浩史他『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣, 2006 年

---

## 現代日本経済論

教 授 植 田 浩 史

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

今年度は現代日本経済にとって重要な存在である中小企業を対象に授業を行う。授業で取り上げるテーマは下記の通り。

- ①理論的検討 ②研究史 ③歴史 ④国際比較 ⑤政策  
⑥金融 ⑦サプライヤ・システム ⑧産業集積

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

後日紹介する。

リーディング・リスト：

- ・植田浩史『現代日本の中小企業』岩波書店, 2004 年
- ・植田浩史他『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣, 2006 年

---

## 現代資本主義論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視点から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第 1 回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

---

## 現代資本主義論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視点から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第 1 回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

## 世界経済論

教 授 竹 森 俊 平

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

国際金融、および国際貿易についての重要な Issue について講義する。また、研究を進めるための文献を紹介する。

リーディング・リスト：

文献等については、第一回目の講義の際に指示する。

## 国際貿易論

客員教授 若 杉 隆 平

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

国際貿易・直接投資に関して、基礎理論と実証分析について、中級レベルの講義をする。

授業内容：

対象とする内容は以下のようなものである。

1. Ricardo の貿易理論
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
3. 貿易均衡
4. 特殊要素モデル
5. 完全競争市場の下での貿易政策
6. 不完全競争市場下での貿易政策
7. 直接投資
8. イノベーションと貿易
9. 企業と貿易
10. 自由貿易と地域貿易協定

テキスト：

- ・Robert Feenstra, *Advanced International Trade-Theory and Evidence*, Princeton University Press, 2004
- ・Jagdish Bhagwati, Arvind Panagariya, and T. N. Srinivasan, *Lectures on International Trade*, 2nd edition, The MIT Press, 1998
- ・若杉隆平『現代の国際貿易—マイクロデータ分析—』岩波書店, 2007 年

リーディング・リスト：

論文に関するリーディング・リストは、その都度、紹介する。

## 開発経済論

教 授 木 村 福 成

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

発展途上国の開発において、貿易・直接投資と工業化の関係は避けて通れない重要な問題となってきた。本講義では特に、近年急速に発展しつつあるフラグメンテーション理論と空間経済学に焦点を当て、東アジア経済への適用可能性を検討していく。

国際貿易論、開発経済学の基礎を身につけていることが望ましいが、経済学研究科の他分野、あるいは他研究科からの参加も歓迎する。

授業内容：

初回と第 2 回の講義は、基礎となる国際貿易論の知識、フラグメンテーション理論、東アジア経済の実態についてのサーベイにあてる。第 3 回以降は、短いレクチャーと最新の関連論文の読解を行うこととする。

講義では、活発な質疑応答と discussion が不可欠である。各自事前に十分に準備をして、議論のポイントを整理した上で、講義に臨んでもらいたい。

テキスト：

第 1 回目の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

第 1 回目の講義の際に指示する。

## 国際金融論

教 授 大 垣 昌 夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本講義では、国際金融論と国際マクロ経済学を理論モデルを中心に解説する。テキストに説明のある基本モデルと、そのモデルに関連する論文を説明する。

授業内容：

1. 為替市場や国際収支などの制度的背景。2. マネタリー・モデル。2. ルーカスの 2 国モデル。3. 国際リアル・ビジネス・サイクル・モデル。4. 外国為替市場の効率性。5. 実質為替レート。6. マンデル・フレミング・モデル。7. 新国際マクロ・モデル。8. ターゲット・ゾーン・モデル。授業の進捗状況により、授業内容の多少の変更の可能性もある。

テキスト：

- ・Nelson C. Mark, *International Macroeconomics and Finance*, Blackwell Publishing, 2001

リーディング・リスト：

- ・Baxter, Marianne and Mario J. Crucini, “Explaining Saving-Investment Correlation” *American Economic Review*, June 1993, pp.416-436.
- ・Stockman, Alan C and Tesar, Linda L. “Tastes and Technology in a Two-Country Model of the Business Cycle: Explaining International Comovements.” *American Economic Review*, March 1995, 85(1), pp.168-85.
- ・Kehoe, Patrick J. and Perri, Fabrizio. “International Business Cycles with Endogenous Incomplete Markets.” *Econometrica*, May 2002, 70(3), pp.907-928.

- Obstfeld, Maurice and Rogoff, Kenneth. "New Directions for Stochastic Open Economy Models." *Journal of International Economics*, February 2000, 50(1), pp.117-53.

---

## The Asian Economy

---

グローバルセキュリティ研究所 教授 法 専 充 男

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

Emerging Asia, and China in particular, seems to have become the fastest growing region of the world. The region is full of both great opportunities and enormous challenges. This course provides a broad view of macroeconomic development of emerging Asia and its economic relationship with the rest of the world. The focus of the course is on East Asia, but it also covers India and some other countries in the rest of Asia. Primary emphasis of the course is placed on the general economic trend of the region as a whole, but it also touches upon main distinct characteristics of individual regional economies.

授業内容：

Topics to be covered in the course include the following:

- Post-war economic performance of the region
- Asian crisis in the late 1990s
- Global imbalance and Asia
- Emergence of China and its impact on the world economy
- Regional economic integration
- Intra-Asia trade and investment relationship
- Emerging Asia's trade and investment relationship with Europe and the United States
- Exchange rate regimes and regional financial issues
- Risks and vulnerabilities of the Asian economies
- Ageing of the Asian economies.

リーディング・リスト：

To be announced in the class.

---

## OPEN ECONOMY MACROECONOMICS (PCP)

---

教授 嘉 治 佐保子

授業形態：春学期集中 4 単位・講義

授業内容：

This class is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, Master's level graduate students and exchange students affiliated with the International Centre.

The purpose of this class is to introduce basic concepts and basic analytical frameworks of Open Economy Macroeconomics, and to encourage students to apply them in thinking about real-world issues. Students who attend this class are assumed to have sufficient knowledge of entry-level

macroeconomics and microeconomics.

Evaluation is 30% by class participation and 70% by final examination.

Lecture Notes:

<http://ocw.dmc.keio.ac.jp/economics/index.html>

Topics:

- I .A Review of Closed Economy Macroeconomics  
IS-LM Analysis, Aggregate Supply, and Aggregate Demand
- II .Basic Concepts in Open Economy Macroeconomics  
Small Country Assumption, Stock vs. Flow, The Balance of Payments, The Exchange Rate, The Interest Rate Parity Condition
- III .Theories of Exchange Rate Determination  
Purchasing Power Parity, Stock Equilibrium Approach, Flow Approach, The Marshall-Lerner Condition, The J-curve Effect
- IV .The Mundell-Fleming Results  
The M-F Result and the Structure of the Model — a Simple Model, The M-F Result under Fixed Exchange Rates, Alternative Assumptions: Two-Country, Imperfect Capital Substitution, The M-F Result under Flexible Exchange Rates, Alternative Assumption: Two-Country
- V .The Speed of Adjustment of Endogenous Variables and Overshooting
- VI .Economic Interdependence and Choice of Exchange Rate Regimes

References:

Canzoneri, M. and D. Henderson, "Is Sovereign Policymaking Bad?" *Carnegie-Rochester Conference Series on Public Policy* No.28, pp.93-140, 1988

Dornbusch, Rudiger, *Open Economy Macroeconomics*, Basic Books, Chapter 10, Chapter 11, 1980

Kaji, Sahoko, *Kokusai Tsuka Taisei no Keizai Gaku (The Economics of Exchange Rate Systems)*, Ninon Keizai Shimbun Publishing, 2004

---

## DEVELOPMENT ECONOMICS (PCP)

Current Issues on International Development

---

特別招聘教授 深 作 喜一郎

授業形態：春学期特定期間集中 2 単位・講義

開講日時：7 月 29 日（水）～ 7 月 31 日（金） 各日 2～5 時限，  
8 月 1 日（土） 2～4 時限

授業内容：

### Description:

This course is an introduction to development economics and to current issues on international development. It combines a series of lectures and presentations of term papers by students. Lectures deal with a wide range of topics, including the comparative development of East Asia and Africa; contemporary models of development and underdevelopment; trade policy and development experience; foreign finance, investment and aid; policy coherence for development; and the role of international organisations.

### Readings:

Required Textbook – Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, *Economic Development*, 10<sup>th</sup> edition, Pearson, Addison Wesley, 2008

([http://www.aw-bc.com/todaro\\_smith](http://www.aw-bc.com/todaro_smith))

As this textbook demonstrates, the scope of development economics is huge, touching upon almost every field of economics. During the course, some chapters will be used more intensively than others. This course also takes up several current issues on international development, in which case lectures and discussions go beyond the textbook, and supplementary reading materials will be provided.

### Requirements:

Assessment will be based on a term paper (two-thirds of grade) assigned to each student and presentation of a term paper (one-third of grade) during the course.

### Term Papers:

Each student is requested to submit a draft term paper at Gakuji centre by 17 July 2009. He/she can choose two topics from the “Questions for Discussion” part of Chapters 2, 3, 4, 9, 12 and 14, and write short essays on them. It is expected that each essay is about 800–1,000 words long, but topics need to be selected from different chapters. During the course, each student is requested to make a presentation on one of his/her essays. At the last session, each student will have an opportunity to revise and finish one selected essay as a final term paper, before submission for grading.

### Course Outline:

See the attachment. Note that this is provisional. The course outline may be modified according to the needs of students.

#### *Part I – Development Economics*

##### Day1

Session 1 Introduction and Overview

Session 2 Comparative Development (Todaro & Smith 10<sup>th</sup> ed. Ch2 and part of Ch5)

Session 3 Different Theories of Development (Todaro & Smith 10<sup>th</sup> ed. Ch 3–4)

Session 4 Presentations by Students and Discussions (1)

##### Day2

Session 5 Agricultural Transformation (Todaro & Smith 10<sup>th</sup> ed. Ch 9)

Session 6 Trade and Development (Todaro & Smith 10<sup>th</sup> ed. Ch 12)

Session 7 Foreign Finance, Investment and Aid (Todaro & Smith 10<sup>th</sup> ed. Ch 14)

Session 8 Presentations by Students and Discussions (2)

##### Day 3

#### *Part II – Current Issues on International Development*

Session 9 Topic (1) African Economic Outlook 2009: ICT for Development

Session10 Topic (2) African Agriculture: Meeting the Challenges

Session11 Topic (3) The Global Financial Crisis and Developing Countries

Session12 Presentations by Students and Discussions (3)

##### Day 4

Session13 Topic (4) The Rise of China and India and Implications for Developing Asia

Session14 Presentations by Students and Discussions (4)

Session15 Wrap-up (and final submission of term papers)

---

## INTERNATIONAL TRADE (PCP)

教授 木 村 福 成

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

This course deals with international trade theory and its applications for students who seek a career path in international setting. The main objective of this course is to study a comprehensive, up to date, and clear exposition of the theory of international trade so as to understand the basis for and the gains from trade. In particular, we place emphasis on various methods of empirical and policy studies to be learnt through practical exercises.

#### 授業内容：

The class includes concise lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

##### 1. The positive theory of international trade

The Ricardian model, the Heckscher-Ohlin model, international factor movements, intra-industry trade

##### 2. The normative theory of international trade

Effects of trade policies, the distortion theory, the political economy of international trade

##### 3. New topics on international trade

Globalizing corporate activities, the fragmentation theory, new economic geography, regionalism and multilateralism, trade and exchange rates

Course grades are determined by the performance in the term paper (30%) and exercises, presentation, and discussion in class (70%).

#### テキスト：

- Feenstra, Robert C. and Taylor, Alan M., *International Trade*. New York: Worth Publishers, 2008

#### リーディング・リスト：

To be announced.

---

#### INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (PCP)

教授 木村 福成

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

Although regionalism has become a major channel of international commercial policies these days, its logical background in international law and economy has still been controversial issues. This class reviews the recent development of the literature on “the multilateralizing regionalism” and discusses the future of international trade regime from both economic and legal points of view.

#### 授業内容：

The class includes concise lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. Economic and aspects of regionalism and multilateralism
3. Legal aspects of regionalism and multilateralism
4. Policy issues on tariffs and other trade impediments
5. Policy issues on the rules of origin
6. Policy issues on services trade
7. Implication for developing countries

Course grades are determined by the performance in report writing (twice in a semester; 40%) and presentation and discussion in class (60%).

#### テキスト：

- Papers presented in the WTO Conference on “Multilateralising Regionalism” ([http://www.wto.org/english/tratop\\_e/region\\_e/conference\\_sept07\\_e.htm](http://www.wto.org/english/tratop_e/region_e/conference_sept07_e.htm)). Other materials are to be announced in class.

#### リーディング・リスト：

To be announced.

---

#### INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (PCP)

教授 木村 福成

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

Countries in the world, particularly developing countries, are increasingly confronted with the need to address trade policy related issues in international agreements, most prominently the World Trade Organization (WTO). This lecture examines key disciplines and the functioning of the WTO and discusses a number of issues and options that countries confront to improve domestic policy and obtain access to the world market. Many of the issues discussed are also relevant in the context of regional integration agreements.

#### 授業内容：

The class includes concise lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. The major aspects of the WTO from a development perspective
3. Policy issues in the area of merchandise trade
4. Policy issues in the area of services trade
5. Protection of intellectual property rights
6. New regulatory subjects that are emerging in the agenda of trade talks
7. Multilateralism and regionalism

Course grades are determined by the performance in report writing (twice in a semester; 40%) and presentation and discussion in class (60%).

#### テキスト：

- Hoekman, Bernard; Mattoo, Aaditya; and English, Philip., *Development, Trade, and WTO: A Handbook*. Washington, DC: The World Bank, 2002
- Hoekman, Bernard M. and Kostecki, Michel M., *The Political Economy of the World Trading System: The WTO and Beyond*. Oxford: Oxford University Press, 2001

#### リーディング・リスト：

WTO Homepage (<http://www.wto.org/>).

---

## International Economy (グローバル COE 連携科目)

商学研究科 教授 (フジタ・チェアシップ基金)

柏 木 茂 雄

授業形態 : 春学期 2 単位・講義

授業内容 :

The objective of this course is to discuss and understand how international economic issues are being addressed by policy makers around the world.

The course will take up issues such as those related to global economic situations and various policy issues that have recently arisen in the international context. Students will have the opportunity to study and discuss the challenges imposed on policy makers in the current globalized world. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The class discussions will enable students to familiarize themselves with these issues and to engage in discussions in a more informed and effective manner.

There will be no textbooks. Handouts and/or copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active class discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change):

- Introductory discussions
- The world economic outlook
- The global financial crisis
- The global imbalance
- The role of the IMF
- Climate change and economic policies
- Poverty reduction and economic development
- Aid effectiveness
- Foreign direct investment
- The role of effective institutions

This course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. The emphasis of this course will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues. There are no pre-requisites for this course, but it would be preferable and advisable for students to have strong interest in and basic knowledge about international economics.

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a term paper to be prepared on a relevant

topic towards the end of the semester.

---

## Japanese Economy (グローバル COE 連携科目)

商学研究科 教授 (フジタ・チェアシップ基金)

柏 木 茂 雄

授業形態 : 秋学期 2 単位・講義

授業内容 :

### Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

Topics to be covered include the following (subject to change):

- Introduction and overview
- Historical background of the Japanese economy
- Economic and political institutions in the 1970s
- The “High-Water Mark” from 1980 to 1985
- The bubble economy from 1985 to 1990
- Economic and financial distress from 1990 to 2001
- Why did the economic and financial distress last so long?
- The transition of political institutions in the 1990s
- Political economy of the fiscal program
- The Koizumi reform
- Corporate governance, labor practices and citizens’ life
- Japanese political economy in the new century

The course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. There are no pre-requisites for this course, but it would be advisable for students to have strong interest in the Japanese economy and some basic knowledge about macro-economics. Students should take turns to report to the class the discussions made in the assigned chapters of the textbook or other relevant papers. Students are expected to actively participate in classroom discussions in English.

Evaluation will be based on attendance, class participation and preparation of a term paper on a relevant topic to be submitted towards the end of the semester.

テキスト：

Required Reading:

- Cargill, Thomas F. and Takayuki Sakamoto, *Japan Since 1980*, Cambridge University Press, New York, 2008

参考書：

Optional Reading:

- Ito, Takatoshi, *The Japanese Economy*, The MIT Press, Cambridge Massachusetts, 1997
- Organization for Economic Co-operation and Development, *OECD Economic Surveys JAPAN*, OECD, Volume 2008/4, April 2008

---

### 国際関係特論（グローバル化の政策的含意）（グローバル COE 連携科目）

Advanced Studies of International Relations  
(Globalization and its Policy Implications)

商学研究科 教授（フジタ・チェアシップ基金）

柏 木 茂 雄

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

Objectives and Description:

The objective of the course is to discuss and understand the policy implications of economic globalization.

The course will provide opportunities for students to examine various aspects of policy issues that have arisen from the increased integration of economies and the emergence of many global issues. Students will review the challenges imposed on policymakers from globalization and explore ways to enhance international cooperation to meet these challenges. Classroom discussions will enable students to follow and understand the discussions that are taking place at various international meetings and to engage in more informed and effective discussions on various issues related to economic globalization. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The emphasis will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues.

The course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. There will be no textbooks. Handouts and copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make

presentations on his/her assigned papers and engage in active classroom discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change):

- Introductory discussions
- Globalization and macroeconomic policies
- Globalization and fiscal policies
- Financial globalization
- Globalization of labor
- Globalization and trade policies
- Globalization and income inequality
- Policy coherence for development
- Globalization and regional integration
- Global governance

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a final report to be prepared on a relevant topic towards the end of the semester.

---

### 経済地理学

教 授 杉 浦 章 介

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

都市経済や地域経済についての経済地理学ならびに空間経済学の最新の研究文献を輪読しながら、理論と実証の両面について理解を深める。

授業内容：

下記のテキストを中心に関連文献を輪読する。

テキスト：

- ① Doreen Massey, *World City*, Polity Press, 2007
- ② Roger Tooze and Christopher May (eds.), *Authority and Markets: Susan Strange's writings on International Political Economy*, Palgrave Macmillan, 2002

---

### 経済地理学

教 授 杉 浦 章 介

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

春学期の継続。

---

### 経済地理学

教 授 武 山 政 直

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

都市空間におけるメディアの利用や消費者行動を対象に、遊びやゲーム、ストーリーテリングの設計論的フレームワークを通じて分析する。

#### 授業内容：

下記のテキストの中の文献を輪読し、ディスカッションする。関連するネット上の資料等も適宜補足する。また可能な限りフィールドワークも取り入れる。

#### テキスト：

- ・Jon Sundbo and Per Darmert, *Creating Experience in the Experience Economy*, Edward Elgar Publishing, 2008
- ・Katie Salen and Eric Zimmerman, *Rules of Play*, The MIT Press, 2004
- ・Carolyn Handler Miller, *Digital Storytelling, Second Edition*, Focal Press, 2008

#### 経済地理学

教授 武山政直

授業形態：秋学期2単位・講義

#### 目標・意義・方法：

春学期の継続

#### 都市経済論（グローバルCOE連携科目）

教授 瀬古美喜

授業形態：春学期2単位・講義および演習

#### 目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

#### 授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析、住宅市場と住宅問題、都市における集積と規模の経済、都市の成長、都市交通などに関する文献を取り上げ、検討する。

#### テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

#### リーディング・リスト：

- ・Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996（瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001年）
- ・J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- ・Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: Regional Economics, Vol.2: Urban Economics, Vol.3: Applied Urban Economics, North-Holland and Elsevier Science Publisher
- ・M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999（小出訳『空間経済学』東洋経済新報社）
- ・M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*,

Cambridge University Press, 2002

- ・日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）
- ・黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学』[新版] 有斐閣ブックス、2008年
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社、1998年
- ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社、1997年
- ・Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to Urban Economics*, Blackwell, 2006

#### 都市経済論

教授 瀬古美喜

授業形態：秋学期2単位・講義および演習

#### 目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

#### 授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析、住宅市場と住宅問題、都市における集積と規模の経済、都市の成長、都市交通などに関する文献を取り上げ、検討する。

#### テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

#### リーディング・リスト：

- ・Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996（瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001年）
- ・J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- ・Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: Regional Economics, Vol.2: Urban Economics, Vol.3: Applied Urban Economics, North-Holland and Elsevier Science Publisher
- ・M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999（小出訳『空間経済学』東洋経済新報社）
- ・M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- ・日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）
- ・黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学』[新版] 有斐閣ブックス、2008年
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社、1998年
- ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社、1997年
- ・Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to*

## 環境経済論

教 授 細 田 衛 士

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本授業では、環境経済学の理論的基礎を講義する。環境経済学の理論としては、伝統的な新古典派のアプローチや新制度学のアプローチなど多様な分析手法がある。ここでは、環境経済学のテキストで既に定着しつつあるものを中心に講義を進める。講義の流れは以下の授業内容の通りである。尚、取り上げる内容には若干の変更もあり得る。

授業内容：

- 第 1 章 環境経済学の流れ
- 第 2 章 公共財としての環境
- 第 3 章 環境問題と所有権：制度学派的アプローチ
- 第 4 章 オープンアクセスと再生可能資源
- 第 5 章 再生不可能資源
- 第 6 章 課税政策
- 第 7 章 排出権売買制度
- 第 8 章 デポジット制度
- 第 9 章 コースの定理
- 第 10 章 廃棄物とリサイクル
- 第 11 章 汚染者支払い原則
- 第 12 章 開発と環境保全

テキスト：

・細田衛士・横山彰『環境経済学』有斐閣アルマシリーズ  
(但し、参考文献程度である)

リーディング・リスト：

授業第 1 時間目に示す

## 社会史

教 授 長谷川 淳 一  
教 授 矢 野 久  
准教授 井 手 英 策  
准教授 難 波 ちづる

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

授業内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くために、「総合の学」＝関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特徴としている。担当者はイギリス、フランスとドイツにおける都市と文化、労働と消費、生活環境、植民地支配などを専門の守備範囲としているが、受講者の研究テーマ、問題関心が重なれば受講を歓迎する。考察対象地域も英仏独に限定するものではない。授業の形式は演習方式とし、講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起、方法的枠組の再構

築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

## 社会史

教 授 長谷川 淳 一  
教 授 矢 野 久  
准教授 井 手 英 策  
准教授 難 波 ちづる

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

授業内容：

春学期参照。

## 人口論

教 授 津 谷 典 子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

当科目の目的は、わが国の少子高齢化について、近年の人口学および経済学における理論的および計量分析的展開を理解し、それを学生諸君の今後実証的分析に基づく研究に応用するための学習をすることにある。ここでは特に、少子高齢化や未婚化などの人口変動に関する形式人口学的研究と、その社会経済的要因のライフコース分析（Life course analysis）を中心とした多変量解析モデルを用いた研究に関する内外の文献を購読し、その理論的（theoretical）かつ技術的（technical）意味を多面的に検討する。

近年、多変量解析のためのマイクロ・データの入手が以前に比べ容易になり、またライフコース分析を応用することのできるパネル調査および出産歴、就業歴、結婚歴などのライフ・ヒストリーに関する大規模調査データも収集されている。これら調査データを使つての学生諸君自身の研究への応用についても適宜アドバイスする。

授業内容：

本科目では、担当者があらかじめ選定した論文のリーディング・リストに従い、毎週学生諸君が論文の内容について報告を行う。その後、担当者および学生報告者への質疑応答、そしてクラス全体での討論を行い、最後に担当者が論文テーマおよび内容についてのまとめとして短い講義を行う。学期の終わりには、担当者が指示するテーマについてレポートを課すが、もし自分自身のテーマでレポートを書きたい場合は、それも可能である。

さらに、学生諸君が現在行っている（もしくは行つためのプロポーザルを作成中である）研究論文についての報告も、時間的余裕とニーズがあれば実施する。担当者および他の学生諸君からの質問とコメントをもらい、クラス討論を行う。これを通じて、学会での報告および論

文執筆の準備とすることが望まれる。

#### リーディング・リスト：

学期の最初に配布する。

---

### INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS (PCP)

---

教授 バティアー, ロジャー M.

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

This course aims to give students a comprehensive overview of the international regimes currently in place to deal with the main environmental problems we now face. We will look not only at the evolution of the issues themselves, but also the institutions which have been created to deal with them, and the legal measures which have been enacted to address them. The course is not theory-based, but aims to give students a variety of perspectives on the problems. Students are expected to familiarize themselves with a wide range of current data, and to be able to see the uses and abuses to which these data may be put.

#### 1. Global Environmental Problems – An Overview

Which problems are global environmental problems? Why? Inter-generational equity. A short history of environmental awareness.

#### 2. What is Sustainable Development?

The link between environment and development. Defining sustainable growth.

#### 3. North and South

Key Backgrounds to the E&D debate: population; urbanization; land-use; political systems: common agendas in the North; different agenda of the South.

#### 4. International Institutions and the Environment

The UN system and the Environment. Stockholm 1972, Rio 1992. Other multi-lateral institutions. The role of NGOs.

#### 5. International Law and the Environment/Pesticides

An overview of the evolution of legal regimes dealing with international environmental issues. Pesticides as a test case.

#### 6. Trade in Endangered Species/CITES

Environment and Trade. Efforts to Control Species Trade. The CITES mechanism. Successes and Failures.

#### 7. Biodiversity/The Biodiversity Convention

The wider biodiversity issue. What is biodiversity? Where is it? Whose is it? Conservation – is it possible? Necessary? By whom? For Whom?

#### 8. The Ozone Problem/The Montreal Protocol

A success story? Defining a problem. Finding an international solution and building on it. The limits to the deal.

#### 9. Global Warming/Kyoto Protocol and Beyond

The politics of climate change. Why is global warming such a contentious issue? Can we do much to stop it? If so, what? If not, what then?

#### 10. Desertification/The Limits to International Action

When is a global problem not a global problem? Effects and the affected. Land use, farming, and the North-South divide.

#### 11. Fishing

Subsidizing destruction. The rush to deplete stocks. Difficulties in finding an institutional framework.

#### 12. Technology, Markets, Laws and Social Change

Policies to combat environmental problems. Getting the right mix. Actors and Agents. Incentives for change.

#### 13. The Future?

The nature of our problems. Obstacles to change. The nation state and the global environment.

#### Evaluation:

- 30% Final Exam
- 30% Presentation in Class
- 20% Attendance
- 20% Mid-Term Exam

#### References:

- UNDP, Human Development Report(s), 2000-2004 OUP.
- World Resources Institute, World Resources, 2000-2004 OUP.
- Scott Barrett, Environment and Statecraft OUP, 2003
- P. Birnie and A. Boyle, International Law & Environment [2], 2002
- B. Lomberg, The Skeptical Environmentalist, 2001

---

### ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY (PCP)

---

講師 高村 ゆかり

授業形態：春学期特定期間集中 2 単位・講義

#### 開講日時：

7 月 29 日 (水) 2 ～ 4 時限

7 月 30 日 (木), 8 月 6 日 (木), 8 月 7 日 (金) 各日 2 ～ 5 時限

#### 目標・意義・方法：

Law is essential for preventing environmental damage as well as for improving environmental quality. However, the law disregarding economic principles could make our economy disordered and could make it even impossible to achieve our goal for protecting the environment. On the other hand, any economic activity cannot ignore legal rules related to the activity. This course aims at studying environmental law including international environmental law, especially focusing on interrelationship between environmental law and economy.

**Grading** : Class participation (50%) and final exam (50%)

### Course requirements :

All students are expected to attend every class, do the assigned reading, and participate actively in discussions.

### 授業内容 :

The main topics of the course are as follows:

#### 1. Environmental Law: Its Origin and Developments

Environmental law is a body of public regulations intended for combating against environmental pollution and adverse impacts on the environment due to expansion and developments of economic activities. The course deals with the history of environmental law, considering historic developments of economic activities.

#### 2. Fundamental Principles of Environmental Law

Environmental law in each country has been evolving, influenced by policy coordination and environmental regulation at international level, and it has developed common fundamental principles, which constitute pillars of its legal system. The lecture deals with some of such principles, including polluter-pays principle (PPP) and precautionary principle.

#### 3. Instruments Aiming at Environmental Protection

Environmental law makes use of various instruments in order to achieve its goal for environmental protection. In addition to traditional "command and control", we examine economic instruments, such as emissions trading, environmental tax and subsidies, which have received more and more attention recently.

#### 4. Climate Change as Case Study

Climate change law is a showcase where we see a number of examples of practical application of principles and policy instruments. Studying history and structure of the United Nations Framework Convention on Climate Change and the Kyoto Protocol, the lecture examines how these two climate agreements and national regulations implementing these agreements apply principles and policy instruments actually.

#### 5. Environmental damage, liability and responsibility

The lecture surveys legal rules on liability and responsibility for environmental damage caused by activities of economic actors.

#### 6. International business activities and environmental law

The course surveys international environmental regulations on business activities in overseas market and foreign investment

and examine related legal problems.

### リーディング・リスト :

#### Recommended readings for the course :

- Philippe Sands, *Principles of International Environmental Law*, Second edition, Cambridge University Press, 2003
- Patricia Birnie & Alan Boyle, *International Law & the Environment*, Second edition, Oxford University Press, 2002
- Patricia Birnie & Alan Boyle, *Basic Documents on International Law & the Environment*, Oxford University Press, 1996
- Japan Environmental Council ed., *The State of the Environment in Asia 2005/2006*, Springer-Verlag Tokyo, 2005
- \*Other materials will be instructed in the class.

---

### ACADEMIC WRITING (PCP) ( I )

---

法学部 訪問講師(招聘) ファロン, ルース. C

授業形態 : 春学期 2 単位・講義

**Course description:** This course will emphasize the process of writing academic research reports in English following acceptable protocols and international standards of academic research. Each student will prepare an original research paper of 10 to 15 pages during the semester. Other short writing assignments will be included in the course. There will be strict deadlines for each step in the planning, drafting and revising the final report. Models of longer research papers and essays on topics related to economics will be provided as course materials. Students will share drafts of their writing and will also give constructive evaluations of others' writing and research. All class activities will be conducted in English.

**Text:** Alice Oshima and Ann Hogue Pearson, *Writing Academic English (Fourth Edition)*, Longman, 2006

#### **Syllabus:**

- |              |                                                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| Week 1.      | Students will hand in a short essay as an initial writing sample.<br>WAE Chapter 9 |
| Weeks 2-4.   | Essay #2; WAE Chapter 8<br>Review of unity and coherence in long essays, reports   |
| Weeks 5-7.   | Outlines for combined essays; focusing a topic<br>Analyzing model research reports |
| Weeks 8-10:  | Documentation; incorporating references into paragraphs<br>Individual consultation |
| Weeks 11-12. | Revising and polishing the first draft                                             |
| Week 13.     | Final paper due; writing abstracts                                                 |

#### **Expectations:**

Students who take this course must be able to organize essays in English with relative fluency. Homework assignments for the planning and drafting of the research paper must be submitted by the due dates. Students will be expected to participate actively in class activities and offer constructive criticism of other students' drafts which they will review in the class. A student's grade in the class will be based on:

Homework 30%  
Attendance/participation 30%  
Final research paper 40%

## ACADEMIC WRITING (PCP) (Ⅱ)

法学部 訪問講師(招聘) ファロン, ルース. C

授業形態: 春学期 2 単位・講義

ACADEMIC WRITING (PCP) (Ⅰ) 参照。

## CRITICAL THINKING SKILLS (PCP)

教授 松岡 和美

授業形態: 春学期 2 単位・講義

授業内容:

The goal of this course will be to teach students in the PCP program to respond to alternative points of view. The skill which will be emphasized in this class is asking critical questions to evaluate an argument. Students first learn to understand the basic structure of an argument, which consists of issue, conclusion, and reasons. After that, they will learn to identify ambiguous expressions, hidden assumptions, and examples of well-known fallacies. Discussions of evaluating different types of evidence, statistics, rival causes, possibly omitted information follow. Students learn and apply the idea they learn in class to the materials of weekly written assignments and the final exam. All sessions will be conducted in English.

テキスト:

- Browne, M. Neil / Keeley, Stuart M., *Asking the Right Questions: A Guide to Critical Thinking 8<sup>th</sup> Edition*. Prentice Hall, 2003

参考書:

- Moore, B. N. and Parker R., *Critical Thinking: 9<sup>th</sup> edition*. McGraw-Hill, 2009

授業の計画:

1. Orientation; The Benefit of Asking the Right Questions
2. Critical Thinking Basics; What Are the Issue and the Conclusion?
3. What Are the Reasons?
4. Vagueness and Ambiguity; Defining Terms; What Words or Phrases Are Ambiguous?
5. What Are the Value Conflicts and Assumptions?

6. What Are the Descriptive Assumptions?
7. Rhetorical Devices; Are There Any Fallacies in the Reasoning?
8. Credibility; How Good Is the Evidence?
9. Causal Explanation; Are There Rival Causes?
10. Are the Statistics Deceptive?
11. What Significant Information Is Omitted?
12. What Reasonable Conclusions Are Possible?
13. Written Exam

担当教員から履修者へのコメント:

The instructor expects students to have a professional attitude in the class. Two unexcused absences will lead to the failure of this course. No assignment will be accepted past its deadline. Speaking up without being called on will be crucial to be successful in this class.

成績評価方法:

Weekly Assignments (40%), Classroom participation, attendance (20%), Final exam (40%)

質問・相談:

Students should read and use the information on the course homepage (<http://web.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/>) before each class. A weekly office hour is available for student consultation. Questions can also be asked through e-mail.

## 演 習 科 目

### ミクロ経済学演習

准教授 石 橋 孝 次  
准教授 白 井 義 昌  
准教授 玉 田 康 成  
准教授 津 曲 正 俊

授業形態: 春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法:

経済主体が意思決定を行う際に用いる情報そしてその行動誘因の問題を明示的に取り扱う経済諸モデルの文献を講読する。論文をいかに読み込むか、そして経済問題をどのように組み立て分析するのかということを知得すること、さらに修士論文作成のための問題意識醸成を演習の目的とする。

扱うトピックスとしては契約および組織の基礎理論、その応用としての産業組織論、労働市場および金融市場の分析などである。

| ミクロ経済学演習 |     |         |  |
|----------|-----|---------|--|
|          | 准教授 | 石 橋 孝 次 |  |
|          | 准教授 | 白 井 義 昌 |  |
|          | 准教授 | 玉 田 康 成 |  |
|          | 准教授 | 津 曲 正 俊 |  |

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

| ミクロ経済学演習 |     |       |  |
|----------|-----|-------|--|
|          | 准教授 | 穂 刈 享 |  |

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

協力ゲームの分野における未解決問題に取り組む。また、受講者の希望があれば (1) ネットワーク形成のモデル及び (2) 離散時間のサーチ・モデルについての講義またはテキスト・論文の輪読も行う。

| ミクロ経済学演習 |     |       |  |
|----------|-----|-------|--|
|          | 准教授 | 穂 刈 享 |  |

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期に引き続き、協力ゲームの分野における未解決問題に取り組む。また、受講者の希望があれば、(1) ネットワーク形式のモデル及び (2) 離散時間のサーチ・モデルについての講義又はテキスト・論文の輪読も行う。

| ミクロ経済学演習（ゲームの理論）〈東京工業大学にて開講〉 |      |         |  |
|------------------------------|------|---------|--|
|                              | 教 授  | 中 山 幹 夫 |  |
|                              | ※講 師 | 武 藤 滋 夫 |  |

(※東京工業大学設置科目「ワークインプログレスセミナー」担当者)

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

ゲーム理論とその応用を中心とした研究発表をセミナー形式で行う。

| ミクロ経済学演習（ゲームの理論） |      |         |  |
|------------------|------|---------|--|
|                  | 教 授  | 中 山 幹 夫 |  |
|                  | ※講 師 | 武 藤 滋 夫 |  |

(※東京工業大学設置科目「上級協力ゲーム理論」担当者)

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

交渉ゲームおよび特性関数形ゲーム (TU ゲーム)、特性関数形ゲーム (NTU ゲーム) さらに戦略形協力ゲームの基礎理論を講義と演習を通して学び、論文を作成する力を養う。

なお、本講義は、慶應義塾大学大学院経済学研究科と東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻との

共同授業科目であり、東京工業大学においては「上級協力ゲーム理論」として開講される。講義室は、2009 年度は慶應義塾大学の講義室を用いる。講義時間は、秋学期 4 時限を予定している。

授業内容：

前半は、武藤が講義を担当し、中山がコメントおよび演習を担当する。

後半は中山が講義を担当し、武藤がコメント及び演習を担当する。15 回を予定しているが短縮することもある。

第 1 回 はじめにー協力ゲーム理論とは

第 2 回 交渉ゲーム

第 3 回 ナッシュ交渉解

第 4 回 特性関数形ゲーム

第 5 回 コア

第 6 回 仁

第 7 回 シャープレイ値

第 8 回 提携を許す戦略形ゲーム、強ナッシュ均衡、例示

第 9 回 結託耐性ナッシュ均衡、例示

第 10 回  $\alpha$  コアと  $\beta$  コア、スカーフの定理

第 11 回 (続き) 例示：優位懲罰戦略、自己拘束的戦略

第 12 回 応用

第 13 回 NTU ゲームとコア、凸性と懲罰優位

第 14 回 NTU コアの存在定理

第 15 回 学期末試験

参考書：

武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2001 年  
中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005 年  
中山幹夫他『協力ゲーム理論』勁草書房、2008 年

リーディング・リスト：

上記、参考書など

| ミクロ経済学演習（ゲームの理論） |      |         |  |
|------------------|------|---------|--|
|                  | 教 授  | 中 山 幹 夫 |  |
|                  | ※講 師 | 武 藤 滋 夫 |  |

(※東京工業大学設置科目「ワークインプログレスセミナー」担当者)

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義および演習

目標・意義・方法：

ゲーム理論とその応用を中心とした研究発表をセミナー形式で行う。

| マクロ経済学演習 |     |         |  |
|----------|-----|---------|--|
|          | 教 授 | 塩 澤 修 平 |  |

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

家計の貯蓄行動、企業の投資行動、さらには企業の生産技術や労働、土地等の本源的生産要素の賦存量および

その効率が所与とされるような静態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し、学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び、関連文献を講読するとともに修士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

#### マクロ経済学演習

教授 塩 澤 修 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

家計の貯蓄行動、企業の投資行動、さらには企業の生産技術や労働、土地等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が所与とされるような静態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し、学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び、関連文献を講読するとともに修士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

#### 数理経済学演習（Ⅰ）

教授 尾 崎 裕 之

教授 須 田 伸 一

教授 丸 山 徹

商学部 教授 小 宮 英 敏

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

（Ⅰ）非線形動学と景気変動

（Ⅱ）確率解析と金融資産価格の変動

（Ⅲ）凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む）

（Ⅳ）均衡分析の基本問題

「数理経済学演習（Ⅱ）」と併せて履修することが望ましい。

#### 数理経済学演習（Ⅱ）

教授 尾 崎 裕 之

教授 須 田 伸 一

教授 丸 山 徹

商学部 教授 小 宮 英 敏

特別招聘教授 イオッフエ、アレクサンダー

特別招聘教授 ロッカフェラー、ティレル R.

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

（Ⅰ）非線形動学と景気変動

（Ⅱ）確率解析と金融資産価格の変動

（Ⅲ）凸解析と変分法（多価作用素の解析を含む）

（Ⅳ）均衡分析の基本問題

「数理経済学演習（Ⅰ）」と併せて履修することが望ましい。

#### 経済数学演習

教授 尾 崎 裕 之

教授 グレーヴァ香子

教授 中 村 慎 助

教授 中 山 幹 夫

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

数理経済学およびゲーム理論に関する基本的な文献の講読ならびに各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

#### 計量経済学演習

教授 木 村 福 成

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易論と開発経済学を中心とする応用経済学における実証・政策研究について学ぶ。

国際経済学・開発経済学の分野では、さまざまな政策的課題が実際の経済あるいは政策担当者から提示されているが、それに対し経済学者は十分な解答を用意しているとはいいがたい状況にある。経済学を十分駆使した政策研究を行うためには、政策論議に対する関心とバランス感覚に加え、経済学の応用理論、統計学・計量経済学上の手法、統計データの扱い方、分析結果のプレゼンテーションなど、さまざまな能力が要求される。本科目では、担当者が現在行っている諸研究も含め、当該分野のプロ

ンティアの諸課題を取り上げ、経済学の現実問題への応用はいかに行い得るかについて勉強していく。

#### 授業内容：

今学期は特に、以下の本の読解から授業を開始することとする。

Combes, Pierre-Philippe; Mayer, Thierry; and Thisse, Jacques-Francois, *Economic Geography: The Integration of Regions and Nations*. Princeton: Princeton University Press, 2008

成績は、講義における discussion への貢献度 (40%) と学期末のレポート (文献の批判的レビューなどでもよい) (60%) によって評価するものとする。

#### テキスト：

- ・Combes, Pierre-Philippe; Mayer, Thierry; and Thisse, Jacques-Francois, *Economic Geography: The Integration of Regions and Nations*. Princeton: Princeton University Press, 2008

---

#### 計量経済学演習

准教授 田 中 辰 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 授業内容：

本講義の目的は 2 つある。(1) GAUSS を使って計量経済学の基礎を学ぶこと, (2) IT 産業に関する理論・実証ペーパーを読み, 自分の論文のテーマを見つけること, の 2 点である。どちらを主としてとりあげるかは集まった学生の要望を聞いて決める。以下, 順に説明する。

- (1) ガウス (GAUSS) は行列演算が得意なソフトウェアであり, 計量分析の推定プログラムが効率よく組める。たとえば, 最小 2 乗法の推定値は  $b = (X' * X)^{-1} X' y$  であるが, ガウスではこのままこの式をプログラム中に書けば良い。理論式がそのままプログラム中に現われるので, 理論との対応関係が明瞭であり, 理解に役立つ。コマンド一つで統計量をやまほど計算してくれる統計ソフトウェアと異なり, 自分で理論内容を理解しないと利用できないが, その代り, 推定の中身を自分で確認できるうえに, 必要に応じて自分で推定方法を工夫できる利点がある。演習参加にあたっては, コンピュータプログラムの知識は必須ではないがあった方が便利であろう。少なくとも厭わない覚悟は必要である。
- (2) IT 産業は近年, もっとも成長が著しく, また産業構造に大きな影響を与えている産業である。90 年代の日米逆転の一因もこの産業での成功・失敗にある。また理論的にもネットワーク外部性や収獲増, スイッチングコスト, ベンチャー型産業構造, コンテンツ産業での知的財産権訴訟など特徴的な現象が多く観察されており興味はつきない。しかし, 経済学

の目から見ると, 理論研究も実証研究も遅れている。本講義ではテーマを設定してペーパーを読み, 学生諸君の論文のテーマを探していく。本年の候補は (1) 著作権の経済分析, (2) ソフトウェア産業の実証分析, (3) モジュール化と水平分離の 3 つであり, この中から選ぶ。

(1) と (2) のどちらになるかは最初の時に決める。多数決で決めざるを得ないので, 最初の回には必ず出席されたい。

---

#### 計量経済学演習

名誉教授 清 水 雅 彦  
教 授 辻 村 和 佑

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

参加者の研究テーマに応じて, 定量的な分析に不可欠な統計資料の選択, およびその分析方法について討論, ならびに指導を行う。必要な参考文献があれば, 随時これを輪読する。また, 研究の進捗状況にあわせて, その内容を発表してもらい, ディスカッションを行う。実証分析をとまなうものであれば特にテーマは限定しない。ただし産業連関表や資金循環表など経済構造を表象する統計資料を分析対象とするものを取りわけ歓迎する。

---

#### 計量経済学演習

名誉教授 清 水 雅 彦  
教 授 辻 村 和 佑

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

参加者の研究テーマに応じて, 定量的な分析に不可欠な統計資料の選択, およびその分析方法について討論, ならびに指導を行う。必要な参考文献があれば, 随時これを輪読する。また, 研究の進捗状況にあわせて, その内容を発表してもらい, ディスカッションを行う。実証分析をとまなうものであれば特にテーマは限定しない。ただし産業連関表や資金循環表など経済構造を表象する統計資料を分析対象とするものを取りわけ歓迎する。

---

#### 計量経済学演習

教 授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

この演習は履修者の修士論文の作成についての指導・研究を行うこと, 応用マイクロエコノメトリックス (Applied Microeconometrics) の知識を深めること, 英文の論文の書き方について指導すること, 質の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設的に批判することを目的とする。

#### 授業内容：

Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。春学期に、本の第13章以降を輪読したりするが、本の実例・問題が多いので、実例をできるだけ復元したり、問題を解いたりする。本で取り上げている手法をできるだけ慶應家計パネル調査 (KHPS) の第1波 (2004年) —第5波 (2008年) のデータにも適用することを目指す。KHPSのデータを利用するために、申請が必要である。データの利用規約は

<http://www.coe-econbus.keio.ac.jp/cgi-bin/popup.cgi> に掲載されている。

本で利用されているデータセット又は Stata のプログラムをダウンロードするために、Cameron 教授 (University of California, Davis) のホーム・ページ <http://cameron.econ.ucdavis.edu/> にアクセスし、「Microeconometrics: Methods and Applications: Ph.D. -level Text: Data and programs」をクリックし、「Programs, Data and Output」をクリックすると、Cameron and Trivedi [2005] で利用されるデータセットの一覧表が表示される。

Cameron and Trivedi の本以外に、各院生が興味を持っている分野に関する論文を紹介し、その文献又は自分の論文について順番に報告してもらう。“報告”と“輪読”は文献 (又は文献の議論) を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献を紹介することになる。

#### テキスト：

- ・Cameron, A.C. and P.K.Trivedi, *Microeconometrics: Methods and Applications*, Cambridge University Press, Cambridge, 2005

#### リーディング・リスト：

基本的に、Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。必要に応じて授業中に、リーディングリストを配布するが、英文の論文の書き方について Korner, A.M. (著)・瀬野悍二 (訳・編)『英語科学論文の正しい書き方』羊土社, 2005 年を参考にすれば良い。

#### 質問・相談：

気楽に [mckenzie@econ.keio.ac.jp](mailto:mckenzie@econ.keio.ac.jp) に問い合わせてください。

---

#### 計量経済学演習

教授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：秋学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

この演習は履修者の修士論文の作成についての指導・研究を行うこと、応用ミクロエコノメトリックス (Applied Microeconometrics) の知識を深めること、英文の論文の書き方について指導すること、質の高い実証研究ができること

や他人の実証分析を建設的に批判することを目的とする。

#### 授業内容：

Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。春学期に、本の第13章以降を輪読したりするが、本の実例・問題が多いので、実例をできるだけ復元したり、問題を解いたりする。本で取り上げている手法をできるだけ慶應家計パネル調査 (KHPS) の第1波 (2004年) —第5波 (2008年) のデータにも適用することを目指す。KHPSのデータを利用するために、申請が必要である。データの利用規約は

<http://www.coe-econbus.keio.ac.jp/cgi-bin/popup.cgi> に掲載されている。

本で利用されているデータセット又は Stata のプログラムをダウンロードするために、Cameron 教授 (University of California, Davis) のホーム・ページ <http://cameron.econ.ucdavis.edu/> にアクセスし、「Microeconometrics: Methods and Applications: Ph.D. -level Text: Data and programs」をクリックし、「Programs, Data and Output」をクリックすると、Cameron and Trivedi [2005] で利用されるデータセットの一覧表が表示される。

Cameron and Trivedi の本以外に、各院生が興味を持っている分野に関する論文を紹介し、その文献又は自分の論文について順番に報告してもらう。“報告”と“輪読”は文献 (又は文献の議論) を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献を紹介することになる。

#### テキスト：

- ・Cameron, A.C. and P.K.Trivedi, *Microeconometrics: Methods and Applications*, Cambridge University Press, Cambridge., 2005

#### リーディング・リスト：

基本的に、Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。必要に応じて授業中に、リーディングリストを配布するが、英文の論文の書き方について Korner, A.M. (著)・瀬野悍二 (訳・編)『英語科学論文の正しい書き方』羊土社, 2005 年を参考にすれば良い。

#### 質問・相談：

気楽に [mckenzie@econ.keio.ac.jp](mailto:mckenzie@econ.keio.ac.jp) に問い合わせてください。

---

#### 経済学史演習

教授 池田幸弘

授業形態：春学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

経済学史の古典の輪読を通じて、この分野への導入をはかる。また、経済学史分野以外の研究者にたいしても、

それ相応の貢献ができるように工夫して運営したい。

**授業内容：**

今年度はアダム・スミスの『国富論』第4、5編を輪読の対象とする。この書物の意義については、いまさらここで記すまでもない。経済理論についてはもちろんのこと、経済政策にかんしても大きな影響を与えた書物である。一年間ですべてを読むことはできないので、参加者の関心と素養を考慮して、その一部を読むことになる。経済学史を専攻とする者だけでなく、他の分野からの参加も歓迎したい。輪読を主として運営するが、担当者の講義や参加者の報告を含めて運営していくつもりである。

**テキスト：**

・アダム・スミス著（水田洋監訳、杉山忠平訳）『国富論 1, 2, 3, 4』岩波文庫

---

**経済学史演習**

教 授 池 田 幸 弘

**授業形態：**秋学期2単位・演習

**目標・意義・方法：**

春学期開講の同名の科目の続き。  
春学期の項を参照されたい。

**授業内容：**

春学期の項を参照されたい。

**テキスト：**

春学期の項を参照されたい。

---

**経済学史演習**

教 授 寺 出 道 雄

**授業形態：**春学期2単位・演習

**授業内容：**

近代日本（1920年代～60年代）の経済学史・思想史において、マルクス主義と近代主義が果たした役割について、  
① 原典の輪読  
② 担当者によるその解説と履修者間の討論を通じてさぐる。

履修者の希望も考慮していくつかの輪読文献を選ぶ。他に、随時、履修者の希望に応じての研究報告を可能とする。その主題は、社会・経済の近代化（ないし現代化）過程を問題とするものなら、狭義に経済学史・思想史に係わるものでなくてもよい。

**参考文献：**

授業時に指示する

---

**社会思想演習**

教 授 坂 本 達 哉

**授業形態：**春学期2単位・演習

**目標・意義・方法：**

社会思想史研究の方法、テーマの発見、研究の進め方等について、履修者自身の問題意識を重視しながら指導する。担当者の専門は近現代の欧米社会思想であるが、履修者の関心はそれ以外の領域やアプローチ（日本思想史、政治思想史、文学・哲学の歴史、現代の政治・哲学・思想など）でも歓迎する。

**授業内容：**

履修者の研究報告を軸に進めるが、適宜、共通の問題関心や最近の学界動向を踏まえた重要論文のサーヴェイなども行う。履修者との活発な質疑応答、ディスカッションを重視する。他研究科生の履修も歓迎する。

**テキスト：**

とくに用いないが、担当者の最近の関心を知るには、坂本達哉『共和主義パラダイムにおける古典と現代』、佐伯啓思・松原隆一郎編『共和主義ルネサンス』（NTT出版、2007年）を参照のこと。

**リーディング・リスト：**

演習中に随時紹介する

---

**社会思想演習**

教 授 高 草 木 光 一

**授業形態：**秋学期2単位・演習

**授業内容：**

19世紀ヨーロッパにおける「アソシアシオン」概念と1930-40年代日本の「協同主義」について総合的に考察する。

**テキスト：**

サンーシモンの「ヨーロッパ」論、三木清の「東亜共同体」論等について、テキストを輪読する。参加者は、リポーターの義務を負う。リポーターは、テキストまたは指定された参考文献を調べて問題点を整理する。

**リーディング・リスト：**

- ・サンーシモン（森博編訳）『サンーシモン著作集』全5巻、恒星社厚生閣
- ・三木清『東亜共同体論集』こぶし書房
- その他

---

**経済思想演習（日本社会経済思想史演習）**

教 授 小 室 正 紀

**授業形態：**春学期2単位・演習

**目標・意義・方法：**

履修者に、日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら、論文作成指導を行う。また、研究発表とらんで江戸時代政治経済思想に関する刊行資料の輪読を

行う。なお、小室担当の「経済思想（日本社会経済思想史）」とあわせて履修することが望ましい。

**リーディング・リスト：**

- ・丸山真男『日本政治思想史研究』東京大学出版会，1952 年
- ・川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房，1992 年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房，1999 年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂，1998 年

---

**経済思想演習（日本社会経済思想史演習）**

---

教 授 小 室 正 紀

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

履修者に，日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら，論文作成指導を行う。また，研究発表とならんで江戸時代政治経済思想に関する刊行資料の輪読を行う。なお、小室担当の「経済思想（日本社会経済思想史）」とあわせて履修することが望ましい。

**リーディング・リスト：**

- ・丸山真男『日本政治思想史研究』東京大学出版会，1952 年
- ・川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房，1992 年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房，1999 年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂，1998 年

---

**経済史演習**

---

教 授 杉 山 伸 也  
教 授 古 田 和 子  
教 授 柳 沢 遊  
准教授 神 田 さやこ

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。春学期は，各自の研究報告と討論を中心に行うが，『比較史のアジア—所有・契約・市場・公正—』（東京大学出版会，2004 年）ないし、『「帝国」日本の学知 ②「帝国」の経済学』（岩波書店，2006 年）を輪読する場合もある。成績は，演習での研究報告や討論への参加等を考慮して総合的に評価する。

---

**経済史演習（グローバル COE 連携科目）**

---

教 授 杉 山 伸 也  
教 授 古 田 和 子  
教 授 柳 沢 遊  
准教授 神 田 さやこ  
商学部 教 授 牛 島 利 明

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。今年度は，日本およびアジア諸地域における市場の

質の問題，および市場を支える諸制度を歴史的パースペクティブのなかで検討することを主たるテーマとし，基本的な研究文献を体系的にとりあげ，報告と討論を行う。

成績評価は，授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて，総合的に判断する。

---

**産業論演習**

---

教 授 北 村 洋 基  
教 授 渡 邊 幸 男

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

—現代資本主義と産業—

本演習では，現代資本主義論と産業論との接合に留意しながら，主要には日本を対象として，現代資本主義の現段階把握，そして諸産業・産業構造の急速な変化と現段階把握をめざす。

春学期は主に現代産業経済の全体構造を検討する。

---

**産業論演習**

---

教 授 北 村 洋 基  
教 授 渡 邊 幸 男

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

—現代資本主義と産業—

本演習では，現代資本主義論と産業論との接合に留意しながら，主要には日本を対象として，現代資本主義の現段階把握，そして諸産業・産業構造の急速な変化と現段階把握をめざす。

秋学期は主に現代産業経済の分業構造を検討する。

---

**産業論演習**

---

教 授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

この演習では，参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他，関連した文献の講読を行う。

すなわち，農業経済論・農業史等の文献である。しかし，受講者の論文の主題に応じて，場合によっては，他の領域の文献も取りあげる。第 1 回目の授業で，受講者の関心に応じた文献を，相談の上で，決定する。

---

**産業組織論演習**

---

名誉教授 中 澤 敏 明  
教 授 飯 塚 敏 晃  
教 授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

産業組織論とその関連領域（医療経済学，法と経済学

など)に関する研究に関する論文を作成するにあたって、研究論文作成のプロセスに合わせ、仮説提示・研究のサーベイ・中間発表を繰り返し行うことで論文完成をアシストする。

#### 授業内容：

研究論文の輪読ないし発表およびディスカッションを行う。

テーマは産業組織論とその関連領域（医療経済学、法と経済学など）にかかわるものであれば基本的に自由である。

#### テキスト：

最初の講義のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

適宜指示する。

#### 産業組織論演習

名誉教授 中 澤 敏 明  
教 授 飯 塚 敏 晃  
教 授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

産業組織論とその関連領域（医療経済学、法と経済学など）に関する研究に関する論文を作成するにあたって、研究論文作成のプロセスに合わせ、仮説提示・研究のサーベイ・中間発表を繰り返し行うことで論文完成をアシストする。

#### 授業内容：

研究論文の輪読ないし発表およびディスカッションを行う。

テーマは産業組織論とその関連領域（医療経済学、法と経済学など）にかかわるものであれば基本的に自由である。

#### テキスト：

最初の講義のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

適宜指示する。

#### 労働経済論演習

教 授 赤 林 英 夫  
教 授 太 田 聰 一

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と、参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。修士課程参加者は数多くの論文を読むことで、労働経済分野の一通りの基礎知識を獲得することを目指す。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく、e-mail 等を通じて適時、密接な指導を行う。

#### リーディング・リスト：

- Orley Ashenfelter and David Card, *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.
- Pierre Cahuc and Andre Zylberberg, *Labor Economics*, MIT Press

#### 労働経済論演習

教 授 赤 林 英 夫  
教 授 太 田 聰 一

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と、参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。修士課程参加者は数多くの論文を読むことで、労働経済分野の一通りの基礎知識を獲得することを目指す。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく、e-mail 等を通じて適時、密接な指導を行う。

#### リーディング・リスト：

- Orley Ashenfelter and David Card, *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.
- Pierre Cahuc and Andre Zylberberg, *Labor Economics*, MIT Press

#### 社会政策論演習

教 授 駒 村 康 平  
准教授 山 田 篤 裕

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

社会保障制度に関する改革が近年、急速に進められています。本演習では、最新の社会保障制度の改革や政策動向について、法律法案・政府審議会報告書（たとえば、「厚生年金・国民財政再計算」など）・各種研究報告書をどのように読解するのか、そしてさらにそれをどのようにして経済学的な分析・評価に結びつけていくのか（論文としてまとめていくのか）、について学んでゆきます。

具体的な制度としては、年金、生活保護など所得保障政策を中心としつつ、必要に応じて、医療や各福祉制度を取り上げます。

他研究科からの参加も歓迎します。

#### 授業内容：

基本的な学術論文にかんしては暫定的に下記リストの論文のいくつかを取り上げ、輪読しようと考えています。どの論文を取り上げるかの詳細については受講者の関心に応じて決めます。また、社会政策分野での論文を執筆中の受講者には適宜、報告の時間を設けます。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### リーディング・リスト：

下記は暫定的なものです。授業の進行に合わせて適宜追加リストを配布します。

- Barr, N. (ed.), *Economic Theory and the Welfare State* (International Library of Critical Writings in Economics Series), Edward Elgar Pub, 2001
- Pestieau, P., *The Welfare State in the European Union: Economic and Social Perspectives*, Oxford Univ. Pr, 2005
- Rosner, P., *The Economics of Social Policy*, Edward Elgar Pub, 2003
- 城戸喜子, 駒村康平編『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』慶應義塾大学出版会, 2005 年
- 国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東京大学出版会, 2005 年
- 橋木俊詔, 浦川邦夫『日本の貧困研究』東京大学出版会, 2006 年

## 経済政策論演習

教授 赤 林 英 夫

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

わが国におけるフィールド実験実施の可能性を考える。

授業内容：

この演習では、近年、経済学における一手法として確立されてきた（しかしわが国ではまだほとんど行われていない）「フィールド実験」研究について初歩から学び、わが国で実施するための条件と可能性について考える。演習の最後には、実際に参加者で実験を行い、わが国で実施する際の問題点の洗い出しを行う。題材としては、教育経済学分野での実験を想定しているが、具体的な対象については参加者の関心と意欲に応じて柔軟に対応する。

この分野の文献は実質的に英語でしか存在しないので、演習の前半 3－4 回では、以下の文献を参加者で精読する。次に、参加者が持ち寄ったテーマを出発点として、実際の実験計画を立てる。最終的には夏休みなども利用し、実験を行いたい。

参加者はただ演習に出席するだけでは許されず、授業時間外の手足を使った作業も含めた参加を要求される。狭い意味の専門と関係なく、野心的な大学院生の参加を待つ。

最初に読む文献をリーディングリストに挙げておくので、参加希望者は手に入れておくこと。

リーディング・リスト：

- Glenn W. Harrison and John A. List, "Field Experiments," *Journal of Economic Literature*, Vol. 42, No. 4 (Dec., 2004), pp. 1009-1055, 2004
- Steven D. Levitt, John A. List, "Field Experiments in Economics: The Past, The Present, and The Future" *NBER*

Working Paper 14356, 2008

## 経済政策論演習

教授 赤 林 英 夫  
教授 太 田 聰 一  
教授 駒 村 康 平  
准教授 山 田 篤 裕

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本演習では、今日の日本の家計が直面する重要な政策課題について、既存の研究をサーベイする形で演習を行う。扱うトピックの例としては、生活保護、失業者の就業支援、児童保護、就学支援、などである。これらの政策課題について、制度の変遷や諸外国の制度との相違などにも注意を払いながら、内外の研究をサーベイすることで、今後のわが国における制度設計と政策研究の方向性を探ることにする。

## 経済政策論演習

教授 大 村 達 弥

授業形態：春学期・秋学期とも 2 単位・演習

目標・意義・方法：

担当者が担当する経済政策論（修士）・制度政策論特論（博士）の講義内容と関連したテーマを選択し、受講者の事情を考慮しつつ運営も一体で進める。ねらいは変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ、政府（法律・政治）システムとの境界領域に注目しつつ、経済政策学的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては、公共部門の効率化のための理論的基礎（オークション理論、契約理論等）、また、経済政策過程の実際例として情報通信・ネットワーク産業に関する政策を扱う予定である。

テキスト：

指定しない

リーディング・リスト：

- Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives*, Princeton UP, 2002
  - Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press, 2005
  - 坂井・藤中・若山『メカニズムデザイン』ミネルヴァ書房, 2008 年
- その他必要な文献は授業開始の時点で指定する。

## 金融論演習

准教授 新 井 拓 児

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理ファイナンスに関する英文テキストまたは論文の講読。

#### 授業内容：

各受講者が将来の論文作成を考慮して文献を選択する。

#### テキスト：

授業中に紹介する。

#### リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

---

#### 金融論演習

准教授 新 井 拓 児

授業形態：秋学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

春学期に準ずる。

#### 授業内容：

春学期に引き続き、各受講者が将来の論文作成を考慮して文献を選択する。

#### テキスト：

授業中に紹介する。

#### リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

---

#### 金融論演習

教 授 池 尾 和 人

教 授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

マクロの基礎理論、金融政策の基礎理論を勉強する。  
内容としては、インフレーションと金融政策、財政・金融政策、情報と金融、国際金融、インフレーションと経済厚生、金融と景気循環などのテーマである。

#### 授業内容：

演習として練習問題を解きながら講義を進める予定。

- (1) Inflation, Unemployment, and Monetary Rules
- (2) Optimal Monetary and Fiscal Policy
- (3) Monetary transmission mechanisms
- (4) Open Economy (short run and long run)
- (5) Shocks and Policy Response in the Open Economy
- (6) Money in the Utility Function
- (7) Welfare cost of Inflation
- (8) Money and the Business Cycle
- (9) Asset Price and Lucas "Tree model"
- (10) Money and Credit in the Business Cycle
- (11) Postal Savings and Fiscal Investment
- (12) Small Savings and Asian Economic Development

#### リーディング・リスト：

- ・ Wendy Carlin and David Soskice, *Macroeconomics, Imperfections, Institutions and Policies*, Oxford University Press, 2006
- ・ Benjamin Eden, *A Course in Monetary Economics, Sequential*

*trade, Money, and Uncertainty*, Blackwell publishing, 2005

- ・ Thomas Cargill and Naoyuki Yoshino, *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press, 2003
- ・ Mark Scher and Naoyuki Yoshino, *Small Savings Mobilization and Asian Economic Development*, M.E.Sharpe, 2004
- ・ Heijdra, Ben and Fredric Van Der Pleag, *Foundations of Modern Macroeconomics*, Oxford University Press
- ・ Louis-Philippe Rochon and Sergio Rossi, *Monetary and Exchange Rate Systems*, Edward Elgar, 2007
- ・ Joseph Stiglitz, *Stability with Growth*, Oxford University Press, 2006

---

#### 金融論演習（グローバル COE 連携科目）

教 授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・演習

#### 授業内容：

21 世紀 COE による経済学部と商学部の連携により、大学院教育の充実を目的とした演習である。21 世紀 COE で実施しているパネルデータを大学院生が利用しながら、修士論文・博士論文の作成を行っている。(i) 家計行動に関する計量分析、(ii) 家計の金融資産選択行動の実証分析、(iii) 財政のサステナビリティに関するシミュレーション分析、(iv) ミクロデータを用いた金融行動に関する実証分析、(v) アジアの資金循環と為替レートなど、大学院生の論文発表を通じた演習を行う。経済学部と商学部の多数の教員による合同の演習であり、さまざまな角度からの議論が展開される。

#### リーディング・リスト：

1. Benjamin Eden, *A Course in Monetary Economics, Sequential trade, Money and Uncertainty*, Blackwell, 2005
  2. David Romer, *Advanced Macroeconomics*, Mc Grow Hill, 2006
  3. Robert Lucas, *Inflation and Welfare*, Econometrica, 2000
  4. Yoshino and Kaji, *The Basket-Peg, Dollar-Peg and Floating Exchange Rate Regimes—A Comparative Analysis*, Journal of Japanese and International Economy, 2004
  5. Heijdra, Ben and Fredric Van Der Pleag, *Foundations of Modern Macroeconomics*, Oxford University Press
  6. Michael Carlberg, *Macroeconomics of Monetary Union*, Springer, 2007
- その他、講義の中で論文は説明する。

---

#### 金融論演習

教 授 前 多 康 男

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

金融経済学に関する内外の論文を読み進むことにより、金融経済学で用いられているさまざまなフレームワーク

を理解することを目的とする。

**授業内容：**

具体的なトピックスについては、以下の通りである。

(1) 金融取引の機能について、(2) リレーションシップ取引と市場取引、(3) 間接金融、直接金融、市場型間接金融、(4) 銀行の規律付け、(5) 銀行の業務、(6) 金融業に対する規制。また、契約理論に関するテキストを輪読する予定もあるが、最初の授業の時に履修者の希望を聞いて決定する。

**テキスト：**

最初の授業の時に相談する。

**リーディング・リスト：**

授業中に適宜配付する。

---

**金融論演習**

教 授 前 多 康 男

**授業形態：**秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

金融経済学に関する内外の論文を読み進むことにより、金融経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。

**授業内容：**

具体的なトピックスについては、以下の通りである。

(1) 金融取引の機能について、(2) リレーションシップ取引と市場取引、(3) 間接金融、直接金融、市場型間接金融、(4) 銀行の規律付け、(5) 銀行の業務、(6) 金融業に対する規制。また、契約理論に関するテキストを輪読する予定もあるが、最初の授業の時に履修者の希望を聞いて決定する。

**テキスト：**

最初の授業の時に相談する。

**リーディング・リスト：**

授業中に適宜配付する。

---

**財政論演習**

名誉教授 飯 野 靖 四

**授業形態：**春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

この授業では原則として各履修者の論文発表と検討が中心となる。論文発表者がいない時は担当者ないしゲストスピーカーが論文発表を行う。

**授業内容：**

- ・各履修者の論文発表と検討
- ・担当者ないしゲストスピーカーの論文発表と検討

---

**財政論演習**

名誉教授 飯 野 靖 四

**授業形態：**秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

春学期参照。

**授業内容：**

春学期参照。

---

**財政論演習**

教 授 金 子 勝

**授業形態：**春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

日本の財政問題を制度論を使って考察する。

特に財政赤字問題、三位一体改革以降の地方財政の悪化・社会保障・社会福祉問題を重点にいくつかの問題を取り上げ、議論する。テキストは参加者と相談のうえ決めたい。

**リーディング・リスト：**

- ・金子勝・神野直彦『財政崩壊を食い止める』岩波書店
- ・金子勝・神野直彦編『福祉政府の提言』岩波書店
- ・金子勝・神野直彦編『地方に税源を』東洋経済新報社

---

**財政論演習**

教 授 金 子 勝

**授業形態：**秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

日本の財政問題を制度論を使って考察する。

特に財政赤字問題、三位一体改革以降の地方財政の悪化・社会保障・社会福祉問題を重点にいくつかの問題を取り上げ、議論する。テキストは参加者と相談のうえ決めたい。

**リーディング・リスト：**

- ・金子勝・神野直彦『財政崩壊を食い止める』岩波書店
- ・金子勝・神野直彦編『福祉政府の提言』岩波書店
- ・金子勝・神野直彦編『地方に税源を』東洋経済新報社

---

**財政論演習**

教 授 山 田 太 門

**授業形態：**春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

我々の経済学はもはや純粋な市場経済を分析することはできない。何らかの市場の失敗を修正する経済政策が施された混合経済しか存在しない。このような経済を公共経済とよび、この演習ではこの公共経済に関連した事象をさまざまな分析手法で検討することによって、分析手法自体の習得を目的とする。

我々の経済はかなりの速度でグローバル化している。それにとまなう技術や制度の変化を公共性という観点と、

選択行動という経済学的な定式化とによって捉えてみようと思っている。我々の経済の変化の本質的特徴と原因が何なのかを探究してゆきたい。

**授業内容：**

参加者は数冊の文献を輪読することによって思索し、討論することによって互いに啓発しあうことが求められ、同時並行的に各自の論文作成をすすめなければならない。

---

**財政論演習**

教 授 山 田 太 門

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

春学期参照。

---

**公共経済学演習（グローバル COE 連携科目）**

教 授 尾 崎 裕 之

教 授 瀬 古 美 喜

教 授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

**授業内容：**

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文または各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

**公共経済学演習（グローバル COE 連携科目）**

教 授 尾 崎 裕 之

教 授 瀬 古 美 喜

教 授 中 村 慎 助

教 授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

**授業内容：**

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文または各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

**日本経済論演習**

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

日本経済、特に産業・企業に関する歴史、現状、政策についての研究を検討する。

**授業内容：**

参加者による研究報告を中心に討論を行う。

---

**日本経済論演習**

教 授 植 田 浩 史

授業形態：秋学期 2 単位・演習

**目標・意義・方法：**

日本経済、特に産業・企業に関する歴史、現状、政策についての研究を検討する。

**授業内容：**

参加者による研究報告を中心に討論を行う。

---

**国際経済論演習**

教 授 大 垣 昌 夫

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

**目標・意義・方法：**

本演習では、時系列分析を中心とした計量経済学の方法を、国際マクロ経済学の理論モデルにどのように応用して実証研究を進めていくかを学ぶ。1. 理論モデルと計量経済学の構造モデルの関係についてを講義し、2. 院生によるリーディング・リストにある論文や他の関連論文のプレゼンテーションを行い、3. GAUSS のプログラムを用いて、推定と検定を実際にデータを用いて行うことを指導し、宿題とする。

**授業内容：**

Autoregression, Vector Autoregression (VAR), OLS and Instrumental Variables Method with Serially correlated error terms, Generalized Method of Moments (GMM), Unit Root Nonstationarity, Cointegration などの計量経済学の方法と、国際マクロ経済学の理論モデルを関係づけていく。

**テキスト：**

・Masao Ogaki, Kyungho Jang, Hyoungh-Seok Lim, and Youngsoo Bae, *Structural Macroeconometrics*, manuscript in progress, 2007 (available at <http://www.kjang.com/book2003/1/>)

**リーディング・リスト：**

- ・Murray, C.J. and D.H. Papell, "The Purchasing Power Parity Persistence Paradigm." *Journal of International Economics* 56, pp. 1-19, 2002
- ・Engel, C. and K.D. West, "Exchange Rates and Fundamentals." *Journal of Political Economy* 113, 2005
- ・Eichenbaum, M. and C. Evans, "Some Empirical Evidence on

- the Effects of Shocks to Monetary Policy on Exchange Rates.” *Quarterly Journal of Economics* 86, pp. 975–1009, 1995
- Mark, N.C., “On Time Varying Risk Premium in the Foreign Exchange Market: An Econometric Analysis.” *Journal of Monetary Economics* 16, pp.3–18, 1985
  - Mark, N.C., M. Ogaki, and D. Sul, “Dynamic Seemingly Unrelated Cointegrating Regressions,” *Review of Economic Studies* 72, pp. 797–820, 2005
  - Engel, C. and K.D. West, “Taylor Rules and the Deutschmark–Dollar Real Exchange Rate.” *Journal of Money, Credit, and Banking*, 38, pp. 1175–94, 2006
  - Molodtsova, T., A. Nikolsko-Rzhevskyy, and D.H. Papell, “Taylor Rules with Real-Time Data: A Tale of Two Countries and One Exchange Rate.” Forthcoming, *Journal of Monetary Economics*.

## 国際経済論演習

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際経済学やマクロ経済学において、最新のトレンドである Computational Macroeconomics の影響は極めて大きい。いまや、この分析ツールを使うことなしに、上記の分野で最先端の論文を書くことは極めて難しくなっている。

授業内容：

国際経済学・マクロ経済学に関する重要なトピックス（景気循環，貿易，資本移動，経常収支問題など）を選び、比較的標準的な理論モデルを使った数値計算を行う。Matlab や Dynare などの計算ソフトを使った演習を行う。学生にも、実際にプログラムを組んで、数値計算をしてもらう。

テキスト：

- ・加藤涼『現代マクロ経済学講義』東洋経済新報社
- ・G. McCandles, *The ABCs of RBCs*, Harvard

リーディング・リスト：

- Cogley, T., and J. M. Nason, Output dynamics in real-business-cycle models, *American Economic Review*, 1995, 492–511
- Uhlig, H., “A Toolkit for Analyzing Nonlinear Dynamic Stochastic Models Easily,” in Marimon and Scot, eds., *Computational Methods for the Study of Dynamic Economics*. Oxford University Press, pp.30–61, 1999
- Christiano, L. J., M. Eichenbaum, and C. L. Evans, “Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy”, *Journal of Political Economy*, vol.113, 1–44, 2005
- Obstfeld, M., and K. Rogoff, “The global current account imbalances and exchange rate adjustments,” *Brooking Papers on Economic Activity* 1:2005, 67–123, 2005b
- Engel, C., and J.H. Rogers, The U.S. current account deficit and the expected share of world output, *Journal of Monetary*

*Economics* 53, 1063–1093, 2006

その他、学生の興味、進捗状況にあわせて選ぶ。

## 国際経済論演習

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

論文を書くことを前提とした演習を行う。

授業内容：

マクロ経済学，国際経済学，金融論をテーマとして、学生の論文指導を個別に行う。特に、国際資本移動，経常収支問題，財政の維持可能性を中心的なテーマにすえながら、進めていく。興味のある学生の参加を期待する。

テキスト：

- R.H. Clarida, G7 Current account Imbalances, *NBER*, Chicago,

リーディング・リスト：

- Obstfeld, M., and K. Rogoff, The six major puzzles in international macroeconomics’ is there a common cause? In *NBER Macroeconomic Annual* 2000, ed Bernanke and Rogoff, 339–390, MIT Press, 2000
- Gourinchas, P-O, and H.Rey, International financial Adjustment, *Journal of Political Economy*, 665–702, 2007
- Lane, P.R., and G. M. Milesi-Ferretti, The external wealth of nations mark II: Revised and external estimates of foreign assets and liabilities, 1970–2004, *Journal of International Economics*, 223–250, 2007
- Blanchard, O., F. Giavazzi, and F. Sa, International Investors, the U.S. current account, and the dollar, *Brooking Papers on Economic Activity* 1:2005, 1–65, 2005

## 国際経済論演習

教 授 竹 森 俊 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

指定されたテキストの輪読を通じ、国際金融論の分析手法を学ぶが、その間に受講者の自分で選んだトピックについての報告を交え、また修士論文の指導をする。

テキスト：

- M. Obstfeld and K. Rogoff, *Foundations of International Macroeconomics*, MIT Press

リーディング・リスト：

受講者の自発的な報告に関連のあるものを適宜指定する。

## 国際経済論演習

准教授 白 井 義 昌

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易理論とその定量的応用についての文献を輪読し、新たな研究課題を探る。また研究課題への具体的アプローチについて検討する。第 1 回の演習でスケジュールリングを行う。

## 国際経済論演習

准教授 白 井 義 昌

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易理論とその定量的応用についての文献を輪読し、新たな研究課題を探る。また研究課題への具体的アプローチについて検討する。第 1 回の演習でスケジュールリングを行う。

## 国際経済論演習

客員教授 若 杉 隆 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易・直接投資・R&D に関連して、修士論文作成の指導・研究を行う。

授業内容：

各学生が関心を有する分野に関する諸文献を報告してもらい、作成する論文に関連する先行研究をサーベイする。

また、各自が取り組んでいる論文についても順次報告してもらい、論文指導を行う。

テキスト：

参照する文献・論文等に関しては、適宜指定する。

## 都市経済論演習（グローバル COE 連携科目）

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。具体的には、理論的・実証的分析手法に基づいて各自が選んだ研究テーマに関する論文指導を行う。

リーディング・リスト：

- Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics*

*and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996（瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001 年）

- Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987
- Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987
- *Regional and Urban Economics*, Part1, Part2, Harwood and Academic Publishers, 1996
- Masahisa Fujita, Paul Krugman and Anthony J-Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999（小出訳『空間経済学』東洋経済新報社）
- M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）
- 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学』[新版] 有斐閣ブックス、2008 年
- 瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社、1998 年
- 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社、1997 年
- Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to Urban Economics*, Blackwell, 2006

## 環境経済論演習

教 授 細 田 衛 士

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

本授業では、春学期学習した環境経済学の理論的基礎をもとに、環境経済学の高度な部分を学ぶ。具体的には、学術専門誌に掲載された原著論文を読み、内容を報告する。さらには、こうした学習を通じて自分の論文を作成し、報告する。

授業内容：

- (1) 学術専門誌の原著論文を適宜選び、輪読する。報告担当の者は、当該論文を丹念に読み、その内容を詳しく解説する。
- (2) 自分のテーマに沿った論文を作成する。

テキスト：

特になし

リーディング・リスト：

適宜示す

## 社会史演習

名誉教授 清 水 透

教 授 倉 沢 愛 子

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

歴史学におけるフィールドワークの重要性を認識する

とともに、その過程で行き当たるであろう様々な問題を考え、解決策を見出す努力をする。

#### 授業内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸科学を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的事象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創りだすことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

本演習においてはその様な多様な側面のうち、フィールドワークを基礎とする歴史研究に焦点をあて、以下の3点を中心に議論・検討する。

- (1) 歴史研究学の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- (2) 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常
- (3) 個と普遍の問題：個と大状況、日常と非日常

#### テキスト：

フィールドワークに基づいて書かれた研究書を皆で読みながら進めていく。どの本を選ぶかは、受講生の顔ぶれを見てから決める。

#### リーディング・リスト：

適宜指定する。

#### 社会史演習

名誉教授 清水 透  
教授 倉沢 愛子

授業形態：秋学期2単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

春学期の継続。

#### 授業内容：

春学期の継続。

#### テキスト：

春学期の継続。

#### リーディング・リスト：

春学期の継続。

#### 社会史演習

教授 鈴木 晃 仁

授業形態：春学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

「医療と病気と身体の社会史」の方法を学び、その視点を近現代日本に応用する。

#### 授業内容：

英語論文などを読み、日本のコレラの歴史を分析する。

#### テキスト：

授業中に指示する。

#### リーディング・リスト：

その都度指示する。

#### 社会史演習

教授 鈴木 晃 仁

授業形態：秋学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

「医療と病気と身体の社会史」の方法を学び、その視点を近現代日本に応用する。

#### 授業内容：

英語論文などを読み、日本のコレラの歴史を分析する。

#### テキスト：

授業中に指示する。

#### リーディング・リスト：

その都度指示する。

#### 人口論演習

教授 津谷 典子

授業形態：春学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

当科目は、人口学および経済学で近年よく行われる個票データを用いた様々な多変量解析モデル(multivariate analysis models)の手法について、実際の応用例を多数検討することにより、各モデルの意味、用途、および長所と短所、さらにモデルに投入される変数の構築などについて学ぶことを目的とする。具体的には、最近刊行された学術論文を読み、そこで用いられている分析モデル、データ、変数について検討し、分析・推計結果の意味を解釈・理解する。購読の対象となる学術論文は、講師があらかじめ選択・準備し、そのリーディング・リストを第1回の授業時に配布する。

授業はまず、学生諸君の中から各週1名が論文内容についてのレジュメをあらかじめ準備し、クラスで報告する。次いで、それについての討論と質疑応答をクラス全体で行う。最後に講師が説明とまとめを行う。

#### 授業内容：

当科目で取り扱う多変量解析モデルは、Linear causal modelと呼ばれるモデルを中心とした以下のようなものである。

- ① Ordinary least-square multiple regression model
- ② Multiple classification analysis (MCA)
- ③ (Binary) Logistic regression model
- ④ Ordered logit/probit model
- ⑤ Multinomial logit model
- ⑥ Cox proportional hazard model
- ⑦ Time-dependent hazard models

当科目ではまた、多変量解析モデルに使用される変数についても、その構築方法だけでなく、多重共線

性 (multicollinearity), 内生性 (endogeneity), 同時性 (simultaneity) などの問題についても検討・説明する。さらに、学生諸君が各自の研究において用いることのできる内外の個票データについて学ぶため、各学術論文の分析で使用されているデータについて、入手方法も含め紹介する。

#### リーディング・リスト:

第1回授業時に配布する。

---

#### 産業社会論演習

教授 金子 勝

授業形態: 春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法:

産業社会にかかわる諸問題を、理論的制度的に考察する。

#### 授業内容:

今年度は、日本における経済格差問題について考察する。年金・介護・雇用・貧困対策問題など具体的問題を取り上げながら。

#### テキスト:

経済政策に関する文献を対象に、参加者と相談して決定する。

#### リーディング・リスト:

- ・金子勝『戦後の終わり』筑摩書房、第3章

---

#### 産業社会論演習

教授 金子 勝

授業形態: 秋学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法:

日本経済の現状と経済政策について、テキストを取り上げつつ議論する。

#### 授業内容:

今年度は、つぎの2つのテーマを主に取り上げる予定である。一つは、労働市場、格差、社会保障にかかわる諸問題。いま一つは、三位一体改革と地方分権にかかわる諸問題である。この2つのテーマを具体的に考えつつ、マクロ経済学の理論的問題についても深めてゆきたい。

#### テキスト:

参加者と相談して決めたい。

#### リーディング・リスト:

- ・金子勝『市場と制度の政治経済学』東京大学出版会
- ・金子勝『戦後の終わり』筑摩書房、第3章

---

#### INDEPENDENT STUDY

教授 嘉 治 佐保子

法学部 訪問講師(招聘) ファロン, ルース C.

授業形態: 秋学期 2 単位・合同講義

#### 授業内容:

This class is offered to Master's level graduate students.

In this class, we advise each student in writing a paper

scientifically in English. Students individually examine real world issues in depth, applying the economic theory and methods of analysis which they have gained in their previous studies.

Students themselves choose the topic and analytical method, gather the necessary information, conduct the analysis and complete the research. In this process, students will each make short progress reports (presentations and handouts) to the class in order to receive comments and advice from fellow students, Teaching Assistants and the professors. Each week, students also write short reports on others' presentations and hand them in at the end of the class.

As a conclusion to the term, there is an Independent Study convocation in which students present their final papers.

Evaluation is by the weekly reports, progress reports as well as the final presentation and paper. Students who miss more than three classes will automatically receive a grade of C or lower, regardless of the quality of their progress reports or final presentation and paper.



# 博士課程設置科目講義要綱

おおむね下記のように構成されています。

| 学則に示される科目名（具体的な科目名）*1                                                                                          | 担当者名                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| <div>1. 授業形態*2</div> <div>2. 当科目の目標・意義・方法</div> <div>3. 授業内容</div> <div>4. テキスト</div> <div>5. リーディング・リスト</div> | <div>}</div> <div>*1</div> |

\*1：（ ）内の記載がないもの、および項目の記載のないものはそれぞれ省略されています。

\*2：本書作成後に変更される場合がありますので、時間割および掲示を参照してください。

注：同一名称の科目については、担当者名五十音順で並べられています。

## 特 論 科 目

### ミクロ経済学特論

教 授 須 田 伸 一  
准教授 穂 刈 享

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

経済学部設置の「ミクロ経済学中級Ⅰ」および「ミクロ経済学中級Ⅱ」を履修した者を対象として、個別経済主体行動の基本的性質について講義する。

授業内容：

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動

テキスト：

・Mas-Colell, Whinston, and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

リーディング・リスト：

授業時に指示する。

### ミクロ経済学特論

准教授 玉 田 康 成  
准教授 津 曲 正 俊

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期に開講される「ミクロ経済学特論（個別経済主体の行動）」に引き続き、ミクロ経済学の理論について講義する。

授業内容：

1. 厚生経済学の基本定理
2. 競争均衡とコア
3. 競争均衡の存在
4. 不確実性下の競争均衡
5. 社会的選択理論
6. メカニズムデザインの理論

テキスト：

・Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995

### ミクロ経済学特論（ゲームの理論）

教 授 グレーヴァ香子  
教 授 中 山 幹 夫

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

この授業では講義と演習を通じて、経済分析に使われ

る中級ゲーム理論を学ぶ。学部レベルの初級ゲーム理論の知識を前提とする。成績は演習と学期末のレポートによって決まる。

授業内容：

1. 非協力ゲーム
  - (a) 復習：ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡，フォーク定理，契約
  - (b) ベイジアンゲームとベイジアンナッシュ均衡
  - (c) Trembling-hand perfect equilibrium, 完全ベイジアン均衡，逐次均衡とその応用
  - (d) 進化ゲーム
2. 協力ゲーム
  - (a) TU ゲーム：特性関数，優加法性，凸性，配分，支配，安定集合，コア
  - (b) 3 人ゲーム，対称ゲームのコア，LP 双対定理と平衡ゲーム
  - (c) 市場ゲーム，割り当てゲーム，グローブゲーム，単純ゲーム
  - (d) 交渉集合，カーネル，仁，シャープレイ値とポテンシャル

テキスト：

特になし

リーディング・リスト：

1. Fudenberg and Tirole, *Game Theory*, MIT Press, 1991
2. Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994
3. 中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房, 2005 年
4. 岡田章『ゲーム理論』有斐閣, 1996 年

### ミクロ経済学特論（都市経済論）（グローバル COE 連携科目）

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：春学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析，住宅市場と住宅問題，都市における集積と規模の経済，都市の成長，都市交通などに関する文献を取り上げ，検討する。

テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

リーディング・リスト：

- ・Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics*

- and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001 年)
- J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
  - Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, Vol.3: *Applied Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher
  - M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)
  - M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
  - 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)
  - 黒田達朗・田渕隆俊・中村良平『都市と地域の経済学』[新版] 有斐閣ブックス, 2008 年
  - 瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社, 1998 年
  - 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997 年
  - Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to Urban Economics*, Blackwell, 2006

## ミクロ経済学特論 (都市経済論)

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：秋学期 2 単位・講義および演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立って、都市経済学や新経済地理学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。学部修了程度の経済理論と、計量経済学の知識がある方が望ましい。

授業内容：

具体的には、都市空間構造の理論的実証的分析、住宅市場と住宅問題、都市における集積と規模の経済、都市の成長、都市交通などに関する文献を取り上げ、検討する。

テキスト：

具体的な文献については、授業の中で指示する。

リーディング・リスト：

- Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996 (瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社, 2001 年)
- J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, Vol.3: *Applied Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher

- M. Fujita, P. Krugman and A. J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999 (小出訳『空間経済学』東洋経済新報社)
- M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』(各版)
- 黒田達朗・田渕隆俊・中村良平『都市と地域の経済学』[新版] 有斐閣ブックス, 2008 年
- 瀬古美喜『土地と住宅の経済分析—日本の住宅市場の計量経済学的分析』創文社, 1998 年
- 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社, 1997 年
- Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to Urban Economics*, Blackwell, 2006

## マクロ経済学特論

教 授 前 多 康 男

講 師 杉 本 佳 亮

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

マクロ経済の諸問題を扱う基本的なモデルとしてはいくつかの型がある。時間の取り扱い方で離散型と連続型に分かれ、対象とする期間の長さによって、有限期のモデルと無限期のモデル、また基本的な枠組みで世代重複モデル、無限期まで生きる経済主体のモデル等に分かれる。このマクロ経済学上級では、特に、モデルの基本的な構造に焦点を置く。講義の目的は、無期限まで生きる経済主体のモデル、および世代重複モデルの基本的な枠組みを理解し、実際のモデル構築に自在に理論を使用できるようにすることにある。また、そのための数学ツールをマスターすることも本講義の目的とするが、主にモデルの使い方が講義の主な内容であり、高度に数学的な講義にはならない。したがって、履修者の数学的なバックグラウンドとしては、基本的な微分・積分に関する知識を想定している。受講者には、積極的に学習する態度が望まれる。

授業内容：

内容として以下を含む。(1) 経済環境の描写, (2) 競争均衡, (3) 政府の導入, (4) 新古典派成長モデル, (5) 貨幣モデル。

テキスト：

前半のテキストは授業の最初の時間に提示する。後半では、マッキヤンドレス・ウォレス著、川又・國府田・酒井・前多訳、「動学マクロ経済学」創文社, 1994 年、(原書: *Introduction to Dynamic Macroeconomics*, Harvard) (注：2 刷で 1 刷のタイプミスが訂正されている) を使用する。

リーディング・リスト：

- Azariadis, C., *Intertemporal Macroeconomics*, Blackwell, 1993
- Sargent, T.J., *Dynamic Macroeconomic Theory*, Harvard, 1987
- Roger E.A. Farmer, *Macroeconomics of Self-fulfilling Prophecies* (Second Edition), MIT Press, 1999

- Stokey, N.L. and R.E. Lucas, *Recursive Methods in Economic Dynamics*, Harvard, 1989

#### 数理経済学特論（Ⅰ－Ａ）

教 授 丸 山 徹

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

動学的最適化の理論，とくに古典的変分学とその応用について述べる。

参考書：

- ・丸山 徹『数理経済学の方法』創文社，1995 年

#### 数理経済学特論（Ⅰ－Ｂ）

教 授 丸 山 徹

特別招聘教授 イオッフエ，アレクサンダー

特別招聘教授 ロッカフェラー，ティレル R.

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

授業内容：

数理経済学特論（Ⅰ－Ａ）の続論および凸解析・変分解析。

#### 数理経済学特論（Ⅱ）

講 師 高 橋 明 彦

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

数理ファイナンスの基礎事項を習得すること。

授業内容：

条件付請求権や最適ポートフォリオに関する理論的・数値的話題を講義する。

テキスト：

特になし。

リーディング・リスト：

授業中に指示する。

#### 計量経済学特論

教 授 マッケンジー，コリン R.

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この授業の目的は計量経済学の理論的な知識を高めることとともに，高度なデータ分析ができることである。実証分析に関する指導のために，数回パソコンによる演習を行う。Wooldridge [2008] にある実例をできるだけ再現する。

授業内容：

授業の内容は下記の通りである。

1. 予備知識
  - a. 行列代数
  - b. 条件付き期待値
  - c. 漸近理論

2. モメント法による推定・仮説検定

- a. 標準的回帰モデルと最小自乗法（OLS）
- b. 操作変数法（IV）・2 段階最小自乗法（2SLS）
- c. 診断検定（過剰識別テスト，外生性のテストなど）

3. LIMDEP による計量分析

4. 他の推定方法

- a. M－推定
- b. 最尤法（ML 法）
- c. GMM 法

5. 離散的従属変数モデルと制限従属変数モデルなど

- a. 離散的従属変数モデル
- b. 制限従属変数モデル
- c. サンプル選択問題・脱落問題
- d. カウントデータ

実証分析のために，LIMDEP 9.0 という計量ソフトを利用し，演習を行うが，LIMDEP に関する予備知識は全く必要としない。LIMDEP を利用するために，事前登録が必要。

テキスト：

- ・Wooldridge, J.M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA., 2008, 2nd edition.

リーディング・リスト：

開講時に配布する。

LIMDEP について

- ・Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Reference Guide*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- ・Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 1*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- ・Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 2*, Econometric Software, Inc., New York, 2007

成績：

成績は期末試験と宿題（2-3 回）の点数による。

質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

#### 計量経済学特論

教 授 マッケンジー，コリン R.

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

この授業の目的は計量経済学の理論的な知識を高めることとともに，高度なデータ分析ができることである。実証分析に関する指導のために，数回パソコンによる演習を行う。Wooldridge [2008] にある実例をできるだけ再現する。

授業内容：

授業の内容は下記の通りである。

1. 予備知識
  - a. 行列代数
  - b. 条件付き期待値

- c. 漸近理論
- 2. モメント法による推定・仮説検定
  - a. 標準的回帰モデルと最小自乗法 (OLS)
  - b. 操作変数法 (IV)・2 段階最小自乗法 (2SLS)
  - c. 診断検定 (過剰識別テスト, 外生性のテストなど)
- 3. LIMDEP による計量分析
- 4. 他の推定方法
  - a. M-推定
  - b. 最尤法 (ML 法)
  - c. GMM 法
- 5. 離散的従属変数モデルと制限従属変数モデルなど
  - a. 離散的従属変数モデル
  - b. 制限従属変数モデル
  - c. サンプル選択問題・脱落問題
  - d. カウントデータ

実証分析のために、LIMDEP 9.0 という計量ソフトを利用し、演習を行うが、LIMDEP に関する予備知識は全く必要としない。LIMDEP を利用するために、事前登録が必要。

#### テキスト：

- ・ Wooldridge, J.M., *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data*, MIT Press, Cambridge, MA., 2008, 2nd edition.

#### リーディング・リスト：

開講時に配布する。

LIMDEP について

- ・ Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Reference Guide*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- ・ Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 1*, Econometric Software, Inc., New York, 2007
- ・ Greene W.H., *LIMDEP Version 9.0 Econometric Modeling Guide Volume 2*, Econometric Software, Inc., New York, 2007

#### 成績：

成績は期末試験と宿題 (2-3 回) の点数による。

#### 質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

#### 経済学史・思想史特論

教授 坂本 達哉

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

最近の思想史学会の動向を踏まえ、近代共和主義 (modern republicanism) にかんする基本的な諸問題を検討する。共和主義思想はマキアヴェリ以来、自由主義、民主主義とならぶ主要な社会・政治思想の系譜であるばかりでなく、欧米先進諸国における政治的動向の背後にあるイデオロギーの源泉でもある。共和主義思想の多面性と現代的意義を念頭におきながら、幅広い角度から検討する。

#### 授業内容：

テキストの輪読を軸に進める。履修者との活発な質疑応答、ディスカッションを重視する。他研究科生の履修も歓迎する。

#### テキスト：

佐伯啓思・松原隆一郎編『共和主義ルネサンス』(NTT 出版, 2007 年) を用いるので各自用意しておくこと。

#### リーディング・リスト：

講義中に随時紹介する

#### 経済学史・思想史特論

教授 小室 正紀

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

日本経済思想史における、いわゆる「近代主義」の射程について、文献を読みながら再考する。春学期は、題材としては丸山真男『忠誠と反逆』を主に取り上げる。受講者は、毎回、あらかじめ指定された章・節を読み内容の理解につとめておくことが求められる。

#### テキスト：

- ・ 丸山真男『忠誠と反逆』(ちくま学芸文庫) 筑摩書房, 1998 年

#### 参考文献：

- ・ 日高六郎編『近代主義』(現代日本思想大系 34) 筑摩書房, 1964 年

#### 経済学史・思想史特論

教授 小室 正紀

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

日本経済思想史における、いわゆる「近代主義」の射程について、文献を読みながら再考する。秋学期は、題材としては丸山真男『日本政治思想史研究』を主に取り上げる。受講者は、毎回、あらかじめ指定された章・節を読み内容の理解につとめておくことが求められる。

#### テキスト：

- ・ 丸山真男『日本政治思想史研究』東京大学出版会, 1952 年

#### 参考文献：

- ・ 日高六郎編『近代主義』(現代日本思想大系 34) 筑摩書房, 1964 年

#### 経済学史・思想史特論

教授 高草木 光一

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

19 世紀フランスにおける「アソシアシオン」概念について考察する。

#### 授業内容：

トクヴィル『アメリカのデモクラシー』をはじめとする原典、および研究文献を題材に用いる。

テキスト：

とくになし。

リーディング・リスト：

- ・トクヴィル（松本礼二訳）『アメリカのデモクラシー』岩波文庫
- ・的場昭弘・高草木光一編『一八四八年革命の射程』御茶の水書房
- ・大田一廣編『社会主義と経済学』日本経済評論社

---

## 経済学史・思想史特論

---

教 授 丸 山 徹

授業形態：春学期 2 単位・講義

授業内容：

経済学前史。

今年度は重商主義期の経済理論を主題とする。

参考書：

- ・H. W. Spiegel, *The Growth of Economic Thought*, 3rd ed., (Duke Univ. Press, Durham / London) 1991. とくにChap. 4-7 を参考にする。

---

## 経済学史・思想史特論

---

教 授 丸 山 徹

授業形態：秋学期 2 単位・講義

授業内容：

経済学前史。

春学期の続論。

---

## 経済史特論

---

一人文・社会科学と古典的教養の新たな継承—

(未来先導チェアシップ講座〈大和証券寄附講座〉)

コーディネーター 教 授 小 室 正 紀

教 授 杉 浦 章 介

文学部教授 中 川 純 男

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

近代社会は、人間と世界のあるべき姿を文明という名に託して追求しつづけてきた。近代社会を支えた古典的教養は、この文明をサイエンスすることを根元的課題としていたともいえる。しかし現代において、世界観の混乱にもかかわらず、学問は、細分化と技術化により、時としてその課題を忘れがちである。

そのような現状の中で、人文・社会科学に蓄積された高度な古典的教養の力は、今、あらためて見直さなければならない。さまざまな国や地域で蓄積されてきた伝統は、文化の多様性の源泉であるとともに、人類協調のよりどころとなるべき共通の財産である。人文・社会科学はそのような人類の蓄積を研究領野としてきたのである。

福澤諭吉は『文明論之概略』において、文明を「外あ

らわるる事物」と「内に存する精神」の二面から見た。「外にあらわるる事物」は、鉄道、通信、医学、工業技術のような、主に自然科学が生み出す成果である。しかし、求めるのがより難しいものは「内に存する精神」であり、その分析と追求こそが科学すなわち福澤の発音で言う「サイヤンス」の喫緊の課題であると考えた。現代の人文・社会科学は、福澤の提起したこの課題にどこまで答えられているのだろうか。

以上のような観点から本講義においては、文明を「サイヤンス」するに当たっての古典的教養の意味を、人文・社会科学の多様な分野における最先端の知見を通して問い直したい。

講義は、比較的分野の近い、海外から招聘した講師と国際的に評価されている日本人研究者とが関連して講義を担当することで、義塾における人文・社会科学の研究が学問の国際的ネットワークに連なるものであることをあらためて見直す機会を提供するとともに、若い学徒が学問を志すことの歴史的社会的な意味を自覚する機会となることを期待している。

講座の構成と履修形態

講座は、オムニバス形式の 2 単位科目。各講師は 2 コマないし 3 コマを担当し、合計で 18～20 コマを開講する。履修者はそのうちから 12 コマ以上を履修することによって、単位を申請することができる。

講義は、土曜日 4 時限に設定されているが、特に海外から講師を招聘する日程上の都合により、必ずしもその時間に開講されるとは限らず、金曜日・土曜日と連続して開講される場合などがある。

主な講義担当者

Alain Corbin（ソルボンヌ大学教授）

主領域：人文科学・社会科学にまたがる総合的な視点からの感性の歴史学など

小倉孝誠（慶應義塾大学文学部教授）

主領域：19 世紀フランスにおける文学と社会、アラン・コルバンの訳もある。

鷺見洋一（慶應義塾大学名誉教授）

主領域：百科全書派など、フランスやイタリアにおける 18 世紀啓蒙時代における知

Alan Mcfarlane（ケンブリッジ大学教授 Fellow of King's College）

主領域：民俗学的手法を援用したイギリス史、文明史。福沢諭吉についても考察。

斎藤修（一橋大学経済研究所教授）

主領域：比較経済史、歴史人口学

Bertram Schefold（ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学教授）

主領域：ヨーロッパ経済学史。日本や中国を含む世界の前近代の経済思想。

池田幸弘（慶應義塾大学経済学部教授）

主領域：オーストリア経済学史

Neil McLynn（オックスフォード大学教授，元慶應義塾大学法学部教授）

主領域：西洋古典学。古代教会史，とくに東西教会におけるキリスト教と政治。

西村太良（慶應義塾大学教授・常任理事）

主領域：西洋古典学，ギリシア文学

大芝芳弘（首都大学東京・教授）

主領域：西洋古典学，ラテン文学

## 経済史特論

教 授 杉 山 伸 也

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済にかんする資料・研究書・論文をとりあげ，院生による報告とディスカッションを中心に行う。

成績評価は，授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては，日本経済史の基本的事実関係について，すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は，日本経済史の基本的用語をふくめ，十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

## 経済史特論

教 授 杉 山 伸 也

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

徳川期および明治期の日本経済にかんする資料・研究書・論文をとりあげ，院生による報告とディスカッションを中心に行う。特定のテキストは使用せず，受講者の関心にあわせた論文を適宜選択する。

成績評価は，授業での報告や討論への参加等を考慮して総合的に判断する。

履修に際しては，日本経済史の基本的事実関係について，すでに履修していることが前提となる。また留学生の場合は，日本経済史の基本的用語をふくめ，十分な日本語能力を備えていることが望ましい。

## 経済史特論

教 授 長谷川 淳 一

准教授 崔 在 東

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

本科目では，社会経済史の視点から，欧米を中心とす

る各地の歴史を考察する。とりわけ「日常」にかかわる個別の具体的な歴史事象を，社会経済全体の「構造」と関連づけながらとらえる方法を陶冶することを目的としつつ，活発に討論したい。

授業内容：

本科目で取り上げるテーマ（担当教員の守備範囲）は，およそ次の通りである。

1. 生活環境と生活水準
2. 労働と消費生活
3. 都市と文化
4. 家族・親族・共同体と個人主義
5. 人的移動の諸相

受講者の専門・研究テーマ・興味関心が広い意味でこれらのテーマと重なり合えば，問題はない。また，考察対象地域についても，欧米に限定するものではない。

演習形式を採用する。参加者には，本科目の趣旨を踏まえた上で，各自の専門領域の研究史・研究動向を幅広くしかも詳細に紹介し，その中での自らの研究の位置づけを明らかにするような報告を求める。この報告を参加者全員で共有し，それについて議論したい。このことを通じて，何よりも参加者各自の研究が刺激され，またそれが同時に参加者全員への刺激となることが望まれる。

## 経済史特論

教 授 長谷川 淳 一

准教授 崔 在 東

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

## 経済史特論

教 授 古 田 和 子

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

18 世紀から 20 世紀前半における東アジア・東南アジアを中心とした社会経済史の把握を目的とする。アジア経済史は経済史研究のなかでは後発の研究分野であったが，近年，その研究上の進展には目覚しいものがある。本科目では，それらの研究成果のなかで主要なものを選び，成果と残された課題について考察を深めたい。

授業内容：

今年度は，対象を 19 世紀から 20 世紀前半の近代中国に絞って，市場と制度の特徴を考察し，経済や環境における変容の過程をアジア経済史のなかに位置づける作業を行う。また随時，参加者の個別研究報告を行う予定である。

## 経済史特論

教 授 柳 沢 遊

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

1930～60年代の日本経済（産業・労働・財政・金融・対外関係）植民地経済に関する研究書・論文をとりあげ、教員・院生による報告とディスカッションを中心に行う。テキストはさしあたり武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』（有斐閣、2007年）を用いる。

成績評価は、授業での報告や討論への参加、院生が自らすすめている実証研究への理論的貢献などを考慮して総合的に判断する。授業では、「あたりまえ」と思っていたことがらもふくめて、率直に質問し、教員の理解が不十分なときには、それを自ら正す意気込みで、どんなテーマ・論点でもほりさげて、かつ広い視野から討論してほしい。

授業内容：

春学期は、武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』（有斐閣、2008年）各章を輪読して、時々、院生ないし教員の個人研究報告と討論を必要に応じて行う。

テキスト：

- ・武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』有斐閣、2008年

リーディング・リスト：

- ・武田晴人編『戦後復興期の企業行動—立ち上がった障害とその克服—』有斐閣、2008年
- ・原朗・山崎志郎編『戦時日本の経済再編成』日本経済評論社、2006年

## 経済史特論

教 授 柳 沢 遊

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

1930～60年代の日本経済（経済政策・産業・労働・中小企業・対外関係）に関する研究書、論文をとりあげ、教員・院生による報告とディスカッションを中心に行う。テキストはさしあたり、武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』（有斐閣）2007年、石井寛治他編『日本経済史 ④ 戦時・戦後期』（東京大学出版会、2007年9月）の中から、いくつかを抽出して輪読していく。

成績評価は、授業での報告や討論への参加、院生が自らすすめる実証研究の中間報告などを考慮して総合的に判断する。授業では、「あたりまえ」と思っていたことがらや概念も含めて、率直かつ根源的に「問い」を発し、教員の学問的理解をのりこえるような意気込みで、多面的な興味・関心を拓く場にしてほしい。

授業内容：

秋学期は、上記2つの研究書のいずれかないしすべて

のなかから、受講者の関心のある章を選び出し、その章を輪読しながらすすめる。また院生ないし、教員の個人研究報告と討論を必要に応じて行う。

テキスト：

- ・武田晴人編『日本経済の戦後復興—未完の構造転換—』有斐閣、2007年
- ・石井寛治他編『日本経済史 ④ 戦時・戦後期』東京大学出版会、2007年9月

リーディング・リスト：

- ・原朗・山崎志郎編『戦時日本の経済再編成』日本経済評論社、2006年
- ・原朗編『復興期の日本経済』東京大学出版会、2002年
- ・岡部政夫編『南満州鉄道会社の研究』日本経済評論社

## 制度・政策論特論

教 授 赤 林 英 夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

制度・政策論特論（春、太田担当）と同じ。

授業内容：

秋学期においては、労働供給、教育の経済学、家族の経済学からトピックを選んで詳細に議論しつつ、今日の労働経済学が抱える計量経済学上の諸問題についても言及する。

- ・労働供給：静学モデル、動学モデル、Selection bias
- ・家族の理論：バーゲニングモデル、パレートモデル
- ・賃金決定：ミンサー賃金関数、Ability bias
- ・教育生産関数：教育の質の効果、教育バウチャーの効果
- ・政策評価と労働計量経済学：構造推計、操作変数法、自然実験

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

講義中に指示する。

## 制度・政策論特論

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

今年度は現代日本経済にとって重要な存在である中小企業を対象に授業を行う。授業で取り上げるテーマは下記の通り。

- ①理論的検討 ②研究史 ③歴史 ④国際比較 ⑤政策
- ⑥金融 ⑦サプライヤ・システム ⑧産業集積

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

後日紹介する。

リーディング・リスト：

- ・植田浩史『現代日本の中小企業』岩波書店，2004 年
- ・植田浩史他『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣，2006 年

---

#### 制度・政策論特論

---

教 授 植 田 浩 史

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

今年度は現代日本経済にとって重要な存在である中小企業を対象に授業を行う。授業で取り上げるテーマは下記の通り。

- ①理論的検討 ②研究史 ③歴史 ④国際比較 ⑤政策  
⑥金融 ⑦サプライヤ・システム ⑧産業集積

授業内容：

テキストの読解と討論を中心に進める。

テキスト：

後日紹介する。

リーディング・リスト：

- ・植田浩史『現代日本の中小企業』岩波書店，2004 年
- ・植田浩史他『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣，2006 年

---

#### 制度・政策論特論

---

教 授 植 田 浩 史

教 授 渡 邊 幸 男

准教授 駒 形 哲 哉

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

急速に発展する中国工業を題材にとりあげ、それを地域産業・産業集積の視点から検討する。具体的には、担当者等の中国工業発展について研究成果を利用して講義を行うとともに、中国研究者による中国地域産業発展についての研究も取り上げる。

中国研究者による中国語での研究成果も輪読することになるが、その場合は駒形等による日本語でのレジュメを利用して検討することになる。それゆえ中国語での輪読が困難なものにも履修可能である。

---

#### 制度・政策論特論

---

教 授 植 田 浩 史

教 授 渡 邊 幸 男

准教授 駒 形 哲 哉

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

目標・意義・方法：

春学期参照。

---

#### 制度・政策論特論

---

教 授 太 田 聰 一

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

当科目では、中級レベルの労働経済学を講義する。言うまでもなく、労働市場は労働サービスが取引される場であるが、需要者や供給者の主体的な行動によってサービスの質や取引状況が変化しうるきわめて複雑な市場である。それだけ労働市場の研究は challenging であり、魅力的であるといえる。この講義の目的は、将来労働市場の研究を志したり、他の関連分野の研究を目指したりする人々にとって必須の知識を提供することにある。

また、博士レベルの受講者にとって既存の知識の整理に役立つように心がけるとともに、未だ必ずしも十分に解決されていない将来の研究課題を提示したい。

授業内容：

春学期においては、企業の主体的行動、内部組織、失業に注目する。

- ・労働需要：静学モデル
- ・労働需要：動学モデル（雇用調整速度）
- ・最低賃金，解雇規制などの応用トピック
- ・買手独占下の労働市場問題
- ・内部労働市場の機能
- ・雇用契約，インセンティブ，昇進
- ・賃金交渉と効率賃金
- ・失業と企業および労働者のサーチ活動

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

講義中に指示する。

---

#### 制度・政策論特論

---

教 授 大 村 達 弥

授業形態：春学期，秋学期とも 2 単位・講義

目標・意義・方法：

変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ、政府（法律・政治）システムとの境界領域に注目しつつ、経済政策学的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては、公共部門の効率化のための理論的基礎（オークション理論，契約理論等），また，経済政策過程の実際例として情報通信・ネットワーク産業に関する政策を扱う予定である。

テキスト：

- ・伊藤・小佐野『インセンティブ設計の経済学』勁草書房，2003 年

リーディング・リスト：

- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press, 2005
- ・坂井・藤中・若山『メカニズムデザイン』ミネルヴァ書房，

2008 年

その他必要な文献は授業開始の時点で指定する

---

#### 制度・政策論特論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視角から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第 1 回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

---

#### 制度・政策論特論

教 授 北 村 洋 基

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

主として今日の日本経済をグローバルな視角から分析する。そのことを通じて現代資本主義の総体把握と課題を探究する。

授業内容：

テキストの講読と討論を中心とする。

テキスト：

第 1 回授業の際に指定する。

リーディング・リスト：

適宜紹介する。

---

#### 制度・政策論特論

教 授 木 村 福 成

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

発展途上国の開発において、貿易・直接投資と工業化の関係は避けて通れない重要な問題となってきた。本講義では特に、近年急速に発展しつつあるフラグメンテーション理論と空間経済学に焦点を当て、東アジア経済への適用可能性を検討していく。

国際貿易論、開発経済学の基礎を身につけていることが望ましいが、経済学研究科の他分野、あるいは他研究科からの参加も歓迎する。

授業内容：

初回と第 2 回の講義は、基礎となる国際貿易論の知識、フラグメンテーション理論、東アジア経済の実態についてのサーベイにあてる。第 3 回以降は、短いレクチャーと最新の関連論文の読解を行うこととする。

講義では、活発な質疑応答と discussion が不可欠である。各自事前に十分に準備をして、議論のポイントを整理した上で、講義に臨んでもらいたい。

テキスト：

第 1 回目の講義の際に指示する。

リーディング・リスト：

第 1 回目の講義の際に指示する。

---

#### 制度・政策論特論

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：春学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

情報の非対称性やゲーム理論を使った「新しい金融論」の基本を習得する。サブプライムローン問題に端を発した金融危機について理解を深める。

授業内容：

まず、基本的な金融理論を、いくつかの論文や下記テキストに頼りながら習得する。その後、現在、世界を震撼させている金融危機をトピックスに取り上げ、どのようなアプローチでこの問題を分析していくべきか、最新の論文を読みながら理解を深める。

テキスト：

・Freixas and Rochet, *Microeconomics of Banking*, MIT Press

・櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版社

リーディング・リスト：

1. D.W.Diamond, "Financial intermediation and delegated verification", *Review of Economic Studies* 51, 393-414, 1984
  2. D.W.Diamond, P.H.Dybvig, "Bank runs, deposit insurance and liquidity", *Journal of Political Economy* 91, 401-419, 1983
  3. Goldstein, A. Pauzner, "Demand-deposit contracts and the probability of bank runs", *Journal of Finance* LX, 1293-1327, 2005
  4. S.Morris, H-S Shin, "Unique equilibrium in a model of self-fulfilling currency attacks", *American Economic Review*, 1998
- その他、追って指示する。

---

#### 制度・政策論特論

教 授 土 居 文 朗

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

公共経済学の中でも、地方財政を取り上げ、その分野の学術論文の展開を追えるに足る理論的基礎を学習することを目的とする。注目に値する論文を講読するとともに、論文を執筆する履修者に対しては、論文の作成途上段階での発表や必要な助言を行うなど臨機応変に対応する。

履修者は、学部レベルの公共経済学（例えば、リーディング・リストに挙げた拙著レベル）を理解していること

が望ましい。

#### 授業内容：

まずは、地方公共財の理論に関する基本的枠組みを学ぶ。次いで、地方税に関する文献について学ぶ。

#### テキスト：

土居丈朗『地方財政の政治経済学』東洋経済新報社

#### リーディング・リスト：

土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社

その他、授業の進行に合わせて紹介する。

#### 制度・政策論特論

名誉教授 中 澤 敏 明  
教 授 飯 塚 敏 晃  
教 授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

本講義では、産業組織論の実証研究 (Empirical Industrial Organization) に関する主要な論文の紹介ならびに最近の研究のサーベイを行う。

産業組織論の実証研究は、クロスセクションデータ主体の方法から、計量経済学とミクロ理論を統合し、パネルデータやミクロデータを主に利用する New Empirical IO の方法が確立しようとしている (この変化は “Empirical Renaissance” と呼ばれている)。

この New Empirical IO の方法を、代表的な論文や最近の論文を紹介しながら研究系譜、研究者の着眼点・論理展開・データ所在・計量的手法などを紹介する。

産業組織論の応用範囲は広く、市場支配力、製品差別、参入・退出、垂直統合、広告などの産業組織論の代表的なトピックはもちろん、医療経済学や法と経済の研究についても取り上げる。経済理論モデルだけでなく実証研究に興味をもった政策志向の学生が自らの論文のテーマを考えるうえで有益であると思われるが、理論専攻で実証研究にも興味を持つ学生の履修も歓迎する。

#### 授業内容：

1. New Empirical IO について
2. 生産関数、費用関数、生産性の分析
3. 差別化市場の分析
4. 市場競争度の測定
5. 独占市場
6. カルテル

#### テキスト：

最初の講義のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

リーディングリストは授業のときに配布するが、以下にはよく利用される書籍を紹介する。

- ・Cabral L.M.B., *Readings in Industrial Organization (Blackwell Readings for Contemporary Economics)*, Blackwell, 2000

- ・Schmalensee R. & Willig R.D., *Handbook of Industrial Organization vol. 1 & 2*, North-Holland, 1989
- ・Armstrong M. & Porter R., *Handbook of Industrial Organization vol. 3*, North-Holland, 2004
- ・Polinsky A. M. & Shavell S., *Handbook of Law and Economics vol. 1 & 2*, North-Holland, 2007
- ・Culyer A. J. & Newhouse J. P., *Handbook of Health Economics vol. 1A & 1B*, North-Holland, 2000

#### 制度・政策論特論

名誉教授 中 澤 敏 明  
教 授 飯 塚 敏 晃  
教 授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

春学期に開講される「産業組織論」に引き続き、産業組織論の実証研究 (Empirical Industrial Organization) に関する主要な論文の紹介ならびに最近の研究のサーベイを行う。

#### 授業内容：

1. 市場構造と参入退出
2. 垂直統合、垂直的取引制限
3. 情報の非対称性の検証
4. 広告
5. 価格差別
6. 価格差とサーチモデル
7. ネットワーク外部性

#### テキスト：

最初の講義のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

- ・Cabral L.M.B., *Readings in Industrial Organization (Blackwell Readings for Contemporary Economics)*, Blackwell, 2000
- ・Schmalensee R. & Willig R. D., *Handbook of Industrial Organization vol.1 & 2*, North-Holland, 1989
- ・Armstrong M. & Porter R., *Handbook of Industrial Organization vol.3*, North-Holland, 2004
- ・Polinsky A. M. & Shavell S., *Handbook of Law and Economics vol.1 & 2*, North-Holland, 2007
- ・Culyer A. J. & Newhouse J. P., *Handbook of Health Economics vol.1A & 1B*, North-Holland, 2000

#### 制度・政策論特論 (グローバル COE 連携科目)

客員教授 矢 野 誠  
講 師 小松原 崇 史  
講 師 西 村 和 雄

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

#### 目標・意義・方法：

慶應義塾大学では、「市場の質理論」にもとづいて、平

成 15 年度から 19 年度にかけて、経済学研究科と商学研究科が連携し、21 世紀 COE プログラム「市場の質に関する理論形成とパネル実証分析」を推進してきた。さらに、今年度からは、経済学研究科および商学研究科が、京都大学経済研究所と連携し、グローバル COE プログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」をスタートさせている。

本講義は、春学期の講義の後を受け、グローバル COE 連携科目として、プログラムの理論的成果を紹介することを目的としている。

市場の質は慶應義塾大学から始まった、経済学的に新しい考え方であり、研究成果の中にはすでに学問的に高く評価され、国際的な雑誌にも掲載されているものが数多い。こうした研究を系統立てて理解することは、修士論文や博士論文を作成する上で有益だと考えられる。

#### 授業内容：

講義の前半では、価格競争の役割、M&A 市場、価格の公正性、市場参入、市場の内生的形成についての研究が紹介される。後半では、経済動学に関連する研究が紹介される。

1. 価格競争の役割について
2. M&A 市場について
3. 価格の公正性について
4. 市場参入について
5. 市場の内生的形成について
6. 動学的意思決定について
7. 動学的市場理論について

#### テキスト：

- ・矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店、2001a
- ・矢野誠『ミクロ経済学の基礎』岩波書店、2001b
- ・矢野誠『「質の時代」のシステム改革』岩波書店、2005 年
- ・矢野誠編『法と経済学』東京大学出版会、2007 年
- ・Yano, M., ed., *The Japanese Economy - A Market Quality Perspective*, Keio University Press, 2008

#### リーディング・リスト：

##### 1. 価格競争の役割について

- ・Dastidar, K. G., “On the Existence of Pure Strategy Bertrand Equilibrium,” *Economic Theory* 5, 19-32, 1995
- ・Grossman, S., “Nash Equilibrium and the Industrial Organization of Markets with Large Fixed Cost,” *Econometrica* 49, 1149-1172, 1981
- ・Novshek, W., “Cournot Equilibrium with Free Entry,” *Review of Economic Studies* 47, 473-486, 1980
- ・Novshek, W., and H. Sonnenschein, “Cournot and Walras Equilibrium,” *Journal of Economic Theory* 19, 223-266, 1978
- ・Yano, M., “Coexistence of Large Firms and Less Efficient Small Firms under Price Competition with Free Entry,”

*International Journal of Economic Theory* 1, 167-188, 2005

- ・Yano, M., “A Price Competition Game under Free Entry,” *Economic Theory* 29, 395-414, 2006

##### 2. M&A 市場について

- ・Akerof, G. A., “The Market for “Lemons” : Quality Uncertainty and the Market Mechanism,” *Quarterly Journal of Economics* 84, 488-500, 1970
- ・Yano, M., and T. Komatsubara, “Law and Economics of M&A Markets,” in Makoto Yano, ed., *The Japanese Economy - A Market Quality Perspective*, Keio University Press, 2008

##### 3. 価格の公正性について

- ・Yano, M., “Competitive Fairness and the Concept of a Fair Price under Delaware Law on M&A,” *International Journal of Economic Theory* 4, 175-190, 2008a
- ・Yano, M., “The Foundation of Market Quality Economics,” *Japanese Economic Review*, forthcoming, 2008b

##### 4. 市場参入について

- ・Baumol, W., J. Panzar, and R. Willig, *Contestable Markets and the Theory of Industrial Structure*, Harcourt Brace Jovanovich, 1982
- ・Yano, M., and F. Dei, “Network Externalities, Discrete Demand Shifts, and Sub-Marginal-Cost Pricing,” *Canadian Journal of Economics* 39, 455-476, 2006a
- ・Yano, M., and F. Dei, “Network Externalities, Lexicographic Demand Shifts, and Marginal Cost Dumping,” *Keio Economic Studies* 42, 115-130, 2006b

##### 5. 市場の内生的形成について

- ・Coase, R. H., “The Problem of Social Cost,” *Journal of Law and Economics* 3, 1-44, 1960
- ・Demsetz, H., “Toward a Theory of Property Rights,” *American Economic Review* 57, 347-359, 1967
- ・Hamilton, J. H., and S. M. Slutsky, “Endogenous Timing in Duopoly Games: Stackelberg or Cournot Equilibria,” *Games and Economic Behavior* 2, 29-46, 1990
- ・North, D. C., *Structure and Change in Economic History*, W. W. Norton, 1981
- ・North, D. C., *Institutions, Institutional Change and Economic Performance*, Cambridge University Press, 1990
- ・North, D. C., and R. P. Thomas, *The Rise of the Western World: A New Economic History*, Cambridge University Press, 1973
- ・Yano, M., and T. Komatsubara, “Endogenous Price Leadership and Technological Differences,” *International Journal of Economic Theory* 2, 365-383, 2006

##### 6. 動学的意思決定について

- ・西村, 矢野『マクロ経済動学』岩波書店、2007 年

##### 7. 動学的市場理論について

- ・Benhabib, J., and K. Nishimura, “Competitive Equilibrium

Cycles,” *Journal of Economic Theory* 35, 284-306, 1985

- Benhabib, J., K. Nishimura, and A. Venditti, “Indeterminacy and Cycles in Two-Sector Discrete-Time Models,” *Economic Theory* 20, 217-235, 2002
- Nishimura, K., and M. Yano, “Nonlinear Dynamics and Chaos in Optimal Growth: An Example,” *Econometrica* 63, 981-1001, 1995
- Yano, M., “On the Dual Stability of a von Neumann Facet and the Inefficacy of Temporary Fiscal Policy,” *Econometrica* 66, 427-451, 1998

---

## 制度・政策論特論（グローバル COE 連携科目）

---

教 授 吉 野 直 行

特別研究講師 溝 口 哲 郎

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

授業科目の内容：

さまざまな市場の不備が指摘されている。最近のサブプライムローン問題では、住宅ローンに貸出を行う金融機関の四新行動、住宅ブローカーのインセンティブメカニズム問題、格付け機関の問題、証券化による情報の非対称性の問題など、証券化商品市場を取り巻く“市場”の問題が顕著となっている。

本演習では、グローバル COE の研究の中心である“市場の質”に関して、金融市場と公共投資などをとりあげ、市場インフラ設計に関する基礎的な演習を行う。

内容としては、

### 1, 金融市場

(1) 市場の構成主体の行動分析（金融市場の場合には、

①資金供給者、②資金需要者）、

(2) 取引される金融商品市場の質

事例としては、(i) 住宅債券市場、(ii) 消費者金融市場、(iii) 国債市場などを取り上げる。

### 2, 公共投資の市場

公共投資は、市場が見えにくい構造である。公共投資の財源は、国の税収、地方の税収、国から地方への補助金、国債、地方債といったように、さまざまな財源によって賄われている。公共投資の実施主体は、国・地方公共団体であるが、その決定は、政治（政策）に基づくものであり、市場の効率性などが見えにくい構造となっている。公共投資の市場の透明性を確保する方策の一つが、民間資金の導入による公共投資事業の実施であると考えられる。そのフレームワーク、事例を使いながら、公共政策の市場について議論する。

### 3, 官僚機構の質

公共投資の問題に関連して、政策立案者である官僚行動を分析する。公共投資の市場と同様、官僚機構の政策決定プロセスは不透明であり、効率性を損ない、最悪の場合には汚職に至った。硬直的で複雑な官僚の人事制度

や慣習などがもたらす弊害をどのように解決するのか、制度設計や応用ミクロ経済学を利用して「官僚の質」を高めるためのメカニズム設計について議論する。

### 4, 公共調達市場の高質化

寡占市場である日本の官公庁の公共調達の問題を応用ゲーム理論の手法を用いて分析する。入札が競争的ではない場合には、官僚の裁量が働くため、官僚が汚職をする可能性が生じる。このような状況をモデル化し、政府調達のオークションによる汚職を排除するために、海外も含めた調達を入れた場合と、国内市場のみからの調達のケースを比較し、海外からの調達の可能性も含めて公共調達市場を開放することによって、事後的な効率性を達成できることを示す。

テキスト：

- Jean Hindriks and Gareth D Myles, *Intermediate Public Economics*, MIT Press

参考書：

参考文献については、講義の中で適宜説明する。

講義の計画：

- 1, 金融市場の質の問題
- 2, 国債市場の現状とその発展
- 3, 住宅金融市場とその質的な変化
- 4, 金融の証券化市場の高質化
- 5, 消費者金融市場
- 6, 日本の公共政策の歴史的な変遷
- 7, 生産関数を用いた公共投資市場の生産性
- 8, インフラボンドの導入による公共投資の高質化
- 9, 為替市場の変動要因
- 10, 中小企業金融における情報の非対称性と市場の失敗
- 11, 日本の官僚機構の行動分析
- 12, 日本の予算配分モデルと官僚機構
- 13, 政府調達の市場と海外も含めた公共入札制度による市場の高質化

成績評価方法：

講義における参加度と、発表内容によって評価する。

質問・相談：

講義終了後の時間を質問時間とする。

---

## 国際経済論特論

---

教 授 大 垣 昌 夫

授業形態：秋学期 2 単位・講義

目標・意義・方法：

本講義では、国際金融論と国際マクロ経済学を理論モデルを中心に解説する。テキストに説明のある基本モデルと、そのモデルに関連する論文を説明する。

授業内容：

1. 為替市場や国際収支などの制度的背景。2. マネタリー・モデル。2. ルーカスの 2 国モデル。3. 国際リアル・

ビジネス・サイクル・モデル。4. 外国為替市場の効率性。  
5. 実質為替レート。6. マンデル・フレミング・モデル。7.  
新国際マクロ・モデル。8. ターゲット・ゾーン・モデル。  
授業の進捗状況により、授業内容の多少の変更の可能性  
もある。

#### テキスト：

- Nelson C. Mark, *International Macroeconomics and Finance*, Blackwell Publishing, 2001

#### リーディング・リスト：

- Baxter, Marianne and Mario J. Crucini, “Explaining Saving-Investment Correlation” *American Economic Review*, pp.416-436, June 1993
- Stockman, Alan C and Tesar, Linda L. “Tastes and Technology in a Two-Country Model of the Business Cycle: Explaining International Comovements.” *American Economic Review*, 85(1), pp.168-85, March 1995
- Kehoe, Patrick J. and Perri, Fabrizio. “International Business Cycles with Endogenous Incomplete Markets.” *Econometrica*, 70(3), pp.907-928, May 2002
- Obstfeld, Maurice and Rogoff, Kenneth. “New Directions for Stochastic Open Economy Models.” *Journal of International Economics*, 50(1), pp.117-53, February 2000

---

#### 国際経済論特論

教授 竹 森 俊 平

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

国際金融、および国際貿易についての重要な Issue について講義する。また、研究を進めるための文献を紹介する。

#### リーディング・リスト：

文献等については、第一回目の講義の際に指示する。

---

#### 国際経済論特論

客員教授 若 杉 隆 平

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

国際貿易・直接投資に関して、基礎理論と実証分析について、中級レベルの講義をする。

#### 授業内容：

対象とする内容は以下のようなものである。

1. Ricardo の貿易理論
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
3. 貿易均衡
4. 特殊要素モデル
5. 完全競争市場の下での貿易政策
6. 不完全競争市場下での貿易政策
7. 直接投資
8. イノベーションと貿易

#### 9. 企業と貿易

#### 10. 自由貿易と地域貿易協定

#### テキスト：

- Robert Feenstra, *Advanced International Trade-Theory and Evidence*, Princeton University Press, 2004
- Jagdish Bhagwati, Arvind Panagariya, and T. N. Srinivasan, *Lectures on International Trade*, 2nd edition, The MIT Press, 1998
- 若杉隆平『現代の国際貿易—マイクロデータ分析—』岩波書店, 2007 年

#### リーディング・リスト：

論文に関するリーディング・リストは、その都度、紹介する。

---

#### 社会・環境論特論

教授 杉 浦 章 介

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

都市経済や地域経済についての経済地理学ならびに空間経済学の最新の研究文献を輪読しながら、理論と実証の両面について理解を深める。

#### 授業内容：

下記のテキストを中心に関連文献を輪読する。

#### テキスト：

- ① Doreen Massey, *World City*, Polity Press, 2007
- ② Roger Tooze and Christopher May (eds.), *Authority and Markets: Susan Strange's writings on International Political Economy*, Palgrave Macmillan, 2002

---

#### 社会・環境論特論

教授 杉 浦 章 介

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 授業内容：

春学期の継続。

---

#### 社会・環境論特論

教授 津 谷 典 子

授業形態：秋学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

当科目の目的は、わが国の少子高齢化について、近年の人口学および経済学における理論的および計量分析的展開を理解し、それを学生諸君の今後実証的分析に基づく研究に応用するための学習をすることにある。ここでは特に、少子高齢化や未婚化などの人口変動に関する形式人口学的研究と、その社会経済的要因のライフコース分析（Life course analysis）を中心とした多変量解析モデルを用いた研究に関する内外の文献を購読し、その理論的（theoretical）かつ技術的（technical）意味を多面的に

検討する。

近年、多変量解析のためのマイクロ・データの入手が以前に比べ容易になり、またライフコース分析を応用することのできるパネル調査および出産歴、就業歴、結婚歴などのライフ・ヒストリーに関する大規模調査データも収集されている。これら調査データを使つての学生諸君自身の研究への応用についても適宜アドバイスする。

#### 授業内容：

当科目では、担当者があらかじめ選定した論文のリーディング・リストに従い、毎週学生諸君が論文の内容について報告を行う。その後、担当者および学生報告者への質疑応答、そしてクラス全体での討論を行い、最後に講師が論文テーマおよび内容についてのまとめとして短い講義を行う。学期の終わりには、担当者が指示するテーマについてレポートを課すが、もし自分自身のテーマでレポートを書きたい場合は、それも可能である。

さらに、学生諸君が現在行っている（もしくは行うためのプロポーザルを作成中である）研究論文や学位論文についての報告も、ニーズがあれば実施する。担当者および他の学生諸君からの質問とコメントをもらい、クラス討論を行う。これを通じて、学会での報告および学位論文執筆の準備とすることが望まれる。

#### リーディング・リスト：

学期の最初に配布する。

#### 社会・環境論特論

教 授 長谷川 淳 一  
教 授 矢 野 久  
准教授 井 手 英 策  
准教授 難 波 ちづる

授業形態：春学期 2 単位・合同講義

#### 授業内容：

社会史は、「下からの歴史」を「上からの歴史」との関連において描くため、「総合の学」＝関連諸ディシプリンの援用をもってその方法的特徴としている。担当者はイギリス、フランスとドイツにおける都市と文化、労働と消費、生活環境、植民地支配などを専門の守備範囲としているが、受講者の研究テーマ、問題関心が重なれば受講を歓迎する。考察対象地域も英仏独に限定するものではない。授業の形式は演習方式とし、講義とそれに続く討論を通じて、新しい論点の提起、方法的枠組の再構築を試行したい。読むべき文献は、そのテーマ毎に指示する。

成績評価方法は平常点（出席状況および授業態度による評価）とする。

#### 社会・環境論特論

教 授 長谷川 淳 一  
教 授 矢 野 久  
准教授 井 手 英 策  
准教授 難 波 ちづる

授業形態：秋学期 2 単位・合同講義

#### 授業内容：

春学期参照。

#### 社会・環境論特論

教 授 細 田 衛 士

授業形態：春学期 2 単位・講義

#### 目標・意義・方法：

本授業では、環境経済学の理論的基礎を講義する。環境経済学の理論としては、伝統的な新古典派的アプローチや新制度学のアプローチなど多様な分析手法がある。ここでは、環境経済学のテキストで既に定着しつつあるものを中心に講義を進める。講義の流れは以下の授業内容の通りである。尚、取り上げる内容には若干の変更もあり得る。

#### 授業内容：

- 第 1 章 環境経済学の流れ
- 第 2 章 公共財としての環境
- 第 3 章 環境問題と所有権：制度学派的アプローチ
- 第 4 章 オープンアクセスと再生可能資源
- 第 5 章 再生不可能資源
- 第 6 章 課税政策
- 第 7 章 排出権売買制度
- 第 8 章 デポジット制度
- 第 9 章 コースの定理
- 第10章 廃棄物とリサイクル
- 第11章 汚染者支払い原則
- 第12章 開発と環境保全

#### テキスト：

・細田衛士・横山彰『環境経済学』有斐閣アルマシリーズ（但し、参考文献程度である）

#### リーディング・リスト：

授業第 1 時間目に示す

## 演 習 科 目

### ミクロ経済学演習

准教授 石 橋 孝 次  
准教授 白 井 義 昌  
准教授 玉 田 康 成  
准教授 津 曲 正 俊

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経済主体が意思決定を行う際に用いる情報そしてその行動誘因の問題を明示的に取り扱う経済諸モデルの文献を講読する。論文をいかに読み込むか、そして経済問題をどのように組み立て分析するのかということを知得すること、さらに修士論文作成のための問題意識醸成を演習の目的とする。

扱うトピックスとしては契約および組織の基礎理論、その応用としての産業組織論、労働市場および金融市場の分析などである。

### ミクロ経済学演習

准教授 石 橋 孝 次  
准教授 白 井 義 昌  
准教授 玉 田 康 成  
准教授 津 曲 正 俊

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

### ミクロ経済学演習

准教授 穂 刈 享

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

協力ゲームの分野における未解決問題に取り組む。また、受講者の希望があれば (1) ネットワーク形成のモデル及び (2) 離散時間のサーチ・モデルについての講義またはテキスト・論文の輪読も行う。

### ミクロ経済学演習

准教授 穂 刈 享

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

春学期に引き続き、協力ゲームの分野における未解決問題に取り組む。また、受講者の希望があれば、(1) ネットワーク形成のモデル及び (2) 離散時間のサーチ・モデルについての講義又はテキスト・論文の輪読も行う。

### ミクロ経済学演習（ゲームの理論）〈東京工業大学にて開講〉

教 授 中 山 幹 夫

※講 師 武 藤 滋 夫

(※東京工業大学設置科目「ワークインプログレスセミナー」担当者)

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

ゲーム理論とその応用を中心とした研究発表をセミナー形式で行う。

### ミクロ経済学演習（ゲームの理論）

教 授 中 山 幹 夫

※講 師 武 藤 滋 夫

(※東京工業大学設置科目「上級協力ゲーム理論」担当者)

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

交渉ゲームおよび特性関数形ゲーム (TU ゲーム)、特性関数形ゲーム (NTU ゲーム) さらに戦略形協力ゲームの基礎理論を講義と演習を通して学び、論文を作成する力を養う。

なお、本講義は、慶應義塾大学大学院経済学研究科と東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻との共同授業科目であり、東京工業大学においては「上級協力ゲーム理論」として開講される。講義室は、2009 年度は慶應義塾大学の講義室を用いる。講義時間は、秋学期 4 時限を予定している。

授業内容：

前半は、武藤が講義を担当し、中山がコメントおよび演習を担当する。

後半は中山が講義を担当し、武藤がコメント及び演習を担当する。15 回を予定しているが短縮することもある。

第 1 回 はじめにー協力ゲーム理論とは

第 2 回 交渉ゲーム

第 3 回 ナッシュ交渉解

第 4 回 特性関数形ゲーム

第 5 回 コア

第 6 回 仁

第 7 回 シャープレイ値

第 8 回 提携を許す戦略形ゲーム、強ナッシュ均衡、例示

第 9 回 結託耐性ナッシュ均衡、例示

第 10 回  $\alpha$  コアと  $\beta$  コア、スカーフの定理

第 11 回 (続き) 例示：優位懲罰戦略、自己拘束的戦略

第 12 回 応用

第 13 回 NTU ゲームとコア、凸性と懲罰優位

第 14 回 NTU コアの存在定理

第 15 回 学期末試験

参考書：

武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2001 年  
中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005 年

中山幹夫他『協力ゲーム理論』勁草書房，2008 年  
リーディング・リスト：  
上記，参考書など

---

#### ミクロ経済学演習（ゲームの理論）

---

教 授 中 山 幹 夫

※講 師 武 藤 滋 夫

（※東京工業大学設置科目「ワークインプログレスセミナー」担当者）

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

ゲーム理論とその応用を中心とした研究発表をセミナー形式で行う。

---

#### ミクロ経済学演習（都市経済論）（グローバル COE 連携科目）

---

教 授 瀬 古 美 喜

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点に立つて，都市経済学の基礎的な理論モデルと実証研究について学ぶ。具体的には，理論的・実証的分析手法に基づいて各自が選んだ研究テーマに関する論文指導を行う。

リーディング・リスト：

- Edwin S. Mills and Bruce W. Hamilton, *Urban Economics*, 5th edition, Scott, Foresman & Co., 1994
- J. V. Henderson, *Economic Theory and the Cities*, 2nd edition, Academic Press, 1985
- Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996（瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社，2001 年）
- Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.1: *Regional Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987
- Peter Nijkamp and Edwin S. Mills, eds., *Handbook of Regional and Urban Economics*, Vol.2: *Urban Economics*, North-Holland and Elsevier Science Publisher, 1987
- *Regional and Urban Economics*, Part 1, Part 2, Harwood and Academic Publishers
- Masahisa Fujita, Paul Krugman and Anthony J. Venables, *The Spatial Economy*, MIT Press, 1999（小出訳『空間経済学』東洋経済新報社）
- M. Fujita and J-F Thisse, *Economics of Agglomeration*, Cambridge University Press, 2002
- 日本住宅総合センター『季刊・住宅土地経済』（各版）
- 黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学』〔新版〕有斐閣ブックス，2008 年
- 瀬古美喜著『土地と住宅の経済分析』創文社，1998 年
- 金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社，1997 年

- Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen ed., *A Companion to Urban Economics*, Blackwell, 2006

---

#### マクロ経済学演習

---

教 授 塩 澤 修 平

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

家計の貯蓄行動，企業の投資行動，さらには企業の生産技術や労働，土地等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が所与とされるような静態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに博士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

---

#### マクロ経済学演習

---

教 授 塩 澤 修 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

文献講読と論文指導

授業内容：

企業の生産技術や労働，資本等の本源的生産要素の賦存量およびその効率が時間を通じて変化するような動態経済のマクロ均衡モデルを分析対象とする文献を展望し，学生の関心を考慮して幾つかの重要なトピックスを選び，関連文献を講読するとともに博士論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

リーディング・リスト：

適宜指示する。

---

#### 数理経済学演習（I）

---

教 授 尾 崎 裕 之

教 授 須 田 伸 一

教 授 丸 山 徹

商学部 教 授 小 宮 英 敏

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも，経済学・数学両分野の専門家に参加を求め，研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容：

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- (Ⅰ) 非線形動学と景気変動
- (Ⅱ) 確率解析と金融資産価格の変動
- (Ⅲ) 凸解析と変分法 (多価作用素の解析を含む)
- (Ⅳ) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習 (Ⅱ)」と併せて履修することが望ましい。

#### 数理経済学演習 (Ⅱ)

教授 尾崎 裕之  
教授 須田 伸一  
教授 丸山 徹  
商学部 教授 小宮 英敏  
特別招聘教授 イオッフエ, アレクサンダー  
特別招聘教授 ロッカフェラー, ティレル R.

授業形態: 秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法:

参加者による数理経済学上の新しい研究結果の報告ならびにそれをめぐる討論。塾内だけでなく塾外からも、経済学・数学両分野の専門家に参加を求め、研究の向上と視野の拡大に資したいと願っている。

授業内容:

とりわけ経済分析を支える解析学的方法を中心とするが、今年度の重点的テーマは次のとおりである。

- (Ⅰ) 非線形動学と景気変動
- (Ⅱ) 確率解析と金融資産価格の変動
- (Ⅲ) 凸解析と変分法 (多価作用素の解析を含む)
- (Ⅳ) 均衡分析の基本問題

「数理経済学演習 (Ⅰ)」と併せて履修することが望ましい。

#### 経済数学演習

教授 尾崎 裕之  
教授 グレーヴァ香子  
教授 中村 慎助  
教授 中山 幹夫

授業形態: 春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法:

数理経済学およびゲーム理論に関する基本的な文献の講読ならびに各自の論文報告を行う。詳細は開講時に指定する。

#### 計量経済学演習

教授 木村 福成

授業形態: 春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法:

国際貿易論と開発経済学を中心とする応用経済学にお

ける実証・政策研究について学ぶ。

国際経済学・開発経済学の分野では、さまざまな政策的課題が実際の経済あるいは政策担当者から提示されているが、それに対し経済学者は十分な解答を用意しているとはいいがたい状況にある。経済学を十分駆使した政策研究を行うためには、政策論議に対する関心とバランス感覚に加え、経済学の応用理論、統計学・計量経済学上の手法、統計データの扱い方、分析結果のプレゼンテーションなど、さまざまな能力が要求される。本科目では、担当者が現在行っている諸研究も含め、当該分野のフロンティアの諸課題を取り上げ、経済学の現実問題への応用はいかに行い得るかについて勉強していく。

授業内容:

今学期は特に、以下の本の読解から授業を開始することとする。

- ・Combes, Pierre-Philippe; Mayer, Thierry; and Thisse, Jacques-Francois. *Economic Geography: The Integration of Regions and Nations*. Princeton: Princeton University Press, 2008

成績は、講義における discussion への貢献度 (40%) と学期末のレポート (文献の批判的レビューなどでもよい) (60%) によって評価するものとする。

テキスト:

- ・Combes, Pierre-Philippe; Mayer, Thierry; and Thisse, Jacques-Francois. *Economic Geography: The Integration of Regions and Nations*. Princeton: Princeton University Press, 2008.

#### 計量経済学演習

名誉教授 清水 雅彦  
教授 辻村 和佑

授業形態: 春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法:

参加者の研究テーマに応じて、定量的な分析に不可欠な統計資料の選択、およびその分析方法について討論、ならびに指導を行う。必要な参考文献があれば、随時これを輪読する。また、研究の進捗状況にあわせて、その内容を発表してもらい、ディスカッションを行う。実証分析をとまなうものであれば特にテーマは限定しない。ただし産業連関表や資金循環表など経済構造を表象する統計資料を分析対象とするものをとりわけ歓迎する。

#### 計量経済学演習

名誉教授 清水 雅彦  
教授 辻村 和佑

授業形態: 秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法:

参加者の研究テーマに応じて、定量的な分析に不可欠な

統計資料の選択、およびその分析方法について討論、ならびに指導を行う。必要な参考文献があれば、随時これを輪読する。また、研究の進捗状況にあわせて、その内容を発表してもらい、ディスカッションを行う。実証分析をとまなうものであれば特にテーマは限定しない。ただし産業連関表や資金循環表など経済構造を表象する統計資料を分析対象とするものを取りわけ歓迎する。

## 計量経済学演習

准教授 田 中 辰 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

本講義の目的は 2 つある。(1) GAUSS を使って計量経済学の基礎を学ぶこと、(2) IT 産業に関する理論・実証論文を読み、自分の論文のテーマを見つけること、の 2 点である。どちらを主としてとりあげるかは集まった学生の要望を聞いて決める。以下、順に説明する。

(1) ガウス (GAUSS) は行列演算が得意なソフトウェアであり、計量分析の推定プログラムが効率よく組める。たとえば、最小 2 乗法の推定値は  $b = (X' * X)^{-1} X' y$  であるが、ガウスではこのままこの式をプログラム中に書けば良い。理論式がそのままプログラム中に現われるので、理論との対応関係が明瞭であり、理解に役立つ。コマンド一つで統計量をやまほど計算してくれる統計ソフトウェアと異なり、自分で理論内容を理解しないと利用できないが、その代り、推定の中身を自分で確認できるうえに、必要に応じて自分で推定方法を工夫できる利点がある。演習参加にあたっては、コンピュータプログラムの知識は必須ではないがあつた方が便利であろう。少なくとも厭わない覚悟は必要である。

(2) IT 産業は近年、もっとも成長が著しく、また産業構造に大きな影響を与えている産業である。90 年代の日米逆転の一因もこの産業での成功・失敗にある。また理論的にもネットワーク外部性や収穫逓増、スイッチングコスト、ベンチャー型産業構造、コンテンツ産業での知的財産権訴訟など特徴的な現象が多く観察されており興味はつきない。しかし、経済学の目から見ると、理論研究も実証研究も遅れている。本講義ではテーマを設定して論文を読み、学生諸君の論文のテーマを探していく。本年の候補は (1) 著作権の経済分析、(2) ソフトウェア産業の実証分析、(3) モジュール化と水平分離の 3 つであり、この中から選ぶ。

(1) と (2) のどちらになるかは最初の時に決める。多数決で決めざるを得ないので、最初の回には必ず出席されたい。

## 計量経済学演習

教 授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この演習は履修者の博士論文の作成についての指導・研究を行うこと、応用マイクロエコノメトリックス (Applied Microeconometrics) の知識を深めること、英文の論文の書き方について指導すること、質の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設的に批判することを目的とする。

授業内容：

Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。春学期に、本の第 13 章以降を輪読したりするが、本の実例・問題が多いので、実例をできるだけ復元したり、問題を解いたりする。本で取り上げている手法をできるだけ慶應家計パネル調査 (KHPS) の第 1 波 (2004 年) — 第 5 波 (2008 年) のデータにも適用することを目指す。KHPS のデータを利用するために、申請が必要である。データの利用規約は

<http://www.coe-econbus.keio.ac.jp/cgi-bin/popup.cgi> に掲載されている。

本で利用されているデータセット又は Stata のプログラムをダウンロードするために、Cameron 教授 (University of California, Davis) のホーム・ページ <http://cameron.econ.ucdavis.edu/>

をアクセスし、「Microeconometrics: Methods and Applications: Ph.D. -level Text: Data and programs」をクリックし、「Programs, Data and Output」をクリックすると、Cameron and Trivedi [2005] で利用されるデータセットの一覧表が表示される。

Cameron and Trivedi の本以外に、各院生が興味を持っている分野に関する論文を紹介し、その文献又は自分の論文について順番に報告してもらう。“報告”と“輪読”は文献 (又は文献の議論) を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献を紹介することになる。

テキスト：

・Cameron, A.C. and P.K.Trivedi, *Microeconometrics: Methods and Applications*, Cambridge University Press, Cambridge., 2005

リーディング・リスト：

基本的に、Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。必要に応じて授業中に、リーディングリストを配布するが、英文の論文の書き方について Korner, A.M. (著)・瀬野惇二 (訳・編)『英語科学論文の正しい書き方』羊土社、2005 年を参考にすれば良い。

#### 質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

---

#### 計量経済学演習

教 授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：秋学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

この演習は履修者の博士論文の作成についての指導・研究を行うこと、応用マイクロエコノメトリックス (Applied Microeconometrics) の知識を深めること、英文の論文の書き方について指導すること、質の高い実証研究ができることや他人の実証分析を建設的に批判することを目的とする。

#### 授業内容：

Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。春学期に、本の第 13 章以降を輪読したりするが、本の実例・問題が多いので、実例をできるだけ復元したり、問題を解いたりする。本で取り上げている手法をできるだけ慶應家計パネル調査 (KHPS) の第 1 波 (2004 年) — 第 5 波 (2008 年) のデータにも適用することを目指す。KHPS のデータを利用するために、申請が必要である。データの利用規約は

<http://www.coe-econbus.keio.ac.jp/cgi-bin/popup.cgi> に掲載されている。

本で利用されているデータセット又は Stata のプログラムをダウンロードするために、Cameron 教授 (University of California, Davis) のホーム・ページ

<http://cameron.econ.ucdavis.edu/>

をアクセスし、「Microeconometrics: Methods and Applications: Ph.D. -level Text: Data and programs」をクリックし、「Programs, Data and Output」をクリックすると、Cameron and Trivedi [2005] で利用されるデータセットの一覧表が表示される。

Cameron and Trivedi の本以外に、各院生が興味を持っている分野に関する論文を紹介し、その文献又は自分の論文について順番に報告してもらう。「報告」と「輪読」は文献 (又は文献の議論) を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献を紹介することになる。

#### テキスト：

- ・Cameron, A.C. and P.K.Trivedi, *Microeconometrics: Methods and Applications*, Cambridge University Press, Cambridge., 2005

#### リーディング・リスト：

基本的に、Cameron and Trivedi [2005] の中身をマスターすることを目指す。必要に応じて授業中に、リーディングリストを配布するが、英文の論文の書き方について

Korner, A.M. (著)・瀬野惇二 (訳・編)『英語科学論文の正しい書き方』羊土社, 2005 年  
を参考にすれば良い。

#### 質問・相談：

気楽に mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせてください。

---

#### 経済学史・思想史演習

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

経済学史の古典の輪読を通じて、この分野への導入をはかる。また、経済学史分野以外の研究者にたいしても、それ相応の貢献ができるように工夫して運営したい。

#### 授業内容：

今年度はアダム・スミスの『国富論』第 4, 5 編を輪読の対象とする。この書物の意義については、いまさらここで記すまでもない。経済理論についてはもちろんのこと、経済政策にかんしても大きな影響を与えた書物である。一年間ですべてを読むことはできないので、参加者の関心と素養を考慮して、その一部を読むことになる。経済学史を専攻とする者だけでなく、他の分野からの参加も歓迎したい。輪読を主として運営するが、担当者の講義や参加者の報告を含めて運営していくつもりである。

#### テキスト：

- ・アダム・スミス著 (水田洋監訳, 杉山忠平訳)『国富論 1, 2, 3, 4』岩波文庫

---

#### 経済学史・思想史演習

教 授 池 田 幸 弘

授業形態：秋学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

春学期開講の同名の科目の続き。  
春学期の項を参照されたい。

#### 授業内容：

春学期の項を参照されたい。

#### テキスト：

春学期の項を参照されたい。

---

#### 経済学史・思想史演習 (日本社会経済思想史演習)

教 授 小 室 正 紀

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

履修者に、日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら、論文作成指導を行う。また、研究発表とならんで江戸時代政治経済思想に関する刊行資料の輪読を行う。なお、小室担当の「経済思想 (日本社会経済思想史)」とあわせて履修することが望ましい。

#### リーディング・リスト：

- ・丸山真男『日本政治思想史研究』東京大学出版会，1952 年
- ・川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房，1992 年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房，1999 年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂，1998 年

---

#### 経済学史・思想史演習（日本社会経済思想史演習）

---

教 授 小 室 正 紀

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

履修者に、日本の経済思想を視野に置いた研究発表を求めながら、論文作成指導を行う。また、研究発表とならんで江戸時代政治経済思想に関する刊行資料の輪読を行う。なお、小室担当の「経済思想（日本社会経済思想史）」とあわせて履修することが望ましい。

リーディング・リスト：

- ・丸山真男『日本政治思想史研究』東京大学出版会，1952 年
- ・川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房，1992 年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房，1999 年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂，1998 年

---

#### 経済学史・思想史演習

---

教 授 坂 本 達 哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

社会思想史研究の方法，テーマの発見，研究の進め方等について，履修者自身の問題意識を重視しながら指導する。担当者の専門は近現代の欧米社会思想であるが，履修者の関心はそれ以外の領域やアプローチ（日本思想史，政治思想史，文学・哲学の歴史，現代の政治・思想・哲学など）でも歓迎する。

授業内容：

履修者の研究報告を軸に進めるが，適宜，共通の問題関心や最近の学界動向を踏まえた重要論文のサーヴェイなども行う。履修者との活発な質疑応答，ディスカッションを重視する。他研究科生の履修も歓迎する。

テキスト：

とくに用いないが，担当者の最近の関心を知るには，坂本達哉『共和主義パラダイムにおける古典と現代』，佐伯啓思・松原隆一郎編『共和主義ルネサンス』（NTT出版，2007 年）を参照のこと。

リーディング・リスト：

演習中に随時紹介する

---

#### 経済学史・思想史演習

---

教 授 高 草 木 光 一

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

19 世紀ヨーロッパにおける「アソシアシオン」概念と

1930-40 年代日本の「協同主義」について総合的に考察する。

授業内容：

サン＝シモンの「ヨーロッパ」論，三木清の「東亜共同体」論等について，テキストを輪読する。参加者は，リポーターの義務を負う。リポーターは，テキストまたは指定された参考文献を調べて問題点を整理する。

テキスト：

- ・サン＝シモン（森博編訳）『サン＝シモン著作集』全 5 巻，恒星社厚生閣
- ・三木清『東亜共同体論集』こぶし書房
- その他

---

#### 経済学史・思想史演習

---

教 授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

授業内容：

近代日本（1920 年代～60 年代）の経済学史・思想史において，マルクス主義と近代主義が果たした役割について，

- ① 原典の輪読
- ② 担当者によるその解説と履修者間の討論を通じてさぐる。

履修者の希望も考慮していくつかの輪読文献を選ぶ。他に，随時，履修者の希望に応じての研究報告を可能とする。その主題は，社会・経済の近代化（ないし現代化）過程を問題とするものなら，狭義に経済学史・思想史に係わるものでなくてもよい。

参考文献：

授業時に指示する

---

#### 経済史演習

---

教 授 杉 山 伸 也

教 授 古 田 和 子

教 授 柳 沢 遊

准教授 神 田 さやこ

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。春学期は，各自の研究報告と討論を中心に行うが，『比較史のアジア—所有・契約・市場・公正—』（東京大学出版会，2004 年）ないし、『「帝国」日本の学知②「帝国」の経済学』（岩波書店，2006 年）を輪読する場合もある。

成績は，演習での研究報告や討論への参加等を考慮して総合的に評価する。

## 経済史演習（グローバル COE 連携科目）

教 授 杉 山 伸 也  
教 授 古 田 和 子  
教 授 柳 沢 遊  
准教授 神 田 さやこ  
商学部 教 授 牛 島 利 明

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

### 目標・意義・方法：

経済史を専攻する院生を主な対象とする共同セミナーである。今年度は、日本およびアジア諸地域における市場の質、および市場を支える諸制度を歴史的パースペクティブのなかで検討することを主たるテーマとし、基本的な研究文献を体系的にとりあげ、報告と討論を行う。

成績評価は、授業での報告や討論への参加などを考慮に入れて、総合的に判断する。

## 制度・政策論演習

教 授 赤 林 英 夫

授業形態：春学期 2 単位・演習

### 目標・意義・方法：

わが国におけるフィールド実験実施の可能性を考える。

### 授業内容：

この演習では、近年、経済学における一手法として確立されてきた（しかしわが国ではまだほとんど行われていない）「フィールド実験」研究について初歩から学び、わが国で実施するための条件と可能性について考える。演習の最後には、実際に参加者で実験を行い、わが国で実施する際の問題点の洗い出しを行う。題材としては、教育経済学分野での実験を想定しているが、具体的な対象については参加者の関心と意欲に応じて柔軟に対応する。

この分野の文献は実質的に英語でしか存在しないので、演習の前半 3－4 回では、以下の文献を参加者で精読する。次に、参加者が持ち寄ったテーマを出発点として、実際の実験計画を立てる。最終的には夏休みなども利用し、実験を行いたい。

参加者はただ演習に出席するだけでは許されず、授業時間外の手足を使った作業も含めた参加を要求される。狭い意味の専門と関係なく、野心的な大学院生の参加を待つ。

最初に読む文献をリーディングリストに挙げておくので、参加希望者は手に入れておくこと。

### リーディング・リスト：

- Glenn W. Harrison and John A. List, "Field Experiments," *Journal of Economic Literature*, Vol. 42, No. 4 (Dec., 2004), pp. 1009-1055, 2004
- Steven D. Levitt, John A. List, "Field Experiments in Economics: The Past, The Present, and The Future" *NBER Working*

Paper 14356, 2008

## 制度・政策論演習

教 授 赤 林 英 夫  
教 授 太 田 聰 一

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

### 目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と、参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。博士課程参加者は、主に自らの研究報告を行うことにするが、適宜最新の文献紹介を織り交ぜる。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく、e-mail 等を通じて適時、密接な指導を行う。

### リーディング・リスト：

- Orley Ashenfelter and David Card, *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.
- Pierre Cahuc and Andre Zylberberg, *Labor Economics*, MIT Press

## 制度・政策論演習

教 授 赤 林 英 夫  
教 授 太 田 聰 一

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

### 目標・意義・方法：

労働経済学における主要な文献の輪読と、参加者による研究成果報告を演習の中心に据える。博士課程参加者は、主に自らの研究報告を行うことにするが、適宜最新の文献紹介を織り交ぜる。演習担当者は参加者に対して報告時だけでなく、e-mail 等を通じて適時、密接な指導を行う。

### リーディング・リスト：

- Orley Ashenfelter and David Card, *Handbook of Labor Economics* Vol.1-3C, Elsevier Science B. V.
- Pierre Cahuc and Andre Zylberberg, *Labor Economics*, MIT Press

## 制度・政策論演習

教 授 赤 林 英 夫  
教 授 太 田 聰 一  
教 授 駒 村 康 平  
准教授 山 田 篤 裕

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

### 目標・意義・方法：

本演習では、今日の日本の家計が直面する重要な政策課題について、既存の研究をサーベイする形で演習を行う。扱うトピックの例としては、生活保護、失業者の就業支援、児童保護、就学支援、などである。これらの政策課題について、制度の変遷や諸外国の制度との相違などにも注

意を払いながら、内外の研究をサーベイすることで、今後のわが国における制度設計と政策研究の方向性を探ることにする。

#### 制度・政策論演習

准教授 新 井 拓 児

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

数理ファイナンスに関する英文テキストまたは論文の講読。

授業内容：

各受講者が将来の論文作成を考慮して文献を選択する。

テキスト：

授業中に紹介する。

リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

#### 制度・政策論演習

准教授 新 井 拓 児

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期に準ずる。

授業内容：

春学期に引き続き、各受講者が将来の論文作成を考慮して文献を選択する。

テキスト：

授業中に紹介する。

リーディング・リスト：

授業中に紹介する。

#### 制度・政策論演習

名誉教授 飯 野 靖 四

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

この授業では原則として各履修者の論文発表と検討が中心となる。論文発表者がいない時は担当者ないしゲストスピーカーが論文発表を行う。

授業内容：

- ・各履修者の論文発表と検討
- ・担当者ないしゲストスピーカーの論文発表と検討

#### 制度・政策論演習

名誉教授 飯 野 靖 四

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

授業内容：

春学期参照。

#### 制度・政策論演習

教 授 池 尾 和 人

教 授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

マクロの基礎理論、金融政策の基礎理論を勉強する。内容としては、インフレーションと金融政策、財政・金融政策、情報と金融、国際金融、インフレーションと経済厚生、金融と景気循環などのテーマである。

授業内容：

演習として練習問題を解きながら講義を進める予定。

- (1) Inflation, Unemployment, and Monetary Rules
- (2) Optimal Monetary and Fiscal Policy
- (3) Monetary transmission mechanisms
- (4) Open Economy (short run and long run)
- (5) Shocks and Policy Response in the Open Economy
- (6) Money in the Utility Function
- (7) Welfare cost of Inflation
- (8) Money and the Business Cycle
- (9) Asset Price and Lucas "Tree model"
- (10) Money and Credit in the Business Cycle
- (11) Postal Savings and Fiscal Investment
- (12) Small Savings and Asian Economic Development

リーディング・リスト：

- ・ Wendy Carlin and David Soskice, *Macroeconomics, Imperfections, Institutions and Policies*, Oxford University Press, 2006
- ・ Benjamin Eden, *A Course in Monetary Economics, Sequential trade, Money, and Uncertainty*, Blackwell publishing, 2005
- ・ Thomas Cargill and Naoyuki Yoshino, *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press, 2003
- ・ Mark Scher and Naoyuki Yoshino, *Small Savings Mobilization and Asian Economic Development*, M,E,Sharpe, 2004
- ・ Heijdra, Ben and Fredric Van Der Pleag, *Foundations of Modern Macroeconomics*, Oxford University Press
- ・ Louis-Philippe Rochon and Sergio Rossi, *Monetary and Exchange Rate Systems*, Edward Elgar, 2007
- ・ Joseph Stiglitz, *Stability with Growth*, Oxford University Press, 2006

#### 制度・政策論演習

教 授 植 田 浩 史

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

日本経済、特に産業・企業に関する歴史、現状、政策についての研究を検討する。

授業内容：

参加者による研究報告を中心に討論を行う。

| 制度・政策論演習                              |  |
|---------------------------------------|--|
| 教 授 植 田 浩 史                           |  |
| 授業形態：秋学期 2 単位・演習                      |  |
| 目標・意義・方法：                             |  |
| 日本経済，特に産業・企業に関する歴史，現状，政策についての研究を検討する。 |  |
| 授業内容：                                 |  |
| 参加者による研究報告を中心に討論を行う。                  |  |

| 制度・政策論演習                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 教 授 大 村 達 弥                                                                                                                                                                                                                                            |  |
| 授業形態：春学期，秋学期とも 2 単位・演習                                                                                                                                                                                                                                 |  |
| 目標・意義・方法：                                                                                                                                                                                                                                              |  |
| 担当者が担当する経済政策論（修士）・制度政策論特論（博士）の講義内容に関連したテーマを選択し，受講者の事情を考慮しつつ運営も一体で進める。ねらいは変容しつつある経済システムや産業構造の動きを踏まえ，政府（法律・政治）システムとの境界領域に注目しつつ，経済政策学的視点から現代の経済問題の検討を進めることにある。今年度の具体的内容としては，公共部門の効率化のための理論的基礎（オークション理論，契約理論等），また，経済政策過程の実例として情報通信・ネットワーク産業に関する政策を扱う予定である。 |  |
| テキスト：                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
| 指定しない                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
| リーディング・リスト：                                                                                                                                                                                                                                            |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・Laffont and Martimort, <i>The Theory of Incentives</i>, Princeton UP, 2002</li> <li>・Bolton and Dewatripont, <i>Contract Theory</i>, MIT Press, 2005</li> <li>・坂井・藤中・若山『メカニズムデザイン』ミネルヴァ書房，2008 年</li> </ul>    |  |
| その他必要な文献は授業開始の時点で指定する。                                                                                                                                                                                                                                 |  |

| 制度・政策論演習                                                                                                                                          |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 教 授 金 子 勝                                                                                                                                         |  |
| 授業形態：春学期 2 単位・演習                                                                                                                                  |  |
| 目標・意義・方法：                                                                                                                                         |  |
| 日本の財政問題を制度論を使って考察する。                                                                                                                              |  |
| 特に財政赤字問題，三位一体改革以降の地方財政の悪化・社会保障・社会福祉問題を重点にいくつかの問題を取り上げ，議論する。テキストは参加者と相談のうえ決めたい。                                                                    |  |
| リーディング・リスト：                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・金子勝・神野直彦『財政崩壊を食い止める』岩波書店</li> <li>・金子勝・神野直彦 編『福祉政府の提言』岩波書店</li> <li>・金子勝・神野直彦 編『地方に税源を』東洋経済新報社</li> </ul> |  |

| 制度・政策論演習                                                                                                                                          |  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 教 授 金 子 勝                                                                                                                                         |  |
| 授業形態：秋学期 2 単位・演習                                                                                                                                  |  |
| 目標・意義・方法：                                                                                                                                         |  |
| 日本の財政問題を制度論を使って考察する。                                                                                                                              |  |
| 特に財政赤字問題，三位一体改革以降の地方財政の悪化・社会保障・社会福祉問題を重点にいくつかの問題を取り上げ，議論する。テキストは参加者と相談のうえ決めたい。                                                                    |  |
| リーディング・リスト：                                                                                                                                       |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・金子勝・神野直彦『財政崩壊を食い止める』岩波書店</li> <li>・金子勝・神野直彦 編『福祉政府の提言』岩波書店</li> <li>・金子勝・神野直彦 編『地方に税源を』東洋経済新報社</li> </ul> |  |

| 制度・政策論演習                                                                                                       |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 教 授 北 村 洋 基                                                                                                    |  |
| 教 授 渡 邊 幸 男                                                                                                    |  |
| 授業形態：春学期 2 単位・合同演習                                                                                             |  |
| 目標・意義・方法：                                                                                                      |  |
| 現代資本主義ならびに日本経済は大きな曲がり角にある。今日の主要な現代資本主義論の日本経済論を政治経済学的方法によって理論的・批判的に再検討し，問題意識の涵養と理論的深化をめざす。今年度は主に日本の産業経済に焦点をあてる。 |  |

| 制度・政策論演習           |  |
|--------------------|--|
| 教 授 北 村 洋 基        |  |
| 教 授 渡 邊 幸 男        |  |
| 授業形態：秋学期 2 単位・合同演習 |  |
| 目標・意義・方法：          |  |
| 春学期参照。             |  |

| 制度・政策論演習                                                                                                                                                                          |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 教 授 駒 村 康 平                                                                                                                                                                       |  |
| 准教授 山 田 篤 裕                                                                                                                                                                       |  |
| 授業形態：春学期 2 単位・合同演習                                                                                                                                                                |  |
| 目標・意義・方法：                                                                                                                                                                         |  |
| 社会保障制度に関する改革が近年，急速に進められています。本演習では，最新の社会保障制度の改革や政策動向について，法律法案・政府審議会報告書（たとえば，「厚生年金・国民財政再計算」など）・各種研究報告書をどのように読解するのか，そしてさらにそれをどのようにして経済学的な分析・評価に結びつけていくのか（論文としてまとめていくのか），について学んでゆきます。 |  |
| 具体的な制度としては，年金，生活保護など所得保障政策を中心としつつ，必要に応じて，医療や各福祉制度を取り上げます。                                                                                                                         |  |
| 他研究科からの参加も歓迎します。                                                                                                                                                                  |  |

#### 授業内容：

基本的な学術論文にかんしては暫定的に下記リストの論文のいくつかを取り上げ、輪読しようと考えています。どの論文を取り上げるかの詳細については受講者の関心に応じて決めます。また、社会政策分野での論文を執筆中の受講者には適宜、報告の時間を設けます。

#### テキスト：

特に指定しません。

#### リーディング・リスト：

下記は暫定的なものです。授業の進行に合わせて適宜追加リストを配布します。

- ・ Barr, N. (ed.), *Economic Theory and the Welfare State* (International Library of Critical Writings in Economics Series), Edward Elgar Pub, 2001
- ・ Pestieau, P., *The Welfare State in the European Union: Economic and Social Perspectives*, Oxford Univ. Pr, 2005
- ・ Rosner, P., *The Economics of Social Policy*, Edward Elgar Pub, 2003
- ・ 城戸喜子, 駒村康平編『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』慶應義塾大学出版会, 2005 年
- ・ 国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東京大学出版会, 2005 年
- ・ 橋木俊詔, 浦川邦夫『日本の貧困研究』東京大学出版会, 2006 年

#### 制度・政策論演習

教授 寺 出 道 雄

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

この演習では、参加者の論文の作成にむけての報告を求めることの他、関連した文献の講読を行う。

すなわち、農業経済論・農業史等の文献である。しかし、受講者の論文の主題に応じて、場合によっては、他の領域の文献も取りあげる。第 1 回目の授業で、受講者の関心に応じた文献を、相談の上で、決定する。

#### 制度・政策論演習

名誉教授 中 澤 敏 明  
教授 飯 塚 敏 晃  
教授 河 井 啓 希

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

産業組織論とその関連領域（医療経済学、法と経済学など）に関する研究に関する論文を作成するにあたって、研究論文作成のプロセスに合わせ、仮説提示・研究のサーベイ・中間発表を繰り返し行うことで論文完成をアシストする。

#### 授業内容：

研究論文の輪読ないし発表およびディスカッションを行う。

テーマは産業組織論とその関連領域（医療経済学、法と経済学など）にかかわるものであれば基本的に自由である。

#### テキスト：

最初の講義のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

適宜指示する。

#### 制度・政策論演習

名誉教授 中 澤 敏 明  
教授 飯 塚 敏 晃  
教授 河 井 啓 希

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

産業組織論とその関連領域（医療経済学、法と経済学など）に関する研究に関する論文を作成するにあたって、研究論文作成のプロセスに合わせ、仮説提示・研究のサーベイ・中間発表を繰り返し行うことで論文完成をアシストする。

#### 授業内容：

研究論文の輪読ないし発表およびディスカッションを行う。

テーマは産業組織論とその関連領域（医療経済学、法と経済学など）にかかわるものであれば基本的に自由である。

#### テキスト：

最初の講義のときに指示する。

#### リーディング・リスト：

適宜指示する。

#### 制度・政策論演習

教授 前 多 康 男

授業形態：春学期 2 単位・演習

#### 目標・意義・方法：

金融経済学に関する内外の論文を読み進むことにより、金融経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。

#### 授業内容：

具体的なトピックスについては、以下の通りである。

(1) 金融取引の機能について、(2) リレーションシップ取引と市場取引、(3) 間接金融、直接金融、市場型間接金融、(4) 銀行の規律付け、(5) 銀行の業務、(6) 金融業に対する規制。また、契約理論に関するテキストを輪読する予定もあるが、最初の授業の時に履修者の希望を聞いて決定する。

テキスト：

最初の授業の時に相談する。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配付する。

---

#### 制度・政策論演習

---

教授 前 多 康 男

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

金融経済学に関する内外の論文を読み進むことにより、金融経済学で用いられているさまざまなフレームワークを理解することを目的とする。

授業内容：

具体的なトピックスについては、以下の通りである。

(1) 金融取引の機能について、(2) リレーションシップ取引と市場取引、(3) 間接金融、直接金融、市場型間接金融、(4) 銀行の規律付け、(5) 銀行の業務、(6) 金融業に対する規制。また、契約理論に関するテキストを輪読する予定もあるが、最初の授業の時に履修者の希望を聞いて決定する。

テキスト：

最初の授業の時に相談する。

リーディング・リスト：

授業中に適宜配付する。

---

#### 制度・政策論演習

---

教授 山 田 太 門

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

混合経済における政府の財政の役割を、経済学の枠組を拡げ公共経済論の立場から検討する。国家の権限を民主主義システムの中で位置づけたり、制度としての行政のあり方なども研究の対象となる。市場経済と非市場経済の相互関係は最も重要な分析対象となり、通常の経済学の範囲からは与件とされる文化的背景などについても議論されよう。参加者は各自のテーマにしたがって論文作成をすすめ中間報告しなければならない。

---

#### 制度・政策論演習

---

教授 山 田 太 門

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

春学期参照。

---

#### 制度・政策論演習（グローバル COE 連携科目）

---

教授 尾 崎 裕 之

教授 瀬 古 美 喜

教授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：春学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

#### 制度・政策論演習（グローバル COE 連携科目）

---

教授 尾 崎 裕 之

教授 瀬 古 美 喜

教授 中 村 慎 助

教授 マッケンジー, コリン R.

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

公共経済学を中心とした理論経済学および応用理論経済学に関する参加者の研究報告ならびに討論を行う。

授業内容：

出席者は議論への積極的な参加が望まれる。履修者は、原則として自己の論文かまたは各自の関心分野の代表的な文献の内容を報告するものとする。なお、定期的に学内外の専門家を招いての講演ならびに討論を行うことにより、セミナーの活性化をはかる予定である。

---

#### 制度・政策論演習（グローバル COE 連携科目）

---

教授 吉 野 直 行

授業形態：秋学期 2 単位・演習

授業内容：

21 世紀 COE による経済学部と商学部の連携により、大学院教育の充実を目的とした演習である。21 世紀 COE で実施しているパネルデータを大学院生が利用しながら、修士論文・博士論文の作成を行っている。(i) 家計行動に関する計量分析、(ii) 家計の金融資産選択行動の実証分析、(iii) 財政のサステナビリティに関するシミュレーション分析、(iv) ミクロデータをを用いた金融行動に関する実証分析、(v) アジアの資金循環と為替レートなど、大学院生の論文発表を通じた演習を行う。経済学部と商学部の多数の教員による合同の演習であり、さまざまな角度からの議論が展開される。

リーディング・リスト：

1. Benjamin Eden, *A Course in Monetary Economics, Sequential*

*trade, Money and Uncertainty*, Blackwell, 2005

2. David Romer, *Advanced Macroeconomics*, Mc Grow Hill, 2006
3. Robert Lucas, *Inflation and Welfare*, Econometrica, 2000
4. Yoshino and Kaji, *The Basket-Peg, Dollar-Peg, and Floating Exchange Rate Regimes — A Comparative Analysis*, Journal of Japanese and International Economy, 2004
5. Heijdra, Ben and Fredric Van Der Pleag, *Foundations of Modern Macroeconomics*, Oxford University Press
6. Michael Carlberg, *Macroeconomics of Monetary Union*, Springer, 2007

その他、講義の中で論文は説明する。

#### 国際経済論演習

教授 大垣昌夫  
教授 櫻川昌哉

授業形態：秋学期 2 単位・合同演習

目標・意義・方法：

本演習では、時系列分析を中心とした計量経済学の方法を、国際マクロ経済学の理論モデルにどのように応用して実証研究を進めていくかを学ぶ。1. 理論モデルと計量経済学の構造モデルの関係についてを講義し、2. 院生によるリーディング・リストにある論文や他の関連論文のプレゼンテーションを行い、3. GAUSS のプログラムを用いて、推定と検定を実際にデータを用いて行うことを指導し、宿題とする。

授業内容：

Autoregression, Vector Autoregression (VAR), OLS and Instrumental Variables Method with Serially correlated error terms, Generalized Method of Moments (GMM), Unit Root Nonstationarity, Cointegration などの計量経済学の方法と、国際マクロ経済学の理論モデルを関係づけていく。

テキスト：

- ・Masao Ogaki, Kyungho Jang, Hyoung-Seok Lim, and Youngsoo Bae, *Structural Macroeconometrics*, manuscript in progress, 2007 (available at <http://www.kjang.com/book2003/1>)

リーディング・リスト：

- ・Murray, C.J. and D.H. Papell, "The Purchasing Power Parity Persistence Paradigm." *Journal of International Economics* 56, pp. 1-19, 2002
- ・Engel, C. and K.D. West., "Exchange Rates and Fundamentals." *Journal of Political Economy* 113, 2005
- ・Eichenbaum, M. and C. Evans, "Some Empirical Evidence on the Effects of Shocks to Monetary Policy on Exchange Rates." *Quarterly Journal of Economics* 86, pp. 975-1009, 1995
- ・Mark, N.C., "On Time Varying Risk Premium in the Foreign Exchange Market: An Econometric Analysis." *Journal of Monetary Economics* 16, pp.3-18, 1985

- ・Mark, N.C., M. Ogaki, and D. Sul, "Dynamic Seemingly Unrelated Cointegrating Regressions," *Review of Economic Studies* 72, pp. 797-820, 2005
- ・Engel, C. and K.D. West., "Taylor Rules and the Deutschmark-Dollar Real Exchange Rate." *Journal of Money, Credit, and Banking*, 38, pp. 1175-94, 2006
- ・Molodtsova, T., A. Nikolsko-Rzhevskyy, and D.H. Papell, "Taylor Rules with Real-Time Data: A Tale of Two Countries and One Exchange Rate." Forthcoming, *Journal of Monetary Economics*.

#### 国際経済論演習

教授 櫻川昌哉

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際経済学やマクロ経済学において、最新のトレンドである Computational Macroeconomics の影響は極めて大きい。いまや、この分析ツールを使うことなしに、上記の分野で最先端の論文を書くことは極めて難しくなっている。

授業内容：

国際経済学・マクロ経済学に関する重要なトピックス（景気循環、貿易、資本移動、経常収支問題など）を選び、比較的標準な理論モデルを使った数値計算を行う。Matlab や Dynare などの計算ソフトを使った演習を行う。学生にも、実際にプログラムを組んで、数値計算をしてもらう。

テキスト：

- ・加藤涼『現代マクロ経済学講義』東洋経済新報社
- ・G. McCandles, *The ABCs of RBCs*, Harvard

リーディング・リスト：

- ・Cogley, T., and J.M. Nason, "Output dynamics in real-business-cycle models", *American Economic Review*, 1995, 492-511
- ・Uhlig, H., "A Toolkit for Analyzing Nonlinear Dynamic Stochastic Models Easily," in Marimon and Scot, eds., *Computational Methods for the Study of Dynamic Economics*. Oxford University Press. pp30-61, 1999
- ・Christiano, L. J., M. Eichenbaum, and C. L. Evans, "Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy", *Journal of Political Economy*, vol.113, 1-44, 2005
- ・Obstfeld, M., and K. Rogoff, "The global current account imbalances and exchange rate adjustments," *Brooking Papers on Economic Activity* 1:2005, 67-123, 2005b
- ・Engel, C., and J.H. Rogers, The U.S. current account deficit and the expected share of world output, *Journal of Monetary Economics* 53, 1063-1093, 2006

その他、学生の興味、進捗状況にあわせて選ぶ。

---

## 国際経済論演習

---

教 授 櫻 川 昌 哉

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

論文を書くことを前提とした演習を行う。

授業内容：

マクロ経済学，国際経済学，金融論をテーマとして，学生の論文指導を個別に行う。特に，国際資本移動，經常収支問題，財政の維持可能性を中心的なテーマにすえながら，進めていく。興味のある学生の参加を期待する。

テキスト：

- ・ R.H. Clarida, “G7 Current account Imbalances”, *NBER*, Chicago,

リーディング・リスト：

- ・ Obstfeld, M., and K. Rogoff, The six major puzzles in international macroeconomics’ is there a common cause? In *NBER Macroeconomic Annual 2000*, ed Bernanke and Rogoff, 339-390, MIT Press, 2000
- ・ Gourinchas, P-O, and H. Rey, International financial Adjustment, *Journal of Political Economy*, 665-702, 2007
- ・ Lane, P.R., and G.M. Milesi-Ferretti, The external wealth of nations mark II: Revised and external estimates of foreign assets and liabilities, 1970-2004, *Journal of International Economics*, 223-250, 2007
- ・ Blanchard, O., F. Giavazzi, and F. Sa, International Investors, the U.S. current account, and the dollar, *Brooking Papers on Economic Activity* 1:2005, 1-65, 2005

---

## 国際経済論演習

---

准教授 白 井 義 昌

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易理論とその定量的応用についての文献を輪読し，新たな研究課題を探る。また研究課題への具体的アプローチについて検討する。第 1 回の演習でスケジュールリングを行う。

---

## 国際経済論演習

---

准教授 白 井 義 昌

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易理論とその定量的応用についての文献を輪読し，新たな研究課題を探る。また研究課題への具体的アプローチについて検討する。第 1 回の演習でスケジュールリングを行う。

---

## 国際経済論演習

---

教 授 竹 森 俊 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

指定されたテキストの輪読を通じ，国際金融論の分析手法を学ぶが，その間に受講者の自分で選んだトピックについての報告を交え，また博士論文の指導をする。

テキスト：

- ・ M. Obstfeld and K. Rogoff, *Foundations of International Macroeconomics*, MIT Press

リーディング・リスト：

受講者の自発的な報告に関連のあるものを適宜指定する。

---

## 国際経済論演習

---

客員教授 若 杉 隆 平

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

国際貿易・直接投資・R&D に関して，博士論文作成の指導・研究を行う。

授業内容：

各学生が関心を有する分野に関する諸文献を報告してもらい，作成する論文に関連する先行研究をサーベイする。

また，各自が取り組んでいる論文についても順次報告してもらい，論文指導を行う。

テキスト：

参照する文献・論文等に関しては，適宜指定する。

---

## 社会・環境論演習

---

教 授 金 子 勝

授業形態：春学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

産業社会にかかわる諸問題を，理論的制度的に考察する。

授業内容：

今年度は，日本における経済格差問題について考察する。年金・介護・雇用問題など具体的問題を取り上げながら。

テキスト：

経済政策に関する文献を対象に，参加者と相談して決定する。

リーディング・リスト：

- ・ 金子勝『戦後の終わり』筑摩書房，第 3 章

---

## 社会・環境論演習

---

教 授 金 子 勝

授業形態：秋学期 2 単位・演習

目標・意義・方法：

日本経済の現状と経済政策について，テキストを取り上げつつ議論する。

#### 授業内容：

本年度は、つぎの2つのテーマを主に取り上げる予定である。一つは、労働市場、格差、社会保障にかかわる諸問題。いま一つは、三位一体改革と地方分権にかかわる諸問題である。この2つのテーマを具体的に考えつつ、マクロ経済学の理論的問題についても深めてゆきたい。

#### テキスト：

参加者と相談して決めたい。

#### リーディング・リスト：

- ・金子勝『市場と制度の政治経済学』東京大学出版会
- ・金子勝『戦後の終わり』筑摩書房、第3章

---

#### 社会・環境論演習

---

名誉教授 清水 透  
教授 倉沢 愛子

授業形態：春学期2単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

歴史学におけるフィールドワークの重要性を認識するとともに、その過程で行き当たるであろう様々な問題を考え、解決策を見出す努力をする。

#### 授業内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸科学を包含したものである。社会史は、具体的・歴史的事象を細部にわたり分析すると同時に、絶えず新しい領域を開拓し、新しい方法論的枠組を創りだすことにある。その意味で、固定した方法・領域をもたない。

本演習においてはその様な多様な側面のうち、フィールドワークを基礎とする歴史研究に焦点をあて、以下の3点を中心に議論・検討する。

- (1) 歴史研究学の方法：文献史学とオーラルヒストリー
- (2) 研究者と研究対象との関係性：知的営みとしての歴史研究と日常へ
- (3) 個と普遍の問題：個と大状況、日常と非日常

#### テキスト：

フィールドワークに基づいて書かれた研究書を皆で読みながら進めていく。どの本を選ぶかは、受講生の顔ぶれを見てから決める。

#### リーディング・リスト：

適宜指定する。

---

#### 社会・環境論演習

---

名誉教授 清水 透  
教授 倉沢 愛子

授業形態：秋学期2単位・合同演習

#### 目標・意義・方法：

春学期の継続。

#### 授業内容：

春学期の継続。

#### テキスト：

春学期の継続。

#### リーディング・リスト：

春学期の継続。

---

#### 社会・環境論演習

---

教授 鈴木 晃仁

授業形態：春学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

「医療と病氣と身体の社会史」の方法を学び、その視点を近現代日本に応用する。

#### 授業内容：

英語論文などを読み、日本のコレラの歴史を分析する。

#### テキスト：

授業中に指示する。

#### リーディング・リスト：

その都度指示する。

---

#### 社会・環境論演習

---

教授 鈴木 晃仁

授業形態：秋学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

「医療と病氣と身体の社会史」の方法を学び、その視点を近現代日本に応用する。

#### 授業内容：

英語論文などを読み、日本のコレラの歴史を分析する。

#### テキスト：

授業中に指示する。

#### リーディング・リスト：

その都度指示する。

---

#### 社会・環境論演習

---

教授 津谷 典子

授業形態：春学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

当科目は、人口学および経済学で近年よく行われる個票データを用いた様々な多変量解析モデル(multivariate analysis models)の手法について、実際の応用例を多数検討することにより、各モデルの意味、用途、および長所と短所、さらにモデルに投入される変数の構築などにつ

いて学ぶことを目的とする。具体的には、最近刊行された学術論文を読み、そこで用いられている分析モデル、データ、変数について検討し、分析・推計結果の意味を解釈・理解する。購読の対象となる学術論文は、講師があらかじめ選択・準備し、そのリーディング・リストを第1回の授業時に配布する。

授業はまず、学生諸君の中から各週1名が論文内容についてのレジュメをあらかじめ準備し、クラスで報告する。次いで、それについての討論と質疑応答をクラス全体で行う。最後に講師が説明とまとめを行う。

#### 授業内容：

当科目で取り扱う多変量解析モデルは、Linear causal model と呼ばれるモデルを中心とした以下のようなものである。

- ① Ordinary least-square multiple regression model
- ② Multiple classification analysis (MCA)
- ③ (Binary) Logistic regression model
- ④ Ordered logit/probit model
- ⑤ Multinomial logit model
- ⑥ Cox proportional hazard model
- ⑦ Time-dependent hazard models

当科目ではまた、多変量解析モデルに使用される変数についても、その構築方法だけでなく、多重共線性 (multicollinearity)、内生性 (endogeneity)、同時性 (simultaneity) などの問題についても検討・説明する。さらに、学生諸君が各自の研究において用いることのできる内外の個票データについて学ぶため、各学術論文の分析で使用されているデータについて、入手方法も含め紹介する。

#### リーディング・リスト：

第1回授業時に配布する。

#### リーディング・リスト：

適宜示す

---

### 社会・環境論演習

教 授 細 田 衛 士

授業形態：秋学期2単位・演習

#### 目標・意義・方法：

本授業では、春学期学習した環境経済学の理論的基礎をもとに、環境経済学の高度な部分を学ぶ。具体的には、学術専門誌に掲載された原著論文を読み、内容を報告する。さらには、こうした学習を通じて自分の論文を作成し、報告する。

#### 授業内容：

- (3) 学術専門誌の原著論文を適宜選び、輪読する。報告担当の者は、当該論文を丹念に読み、その内容を詳しく解説する。
- (4) 自分のテーマに沿った論文を作成する。

#### テキスト：

特になし

## 慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合があります。)

新たなプログラムが追加されることもありますので、国際センターホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」

詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月2日(木) SFC Ω11 番教室 16:30~18:00      4月6日(月) 三田 526 番教室 10:45~12:15  
4月4日(土) 矢上 12-211 番教室 12:00~13:00      4月6日(月) 日吉 33 番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月12日(日)
- (2) 募集期間 4月13日(月)、14日(火)
- (3) 一次合格発表 4月22日(水)
- (4) 面接審査 4月25日(土)
- (5) 選考結果発表 5月1日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

### ① ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~9月2日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)。エッセイ作成(週末)。

【開講予定科目】(予定)

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior.

【単位数】4単位

【募集人数】60名

### ② ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2009年7月29日(水)~8月13日(木)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

### ③ ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~8月22日(土)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

#### ④ オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

〔現地研修期間〕2009年8月21日（金）～9月5日（土）（予定）

〔研修内容〕講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、観劇など

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕20名

#### ⑤ パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2008年度参考〕2009年2月16日～2009年3月13日

〔講義内容 2008年度参考〕共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

〔単位数〕4単位

〔募集人数〕定員：20名

#### ⑥ 延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

〔現地研修 2008年度参考〕2009年2月9日～2009年2月21日

〔講義内容 2008年度参考〕

- 1 Japan-Korea Relationship: Current Issues and Prospects
- 2 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of "Hallyu"
- 3 Environmental Protection and the Role of NGOs in Korea
- 4 North-South Korean Relations: Challenges and Opportunities
- 5 Political Economy of Korean Development

〔単位数〕2単位

〔募集人数〕20名（学部生対象）

## 国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取扱う国／地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として学部の新入生を除く）

2. 単位 各科目 2 単位  
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法 履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。  
学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板に掲示されます。

### 6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「テキスト」「参考書」「授業の計画」「担当教員から履修者へのコメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2009-2010 Keio University International Center: International Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

(\*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※)のついで科目は学部生履修不可)  
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

| Field                                    | Semester | Day | Slot | Course Title                                                  | Lecturer           | Course Title(Japanese)        | Lecturer(Japanese) | Offered by            |
|------------------------------------------|----------|-----|------|---------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------|--------------------|-----------------------|
|                                          | Spring   | Fri | 5    | CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY                                  | Farrer, Gracia     | 現代中国社会                        | ファーラー, グラシア        |                       |
|                                          | Fall     | Thu | 3    | SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2   | Soeya, Yoshihide   | 東アジアの国際関係特殊研究 II              | 森谷 芳秀              | F(Law)                |
|                                          | Spring   | Fri | 1    | SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)             | Yamamoto, Nobuto   | 国際政治論特殊研究 (*)                 | 山本 健人              | GS(Law)               |
|                                          | Spring   | Wed | 4    | DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE                                 | Kurasawa, Aiko     | 開発と社会変容                       | 倉沢 愛子              |                       |
|                                          | Fall     | Mon | 4    | WORLD OF SOUTHEAST ASIA                                       | Nonura, Toru       | 東南アジア世界の諸相                    | 野村 亨               |                       |
| Area Study: Asia, Oceania                | Spring   | Wed | 4    | CONSTRUCTING INDIA                                            | Williams, Mukesh   | インドをソウゾウする                    | ウィリアムス, ムケーシュ      |                       |
|                                          | Fall     | Thu | 5    | INDIA TODAY                                                   | Nishimura, Yuko    | 現代インド事情                       | 西村 祐子              |                       |
|                                          | Spring   | Thu | 4    | INDIAN MUSIC                                                  | Hoffman, T. M.     | 体系等としてのインド音楽                  | ホッフマン, T-M         |                       |
|                                          | Fall     | Wed | 4    | LISTENING TO ASIA                                             | Hoffman, T. M.     | アジアの音楽                        | ホッフマン, T-M         |                       |
|                                          | Spring   | Wed | 5    | AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION                         | Ackland, Michael   | オーストラリアとアジア太平洋地域              | アクランド, マイケル        |                       |
| Area Study: North America, South America | Spring   | Mon | 4    | AREA STUDIES (THE UNITED STATES)                              | Okuda, Akiyo       | 地域文化論(アメリカ)                   | 奥田 暁代              |                       |
|                                          | Fall     | Wed | 4    | AMERICAN STUDIES                                              | Williams, Mukesh   | アメリカ研究, アメリカの歴史・文化と外交政策       | ウィリアムス, ムケーシュ      |                       |
|                                          | Fall     | Tue | 5    | CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE                             | Yellowlees, James  | カナダという国とカナダの国際的な役割            | イエローリーズ, ジェームズ     |                       |
|                                          | Spring   | Tue | 5    | LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS                               | Antolinez, Mario   | 世界政治におけるラテンアメリカ               | アントリネス, マリオ        |                       |
|                                          | Fall     | Thu | 5    | PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)                | Tanaka, Toshiro    | プロジェクトII-欧州統合 (*)             | 田中 俊郎              | GS(Law)               |
| Area Study: Europe, Russia               | Fall     | Thu | 5    | EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS                                   | Hayashi, Hideki    | EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS   | 林 秀毅               | F(Economics)          |
|                                          | Spring   | Fri | 4    | AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA | Kondo, Hidetoshi   | アフリカン イシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味 | 近藤 英俊              |                       |
| Area Study: Africa                       | Fall     | Tue | 4    | BUILDING THE GLOBAL VILLAGE                                   | Freedman, David    | グローバルヴィレッジ構築に向けて              | フリードマン, デビッド       |                       |
|                                          | Spring   | Fri | 3    | COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS              | Abe, Tadashi       | 国際関係概論                        | 安部 忠宏              |                       |
|                                          | Fall     | Thu | 3    | CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS | Malik, Rabinder    | 現代の国際問題と国連の役割                 | マリク, ラビンダー         |                       |
|                                          | Fall     | Fri | 4    | INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION                         | Goto, Kazumi       | 国際開発協力論                       | 後藤 一美              |                       |
|                                          | Fall     | Wed | 3    | LAW AND DEVELOPMENT                                           | Matsuo, Hiroshi    | 開発法学                          | 松尾 弘               |                       |
| Global Community                         | Fall     | Wed | 5    | THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR                          | Bockmann, David    | 第三世界の開発と貧困                    | ボックマン, ディヴ         |                       |
|                                          | Spring   | Fri | 3    | INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW                                | Hosotani, Akiko    | 国際人権法                         | 細谷 明子              |                       |
|                                          | Spring   | Thu | 3    | INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM                              | Holley, David      | プリントジャーナリズム入門                 | ホーリー, デイヴィッド       |                       |
|                                          | Fall     | Thu | 4    | COMMUNISM'S COLLAPSE                                          | Holley, David      | 共産主義の崩壊                       | ホーリー, デイヴィッド       |                       |
|                                          | Spring   | Wed | 2    | SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B (*)                              | Ertl, Wolfgang     | 倫理学特殊講義III B (*)              | エアトル, ヴォルフガング      | GS(Letters)           |
| Global Economy, Global Business          | Fall     | Wed | 2    | SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B (*)                              | Ertl, Wolfgang     | 倫理学特殊講義IV B (*)               | エアトル, ヴォルフガング      | GS(Letters)           |
|                                          | Fall     | Tue | 2    | ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)                                 | Fukao, Mitsuhiro   | 金融特論 (*)                      | 深尾 光洋              | GS(Business&Commerce) |
|                                          | Spring   | Thu | 2    | INTERNATIONAL ECONOMY (*)                                     | Kashiwagi, Shigeo  | 国際経済 (*)                      | 柏木 茂雄              | GS(Business&Commerce) |
|                                          | Fall     | Wed | 3    | ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS (*)               | Kashiwagi, Shigeo  | 国際関係特論 (*)                    | 柏木 茂雄              | GS(Business&Commerce) |
|                                          | Spring   | Mon | 5    | LITERATURE AS HISTORY                                         | Chandra, Elizabeth | 歴史としての文学                      | チャンドラ, エリザベス       |                       |
| Culture, Cross-cultural Understanding    | Fall     | Mon | 5    | VISIONS OF THE PAST                                           | Ainge, Michael W.  | 比較映画論                         | エインジ, マイケル         |                       |
|                                          | Spring   | Wed | 5    | CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY                    | Yokokawa, Mariko   | 文化・文化適応とアイデンティティ              | 横川 真理子             |                       |
|                                          | Fall     | Wed | 5    | DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION                       | Yokokawa, Mariko   | 文化観察による発見と理解                  | 横川 真理子             |                       |

(\*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※のついた科目は学部生履修不可)  
 Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

| Field                                 | Semester | Day | Slot | CourseTitle                                                | Lecturer           | CourseTitle(Japanese) | Lecturer(Japanese) | Offered by |
|---------------------------------------|----------|-----|------|------------------------------------------------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|------------|
| Culture, Cross-cultural Understanding | Spring   | Tue | 4    | CULTURE AND THE UNCONSCIOUS                                | Saules, Joseph     | 異文化と自己理解              | ショールズ, ジョセフ        |            |
|                                       | Fall     | Tue | 3    | LEARNING FROM LIFE ABROAD                                  | Saules, Joseph     | 海外生活から学ぶ              | ショールズ, ジョセフ        |            |
| Science                               | Spring   | Mon | 5    | HUMAN ENGINEERING                                          | Wanick, Jacqueline | 人間工学                  | ワニエウ, ヤクリーン        |            |
|                                       | Fall     | Mon | 5    | HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE | Wanick, Jacqueline | 心理学的観点から見る人材管理        | ワニエウ, ヤクリーン        |            |

2009-2010 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター日本研究講座)

(\*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. ((\*)のついた科目は学部生履修不可)  
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

| Field             | Semester | Day | Slot | CourseTitle                                                                     | Lecturer             | CourseTitle(Japanese)      | Lecturer(Japanese) | Offered by                                    |
|-------------------|----------|-----|------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------------------|--------------------|-----------------------------------------------|
| Culture           | Spring   | Mon | 5    | LANGUAGE BEYOND GRAMMAR                                                         | Kim, Angela          | 日本語の話ことばと書外の意味             | キム アンジェラ           |                                               |
|                   | Spring   | Wed | 4    | TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION                            | Raeiside, James M.   | 20世紀の日本と欧米の小説              | レイサイド, ジェイムス       |                                               |
|                   | Spring   | Wed | 3    | JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD                                              | Armour, Andrew       | 浮世と道行き                     | アーマー, アンドルー        |                                               |
|                   | Fall     | Wed | 3    | JAPANESE LITERATURE                                                             | Armour, Andrew       | 日本の文学                      | アーマー, アンドルー        |                                               |
|                   | Fall     | Mon | 3    | INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ARTS AND VISUAL CULTURE                         | Murai, Noriko        | 日本の近現代美術                   | 村井 則子              |                                               |
|                   | Spring   | Tue | 4    | INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY                                            | Shirahara, Yukiko    | 日本美術史入門                    | 白原 由紀子             |                                               |
|                   | Fall     | Thu | 6    | ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE                           | Hishiyama, Yuko      | アートワークショップ/日本のアートと文化       | 藁山 裕子              |                                               |
|                   | Spring   | Mon | 4    | JAPANESE CINEMA                                                                 | Ainge, Michael W.    | 日本映画入門                     | エインジ, マイケル         |                                               |
|                   | Spring   | Thu | 3    | GEISHA                                                                          | Graham, Fiona        | 「芸者」                       | グラハム, フイオナ         |                                               |
|                   | Fall     | Tue | 2    | SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)                                             | Inoue, Kyoko         | 科学技術文化特論 (*)               | 井上 京子              | GS(Science&Technology)<br>Note: YAGAMI Campus |
| Thought, Religion | Spring   | Fri | 4    | JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING                                          | Watts, Jonathan      | 日本仏教と現代社会                  | ワッツ, ジョナサン         |                                               |
|                   | Fall     | Mon | 5    | SEMINAR (Seminar in Intellectual History)                                       | Sakamoto, Tatsuya    | 演習 (権要論吉「学問のすすめ」を読む)       | 坂本 達哉              | F(Economics)                                  |
| History           | Fall     | Tue | 5    | JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA                                             | Iikura, Akira        | 政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交 | 飯倉 章               |                                               |
|                   | Fall     | Mon | 4    | MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD | Ota, Akiko           | 近代日本の対外交渉史                 | 太田 昭子              |                                               |
|                   | Spring   | Tue | 3    | JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION                                                | Kinmonth, Earl H.    | 英国と米国のマスコミに描かれた日本          | キンモンズ, アール         |                                               |
|                   | Fall     | Tue | 3    | A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN                                              | Kinmonth, Earl H.    | 戦後日本の社会史                   | キンモンズ, アール         |                                               |
| Society           | Fall     | Fri | 4    | POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN                         | Dorsey, James        | 日本の戦後史とポピュラーミュージック         | ドーシー, ジェームズ        |                                               |
|                   | Spring   | Thu | 5    | IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES                                                | Bockmann, David      | 新市民社会論                     | ボックマン, デイヴ         |                                               |
|                   | Fall     | Tue | 4    | MULTIETHNIC JAPAN                                                               | Kashiwazaki, Ohikako | 多民族社会としての日本                | 柏崎 千佳子             |                                               |
|                   | Fall     | Fri | 5    | THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE                                            | Notter, David        | 家族の近代                      | ノッター, デビッド         |                                               |
|                   | Spring   | Mon | 3    | INTERCULTURAL COMMUNICATION 1                                                   | Tezuka, Chizuko      | 異文化コミュニケーション1              | 手塚 千鶴子             |                                               |
|                   | Fall     | Mon | 3    | INTERCULTURAL COMMUNICATION 2                                                   | Tezuka, Chizuko      | 異文化コミュニケーション2              | 手塚 千鶴子             |                                               |
|                   | Spring   | Thu | 4    | JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)                                   | Tezuka, Chizuko      | 日本人の心理学 (1)                | 手塚 千鶴子             |                                               |
|                   | Fall     | Thu | 4    | JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)                                   | Tezuka, Chizuko      | 日本人の心理学 (2)                | 手塚 千鶴子             |                                               |
|                   | Spring   | Fri | 5    | INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN                                               | Aoki, Hiroko         | 日本政治論                      | 青木 裕子              |                                               |
|                   | Fall     | Thu | 5    | JAPANESE FOREIGN POLICY                                                         | Nobori, Amiko        | 日本の対外政策                    | 昇 亜美子              |                                               |
| Politics          | Fall     | Thu | 2    | JAPANESE ECONOMY                                                                | Kashiwagi, Shigeo    | ジャパニーズ・エコノミー               | 柏木 茂雄              | GS(Business&Commerce)                         |
| Economy, Business | Spring   | Mon | 5    | FOREIGN COMPANIES IN JAPAN                                                      | Harris, Graham       | 日本における外資系企業                | ハリス, グレアム          | F(Business&Commerce)                          |
|                   | Spring   | Thu | 5    | MANAGEMENT IN JAPAN                                                             | Haghiran, Parissa    | 日本のビジネスマネジメント              | ハギリアン, パリッサ        |                                               |
|                   | Fall     | Thu | 3    | INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS                                  | Yoshida, Fumikazu    | 国際経営比較                     | 吉田 文一              |                                               |
|                   | Fall     | Fri | 3    | JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS                                                   | Umezaki, Mitsuhiro   | 日本の経営                      | 梅澤 光弘              |                                               |
| Economy, Business | Spring   | Fri | 3    | LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN                                              | Tobin, Robert        | 日本の最先端創造的ビジネス              | トビン, ロバート          |                                               |
|                   | Fall     | Fri | 3    | ARTISANRY IN JAPAN'S SMALL BUSINESS                                             | Tobin, Robert        | 日本の中小企業における職人芸             | トビン, ロバート          |                                               |
| Law               | Fall     | Fri | 5    | INTRODUCTION TO JAPANESE LAW                                                    | Kobayashi, Satsuo    | 日本法の制度と変遷                  | 小林 節               |                                               |

# 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

---

## CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

ファラー, グラシア

Lecturer, International Center

国際センター講師

### Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

---

## SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2

(Fall)

東アジアの国際関係特殊研究Ⅱ

Soeya, Yoshihide

添谷 芳秀

Professor, Faculty of Law

法学部教授

### Course Description:

This course is offered primarily as an introductory course for the "Three-Campus Comparative East Asian Studies Program," a collaborative program among the Underwood International College of Yonsei University, the Faculty of Social Sciences of the University of Hong Kong, and the International Center of Keio University.

The aim of the course is to give a general overview to the postwar history of international relations in East Asia as well as to more recent post-Cold War developments therein, including Japan's role and external relations in the region. It begins with an overview of the postwar evolution of East Asian politics and security, and proceeds to the discussions of U.S.-China-Japan relations after the Cold War, followed by the examination of the roles of the three countries represented by the three-campus program, i.e., China, Korea and Japan.

The course is thus divided into three parts. In **Part 1 and Part 2**, students are expected to read assigned articles for each week (30-50 pages in English) in order to familiarize themselves with the major issues and themes of postwar and post-Cold War international relations in East Asia. For these parts, **the enrolled students other than those in the three-campus program** are required to present a list of questions for discussion based on the assigned readings, both in writing (one page) and orally (5 minutes), at least once during the course.

Then, we will move on to **Part 3**, where **the students of the three-campus program** will take the role of leading the discussions relevant to the roles of their respective countries in contemporary East Asia.

---

## DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

(Spring)

開発と社会変容

Kurasawa, Aiko

倉沢 愛子

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

### Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

### Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

---

## WORLD OF SOUTHEAST ASIA

(Fall)

東南アジア世界の諸相

Nomura, Toru

野村 亨

Professor, Faculty of Policy Management

総合政策学部教授

### Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

### Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

**Sub Title:**

Indian Identities and Japanese Policies

**Course Description:**

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, “Futatsu no umi no majiwari.”

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a “history” of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a “paradigm shift” in Japan’s foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. ([http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease\\_detail.asp?id=2090](http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090))

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to explore the varieties of India’s past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a “grand” unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan’s policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

**INDIA TODAY**

(Fall)

現代インド事情

Nishimura, Yuko

西村 祐子

Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

国際センター講師 (駒澤大学教授)

**Sub Title:**

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

**Course Description:**

This course is aimed at describing India through the ‘the middle class’, studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India’s new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

**INDIAN MUSIC**

(Spring)

体系学としてのインド音楽

Hoffman, T. M.

ホッフマン, T. M.

Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)

国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

**Sub Title:**

Systematics, Mathematics, Linguistics and Poetics in Indian Music: Practical and theoretical studies in creative expression

数学・言語学・詩学・音楽学をむすぶ理論と実践

**Course Description:**

While Western music studies train individuals to follow a written script (notation) in a group situation featuring harmony, in Indian classical music the student is trained to improvise based on principles of melody and rhythm. This resembles the process of speech in language, where information and ideas are given form in verbal communication through spontaneous combination of phonetics and grammar. Proficiency in speech can also be nurtured through applying the time-tested theories and practices of Indian music. This is best achieved through the enjoyable study and practice of rhythm, melody and text in vocal music. This course will examine structural features of Indian music and apply them in experiencing the process of improvisation. Systematic exercises in rhythm and melody will introduce sophisticated concepts of time and space. Indian vocal music compositions will present language in relation to melody and emotion. Exercises for group, pair and individual will be introduced, and participants will be encouraged and assisted in composing and improvising upon their own creations. This course will promote understanding of the world of creative arts in general.

No prior experience in music or performing arts is required.

|                   |                                                                                       |        |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| LISTENING TO ASIA |                                                                                       | (Fall) |
| アジアの音楽            |                                                                                       |        |
| Hoffman, T. M.    | Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association) |        |
| ホッフマン, T. M.      | 国際センター講師 (日印音楽交流会会長)                                                                  |        |

#### Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

#### Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

|                                       |                                                                                                                                               |          |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION |                                                                                                                                               | (Spring) |
| オーストラリアとアジア太平洋地域                      |                                                                                                                                               |          |
| Ackland, Michael                      | Lecturer, International Center (Guest Professor, Center for Pacific and American Studies, University of Tokyo / Professor, Monash University) |          |
| アクランド, マイケル                           | 国際センター講師 (東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授, モナッシュ大学教授)                                                                                                 |          |

#### Sub Title:

Records of a changing relationship in short fiction and film

#### Course Description:

This course introduces students to changing Australian attitudes to our common region, and to relevant, recent influential theories of racial and national interaction such as 'Orientalism'. It begins by examining notions of white supremacy and their origins, investigates the impact of successive waves of Asian immigration on Australian society, the development and eclipse of the White Australia policy, Australia's fluctuating attempts to engage with its region, and the growth of internal criticism of racist and paternalistic attitudes, as presented in a variety of short fiction and film. The first part of the course will trace these issues in the period up to, and including the First World War, the latter part will focus in particular on post-war Australia-Japan relations.

|                                  |                           |          |
|----------------------------------|---------------------------|----------|
| AREA STUDIES (THE UNITED STATES) |                           | (Spring) |
| 地域文化論 (アメリカ)                     |                           |          |
| Okuda, Akiyo                     | Professor, Faculty of Law |          |
| 奥田 暁代                            | 法学部教授                     |          |

#### Sub Title:

Multicultural History of the United States

#### Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

|                         |                                |        |
|-------------------------|--------------------------------|--------|
| AMERICAN STUDIES        |                                | (Fall) |
| アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策 |                                |        |
| Williams, Mukesh K.     | Lecturer, International Center |        |
| ウィリアムス, ムケーシュ           | 国際センター講師                       |        |

#### Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

#### Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil

rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

|                                   |                                                                              |        |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------|
| CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE |                                                                              | (Fall) |
| カナダという国とカナダの国際的な役割                |                                                                              |        |
| Yellowlees, James                 | Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance) |        |
| イエローリーズ, ジェームズ                    | 国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)                                                       |        |

#### Sub Title:

Canada's Vast Potential

#### Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

|                                 |                                |          |
|---------------------------------|--------------------------------|----------|
| LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS |                                | (Spring) |
| 世界政治におけるラテンアメリカ                 |                                |          |
| Antolinez, Mario                | Lecturer, International Center |          |
| アントリネス, マリオ                     | 国際センター講師                       |          |

#### Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

|                             |                                                                                                        |        |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS |                                                                                                        | (Fall) |
| Hayashi, Hideki             | Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.) |        |
| 林 秀毅                        | 経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)                                                               |        |

#### Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

|                                                                |                                                                                |          |
|----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|----------|
| AFRICAN ISSUES : THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA |                                                                                | (Spring) |
| アフリカン イシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味                                   |                                                                                |          |
| Kondo, Hidetoshi                                               | Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University) |          |
| 近藤 英俊                                                          | 国際センター講師 (関西外国語大学准教授)                                                          |          |

#### Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

#### Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

**Sub Title:**

Sub-Saharan Africa

**Course Description:**

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face a renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

## COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS

(Spring)

国際関係概論

Abe, Tadahiyo

安部 忠宏

Ambassador extraordinary and plenipotentiary, Ministry of Foreign Affairs of Japan

外務省特命全権大使

**Sub Title:**

Multi-Faceted International Relations

**Course Description:**

At the outset of the 21st century, people expected that they could enjoy real peace and prosperity in the new century as a member of the international community where the global structure turned into the post-Cold-War regime from the Cold-War regime. The reality, however, was to the contrary as we see various incidents taking place in the international arena: From terrorist attacks to the alleged nuclear arms development in the supposedly war-less world with the prevailing Non Proliferation Treaty and so forth. Prospect of economic development in one country is more hinged upon politically maneuverable supply of energy and natural resources in the international markets, etc.

People are living in the age of uncertainty. It is becoming more important for us, under these circumstances, to understand international relations in a more comprehensive manner. We need to think about our future based on an accurate knowledge on the reality of the multi faceted international relations built upon various kinds of causality among various factors such as economy, politics and security considerations.

So, in my lecture, I would like to focus on major playing factors and mechanisms supporting the multi-layer international/regional relations, such as ASEAN, APEC, NATO, OSCE, NPT, WTO as well as Japanese bilateral relations with the US, North-Eastern/South-Eastern Asian countries and European countries. I also intend to touch on horizontal issues such as International Economy/Trade, Human Security, Development Assistance, etc. Eventual target of my lecture is to explore the possibility of working together with students a kind of global mechanism which may help us to materialize real peace and stability for the people in the future generation.

## CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

(Fall)

現代の国際問題と国連の役割

Malik, Rabinder N.

マリク, ラビンダー

Lecturer, International Center

国際センター講師

**Sub Title:**

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

**Course Description:**

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

---

|                                       |                                                              |        |
|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------|--------|
| INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION |                                                              | (Fall) |
| 国際開発協力論                               |                                                              |        |
| Goto, Kazumi                          | Lecturer, International Center (Professor, Hosei University) |        |
| 後藤 一美                                 | 国際センター講師 (法政大学教授)                                            |        |

---

#### Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

---

|                     |                       |        |
|---------------------|-----------------------|--------|
| LAW AND DEVELOPMENT |                       | (Fall) |
| 開発法学                |                       |        |
| Matsuo, Hiroshi     | Professor, Law School |        |
| 松尾 弘                | 法務研究科教授               |        |

---

#### Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

#### Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

---

|                                      |                                             |        |
|--------------------------------------|---------------------------------------------|--------|
| THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR |                                             | (Fall) |
| 第三世界の開発と貧困                           |                                             |        |
| Bockmann, Dave                       | Lecturer, International Center (Consultant) |        |
| ボックマン, デイヴ                           | 国際センター講師 (コンサルタント)                          |        |

---

#### Sub Title:

Lessons from the Developing World

#### Course Description:

This course is designed to increase the student's awareness of third-world communities and the challenges they face in overcoming poverty. The U.N. Millennium Development Goals promise to end poverty by 2015. The goals are lofty and costly, but will they actually help the poor? Based on the lecturer's 30 years of community development experience in the U.S. and India, another approach, that of small locally based projects bringing real and immediate change to real people's lives will be examined. In this course, students will learn about:

- **Self Help Groups (SHGs):** How SHGs are organized and why. How the SHGs improve the financial stability of families and enhance the status of women.
- **Micro-Finance:** How small loans, often times of less than \$100, can move whole families out of poverty.
- **Appropriate Technology:** How, when the poor themselves are involved, appropriate technologies can be successfully conceived, designed and implemented by developing communities. Learn some of the skills required to help implement actual projects.
- **Culture and social-economic** factors that must be taken into account in planning and implementing development projects.
- **Hands-On Case-Study:** Working in small groups, the students will identify real 'problems' facing poor people in the developing world and propose a plan to solve the problem.

|                                         |                                            |
|-----------------------------------------|--------------------------------------------|
| INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW<br>国際人権法 | (Spring)                                   |
| Hosotani, Akiko<br>細谷 明子                | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |

**Sub Title:**

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

**Course Description:**

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

|                                                   |                                            |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM<br>プリントジャーナリズム入門 | (Spring)                                   |
| Holley, David<br>ホーリー, デイヴィッド                     | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |

**Sub Title:**

Reporting on the World Around You

**Course Description:**

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

|                                 |                                            |
|---------------------------------|--------------------------------------------|
| COMMUNISM'S COLLAPSE<br>共産主義の崩壊 | (Fall)                                     |
| Holley, David<br>ホーリー, デイヴィッド   | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |

**Sub Title:**

States in Transition

**Course Description:**

This course will examine three models of how political systems can change. South Korea and Taiwan will be viewed as examples of transition from the authoritarianism of several decades ago to today's democracy. Post-1989 Eastern Europe will be studied as an example of Communist states quickly becoming democratic. China and Russia will be examined as cases where Communism has mutated into capitalist authoritarianism with many political features similar to Taiwan and South Korea of the 1970s and 1980s. Particular attention will be paid to the 1980 Kwangju Incident in South Korea, the 1989 Tiananmen Square protests and subsequent crackdown in China, and the role of Mikhail Gorbachev in the collapse of Communism in the Soviet Union and Eastern Europe. Students will consider what can be learned from these transitions of past decades in thinking about possible future paths for China and Russia. What factors might cause China and Russia to follow the same type of path to democracy as South Korea and Taiwan, and what might cause them to develop in other directions?

|                                    |                                            |
|------------------------------------|--------------------------------------------|
| LITERATURE AS HISTORY<br>歴史としての文学  | (Spring)                                   |
| Chandra, Elizabeth<br>チャンドラ, エリザベス | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |

**Sub Title:**

The Colonial Experience

**Course Description:**

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such “sensitive” historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people’s particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of “power” further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

---

|                                                   |                                                      |        |
|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------|
| VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM |                                                      | (Fall) |
| 比較映画論                                             |                                                      |        |
| Ainge, Michael W.<br>エインジ, マイケル W.                | Associate Professor, Faculty of Economics<br>経済学部准教授 |        |

---

#### Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of representing history on film, starting with mainstream Hollywood historical drama, and then consider alternatives which have arisen in opposition to the dominant American mode, in various countries around the world. Readings in film criticism and in History will complement the films whose viewing constitutes the main homework for the class. No previous experience in Film Studies is required. Students will be introduced to basic critical and technical language to discuss films, and thus will learn to distinguish between personal taste (“I liked this film,” “I hated it.”) and analytic evaluation (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

---

|                                            |                                            |          |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------|----------|
| CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY |                                            | (Spring) |
| 文化・文化適応とアイデンティティ                           |                                            |          |
| Yokokawa, Mariko<br>横川 真理子                 | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |          |

---

#### Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

#### Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do presentation, as well as other projects.

---

|                                         |                                            |        |
|-----------------------------------------|--------------------------------------------|--------|
| DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION |                                            | (Fall) |
| 文化観察による発見と理解                            |                                            |        |
| Yokokawa, Mariko<br>横川 真理子              | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |        |

---

#### Sub Title:

Doing Observational/Ethnographic Studies to Understand Culture

観察研究により文化理解を深める

#### Course Description:

When one encounters different behaviors and assumptions in a different culture, often the immediate reaction is one of irritation and confusion. “What is wrong with THESE people?”, we ask. Actually, people in a particular society are behaving according to patterns that make sense within the larger framework of their culture. This course is designed to discover those patterns through conducting observational/ethnographic studies on the behavior of people in different settings.

After explaining the concepts of culture and subculture, the methods used in observational studies will be introduced. Students will be given an opportunity to do observational studies on their own or in groups, discovering both behavioral patterns and the cultural patterns that underlie those behavioral patterns.

Students will be asked to come up with tentative behavioral and cultural patterns gleaned from their observations, and present their findings to the class, opening their study to discussion. They will then be asked to go back and reaffirm or modify their observations, which will result in a final report.

Through their own study and those of the others, students are expected to gain a deeper understanding of both the culture they observe and of their own unconscious cultural patterns.

---

|                                |                                                                                                   |          |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| CULTURE AND THE UNCONSCIOUS    |                                                                                                   | (Spring) |
| 異文化と自己理解                       |                                                                                                   |          |
| Shaules, Joseph<br>ショールズ, ジョセフ | Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)<br>国際センター講師 (異文化教育研究所所長) |          |

---

#### Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

#### Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture’s unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like:

time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

---

|                           |                                                                          |        |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------|
| LEARNING FROM LIFE ABROAD |                                                                          | (Fall) |
| 海外生活から学ぶ                  |                                                                          |        |
| Shaules, Joseph           | Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute) |        |
| ショールズ, ジョセフ               | 国際センター講師 (異文化教育研究所所長)                                                    |        |

---

**Sub Title:**

Internationalism and the cultural learning process

**Course Description:**

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

---

|                    |                                |          |
|--------------------|--------------------------------|----------|
| HUMAN ENGINEERING  |                                | (Spring) |
| 人間工学               |                                |          |
| Waniek, Jacqueline | Lecturer, International Center |          |
| ワニェク, ヤクリーン        | 国際センター講師                       |          |

---

**Sub Title:**

Human Factors

**Course Description:**

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as "Universal Design", "Accessibility" or "Emotional Design", demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

---

|                                                            |                                |        |
|------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------|
| HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE |                                | (Fall) |
| 心理学的観点から見る人材管理                                             |                                |        |
| Waniek, Jacqueline                                         | Lecturer, International Center |        |
| ワニェク, ヤクリーン                                                | 国際センター講師                       |        |

---

**Course Description:**

Human Resources are the most valued assets in an organization and a critical success factor in business. Goal of Human Resource Management (HRM) from a Psychological Perspective is to enable employees to contribute to the enterprise productively. This course focuses on HRM from a psychological perspective. The employee is seen as an individual person with own motives, attitudes, emotions and goals that have to be considered in business management. Basic HRM topics such as Leadership, Recruitment, and Training are discussed as well as factors that affect employees' well-being and performance. The course intends to prepare students for their later working life and helps them to understand how to create a working environment that ensures employee well-being and enhances productivity.

## 国際政治論特殊研究

Yamamoto, Nobuto Professor, Faculty of Law

山本 信人 法学部教授

**Sub Title:**

Security Issues in Southeast Asia

**Course Description:**

This seminar offers a comprehensive understanding of Southeast Asia's international relations from the standpoint of non-traditional security. Non-traditional security broadens the scope of security analysis from traditional politico-military affairs to embrace non-traditional security issues like environmental degradation, global circulation, and socio-economic stability. It points out the importance of considering multiple security referents – the state, civil society, individuals, and transnational cooperation. By referring to various case studies, the seminar helps explain how specific issues become framed as matters of national security. The course thus identifies the spectrum of forces that shape security discourse and practice in Southeast Asia.

## PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

(Fall)

## プロジェクト科目Ⅱ・欧州統合

Tanaka, Toshiro Professor, Jean Monnet Chair

田中 俊郎 ジェン・モネチェア教授

**Course Description:**

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Lisbon Treaty, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 27 member states by January 2007.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

## SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B

(Spring)

## 倫理学特殊講義 III B

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エアトル, ヴォルフガング 文学部准教授

**Course Description:**

In the opinion of many commentators, the spirit of Kant's philosophy is anti-metaphysical, anti-theological and diametrically opposed to a religious point of view. Taking a look into Kant's writings, however, it becomes clear rather quickly that the frequent remarks about God cannot be a mere concession to the feeble minded readers, as Heine and Schopenhauer wanted to make us believe. Rather, for Kant religion is an integral element in the realization of the demands of morality. But in order to be compatible with the autonomy of practical reason, religion itself needs to be subjected to the process of enlightenment and philosophical critique.

This is precisely what Kant is doing in his late work under consideration. As it will turn out he (rather than Hegel) is giving us something like a rational reconstruction of Christianity. This reconstruction provides us with the full picture of Kant's moral theory, which can only be fully understood in the overall framework of his practical philosophy.

In this respect, the following features of his moral theory are of particular interest: 1) its anti-individualistic nature, 2) the reconciliation of a cosmopolitan dimension with the particularity of political entities, 3) the interplay of ethics and law in bringing about perpetual peace, 4) the role of the rationally reconstructed theological virtues in moral, motivation.

We will also take a fresh look at the famous royal reprimand which this work provoked and which forced Kant to promise not to publish anything dealing with religious questions again. Usually, this incident is seen as a close parallel to the cases of Wolff's dismissal from Halle earlier and Fichte's removal from Jena later. As we shall see, though, this standard interpretation is highly questionable.

In the spring term we will look at the first and the second "piece" of the text which deal with the notion of radical evil in human nature – a doctrine which many commentators find rather irritating – and with the doctrine of Christ as the personified idea of the principle of good respectively.

## 倫理学特殊講義 IVB

Ertl, Wolfgang Associate Professor, Faculty of Letters

エアトル, ヴォルフガング 文学部准教授

**Course Description:**

In the autumn term we turn to pieces three and four. Piece three deals with the role of the ethical community, i.e. the enlightened universal church — encompassing all Christian and possibly also non-Christian creeds — in the realization of the highest good. Piece four consists of an account of the requirements religion must meet in order to be in accordance with critical philosophical principles. This involves rather straightforward claims about which aspects of established religion need urgent reform or even abolishment.

## ADVANCED STUDY OF FINANCE

(Fall)

## 金融特論

Fukao, Mitsuhiro Professor, Faculty of Business and Commerce

深尾 光洋 商学部教授

**Course Description:**

Corporate Governance and Financial System

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

## 1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies*, Brookings, 1995.

## 2. Hostile Takeovers

Shleifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers," in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics," in *Deal Decade*, edited by M. Blair, 1993.

## 3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No. 3, June 1994.

Christine Pochet, "Corporate Governance and Bankruptcy: a Comparative Study," *Cahier de recherche no. 2002 - 152*, Centre de Recherche en Gestion, IAE de Toulouse.

Naoto Osawa, Kazushige Kamiyama, Koji Nakamura, Tomohiro Noguchi, and Eiji Maeda, "An Examination of Structural Changes in Employment and Wages in Japan," *Bank of Japan Monthly Bulletin*, August 2002.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A Comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Jolene Dugan, Fahad Kamal, David Morrison, Ali Saribas and Barbara Thomas, *Board Practices/Board Pay 2006 Edition*, Institutional Shareholder Services, 2006.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Toubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

#### 4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," *Seoul Journal of Economics*, Vol. 11, No. 4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Financial Crisis and the Lost Decade," in *Asian Economic Policy Review*, Vol.2 No.2, Blackwell, 2007, pp. 273-297.

---

### INTERNATIONAL ECONOMY

(Spring)

#### 国際経済

Kashiwagi, Shigeo Professor, Graduate School of Business and Commerce

柏木 茂雄 商学研究科教授

---

#### Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand how international economic issues are being addressed by policy makers around the world.

The course will take up issues such as those related to global economic situations and various policy issues that have recently arisen in the international context. Students will have the opportunity to study and discuss the challenges imposed on policy makers in the current globalized world. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The class discussions will enable students to familiarize themselves with these issues and to engage in discussions in a more informed and effective manner.

There will be no textbooks. Handouts and/or copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active class discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change)

- Introductory discussions
- The world economic outlook
- The global financial crisis
- The global imbalance
- The role of the IMF
- Climate change and economic policies
- Poverty reduction and economic development
- Aid effectiveness
- Foreign direct investment
- The role of effective institutions

This course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. The emphasis of this course will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues. There are no pre-requisites for this course, but it would be preferable and advisable for students to have strong interest in and basic knowledge about international economics.

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a term paper to be prepared on a relevant topic towards the end of the semester.

---

### ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS

(Fall)

#### 国際関係特論

Kashiwagi, Shigeo Professor, Graduate School of Business and Commerce

柏木 茂雄 商学研究科教授

---

#### Course Description:

The objective of the course is to discuss and understand the policy implications of economic globalization.

The course will provide opportunities for students to examine various aspects of policy issues that have arisen from the increased integration of economies and the emergence of many global issues. Students will review the challenges imposed on policymakers from globalization and explore ways to enhance international cooperation to meet these challenges. Classroom discussions will enable students to follow and understand the discussions that are taking place at various international meetings and to engage in more informed and effective discussions on various issues related to economic globalization. The focus of the discussions will be on issues that are particularly relevant to developing countries and will be discussed from the perspective of policy makers. The emphasis will be more on what is happening in the real world and less on theoretical aspects of the issues.

The course will be organized as a combination of lectures and seminars, and will be conducted in English. There will be no textbooks. Handouts and copies of background material will be distributed from time to time. Students are expected to make presentations on his/her assigned papers and engage in active classroom discussions.

Issues to be covered include the following (subject to change):

- Introductory discussions
- Globalization and macroeconomic policies
- Globalization and fiscal policies
- Financial globalization
- Globalization of labor
- Globalization and trade policies
- Globalization and income inequality
- Policy coherence for development
- Globalization and regional integration
- Global governance

Evaluation will be based on attendance, class participation and presentation of a final report to be prepared on a relevant topic towards the end of the semester.

## 日本研究講座 (JAPANESE STUDIES)

---

### LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

キム, アジョン

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター専任講師

---

#### Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

#### Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know*, *I mean*, *like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne*, *yo*, *-janai*, *datte*, *maa*, *nan(i)*, *no*, and *yappari* etc.

---

### TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20 世紀の日本と欧米の小説

Raeseide, James

レイサイド, ジェイムス

Professor, Faculty of Law

法学部教授

---

#### Sub Title:

Comparative Readings

#### Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short: wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations and the language of discussion will be English. However, the original Japanese texts will also be distributed and native speakers of Japanese are particularly encouraged to use their knowledge of the original language to add to the discussion. Those students with knowledge of European languages other than English are also welcome to use this knowledge in discussion, where appropriate. However, the original versions of texts in languages other than Japanese will not be provided. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

---

### JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD

(Spring)

浮世と道行き

Armour, Andrew

アーマー, アンドルー

Professor, Faculty of Letters

文学部教授

---

#### Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamatsu and Akinari. As well as the “floating world” of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

---

### JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

アーマー, アンドルー

Professor, Faculty of Letters

文学部教授

---

#### Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

|                                                        |  |                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ART AND VISUAL CULTURE |  | (Fall)                                                                                           |
| 日本の近現代美術<br>Murai, Noriko<br>村井 則子                     |  | Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)<br>国際センター講師 (テンプル大学専任講師) |

**Sub Title:**

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

**Course Description:**

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in various media including painting, sculpture, photography, performance and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

|                                        |  |                                                                                          |
|----------------------------------------|--|------------------------------------------------------------------------------------------|
| INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY   |  | (Spring)                                                                                 |
| 日本史美術入門<br>Shirahara, Yukiko<br>白原 由起子 |  | Lecturer, International Center (Chief Curator, Nezu Museum)<br>国際センター講師 ((財) 根津美術館学芸部課長) |

**Sub Title:**

From Ancient to the Medieval Periods

古代—中世

**Course Description:**

This course explores the history of Japanese art from the mid sixth century to the early seventeenth century. How religious imagery, decorative styles and techniques were introduced from the continent, transformed to be Japanese own? Each class will focus on one of a few artworks, about which the function, iconology, technique and artistic significance will be discussed.

|                                                         |  |                                            |
|---------------------------------------------------------|--|--------------------------------------------|
| ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE |  | (Fall)                                     |
| アートワークショップ／日本のアートと文化<br>Hishiyama, Yuko<br>菱山 裕子        |  | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |

**Sub Title:**

With a focus on Japanese Art

**Course Description:**

Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

|                                              |  |                                                      |
|----------------------------------------------|--|------------------------------------------------------|
| JAPANESE CINEMA                              |  | (Spring)                                             |
| 日本映画入門<br>Ainge, Michael W.<br>エインジ, マイケル W. |  | Associate Professor, Faculty of Economics<br>経済学部准教授 |

**Course Description:**

This is an introductory course that examines Japanese cinema from the perspectives of history, authorship, genre, and film art. Though by no means comprehensive due to the restriction of time, this course will allow students to gain an overview of a century of Japanese film, become familiar with a selection of major directors and film genres, as well as acquire a fundamental critical and technical language to discuss films. They will learn to distinguish between personal taste ("I liked this film," "I hated it") and evaluative judgment (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

|                                     |  |                                            |
|-------------------------------------|--|--------------------------------------------|
| GEISHA                              |  | (Spring)                                   |
| 「芸者」<br>Graham, Fiona<br>グラハム, フィオナ |  | Lecturer, International Center<br>国際センター講師 |

**Course Description:**

This course will start with the narrow topic of geisha and spread out from there to consider the topic on a deeper anthropological level: how the West views the East, history, myth and tourism, the changing roles of women, and traditional culture, who decides what is traditional, how and why does this change, what is lost and what retained, and who controls the process?

This class will make use of DVDs and other visual resources and may have a class research trip. Students won't be able to passively rely on a single textbook, but will need to actively participate in collecting their own research materials from books, media, video and internet.

The course lecturer is an actively working geisha in one of Tokyo's geisha districts.

|                                            |                                                                                                                                                                                       |          |
|--------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING     |                                                                                                                                                                                       | (Spring) |
| 日本仏教と現代社会<br>Watts, Jonathan<br>ワッツ, ジョナサン | Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center,<br>Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)<br>国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員) |          |

**Sub Title:**

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

**Course Description:**

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

|                                                    |                                           |        |
|----------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------|
| SEMINAR (Seminar in Intellectual History)          |                                           | (Fall) |
| 演習 (福澤諭吉『学問のすすめ』を読む)<br>Sakamoto, Tatsuya<br>坂本 達哉 | Professor, Faculty of Economics<br>経済学部教授 |        |

**Sub Title:**

Reading Yukichi Fukuzawa's "Encouragement of Learning"

**Course Description:**

This course will center on the theme of Keio University's founder Yukichi Fukuzawa (1835-1901), his thought and its legacy to our time. Among his numerous works, both academic and popular, is included "Encouragement of Learning" (『学問のすすめ』), as the single most famous and influential. This course will read this classical text on chapter-by-chapter basis in English translation from a variety of perspectives, historical, philosophical and social. Prospective students will be welcome who are seriously interested in the overall character and the precise details of one of the greatest intellectual leaders of the time. Any prior knowledge of Fukuzawa's life and work will not be required.

This course will also be offered at International Center for international students. I truly hope that the course will present an opportunity for intellectual exchanges between Japanese and non-Japanese students. Official language of this course will be English, but some subsidiary use of Japanese will be allowed.

|                                                     |                                                                                                   |        |
|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA                 |                                                                                                   | (Fall) |
| 政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交<br>Iikura, Akira<br>飯倉 章 | Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)<br>国際センター講師 (城西国際大学教授) |        |

**Sub Title:**

Decision-making, historical memory and race

**Course Description:**

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making historical memory, and the concept of race.

|                                                                                 |                                    |        |
|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|--------|
| MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD |                                    | (Fall) |
| 近代日本の対外交流史<br>Ohta, Akiko<br>太田 昭子                                              | Professor, Faculty of Law<br>法学部教授 |        |

**Course Description:**

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and the beginning of the twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (at least five pages, A4, double space) in January, and take the final examination.

|                                  |                                                               |          |
|----------------------------------|---------------------------------------------------------------|----------|
| JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION |                                                               | (Spring) |
| 英国と米国のマスコミに描かれた日本                |                                                               |          |
| Kinmonth, Earl H.                | Lecturer, International Center (Professor, Taisho University) |          |
| キンモンズ, アール                       | 国際センター講師 (大正大学教授)                                             |          |

#### Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

|                                    |                                                               |        |
|------------------------------------|---------------------------------------------------------------|--------|
| A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN |                                                               | (Fall) |
| 戦後日本の社会史                           |                                                               |        |
| Kinmonth, Earl H.                  | Lecturer, International Center (Professor, Taisho University) |        |
| キンモンズ, アール                         | 国際センター講師 (大正大学教授)                                             |        |

#### Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

|                                                         |                                                                         |        |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------|
| POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN |                                                                         | (Fall) |
| 日本の戦後史とポピュラーミュージック                                      |                                                                         |        |
| Dorsey, James                                           | Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College) |        |
| ドーシー, ジェームズ                                             | 国際センター講師 (ダートマス大学准教授)                                                   |        |

#### Course Description:

Crucial issues in Japan's postwar cultural history can be examined through its music:

- shifting social taboos are revealed in the songs banned from the airwaves
- Japan-U.S. tensions are visible in musical adaptations, imitations and subversions
- the values and aspirations of an age are apparent in its choice of musical stars and genres (including sentimental *enka*, breezy "group sounds," political folk and cutesy pre-pubescent "idol" singers)
- attitudes towards race and history come forth in groups singing in blackface, the embrace of hip-hop culture, the treatment of non-Japanese musicians, and the "invasion" of J-Pop throughout Asia
- technological advances and trends in consumer electronics, many of them pioneered by Japanese companies, have altered the world's experience of culture; much can be learned by pondering the cultural significance of karaoke, the walkman, and the digital sound file
- the changing attitudes concerning gender, love, sex and marriage inevitably appear in song

Using theories from the Frankfurt school and more recent work in cultural studies, this course will introduce students to the history of postwar Japan (with special focus on the 1960s and 1970s) as well as coach them in the interpretation of music as a window onto the workings of culture.

|                                  |                                             |          |
|----------------------------------|---------------------------------------------|----------|
| IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES |                                             | (Spring) |
| 新市民社会論                           |                                             |          |
| Bockmann, Dave                   | Lecturer, International Center (Consultant) |          |
| ボックマン, デイヴ                       | 国際センター講師 (コンサルタント)                          |          |

#### Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

#### Course Description:

"Civic engagement" refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. "Civic Engagement" and "Civil Society" are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

|                                                                    |                                                      |        |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------|
| MULTIETHNIC JAPAN<br>多民族社会としての日本<br>Kashiwazaki, Chikako<br>柏崎 千佳子 | Associate Professor, Faculty of Economics<br>経済学部准教授 | (Fall) |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------|

#### Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

|                                                                              |                                                      |        |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------|
| THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE<br>家族の近代<br>Notter, David<br>ノッター, デビット | Associate Professor, Faculty of Economics<br>経済学部准教授 | (Fall) |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|--------|

#### Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a 'new history of the family'. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the 'modern family' and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, the emergence of the modern family in Japan, and traditional family arrangements.

|                                                                              |                                                            |          |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------|
| INTERCULTURAL COMMUNICATION 1<br>異文化コミュニケーション 1<br>Tezuka, Chizuko<br>手塚 千鶴子 | Professor, Center for Japanese Studies<br>日本語・日本文化教育センター教授 | (Spring) |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------|

#### Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

#### Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

|                                                                              |                                                            |        |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------|
| INTERCULTURAL COMMUNICATION 2<br>異文化コミュニケーション 2<br>Tezuka, Chizuko<br>手塚 千鶴子 | Professor, Center for Japanese Studies<br>日本語・日本文化教育センター教授 | (Fall) |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------|

#### Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

#### Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

|                                                                                           |                                                            |          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------|
| JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)<br>日本人の心理学 (1)<br>Tezuka, Chizuko<br>手塚 千鶴子 | Professor, Center for Japanese Studies<br>日本語・日本文化教育センター教授 | (Spring) |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------|

#### Sub Title:

Conflict Management

#### Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively

deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

---

|                                               |                                        |
|-----------------------------------------------|----------------------------------------|
| JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2) | (Fall)                                 |
| 日本人の心理学 (2)                                   |                                        |
| Tezuka, Chizuko                               | Professor, Center for Japanese Studies |
| 手塚 千鶴子                                        | 日本語・日本文化教育センター教授                       |

---

**Sub Title:**

'*Amae*' Reconsidered

**Course Description:**

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of '*Amae*' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

---

|                                   |                                |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN | (Spring)                       |
| 日本政治論                             |                                |
| Aoki, Hiroko                      | Lecturer, International Center |
| 青木 裕子                             | 国際センター講師                       |

---

**Sub Title:**

The history of Japanese politics after World War II

**Course Description:**

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

---

|                         |                                |
|-------------------------|--------------------------------|
| JAPANESE FOREIGN POLICY | (Fall)                         |
| 日本の対外政策                 |                                |
| Nobori, Amiko           | Lecturer, International Center |
| 昇 亜美子                   | 国際センター講師                       |

---

**Course Description:**

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

---

|                   |                                                     |
|-------------------|-----------------------------------------------------|
| JAPANESE ECONOMY  | (Fall)                                              |
| ジャパニーズ・エコノミー      |                                                     |
| Kashiwagi, Shigeo | Professor, Graduate School of Business and Commerce |
| 柏木 茂雄             | 商学研究科教授                                             |

---

**Course Description:**

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

---

|                            |                                                                            |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| FOREIGN COMPANIES IN JAPAN | (Spring)                                                                   |
| 日本における外資系企業                |                                                                            |
| Harris, Graham             | Lecturer, Faculty of Business and Commerce (President, Harris Consultancy) |
| ハリス, グレアム                  | 商学部講師 (ハリス・コンサルタンシー社長)                                                     |

---

**Sub Title:**

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

**Course Description:**

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

---

|                     |                                                                        |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------|
| MANAGEMENT IN JAPAN | (Spring)                                                               |
| 日本のビジネスマネジメント       |                                                                        |
| Haghirian, Parissa  | Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University) |
| ハギリ アン, パリッサ        | 国際センター講師 (上智大学専任講師)                                                    |

---

**Sub Title:**

The Kaisha in the 21st Century

**Course Description:**

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

---

|                                                |                                                              |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS | (Fall)                                                       |
| 国際経営比較                                         |                                                              |
| Yoshida, Fumikazu                              | Lecturer, International Center (Professor, Sanno University) |
| 吉田 文一                                          | 国際センター講師 (産業能率大学教授)                                          |

---

**Sub Title:**

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

**Course Description:**

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the “post-bubble” period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

---

|                               |                                                       |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------|
| JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS | (Fall)                                                |
| 日本の経営                         |                                                       |
| Umezu, Mitsuhiro              | Associate Professor, Faculty of Business and Commerce |
| 梅津 光弘                         | 商学部准教授                                                |

---

**Course Description:**

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

---

|                                    |                                             |
|------------------------------------|---------------------------------------------|
| LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN | (Spring)                                    |
| 日本の最先端創造的ビジネス                      |                                             |
| Tobin, Robert I.                   | Professor, Faculty of Business and Commerce |
| トビン, ロバート                          | 商学部教授                                       |

---

**Course Description:**

This course will provide students with an understanding of the unique challenges of starting and leading creative businesses in Japan. The focus will be on Japan-based businesses in fashion, art, music, food, advertising, and design.

Students will understand what is involved in starting and leading a company in one of these fields. We will examine some of the ways of doing business in Japan that are unique, such as the barriers of language and trade, agent arrangements, cultural aspects of creative businesses, consumer expectations, as well as recent efforts at pan-Asian alliances and the impact of globalization.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of a particular industry and a career plan that includes elements of starting a creative business.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

**Course Description:**

This course will focus on selected Japanese small businesses that have developed world class products. The focus will be decidedly on low tech businesses with an examination of industries such as sporting goods, stationery goods, pharmaceuticals, and traditional Japanese sweets and cultural products. Among the companies we will examine will be Olfa, Pilot, and Molten.

Students will explore the economic history of Japan, the motivation for entrepreneurs in Japan, consumer expectations, the compelling stories for starting certain types of businesses here, the focus on quality, the relationships between entrepreneurs and the larger trading companies, the challenges of globalization for these companies, and the efforts of revival of selected industries.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of particular industries and companies.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

**Course Description:**

1. Outline of Japanese Legal System
  - (1) Constitutional Law
  - (2) Civil Law
  - (3) Commercial Law & Corporation Law
  - (4) Security Exchange Law
  - (5) Bank Law
  - (6) Real Estate Law
  - (7) Intellectual Property
  - (8) Civil Procedure
  - (9) Labor Law
  - (10) Criminal Law
  - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
  - (1) Characteristics of Japanese People
  - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
    - ①Administration
    - ②Judges and Public Prosecutors
    - ③Attorneys and Law Firms
  - (3) Clients
  - (4) Taboos
  - (5) Languages

**Sub Title:**

Science and Technology in Space and Time

**Course Description:**

This course is intended for students from various backgrounds. The main purpose of the course is to introduce students to the cultural bases that the development of science and technology stands on.

In the first half of each class hour, a topic from the latest Japanese news in science or technology fields will be selected for discussion. Here, the instructor will provide some materials to refer to, but students are encouraged to throw in their ideas, insights, and interpretations of the Japanese cultural context to which the topic is related.

In the second half of each class hour, students will take turns and give presentations on the place science and technology hold in the past, present, and future of their own home countries.

The topics will depend on students' special fields as well as current topics, but will probably include issues such as:

- entertainment business/technology in music; movies; games
- robots
- communication technology: mobile phones; MP3 players; Internet
- environmental problems: ecology; energy
- architecture/industrial design
- economics/politics
- language and culture

## アート・センター

アート・センターはこれまでに、身体表現・美術・環境デザイン・音楽・評論にまたがる四つのアート・アーカイヴ、すなわち土方巽、瀧口修造、ノグチ・ルーム、油井正一のアーカイヴを構築してきました。本講座は、その実績をふまえ、また世界のアート・アーカイヴの実践活動を参照しつつ、アート・アーキヴィストの養成およびリカレント的な教育を目的として開設されました。アート・アーキヴィストとは、美術資料の収集・保存・調査・研究・公開・普及を目的とする学芸員の活動にくわえ、対象とする資料の範囲を音楽、演劇、舞踊、身体表現、文学などの芸術領域とし、またデジタル情報化を中心に知的財産、公共財、社会受容の視点から資料の研究と活用を行う専門家です。現代社会は、文化活動を支える創造的なコンテンツ・デザイン、コンテナー・デザインを要請しています。この講座は、そうした求めに対応しうる新しいアーキヴィスト概念を追究し、人材の育成をめざします。

1. 履修上の取り扱い  
慶應義塾大学大学院生が対象です。受講資格・条件等はありませんが、履修の取り扱いについて各研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。
2. ガイダンス  
履修希望者は、4月7日（火）12:30～13:00（524 番教室）に出席してください。秋学期にはガイダンスは行いません。

### アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）2 単位

アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子  
講師 前田 富士男  
講師 上崎 千

#### 授業科目の内容：

講義、購読、討論を行う。芸術の諸領域における様々な事象を「アーカイヴ」の水準において扱う本講座の射程には、「アーカイヴ」という知の在り方それ自体への方法論的な関心が含まれている。アーカイヴとは何か。いかにしてアーカイヴが可能となるのか。本講座が標榜する「アート・アーカイヴ」は、アーカイヴとして実現される知のカルトグラフィを芸術学の範疇において捉え、アーカイヴについて思考すること（さらに、アーキヴィストとして思考すること）と、「芸術作品とは何か」という根源的な問いとの接続を図るものである。

#### テキスト：

ヴァルター・ベンヤミン「エドゥアルト・フックス——蒐集家と歴史家」（1937 年）、『ベンヤミン・コレクション 2: エッセイの思想』、浅井健二郎編訳（ちくま学芸文庫、1996 年）所収。  
ミシェル・フーコー『言葉と物——人文科学の考古学』（1966 年）、渡辺一民・佐々木明訳（新潮社、1974 年）。  
ミシェル・フーコー「汚辱に塗れた人々の生」（1977 年）、丹生谷貴志 訳、『フーコー・コレクション 6: 生政治・統治』、小林康夫・松浦寿輝・石田英敬 編（ちくま学芸文庫、2006 年）所収。  
前田富士男「アーカイヴと生成論（Genetics）——『新しさ』と『似ていること』の解説にむけて」、『Booklet 06: ジェネティック・アーカイヴ・エンジン——デジタルの森で踊る土方巽』（慶應義塾大学アート・センター、2000 年）所収。  
ジョルジュ・ディディ・ユベールマン『残存するイメージ: アビ・ヴァールブルクによる美術史と幽霊たちの時間』（2002 年）、竹内孝宏・水野千依訳（人文書院、2005 年）。  
上崎千「アーカイヴと表現（a whole list of things）」、『ARTLET』28 号（慶應義塾大学アート・センター、2007 年 9 月）所収。  
その他、適宜指示、配布する。

#### 参考書：

適宜指示する。

#### 授業の計画：

- ① 基本概念の検討（ミュージアム、ライブラリー、アーカイヴ、造形（美術工芸）資料、音響資料、書写資料ほか）
- ② 芸術資料論（収集・分類・記録・保存・公開、および各プロセスにおける調査の方法、システム論、情報化の手法、データベース概念）
- ③ 制度としてのアーカイヴ論（博物館法・文化財保護法・著作権法関連、IT 環境など）
- ④ 価値概念の検証（情報的価値と芸術的価値、文化情報と公共性デザイン）

#### 履修者へのコメント：

履修希望者は、ガイダンスおよび初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）とあわせて履修するのが望ましい。

#### 成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

### アート・アーカイヴ特殊講義演習（秋学期）2 単位

アート・センター 准教授（有期） 渡部 葉子  
講師 前田 富士男  
講師 上崎 千

#### 授業科目の内容：

ケース・スタディ、実習、討論を行う。

#### テキスト：

適宜指示する。

#### 参考書：

適宜指示する。

#### 授業の計画：

- ① 芸術資料調査（資料の分類、形状、性質の検討、調書作成法、データ化手法）
- ② 研究アーカイヴ特殊資料論（制作関連資料、二次資料の運用、造形系資料・音響系資料・身体表現系資料・言語系資料の分類）
- ③ ケース・スタディ（絵画資料、楽譜資料、書写資料、写真資料、動画像資料、録音資料）
- ④ アート・アーカイヴの設計と構築と運用

#### 履修者へのコメント：

原則として 10 名程度とする。履修希望者がこれを大きく超える場合には履修者数を制限するので、ガイダンスおよび春学期初回の授業には必ず出席すること。アート・アーカイヴ特殊講義（春学期）とあわせて履修するのが望ましい。

#### 成績評価方法：

レポートによる評価ならびに平常点

# 他大学大学院との相互科目履修に関する協定・覚書

慶應義塾大学大学院経済学研究科と早稲田大学大学院経済学研究科の学生交流に関する協定書

2006年11月10日締結

## 記

慶應義塾大学大学院経済学研究科と早稲田大学大学院経済学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。本協定の実施について必要な事項は両研究科の協議により処理するものとする。

(受入)

**第1条** 両研究科は、受入研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に派遣し受け入れることができる。

2 受け入れる学生は、学生を派遣する研究科の推薦に基づき、学生を受け入れる研究科（以下「受入研究科」という。）が決定する。

3 学生を受け入れるための手続きは、別に定める。

(受入学生の身分)

**第2条** 両研究科は、前条によって受け入れる学生を「交流学生」と称する。

(学生数)

**第3条** 両研究科間の受入交流学生数が長期にわたり著しく偏りが生じないこととする。

2 両研究科が当該年度に受け入れる交流学生数は、原則として双方同数とする。

(受入期間)

**第4条** 交流学生の受入期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

(履修科目の範囲および単位数)

**第5条** 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

(履修方法・単位の授与・成績評価等)

**第6条** 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定にかかわる事項は、当該学生の所属する研究科が定めるところによる。また、両研究科は、成績および単位を学期末に相手研究科あてに報告するものとする。

(学費等)

**第7条** 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

(覚書)

**第8条** 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

**第9条** 本協定書は、双方の署名によって発効し、2007年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

以上

慶應義塾大学大学院経済学研究科と早稲田大学大学院経済学研究科の学生交流に関する覚書

2006年11月10日締結

## 記

慶應義塾大学大学院経済学研究科と早稲田大学大学院経済学研究科は、「慶應義塾大学大学院経済学研究科と早稲田大学大学院経済学研究科の学生交流に関する協定書」（2006年11月10日付）に基づき本覚書を締結する。

**1 対象者**

慶應義塾大学においては修士課程及び後期博士課程、早稲田大学においては修士課程及び博士後期課程に在学する正規学生を対象とする。

**2 申請および承認手続**

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属研究科の指導教員の承認を受け、受入研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

**3 派遣および受け入れる学生の数**

(1) 協定第3条の学生数は、当分の間、年間それぞれ15人以上とする。

(2) 両大学の交流学生数が異なる場合は、数年で同数となるように調整する。

**4 履修可能科目および単位数**

(1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる研究科が定め、それぞれ相手大学の研究科へ通知する。

(2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、慶應義塾大学においては修士課程及び後期博士課程、早稲田大学においては修士課程及び博士後期課程、それぞれにおいて在学中12単位とする。

**5 履修指導**

受入大学は、交流学生への履修指導を行い、適切な授業科目の履修ができるように配慮する。

**6 施設利用の便宜**

交流学生が履修上必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

**7 学費等**

(1) 協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設設備費・実験実習費等とする。

(2) 授業科目ごとに徴収する実習費等は、交流学生の自己負担とする。

**8 その他**

(1) 本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両研究科の協議によって定める。

(2) 本覚書の有効期間は、協定書の有効期間に従う。また、本覚書は両大学の合意のもとに適宜改定することができる。

以上

## 慶應義塾大学と東京工業大学との間における学生交流に関する協定書

平成20年3月27日締結

### 記

慶應義塾大学および東京工業大学は、両大学の規則に定めるところにより、両大学の学生が相手先大学および大学院の授業科目を聴講し、単位を取得することを相互に認めることについて合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

- 1 本協定書により学生交流の対象となる学部および研究科は次の通りとする。
  - (1) 慶應義塾大学経済学部と東京工業大学工学部
  - (2) 慶應義塾大学大学院経済学研究科と東京工業大学大学院社会理工学研究科
- 2 本協定書の実施に関する細部の事項については協定書に付属する「覚書」に記載するところによる。
- 3 本協定書の有効期間は4年とする。ただし関係学部および関係研究科のいずれかからの申し出がない限り、自動的に延長するものとする。
- 4 本協定の実施について必要な事項は両大学の協議により処理するものとする。
- 5 この協定書は平成20年4月1日から効力を有するものとする。

### 附 則

平成18年12月20日締結の「慶應義塾大学と東京工業大学との間における学生交流に関する協定書」は、平成20年3月31日限り、これを廃止する。

以 上

## 慶應義塾大学と東京工業大学との間における学生交流に関する覚書

平成20年3月27日締結

### 記

平成20年3月27日付で慶應義塾大学と東京工業大学との間で取り交わした協定書に基づく、慶應義塾大学大学院経済学研究科と東京工業大学大学院社会理工学研究科（以下「関係研究科」という。）との間における学生交流に関しては、この覚書により実施するものとする。

### （受 入）

- 1 慶應義塾大学大学院経済学研究科の修士課程または後期博士課程に在籍する学生が東京工業大学大学院社会理工学研究科において授業科目の履修および単位の取得を希望するときは、その聴講を許可するものとする。また、東京工業大学大学院社会理工学研究科の修士課程または博士後期課程

に在籍する学生が慶應義塾大学大学院経済学研究科において授業科目の履修および単位の取得を希望するときは、その聴講を許可するものとする。

### （受入学生の身分）

- 2 関係研究科が受け入れた学生の身分は、慶應義塾大学においては「交流学生」、東京工業大学では「特別聴講学生」とそれぞれ呼称するものとする。
- 3 関係研究科間の受入学生数が長期にわたり著しく偏りが生じないこととする。

### （履修科目の範囲および単位数）

- 4 関係研究科が授業科目の聴講を許可し学生が履修することのできる授業科目は、関係研究科の協議によって定めるものとする。ただし、学生が履修することのできる単位数の上限は、慶應義塾大学においては修士課程および後期博士課程、東京工業大学においては修士課程および博士後期課程在籍中それぞれ12単位までとし、履修した単位の取り扱いについては、当該学生の所属する大学の規則の定めるところによるものとする。

### （学生の推薦）

- 5 関係研究科は、受け入れ学生候補者を所定の様式により相手先大学大学院研究科あてに推薦するものとし、関係研究科は、前項により推薦のあった候補者のうちから受け入れ学生を決定し、相手先大学大学院研究科あてに通知するものとする。

### （成績の通知）

- 6 関係研究科は、受け入れた学生が聴講した授業科目の成績の評価および単位の認定については、自大学大学院研究科の学生の場合と同様の方法によって行うものとする。また、関係研究科は、成績および単位を、学期末に相手先大学大学院研究科あてに報告するものとする。

### （施設利用の便宜）

- 7 関係研究科は、両大学の規則の範囲内で、受け入れた学生が聴講する上で必要な施設・設備の利用の便宜を供与するものとする。

### （学費等）

- 8 両大学は、受け入れた学生の学費は徴収しないものとする。なお、ここでのいう学費とは、慶應義塾大学においては、授業料・施設設備費・実験実習費等とし、東京工業大学では授業料とする。

### （その他）

- 9 この覚書は、平成20年4月1日から効力を有するものとする。

### 附 則

平成18年12月20日締結の「慶應義塾大学と東京工業大学との間における学生交流に関する覚書」は、平成20年3月31日限り、これを廃止する。

以 上

# 関 係 規 程 抜 粋

経済学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照してください。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照してください。

## 〈1 学 位〉

- 1－1 学位規程（抜粋）
- 1－2 学位の授与に関する内規

## 〈2 奨 学 金〉

- 2－1 大学院奨学規程
- 2－2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2－3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

## 〈3 授業料減免〉

- 3－1 授業料等減免規程
- 3－2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程
- 3－3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

## 〈4 そ の 他〉

- 4－1 学生の国外留学に関する取扱い規則
- 4－2 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4－3 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科  
その他の学費に関する取扱内規

## 1 学 位

## 1-1 学位規程（抜粋）

昭和31年2月17日制定  
平成20年6月4日改正

(目的)

**第1条** 本規程は、慶應義塾大学学部学則（大正9年5月5日制定）および慶應義塾大学大学院学則（大正9年5月5日制定）に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 ① 本大学において授与する学位は次のとおりとする。

## 1 学 士

## 文学部

|           |              |
|-----------|--------------|
| 人文社会科学    |              |
| 哲学専攻      | 学士 (哲学)      |
| 倫理学専攻     | 学士 (哲学)      |
| 美学美術史学専攻  | 学士 (美学)      |
| 日本史学専攻    | 学士 (史学)      |
| 東洋史学専攻    | 学士 (史学)      |
| 西洋史学専攻    | 学士 (史学)      |
| 民族学考古学専攻  | 学士 (史学)      |
| 国文学専攻     | 学士 (文学)      |
| 中国文学専攻    | 学士 (文学)      |
| 英米文学専攻    | 学士 (文学)      |
| 独文学専攻     | 学士 (文学)      |
| 仏文学専攻     | 学士 (文学)      |
| 図書館・情報学専攻 | 学士 (図書館・情報学) |
| 社会学専攻     | 学士 (人間関係学)   |
| 心理学専攻     | 学士 (人間関係学)   |
| 教育学専攻     | 学士 (人間関係学)   |
| 人間科学専攻    | 学士 (人間関係学)   |

|             |            |
|-------------|------------|
| 経済学部        | 学士（経済学）    |
| 法 学 部       | 学士（法学）     |
| 商 学 部       | 学士（商学）     |
| 医 学 部       | 学士（医学）     |
| 理工学部        |            |
| 機械工学科       | 学士（工学）     |
| 電子工学科       | 学士（工学）     |
| 応用化学科       | 学士（工学）     |
| 物理情報工学科     | 学士（工学）     |
| 管理工学科       | 学士（工学）     |
| 数理科学科       |            |
| 数学専攻        | 学士（理学）     |
| 統計学専攻       | 学士（工学）     |
| 物理学科        | 学士（理学）     |
| 化学科         | 学士（理学）     |
| システムデザイン工学科 | 学士（工学）     |
| 情報工学科       | 学士（工学）     |
| 生命情報科       | 学士（理学） または |

|        |           |
|--------|-----------|
| 総合政策学部 | 学士（総合政策学） |
| 環境情報学部 | 学士（環境情報学） |
| 看護医療学部 | 学士（看護学）   |
| 薬学部    |           |

|            |         |
|------------|---------|
| 薬学科        | 学士（薬学）  |
| 薬科学科       | 学士（薬科学） |
| 薬学科（旧課程）   | 学士（薬学）  |
| 医療薬学科（旧課程） | 学士（薬学）  |

## 2 修 士

文学研究科

|          |                         |
|----------|-------------------------|
| 哲学・倫理学専攻 | 修士（哲学）                  |
| 美学美術史学専攻 | 修士（美学）                  |
| 史学専攻     | 修士（史学）                  |
| 国文学専攻    | 修士（文学）または<br>修士（日本語教育学） |

|           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| 中国文学専攻    | 修士（文学）                            |
| 英米文学専攻    | 修士（文学）                            |
| 独文学専攻     | 修士（文学）                            |
| 仏文学専攻     | 修士（文学）                            |
| 図書館・情報学専攻 | 修士（図書館・情報学）                       |
| 経済学研究科    | 修士（経済学）                           |
| 法学研究科     | 修士（法学），修士（公共政策）<br>または修士（ジャーナリズム） |

## 社会学研究科

|       |          |
|-------|----------|
| 社会学専攻 | 修士 (社会学) |
| 心理学専攻 | 修士 (心理学) |
| 教育学専攻 | 修士 (教育学) |
| 商学研究科 | 修士 (商学)  |

医学研究科

医科学専攻 修士（医科学）

## 理工学研究科

基礎理工学専攻                  修士（理学）または  
                                              修士（工学）

総合デザイン工学専攻 修士（理学）または  
修士（工学）

## 開放環境科学専攻

経営管理研究科 修士（経営学）

## 政策・メディア

政策・メディア専攻      修士（政策・メディア）

## 健康マネジメント研究科

看護・医療・スポーツ マネジメント専攻 修士（看護学）または  
修士（健康マネジメント学）

システムデザイン・  
マネジメント研究科

システムデザイン・  
マネジメント専攻

## メディアデザイン研究科

メディアデザイン専攻 修士（メディアデザイン学）

## 薬学研究科

|        |                       |
|--------|-----------------------|
| 薬学専攻   | 修士（薬学）または<br>修士（医療薬学） |
| 医療薬学専攻 | 修士（薬学）または<br>修士（医療薬学） |

## 3 博 士

文学研究科

|          |         |
|----------|---------|
| 哲学・伦理学専攻 | 博士 (哲学) |
| 美学美術史学専攻 | 博士 (美学) |
| 史学専攻     | 博士 (史学) |
| 国文学専攻    | 博士 (文学) |
| 中国文学専攻   | 博士 (文学) |

|                        |                                                  |
|------------------------|--------------------------------------------------|
| 英米文学専攻                 | 博士（文学）                                           |
| 独文学専攻                  | 博士（文学）                                           |
| 仏文学専攻                  | 博士（文学）                                           |
| 図書館・情報学専攻              | 博士（図書館・情報学）                                      |
| 経済学研究科                 | 博士（経済学）                                          |
| 法学研究科                  | 博士（法学）                                           |
| 社会学研究科                 |                                                  |
| 社会学専攻                  | 博士（社会学）                                          |
| 心理学専攻                  | 博士（心理学）                                          |
| 教育学専攻                  | 博士（教育学）                                          |
| 商学研究科                  | 博士（商学）                                           |
| 医学研究科                  | 博士（医学）                                           |
| 理工学研究科                 |                                                  |
| 基礎理工学専攻                | 博士（理学）または<br>博士（工学）                              |
| 総合デザイン工学専攻             | 博士（理学）または<br>博士（工学）                              |
| 開放環境科学専攻               | 博士（工学）                                           |
| 経営管理研究科                | 博士（経営学）                                          |
| 政策・メディア研究科             |                                                  |
| 政策・メディア専攻              | 博士（政策・メディア）                                      |
| 健康マネジメント研究科            |                                                  |
| 看護・医療・スポーツ<br>マネジメント専攻 | 博士（看護学）または<br>博士（健康マネジメント学）                      |
| システムデザイン・<br>マネジメント研究科 |                                                  |
| システムデザイン・<br>マネジメント専攻  | 博士（システムエンジニアリ<br>ング学）または博士（システ<br>ムデザイン・マネジメント学） |
| メディアデザイン研究科            |                                                  |
| メディアデザイン専攻             | 博士（メディアデザイン学）                                    |
| 薬学研究科                  |                                                  |
| 薬学専攻                   | 博士（薬学）または<br>博士（医療薬学）                            |
| 医療薬学専攻                 | 博士（薬学）または<br>博士（医療薬学）                            |

#### 4 専門職学位

##### 法務研究科

法務専攻 法務博士（専門職）

- ② 前項第3号に定めるほか博士（学術）の学位を授与することができる。

（学士学位の授与要件）

**第2条の2** 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

（修士学位の授与要件）

**第3条** 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

（課程による博士学位の授与要件）

**第4条** 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

（論文による博士学位の授与要件）

**第5条** 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という。）された者に与えられる。

（専門職学位の授与要件）

**第5条の2** 専門職学位は、専門職大学院の課程を修了した者に与えられる。

（学識の確認の特例）

**第6条** ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部もしくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績および経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部もしくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部もしくはすべてに代えることができる。

（課程による学位の申請）

**第7条** ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

（論文による学位の申請）

**第8条** 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部および所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（審査料）

**第9条** 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次のとおりとする。

- 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 50,000 円
- 2 本大学学士、修士または専門職の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 70,000 円
- 3 前2号のいずれにも該当しない者 100,000 円
- 4 本塾専任教職員である者 20,000 円

（医学研究科については40,000 円）

（審査ならびに期間）

**第10条** ① 修士および博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等の可否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査ならびにこれに関連する試験および学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

（審査委員会）

**第11条** 研究科委員会は、学位論文の審査ならびにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授および関連科目担当教授2名以上からなる審査委員会（主査および副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は准教授または専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

（審査結果の報告・判定方法）

**第12条** ① 審査委員会は、論文審査の要旨ならびに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査ならびに試験の可否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

（学位授与）

**第13条** ① 修士または博士の学位は、研究科委員会において学位論文の審査ならびに試験に合格した者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

② 専門職学位は、当該研究科の修了要件を満たした者に対し、学長が当該研究科委員会の報告に基づき授与する。

(学位論文要旨の公表)

**第14条** 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨を公表する。

(学位論文の公表)

**第15条** 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

(学位の表示)

**第16条** 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

(学位の取消)

**第17条** 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、または学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会および大学院委員会の議を経てその学位を取消すものとする。

(学位記および書類)

**第18条** 学位記および学位授与申請関係書類の様式は、別表1から別表6までのとおりとする。

(規程の改廃)

**第19条** この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号および第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則 (平成20年6月4日)

この規程は平成21年4月1日から施行する。

された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程(医学研究科にあっては博士課程)に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書(医学研究科については同条第4項のただし書)の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。

⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。

⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

**第4条** 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

**第5条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則 (平成12年5月16日)

この内規は、平成12年4月1日から実施する。

## 1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定

平成12年5月16日改正

**第1条** 慶應義塾大学学位規程第13条(学位授与)に関する取り扱いは、この内規の定めるところによる。

**第2条** 論文博士の学位授与および博士課程単位修得退学者で、再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。

2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。

3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

**第3条** 修士の学位授与および博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て、当該年度末(3月23日)をもって学位を授与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず、次年度も引き続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し、課程修了を認定

## 2 奨学金

### 2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成20年3月11日改正

#### 第1章 総 則

(根拠)

**第1条** 慶應義塾大学は、慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定。以下「大学院学則」という。)第16節奨学制度に基づき、貸費および給費の奨学制度を置く。

(奨学金の種類・金額)

**第2条** ① 奨学金の種類は、次のとおりとする。

1 貸費奨学金(無利子) 修士課程(前期博士課程)学生対象(ただし、外国人留学生を除く。)

2 給費奨学金 後期博士課程(以下「博士課程」という。)学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象

② 前項に定める奨学金の年額は、次のとおりとする。ただし、私費外国人留学生は半額とする。

1 文、経済、法、社会、商学研究科 400,000円

2 医学、経営管理、健康マネジメント、システムデザイン・マネジメント、メディアデザイン研究科

600,000円

3 理工学、政策・メディア、薬学研究科 500,000円

## 第2章 貸 費 生

(資格)

**第3条** 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（ただし、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。
- 3 原則として、修士課程1年生であること。

(期間)

**第4条** 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。ただし、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

(申請)

**第5条** 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書および連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

(選考)

**第6条** 貸費生は、第3条の条件により選考する。

(決定)

**第7条** 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。（家計急変者に対する救済措置等）

**第8条** 天災その他の災害および家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

(誓約書)

**第9条** 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

(身分等変更の届出)

**第10条** 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、就学、退学
- 2 本人および連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

(貸与の休止)

**第11条** 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

(貸与の復活)

**第12条** 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。ただし、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

(失格)

**第13条** 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

(貸与の辞退)

**第14条** 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

(貸与金借用証書の提出)

**第15条** 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人および保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人および保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

(貸与金の返還)

**第16条** ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。ただし、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

(返還猶予)

**第17条** ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害または疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。ただし、原則として3か年を超えて延長することはできない。

(返還免除)

**第18条** ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人または連帯保証人の申請により、貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。ただし、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人または相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書または戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部または一部の返還を免除することができる。

## 第3章 給 費 生

(資格)

**第19条** 給費生の資格は、大学院博士課程学生および私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

(期間)

**第20条** 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

(申請)

**第21条** 給費を受けようとする者は、所定の申請書および必要

書類により、学生総合センターに申請するものとする。  
(選考)

**第22条** 給費生は、第19条の条件により選考する。  
(決定)

**第23条** 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。  
(身分等変更の届出)

**第24条** 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。ただし、本人の病気・死亡などの場合は、保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
  - 2 本人および保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更
- (失格)

**第25条** 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書および提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく前条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

(返還)

**第26条** ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、すでにその年度に給付された金額の全部または一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請によりすでに給付された奨学金の全部または一部を返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 前条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

(事務)

**第27条** 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。  
(規程の改廃)

**第28条** この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長が行う。

**附 則** (平成20年3月11日)

- ① この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- ② 旧・慶應義塾大学大学院奨学規程は、平成20年3月31日をもって廃止する。

## 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定  
平成16年3月15日改正

**第1条** 小泉信三記念奨学金規程（昭和52年4月12日制定）第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

**第2条** 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

**第3条** 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

**第4条** 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を

給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

**第5条** この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

**第6条** この規程に関する細則は別に定める。

**附 則** (平成16年3月15日)

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

## 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定  
平成16年3月15日改正

**第1条** 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

**第2条** 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること。
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること。
- 3 健康であること。

**第3条** 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願 書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

**第4条** 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

**第5条** 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人および保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病気・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

**第6条** 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認めた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由がなく前条に定める届け出を怠った場合

**第7条** 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

**附 則** (平成16年3月15日)

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

### 3 授業料減免

#### 3-1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定  
平成20年12月16日改正

(目的)

**第1条** 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生ならびに大学院生で、経済上授業料等(大学院にあつては在学科等。以下「授業料等」という。)の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することができる。

(対象)

**第2条** ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院または通院している者ならびに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。  
② 母国において兵役義務により休学する者。この場合に限り1年目から減免する。  
③ 法務研究科(法科大学院)については別に定める。

(申請)

**第3条** 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書ならびに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

(減免額)

**第4条** ① 減免を認められた者の減免額は、文学部、経済学部、法学部、商学部、文学研究科、経済学研究科、法学研究科、社会学研究科、商学研究科、政策・メディア研究科、システムデザイン・マネジメント研究科およびメディアデザイン研究科については当該休学期間の授業料等の半額、医学部、理工学部、総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、薬学部、医学研究科、理工学研究科、経営管理研究科、健康マネジメント研究科および薬学研究科については当該休学期間の授業料等の半額および当該休学期間の実験実習費の半額とする。  
② 正課または課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。  
③ 母国において兵役義務により休学する場合は、当該休学期間の授業料等の全額を免除する。

(審査)

**第5条** 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会がこれを行い、塾長が決定する。

(減免の取消し)

**第6条** 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、すでに減免を受けた授業料等の全部または一部を納入させることができる。

(就学の届出)

**第7条** 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

(規程の改廃)

**第8条** この規程の改廃は、大学奨学委員会ならびに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

(所管)

**第9条** この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則 (平成20年12月16日)

- ① この規程は、平成21年度以降学部に入学者(第2学年編入学については平成22年度以降、第3学年編入学については平成23年度以降に入学者のもの)には適用しない。
- ② この規程は、平成21年4月1日から施行する。

#### 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定  
平成21年1月13日改正

**第1条** 慶應義塾大学学部学則(大正9年5月5日制定)第153条および慶應義塾大学大学院学則(大正9年5月5日制定)第124条により外国の大学に留学する学生の学費に関する取扱いは、この規程の定めるところによる。

**第2条** 留学期間中の学費の取扱いは、次のとおりとする。

- 1 留学の始まる日(以下「留学開始日」という。)の属する年度の学費は納入するものとする。ただし、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。
- 2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内(医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内)の場合は、留学開始日から1年(医学研究科博士課程は2年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。
- 3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内(医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内)の場合は、留学開始日から2年(医学研究科博士課程は3年)を経過した日の属する年度の授業料(在学科)および実験実習費の半額を免除する。

**第3条** 前条にかかわらず、学部または大学院在学中に私費により留学する場合は別に定める。

**第4条** 学費の相互免除が含まれる交換協定による留学(ダブルディグリープログラムを含む)については、第2条第2号および第3号は適用しない。

**第5条** 留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部または全額を納入させることがある。

**第6条** この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

**第7条** この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則 (平成21年1月13日)

- ① この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- ② この規程は、大学院生および平成20年度以前学部に入学者(第2学年編入学については平成21年度以前、第3学年編入学については平成22年度以前に入学者のもの)に適用する。ただし、平成20年9月入学者については平成21年9月から適用する。
- ③ 平成21年4月1日以前に留学が開始した学部在学中の者については、第3条は適用外とする。

### 3-3 大学院生が私費により留学した場合の学費の取り扱いに関する内規

平成18年3月24日制定

**第1条** 「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第3条については、この内規の定めるところによる。

**第2条** 大学院生が私費により留学した場合の学費の扱いは次のとおりとする。

〈取扱単位〉

1 留学期間は学期（春学期・秋学期）を単位として取り扱う。

〈対象学期〉

2 減免の対象となる学期とは留学により在学しなかった学期とする。

〈減免額〉

3 前項で減免の対象となった学期の属する年度の在学科および実験実習費について、年額の4分の1を各学期において免除する。

〈減免期間〉

4 免除される期間は最長6学期までとする。ただし、留学期間に交換または奨学金による留学が含まれる場合は、その期間に該当する学期を含んで6学期までとする。

**第3条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て塾長がこれを決定する。

#### 附 則

- ① この内規は平成18年4月1日から施行する。
- ② この内規は、留学開始日が平成18年4月1日以降の者に適用する。
- ③ この内規の施行前、すでに留学を許可され留学している者の学費については、「留学期間中の学費の取り扱いに関する規程」第2条第1項～3項を適用する。

## 4 その他

### 4-1 学生の国外留学に関する取扱い規則（経済学研究科委員会規程）

昭和56年5月7日経済学研究科委員会報告  
昭和56年4月1日実施

**第1条** 学部学則第153条および大学院学則第124条により、学生が外国の大学へ留学する場合の取扱いは、この規則の定めるところによる。

**第2条** 国外留学を希望する者は、原則として、出発の3カ月前迄に所定の国外留学申請書を学長に提出しなければならない。所定の国外留学申請書には、履修を希望する授業科目名、履修期間、単位数、授業時間数、講義内容等を明記しなければならない。なお、事情により申請内容の一部を欠く場合には、教授会（または研究科委員会）の指示により、後日改めて追加することができる。

**第3条** 教授会（または研究科委員会）は、前項により提出のあった国外留学申請書に基づき、外国の大学において学習することが教育上有益であると判断した場合は、学則第153条（または大学院学則第124条）に定める留学として取扱う。審議にあたっては、国際センター所長に意見を徴することができる。

**第4条** この適用を受けて留学する学生の学籍の取扱いは留学

とする。ただし、在学中に休学が認められ外国の大学において学習することはさしつかえない。この場合、この規則は適用しない。

**第5条** 外国の大学で履修する期間は1年以内とする。ただし、やむを得ない事情があると認めたときは、更に学部学生は1年、大学院生は2年以内に限り、その延長を許可することができる。留学期間の延長を希望する者は、国外留学延長申請書を提出しなければならない。

**第6条** 留学の期間は1年間に限り、学部学則（または大学院学則）に定める在学年数に含めることができる。

**第7条** 外国の大学で取得した単位は学部において30単位、大学院においては10単位を超えない範囲内で、これを学部学則（または大学院学則）の規定する単位に認定することができる。

**第8条** 外国の大学で取得した単位を学部学則（または大学院学則）の規定する単位として認定を希望する者は、所定の取得単位認定申請書に、次の資料を添付して、学部長（または研究科委員長）に提出しなければならない。

1 履修証明書（授業科目名、学習期間、時間数、単位数、成績等を明記）

2 受講した授業科目の内容

**第9条** 教授会（または研究科委員会）は科目の内容、授業時間数、評価等について審査し、単位認定の可否を決定する。この際、必要に応じて書類による審査の他、面接による審査を行うことがある。教授会（または研究科委員会）は、外国の大学等で修得した授業科目を本大学（または本学大学院）の授業科目として認定する場合は、次の事項を決定する。

- (1) 授業科目名
- (2) 授業科目の単位数
- (3) 授業科目の評価（必修科目、選択科目、専門科目等の区別）
- (4) 評価（学則上の評語）

**第10条** 外国の大学に留学する前後に履修した授業科目は、次のとおり取扱うものとする。

- (1) 前期集中、前期終了科目の前期末試験を受験した場合は、その成績を評価し、所定の単位を与えることができる。
- (2) 通年授業科目は前期に受講し、帰国後、同一担当者の同一科目名の授業科目を後期に履修した場合は、その成績を評価し、所定の単位を与えることができる。
- (3) 後期科目、後期集中科目は、後期授業開始以前に帰国している場合には履修できるものとする。

**第11条** 履修申告書は帰国後、教授会（または研究科委員会）の指示に基づき、所定の期間内に提出しなければならない。

**第12条** 外国の大学に留学することによって、学部の研究会・卒業研究の履修（または修士・博士学位論文の研究）が中断する場合の取扱いについては担当指導教員の指示によるものとする。

**第13条** 学部学生の外国の大学で取得した単位の認定による進級・卒業の取扱いは、次により取扱うものとする。

- (1) 外国の大学において取得した単位を認定し、進級に必要な単位数を取得した場合の進級の時期は、帰国後単位認定した時期の属する年度初めとする。
- (2) 外国の大学に留学中に、外国の大学の単位を取得しなかった場合は原級に留めるものとする。  
留学中に取得した単位を認定し、その結果、進級に必要な単位数を充足しなかった場合も同様とする。
- (3) 前項により、同一学年に2年間在学し、なお、進級し得ない場合の学部学則第156条の適用については、事情を考慮した上で決定するものとする。第5条ただし書きにより

2年間の留学を認め、この2年間で進級に必要な単位を取得できなかった場合も同様とする。

- (4) 外国の大学で取得した単位の認定により卒業に必要な単位を充足できた場合の卒業の時期は、帰国した期日の属する年度末とする。

**第14条** 大学院学生が外国の大学で取得した単位を研究科委員会が認定することにより、課程修了に必要な単位が充足された場合、課程修了認定の時期は研究科委員会が決定する。

**第15条** 外国の大学に留学している学生が、次の各号の1つに該当するときは、学長は留学先大学長と協議のうえ、留学生としての許可を取消すときがある。

- (1) 留学先大学において、学習の実があげられないと認められたとき。
- (2) 学生としての本分に反する行為があると認められたとき。
- (3) 留学の趣旨に反する行為があると認められたとき。

**第16条** 留学期間中の学費は所定のとおり納入しなければならない。ただし、事情を考慮して別に定める規定により減免することがある。

**第17条** この規則の改廃は、各学部教授会（または各研究科委員会）に諮り大学評議会の審議を経て、学長が決定する。

#### 附 則

**第1条** この規則は昭和56年4月1日から施行する。

## 4-2 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

**第1条** 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士学位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

**第2条** 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

**第3条** 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で、引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許可できるものとする。

**第4条** 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

**第5条** 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

#### 附 則

**第1条** この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

**第2条** この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

**第3条** 附則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

**第4条** この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

## 4-3 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科その他の学費に関する取扱内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

**第1条** 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 施設設備費（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額
- 3 実験実習費（毎年）  
大学院学則第132条に定める金額

**第2条** 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学科（毎年）  
大学院学則第131条に定める金額の4分の3
- 2 施設設備費（毎年）  
免除
- 3 実験実習費（毎年）  
大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学科は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り、前項に定める金額の2分の1に相当する額。

**第3条** 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

#### 附 則

**第1条** この内規は、平成8年4月1日から施行する。

**第2条** この内規の修士課程に係る本則第1条については、昭和59年4月1日から適用する。

**第3条** この内規の後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

**第4条** この内規の改廃は、塾長が決定する。

## 塾生、保護者・保証人の方々にかかわる個人情報の取扱い

- 1 義塾の学生・生徒・児童等の主な個人情報は、次のとおりです。
  - ① 塾生本人の氏名・住所・電話番号・生年月日・出身校等
  - ② 保護者・保証人の氏名・住所・電話番号（自宅および緊急連絡先）・本人との続柄等
  - ③ 塾生等の学籍・成績・健康診断・在学中のその他の活動履歴情報、寄付金・慶應カードの申し込みデータなど
- 2 個人情報を取り扱うに当たっては、あらかじめ利用目的を特定し、明示いたします。特定した利用目的以外には利用しません。また、利用目的を変更する場合は、本人に通知するか、義塾のホームページへの掲載、所定掲示板への掲示等により公表いたします。
- 3 個人情報は、以下の諸業務遂行のために利用します。
  - ① 入学手続および学事に関する管理、連絡および手続
  - ② 学生生活全般に関する管理、連絡および手続き
  - ③ 大学内の施設・設備利用に関する管理、連絡および手続
  - ④ 寄付金、維持会・慶應カードの募集等に関する書類発送およびその他の連絡
  - ⑤ 本人および保護者・保証人に送付する各種書類の発送
  - ⑥ 卒業後の刊行物の発送、評議員選挙および寄付金・維持会・慶應カードの募集等に関する各種書類送付とこれらに付随する事項
- 4 上記3の業務のうち、一部の業務を慶應義塾から当該業務の委託を受けた受託業者において行います。業務委託に当たり、受託業者に対して委託した業務を遂行するために必要となる範囲で、個人情報を提供することがあります。
- 5 三田会または同窓会から要請があったときは、当該三田会または同窓会に所属する者の個人情報を当該組織の活動に必要な範囲で提供することがあります。
- 6 慶應義塾は、上記3～5の利用目的の他には、特にお断りする場合を除いて個人情報を利用もしくは第三者への提供をいたしません。ただし、法律上開示すべき義務を負う場合や、塾生本人または第三者の生命、身体、財産その他の権利利益を保護するために必要であると判断できる場合、その他緊急の必要があり個別の承諾を得ることができない場合には、例外的に第三者に個人情報を提供することがあります。
- 7 慶應義塾の個人情報保護に関する規程は、URL ([http://www.keio.ac.jp/ja/personal\\_information/index.html](http://www.keio.ac.jp/ja/personal_information/index.html)) でご覧頂くことができます。